

# 石 勺 遺 跡 V

— K地点調査 —

大野城市文化財調査報告書 第97集

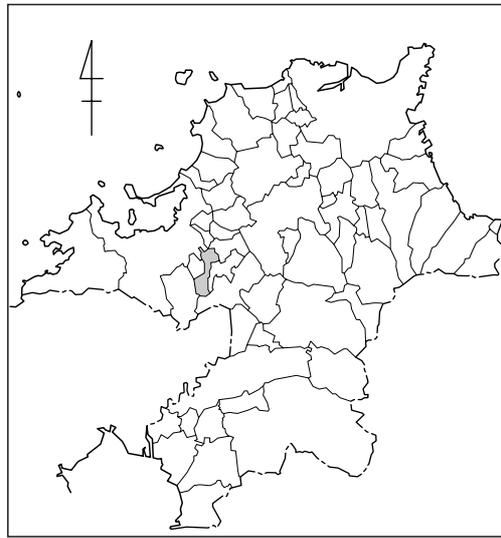
2011

大野城市教育委員会

# 石勺遺跡 V

— K地点調査 —

大野城市文化財調査報告書 第97集



2011

大野城市教育委員会



調査区全景（南より）



(1) 竖穴住居群集中箇所（北西より）



(2) S C27出土朝鮮半島系土器



(3) S C02・25出土青銅器

# 序

福岡県大野城市は、福岡平野南部に位置し、西暦665年に築かれた日本最古の朝鮮式山城「大野城」にその名を由来する、古い歴史と豊かな自然に恵まれた緑豊かな街です。市域は南北に長く、大野城跡・水城跡・牛頸須恵器窯跡の国指定史跡をはじめ、多くの歴史遺産があります。

石勺遺跡は、市の中央に位置し、弥生時代を中心に縄文時代から中世に至る活動の痕跡が確認されている遺跡です。今回報告する石勺遺跡K地点では、古墳時代の集落跡が広範囲に調査され、その結果、地域の拠点的な集落であったことや大陸からの新しい技術・文化の導入にいち早く対応したこと、朝鮮半島との間に交流があったことが明らかとなりました。このことは、地域の中心地として時代の大きな変革に積極的に対応した人々の軌跡を垣間見せてくれるとともに、過去の人々のいとなみの積み重ねの上に現在の私たちがあることを教えてくれます。

本書が学術研究はもとより広く一般に活用され、地域史の解明や歴史教育の一助となり、文化財愛護の精神を醸成する手掛かりとなれば幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査ならびに報告書作成にあたりご理解と全面的なご協力をいただきました九州旅客鉄道株式会社はじめ関係各位に対し、厚く御礼申し上げます。

平成23年3月31日

大野城市教育委員会  
教育長 古賀 宮 太

## 例 言

1. 本書は、大野城市教育委員会が共同住宅建設に伴って発掘調査を実施した、大野城市曙町1丁目所在の石勺遺跡K地点発掘調査の報告書である。
2. 発掘調査は、九州旅客鉄道株式会社の委託を受け大野城市教育委員会が実施した。
3. 遺構写真は、早瀬賢・大里弥生・吉田浩之が撮影した。
4. 遺物写真は、(有)文化財写真工房（岡紀久夫、埋蔵文化財写真研究会員）が撮影した。
5. 遺構平面実測図は、早瀬・大里・吉田・福永将大（九州大学学生）・横山唯（福岡大学学生）が作成した他、遺構平面実測図と全体図作成を(株)埋蔵文化財サポートシステムに委託した。
6. 遺構実測図中の方位は磁北を表し、図上の座標は国土座標（世界測地系第Ⅱ系）を示す。
7. 遺物実測図は、早瀬・福永・上方高弘・國分ゆみ・茂友美が作成した他、(株)タクトに委託した。
8. 製図は、遺構図を早瀬・國分・渡部が作成し、出土遺物は國分・茂・渡邊和子が作成した他、(株)タクトに委託した。
9. 拓本は、一部を(株)タクトに委託した他、國分が作成した。
10. 観察表は、國分・高野佳子が作成した他、株式会社タクトに委託し、早瀬が編集した。
11. 本書に掲載した遺跡分布図は、国土地理院発行の1/25,000地形図『福岡南部』『太宰府』を使用したものである。
12. 遺物の名称の内、須恵器蓋杯については平城宮分類、輸入陶磁器については太宰府分類（太宰府市教育委員会『大宰府条坊跡XV』2000年 太宰府市の文化財第49集）による呼称を用いる。また、須恵器の編年に関しては、大野城市教育委員会『牛頸窯跡群—総括報告書Ⅰ—』2008年大野城市文化財調査報告書第77集に拠る。
13. 本書の遺物・実測図・写真はすべて大野城市教育委員会が管理・保管している。
14. 本書に使用する土色名は、『新版標準土色帖』農林水産省農林水産技術会議事務局監修を使用した。
15. 本書の執筆は、Ⅲ章・Ⅳ章の縄文土器を林 潤也、その他を早瀬が担当し、編集は早瀬がおこなった。

# 本文目次

I. はじめに	
1. 調査に至る経緯	1
2. 調査経過	1
3. 調査体制	3
II. 位置と環境	
1. 地理的環境	4
2. 歴史的環境	4
III. 調査の結果	
1. 調査概要	6
2. 遺構と遺物	
(1) 掘立柱建物	9
(2) 竪穴住居	9～64
(3) 溝跡	64～78
(4) 土坑	78～81
(5) 性格不明遺構	81～93
(6) 甕棺墓	93～94
(7) 土壙墓	95
(8) 石蓋土壙墓	96
(9) 包含層出土遺物	96～100
IV. まとめ	103～107

# 挿 図 目 次

第1図	周辺遺跡分布図 (1/25,000)	2
第2図	調査地点位置図 (1/5,000)	5
第3図	調査区遺構配置図 (1/250)	7～8
第4図	S B01実測図 (1/60)	9
第5図	S C01実測図および出土遺物実測図 (1/60・1/3・1/4)	11
第6図	S C02実測図および出土遺物実測図 (1/60・1/3・1/4)	13
第7図	S C03・04実測図 (1/60)	14
第8図	S C03出土遺物実測図 (1/3・1/4)	15
第9図	S C03出土遺物実測図 (1/3・1/4)	16
第10図	S C05・06実測図 (1/60)	17
第11図	S C04・05検出中、S C05・06出土遺物実測図 (1/2・1/3・1/4)	18
第12図	S C06出土遺物実測図 (1/2・1/3・1/4)	19
第13図	S C07・08実測図 (1/30・1/60)	21
第14図	S C07検出中、S C07出土遺物実測図 (1/3・1/4)	22
第15図	S C08、S C08下層出土遺物実測図 (1/2・1/4)	23
第16図	S C09実測図 (1/60)	26
第17図	S C09出土遺物実測図 (1/2・1/3・1/4)	27
第18図	S C09周辺上層包含層出土遺物実測図 (1/3・1/4)	28
第19図	S C10実測図 (1/60)	29
第20図	S C11・12・13・29実測図 (1/60)	30
第21図	S C14・15・18・31実測図 (1/60)	32
第22図	S C10・12・13・14出土遺物実測図 (1/3・1/4)	33
第23図	S C11出土遺物実測図 (1/2・1/4)	34
第24図	S C14・15・16出土遺物実測図 (1/2・1/3・1/4)	35
第25図	S C17・19実測図 (1/60)	36
第26図	S C21およびカマド実測図 (1/30・1/60)	38
第27図	S C17・18出土遺物実測図 (1/2・1/3・1/4)	39
第28図	S C19・21・22出土遺物実測図 (1/3・1/4)	41
第29図	S C23およびカマド実測図 (1/30・1/60)	42
第30図	S C23出土遺物実測図 (1/3・1/4)	43
第31図	S C23内カマド・S C24・25出土遺物実測図 (1/3・1/4)	44
第32図	S C25実測図 (1/60)	45
第33図	S C26・27実測図 (1/60)	47
第34図	S C26・27出土遺物実測図 (1/3・1/4)	48

第35図	S C 27出土遺物実測図 (1/3・1/4)	50
第36図	S C 28実測図 (1/60)	51
第37図	S C 28出土遺物実測図 (1/3・1/4)	53
第38図	S C 28出土遺物実測図 (1/2・1/3・1/4)	54
第39図	S C 29出土遺物実測図 (1/3・1/4)	55
第40図	S C 29出土遺物実測図 (1/3・1/4)	56
第41図	S C 30実測図 (1/60)	57
第42図	S C 30出土遺物実測図 (1/3・1/4)	58
第43図	S C 30出土遺物実測図 (1/4)	59
第44図	S C 30～32出土遺物実測図 (1/2・1/3・1/4)	61
第45図	S C 33実測図 (1/60)	62
第46図	S C 33・34出土遺物実測図 (1/3・1/4)	63
第47図	S D 03・04・07・10・11・12・17土層断面図 (1/60)	64
第48図	S D 03・04・05・06出土遺物実測図 (1/2・1/3・1/4)	66
第49図	S D 07・08・10出土遺物実測図 (1/31・1/4)	69
第50図	S D 10出土遺物実測図 (1/3・1/4)	70
第51図	S D 11出土遺物実測図 (1/3・1/4)	73
第52図	S D 12・13・15・17出土遺物実測図 (1/2・1/3・1/4)	74
第53図	S D 18～24出土遺物実測図 (1/2・1/3・1/4)	75
第54図	S D 25・27出土遺物実測図 (1/4)	76
第55図	S K 05・10・11・13・14・16～19・23実測図 (1/60)	77
第56図	S K 05・10・11・13・14・16出土遺物実測図 (1/2・1/3・1/4)	79
第57図	S K 18～23出土遺物実測図 (1/3・1/4)	80
第58図	S X 01～04・06～08・13・14・19・23実測図 (1/60)	82
第59図	S X 29・34実測図 (1/30)	83
第60図	S X 15・19・28・29出土遺物実測図 (1/2・1/3・1/4)	84
第61図	S X 27出土遺物実測図 (1/2・1/3・1/4)	85
第62図	S X 31・33・36～38・42～45・47実測図 (1/60)	86
第63図	S X 34出土遺物実測図 (1/4・1/6)	87
第64図	S X 36～44出土遺物実測図 (1/2・1/3・1/4・1/6)	89
第65図	S X 45～47出土遺物実測図 (1/3・1/4)	90
第66図	S J 01・02実測図 (1/60)	94
第67図	S J 01甕棺実測図 (1/6)	95
第68図	S J 02甕棺実測図 (1/4)	96
第69図	土壙墓 (S K 20・21・22) 実測図 (1/40)	97
第70図	石蓋土壙墓実測図 (1/40)	98

第71図	各遺構出土鉄器実測図 (1/2) .....	99
第72図	S C 02・25出土青銅器実測図 (1/3) .....	100
第73図	竪穴住居出土ガラス玉・管玉・土製勾玉実測図 (1/1・1/2) .....	100
第74図	包含層出土遺物実測図 (1/3・1/4) .....	101
第75図	包含層出土遺物実測図 (1/4) .....	102
第76図	包含層出土遺物実測図 (1/2・1/3) .....	103
第77図	石勺遺跡K地点遺構変遷図 .....	105
第78図	石勺遺跡K地点古墳時代遺構変遷図 .....	105

## 表 目 次

表 1	遺構一覧表 .....	108
表 2～25	遺物観察表①～⑳ .....	109～128

## 付 図

石勺遺跡K地点調査遺構配置図 (1/150)

## 図 版 目 次

巻頭図版 1	調査区全景 (南より)
巻頭図版 2	(1) 竪穴住居群集中箇所 (北西より) (2) S C 27出土朝鮮半島系土器 (3) S C 02・25出土青銅器
図版 1	(1) 調査区西区全景 (北西より) (2) 調査区東区全景 (南西より)
図版 2	(1) S B 01全景 (北東より) (2) S B 01～07全景 (西より)
図版 3	(1) S C 01全景 (北東より) (2) S C 02全景 (@@)
図版 4	(1) S C 03全景 (南西より) (2) S C 05全景 (北東より)
図版 5	(1) S C 06全景 (東より)

- (2) SC07全景 (西より)
- 図版6 (1) SC08全景 (南より)  
(2) SC08カマド検出状況 (西より)  
(3) SC08カマド土層 (西より)
- 図版7 (1) SC09～11・29周辺全景 (北西より)  
(2) SC09全景 (西より)
- 図版8 (1) SC11・29全景 (西より)  
(2) SC13全景 (北西より)
- 図版9 (1) SC14全景 (北より)  
(2) SC11遺物出土状況① (北東より)  
(3) SC11遺物出土状況② (東より)  
(4) SC29遺物出土状況 (北より)  
(5) SC13遺物出土状況 (北より)
- 図版10 (1) SC15～19・31全景 (西より)  
(2) SC15遺物出土状況 (北より)  
(3) SC16遺物出土状況 (北より)
- 図版11 (1) SC17全景 (西より)  
(2) SC17カマド・粘土・焼土全景 (北西より)
- 図版12 (1) SC21・22・29全景 (西より)  
(2) SC21カマド全景 (南西より)  
(3) SC21カマド土層① (南より)  
(4) SC21カマド土層② (南西より)  
(5) SC21カマド煙道全景 (南西より)
- 図版13 (1) SC23全景 (北より)  
(2) SC23カマド全景 (東より)
- 図版14 (1) SC25全景 (南より)  
(2) SC26・27全景 (北より)
- 図版15 (1) SC28全景 (西より)  
(2) SC25青銅製鋤先出土状況 (南西より)  
(3) SC26・27遺物出土状況 (東より)  
(4) SC28カマド全景 (南西より)  
(5) SC28遺物出土状況 (南より)
- 図版16 (1) SC30全景 (西より)  
(2) SC30粘土・焼土全景 (南より)
- 図版17 (1) SC33全景 (北西より)  
(2) SD01・SK04全景 (南西より)

- 図版18 (1) S D03・04全景 (北西より)  
(2) S D07・SX13全景 (西より)  
(3) S D06・11～13全景 (北東より)
- 図版19 (1) S D10・15～19全景 (北東より)  
(2) S D15全景 (北東より)  
(3) S D22～24全景 (北西より)
- 図版20 (1) S D03・04C-C' 土層 (南西より)  
(2) S D04D-D' 土層 (南西より)  
(3) S D11・12B-B' 土層 (南西より)
- 図版21 (1) S K18全景 (北西より)  
(2) S K19全景 (東より)  
(3) S X01全景 (北東より)  
(4) S X02全景 (北東より)  
(5) S X03全景 (北東より)  
(6) S X07・08・12全景 (北東より)  
(7) S X14・15全景 (北東より)  
(8) S X29遺物・粘土出土状況 (東より)
- 図版22 (1) S X34遺物出土状況① (北より)  
(2) S X34遺物出土状況② (北より)  
(3) S X34～40全景 (南西より)  
(4) S X42全景 (東より)  
(5) S X43全景 (西より)  
(6) S X46・47全景 (北より)  
(7) 職場体験発掘風景
- 図版23 (1) 甕棺墓・土壙墓群全景 (北西より)  
(2) S J 01検出状況 (東より)  
(3) S J 01全景 (東より)  
(4) S j 02全景 (西より)  
(5) 土壙墓 (S K22) 全景 (西より)
- 図版24 (1) 石蓋土壙墓蓋石検出状況 (北西より)  
(2) 石蓋土壙墓全景 (北東より)
- 図版25～38 出土遺物

# I. はじめに

## 1. 調査に至る経緯

石勺遺跡については、市道建設に伴い1988年にA地点が発掘調査されて以来、A～J地点までの10回調査が実施されており、今回のK地点は11回目の調査となる。現在まで、弥生時代中期の集落・甕棺墓を中心として、縄文時代から中世にかけての複合遺跡として周知されてきた。

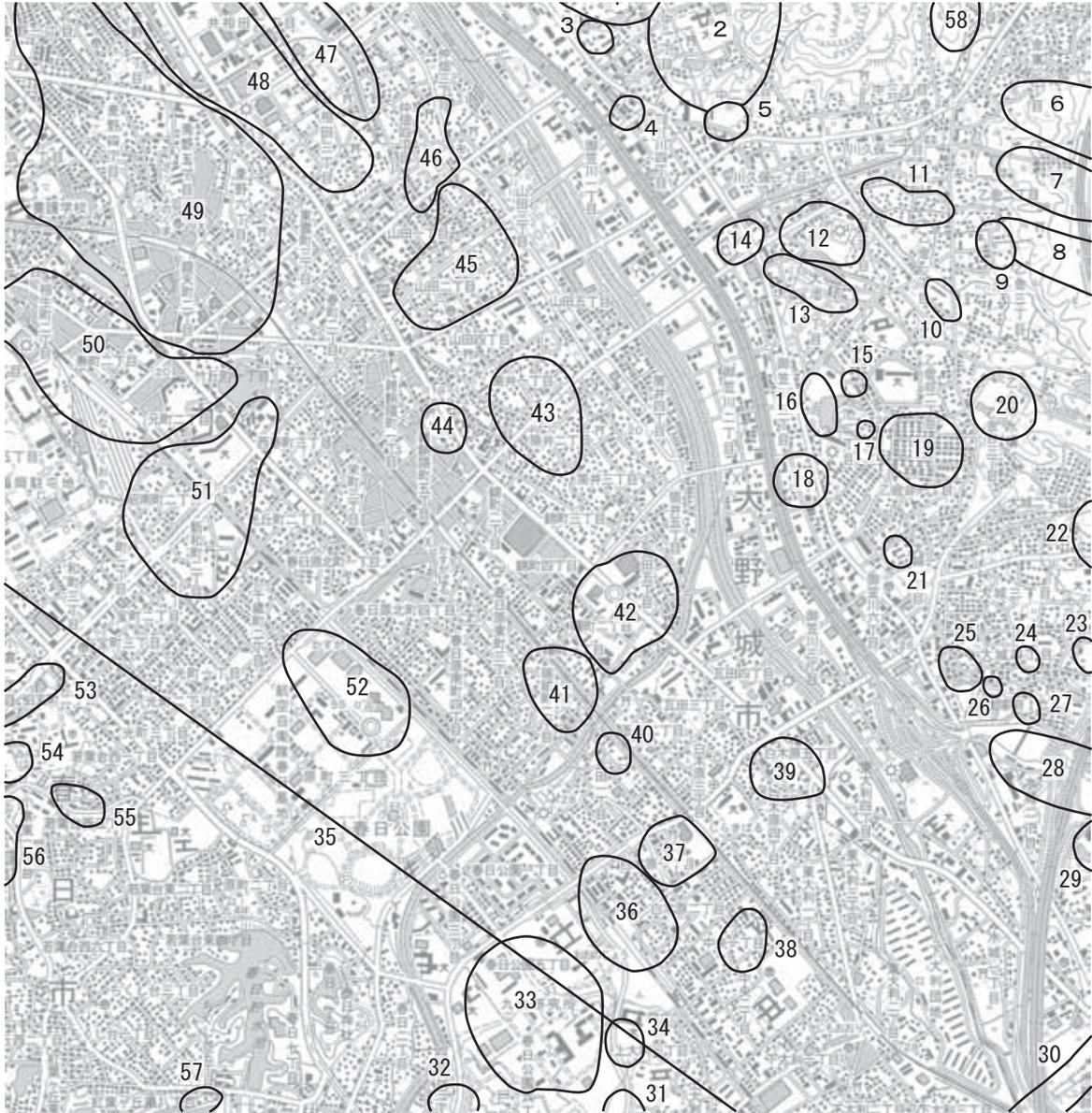
本報告の対象地（大野城市曙町1丁目28-5）については、平成21年2月に九州旅客鉄道株式会社（以下「JR九州株」）からマンション建設に先立ち埋蔵文化財の照会があり、その取り扱いについて福岡県教育委員会、JR九州株、大野城市教育委員会で協議が実施された。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地「石勺遺跡」の範囲に含まれることから、文化財保護法第93条に基づく届出を平成21年4月13日付け（21大教文第32号）で福岡県教育委員会あてに提出し、4月16日付け（21教文第1-15号）で発掘調査を実施する旨、通知があった。よって、当該地の埋蔵文化財の取り扱いについて、平成21年6月16日付けでJR九州株と大野城市教育委員会の間で協定書を締結し、平成21年度に現地調査および整理作業の一部を、平成22年度に整理・報告書作成作業を実施することとなった。現地調査は、平成21年6月16日付けでJR九州株より大野城市教育委員会が委託を受け、平成21年6月17日から平成22年2月2日にかけて実施した。平成22年度は4月19日付けで委託を受け、平成22年4月20日から平成23年3月にかけて整理・報告書作成作業を実施し、本書を刊行する運びとなった。

## 2. 調査経過

調査は、開発対象地のうち建物等建設部分の約3,300㎡について、調査区を便宜的に東西半分に分け、まず西区を実施し、その後順次東区を実施する工程とした。平成21年6月17日、重機により表土剥ぎを開始し、西区の作業員による掘削作業と写真・図面等の記録作成作業を7月より開始した。7月の集中豪雨により予定を遅延したが10月末で終了した。東区は、表土剥ぎを8月末より開始し、9月中旬より作業員による掘削作業、記録作成作業を実施した。ここでは包含層と遺構覆土の区別が非常に難しく、また予想以上に遺構の重複が激しく調査の遅延が予想された。そこで委託者と協議し、調査期間を1ヶ月延長する一方、調査終了箇所の一部を引き渡し、先行して建設工事に着手することとした。平成22年1月5日には、福岡大学人文学部教授武末純一氏に現地及び出土遺物の調査指導を得た。全体の現地調査は平成22年2月2日に終了した。

普及啓発活動としては、平成21年7月6日～10日に大野城市立大利中学校2年生4名を職場体験活動として受入れ、10月6日には市内日本語学校留学生1名の発掘体験を実施し、文化財普及の機会を得た。さらに、平成22年1月15日には調査成果の記者発表を行い、1月17日に現地説明会を実施し、周辺住民の方を中心に約150名の参加者を得た。

また、特記事項として、平成21年7月30日未明、発掘調査現場において器物破損・放火事件が発生した。5時00分頃近隣施設より消防署あて火災発生の通報。5時20分頃消防隊到着消火活動。5時30分頃鎮火。6時30分頃春日・大野城・那珂川消防署および筑紫野警察署より実況見分と事情聴



第1図 周辺遺跡分布図 (1/25,000)

- |             |                |            |           |
|-------------|----------------|------------|-----------|
| 1.持田ヶ浦古墳群   | 2.御陵古墳群        | 3.今里不動古墳   | 4.塚口遺跡    |
| 5.御陵前ノ椽遺跡   | 6.喜一田古墳群       | 7.玉城山古墳群   | 8.古野古墳群   |
| 9.花園遺跡      | 10.薬師ノ森遺跡      | 11.松葉園遺跡   | 12.森園遺跡   |
| 13.中・寺尾遺跡   | 14.ヒケシマ遺跡      | 15.平隈遺跡    | 16.ウド遺跡   |
| 17.ウド古墳     | 18.榎町遺跡        | 19.銀山遺跡    | 20.原口古墳群  |
| 21.原門遺跡     | 22.矩子ヶ尾遺跡群     | 23.曲目遺跡    | 24.深町古墳   |
| 25.金山遺跡     | 26.金山古墳        | 27.笹原古墳    | 28.成屋形遺跡  |
| 29.裏ノ田遺跡    | 30.水城跡         | 31.池ノ上遺跡   | 32.向谷北遺跡  |
| 33.九州大学構内遺跡 | 34.池田遺跡        | 35.官道推定ライン | 36.御供田遺跡  |
| 37.後原遺跡     | 38.ハザコ遺跡       | 39.原ノ畑遺跡   | 40.国分田遺跡  |
| 41.瑞穂遺跡     | <b>42.石勺遺跡</b> | 43.村下遺跡    | 44.雑餉隈遺跡  |
| 45.御笠の森遺跡   | 46.川原遺跡        | 47.仲島遺跡    | 48.井相田遺跡群 |
| 49.麦野遺跡群    | 50.南八幡遺跡群      | 51.雑餉隈遺跡群  | 52.駿河遺跡   |
| 53.伯玄社遺跡    | 54.ナライ遺跡       | 55.西平塚遺跡   | 56.高辻遺跡   |

取。同日、り災届および被害届の提出。同日中に、福岡県教育委員会に被害報告を提出。被害内容は、器材・遺物収蔵用と休憩用のコンテナハウス2棟の窓ガラスを破損。収蔵用ハウス1棟は放火され全焼した。これにより、コンテナハウス・発掘器材・備品が焼失したほか、パンコンテナ2箱分の遺物が被災した。1.5箱分の遺物は、分類収納用のビニール袋・ラベルが焼失したため出土地・層位等の所属が不明となり、資料的価値に重大な損害をきたした。今後このような被害を絶対に受けないよう十二分に安全対策を取ることを改めて心に期したい。

### 3. 調査体制

平成21・22年度

大野城市教育委員会

教育長	古賀宮太		
教育部長	森岡勉		
ふるさと文化財課長	舟山良一		
文化財担当係長	中山宏		
主査	徳本洋一	石木秀啓	丸尾博恵
主任技師	林潤也	早瀬賢	上田龍児
嘱託（調査関係）	石川健（平成22年度まで）	大里弥生（平成21年度）	
	吉田浩之（平成22年度まで）	國分ゆみ（平成22年5月～）	
	茂友美（平成22年4月～）	中島圭（平成21年度）	
	下高大輔（～平成21年9月）	渡邊和子（平成22年4月～）	
嘱託（庶務）	井上絵美子	高野佳子（平成22年度）	

#### 発掘調査作業員及び整理作業員

荒田洋美 池田孝子 池田公見 岩男澄子 奥村碩近 片田清子 加藤美智子 加藤重治  
金田忠征 坂口貞裕 高野なぎさ 竹家豊 橘田知恵子 田中千恵子 田部澄博 塚副義一郎  
仁部屋良子 前原幸男 前原光恵 松尾茂彦 松尾千代子 宮田恵子 村山龍子 諸岡俊弘  
福永将大（九州大学学生） 横山唯（福岡大学学生）

#### 整理作業員

穴井和子 井口るみ子 井上理香 大園英美 大本哲士 小原高次 鬼塚穂子 上方高弘  
小林敏子 坂本泰子 白井典子 早田眞一郎 瀧口博司 仲前富美子 仲村美幸 西村清子  
橋本通則 広渡隆子 深野人美 船越桃子 町井裕子 松岡信子 村山律子 渡部美香

なお、調査期間中および報告書作成にあたって下記の方々に有益なご教示を頂いた。記して感謝申し上げます。（敬称略）

西谷 正（九州歴史資料館） 武末純一（福岡大学） 重藤 輝行（佐賀大学） 亀田修一  
（岡山理科大学） 寺井誠（大阪歴史博物館） 岸本圭 吉田東明（福岡県教育委員会）  
久住猛雄 吉留秀敏（福岡市教育委員会）

## Ⅱ. 位置と環境

### 1. 地理的環境

大野城市の位置する福岡平野は、南を背振山地、東を三郡山地に挟まれ、北は博多湾に面している。大野城市は福岡平野東南部の最奥部に位置し、東側を乙金山・四王寺山、南側を牛頸山に挟まれ、平野中央部に御笠川が貫流し、西から東に向かって牛頸川が流れ御笠川に合流する。石勺遺跡は市域中央部の曙町、瓦田一带に広がり、現在は市街地となり宅地が広がっている。明治・大正時代に作成された地図をみると、牛頸川の北側に沿って春日丘陵から八つ手状に東に延びる微高地が描かれており、低位段丘面と考えられる。石勺遺跡はこの低位段丘面の先端部に位置するものと考えられ、基盤層はAso-4火砕流堆積物と砂礫層からなる。

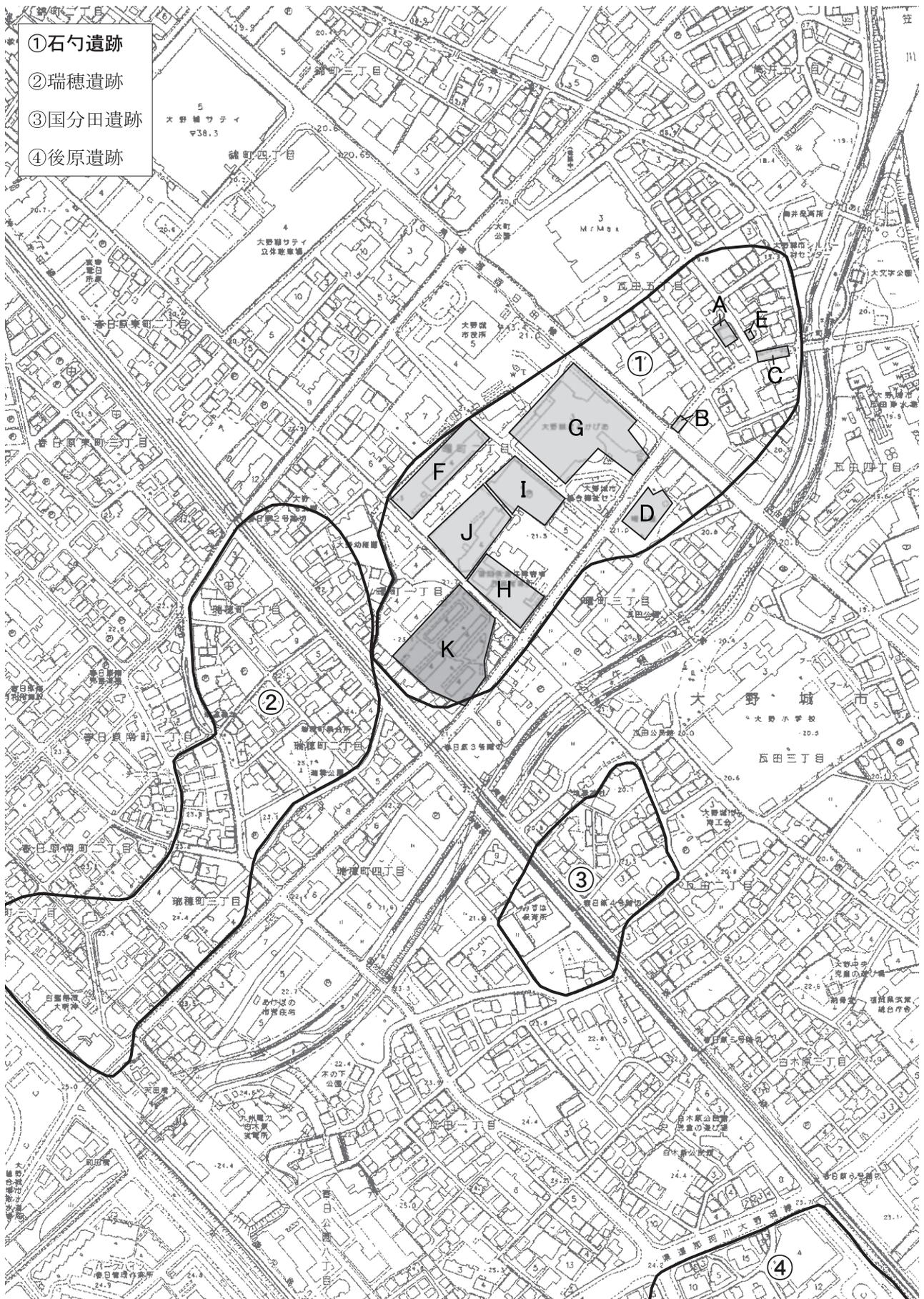
### 2. 歴史的環境

これまでの調査により、石勺遺跡では、縄文時代から中世までの遺物・遺構が確認されている。今回の調査では主として弥生時代から古墳時代の遺構が確認されていることから、当該期の遺跡を中心に概観してみたい。

弥生時代には、市域北部の丘陵部と御笠川周辺の平野部を中心に遺跡が展開する。前期には川原遺跡、仲島遺跡、御陵遺跡、石勺遺跡などで集落が、北部丘陵地に御陵前ノ椽遺跡、塚口遺跡、中・寺尾遺跡、金隈遺跡などの墓地が営まれる。中期には、北部の森園遺跡、南部の九州大学筑紫キャンパス遺跡で新たに集落が営まれ、墓地としては中・寺尾遺跡、森園遺跡、石勺遺跡で甕棺墓群が確認されている。周辺では、春日丘陵に大規模な集落、墓地が出現し、青銅器生産も開始される。須玖岡本遺跡D地点では多数の青銅器が副葬された「王墓」が見つかっており、春日丘陵は「奴国」の中心域と位置づけられる。後期になると、仲島遺跡、石勺遺跡、中・寺尾遺跡、森園遺跡、本堂遺跡、村下遺跡などで集落の展開が認められる。周辺では須玖岡本遺跡群、比恵・那珂遺跡群が拠点集落として継続し、雀居遺跡で環濠集落が成立する。

古墳時代になると、前方後円墳が出現し、那珂八幡古墳などの盟主墳が築造される。市域において前方後円墳は確認されていないが、御陵古墳群周辺で三角縁神獣鏡が出土している。集落は、市域において仲島遺跡、石勺遺跡のほか、瑞穂遺跡、原ノ畑遺跡でも出現する。周辺では博多湾沿岸の西新町遺跡、博多遺跡群や比恵・那珂遺跡群などの拠点集落が大規模に展開し、大陸も含めた交易拠点と位置づけられる。中期には、笹原古墳が築造され、集落は、市域で中・寺尾遺跡、森園遺跡、上藪遺跡、仲島遺跡で小規模ながら認められる。周辺では井相田C遺跡、立花寺B遺跡などで集落が展開する。後期には、月隈丘陵から乙金山山麓にかけて群集墳が大規模に営まれる。また、市南部では須恵器工人の墓と考えられる牛頸中通古墳群などが築造される。集落は、仲島遺跡、塚原遺跡、日ノ浦遺跡など展開する。またこの時期、牛頸窯跡群が操業を開始し次第に生産規模を拡大する。

奈良時代には、大宰府政庁や官道の整備が進められ、約500m南東の春日公園内遺跡や谷川遺跡で水城西門ルートが確認されている。墳墓としては石勺遺跡J地点で火葬墓が確認されている。



第2図 調査地点位置図 (1/5,000)

## Ⅲ. 調査の結果

### 1. 調査概要

調査地は旧福岡県職員住宅にあたり、大野城市曙町1丁目28-5番地に所在する。調査面積は約3,300㎡である。調査地は牛頸川北岸に沿って延びる微高地の南縁付近に位置し、調査地南側道路との比高差は約1mであった。調査着手前の現状は、建物および基礎解体後の更地であった。事前に実施した試掘調査および周辺調査の成果から、基本層序は現地表面より約0.5mまで整地時の客土、耕作土である黄褐色土が約0.5mあり、その下に遺物包含層である黒褐色土が0.2~0.6m堆積していた。黒褐色土を除去すると、調査区の北側がAso-4火砕流堆積物と考えられる暗赤褐色土、南側では暗灰褐色・黄灰色の中粒~粗砂が確認され、この上面で埋土灰黄褐色土・黒褐色土の遺構が確認されており、この面が遺構検出面となる。調査は、排土の場内仮置きの関係から、便宜的に東西で半分に分け西区から着手することとした。平成21年6月17日より重機による表土除去を開始し、包含層の遺物を採取しながら遺構検出面まで重機により掘り下げた。7月2日から作業員を投入して人力による遺構掘削を開始し、並行して写真・作図による記録作成を進めた。西区東側北コーナー付近では、表土除去時、広範囲に黒褐色土が広がり、包含層か遺構覆土かの判断が付かなかった。このため人力により掘り下げながら繰り返し遺構検出に努めた。結果として堅穴住居など複数の遺構が激しく重複したものであったが、包含層と遺構覆土、重複する遺構埋土は極めて近似していたため、遺構検出は難渋し遺構の切り合い部分や上面プランを明確にしえなかった。そこで、その後の調査においては、黒褐色土が広範囲に分布する箇所については遺構群と認識し、土層観察用のベルトを多数設定して、慎重に遺構検出および土層観察をしながら遺構プランや切り合いの確認を行なった。9月25日に西区北側の全景写真撮影、10月20日に西区南側の全景写真撮影を実施した。9月28日から重機により西区の埋め戻し及び東区の表土除去を開始した。10月5日から西区と並行して東区に作業員を投入して遺構掘削を開始し、記録作成も並行して実施した。平成22年1月29日に全ての遺構掘削、記録作成を終了し、2月2日までに調査区の埋め戻し、機材撤収を終了して本調査を全て終了した。

調査の結果、掘立柱建物、堅穴住居、溝、土坑、性格不明遺構、石蓋土坑墓、土坑墓、甕棺墓、ピットを確認した。遺構面は建物基礎の攪乱が各所に入るものの、全体として遺構面の上に厚く包含層が堆積し、遺構の残存状況は比較的良い。遺物は縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、土製品、石器、鉄器、玉類などが出土した。遺跡の概略としては、弥生時代中期後半から後期には甕棺墓を中心とした墓地の縁辺となり、古墳時代前期から中期前半には主に堅穴住居で構成される集落となる。この時期の住居内からは青銅製鋤先・銅鏃・玉類の他、朝鮮半島系土器が出土した。また堅穴住居にはかまどが併設されたものも確認された。古代には調査区東側に偏って堅穴住居などが確認され、出土遺物として土器の他、円面硯・瓦が確認された。中世には土坑・区画溝などが確認された。



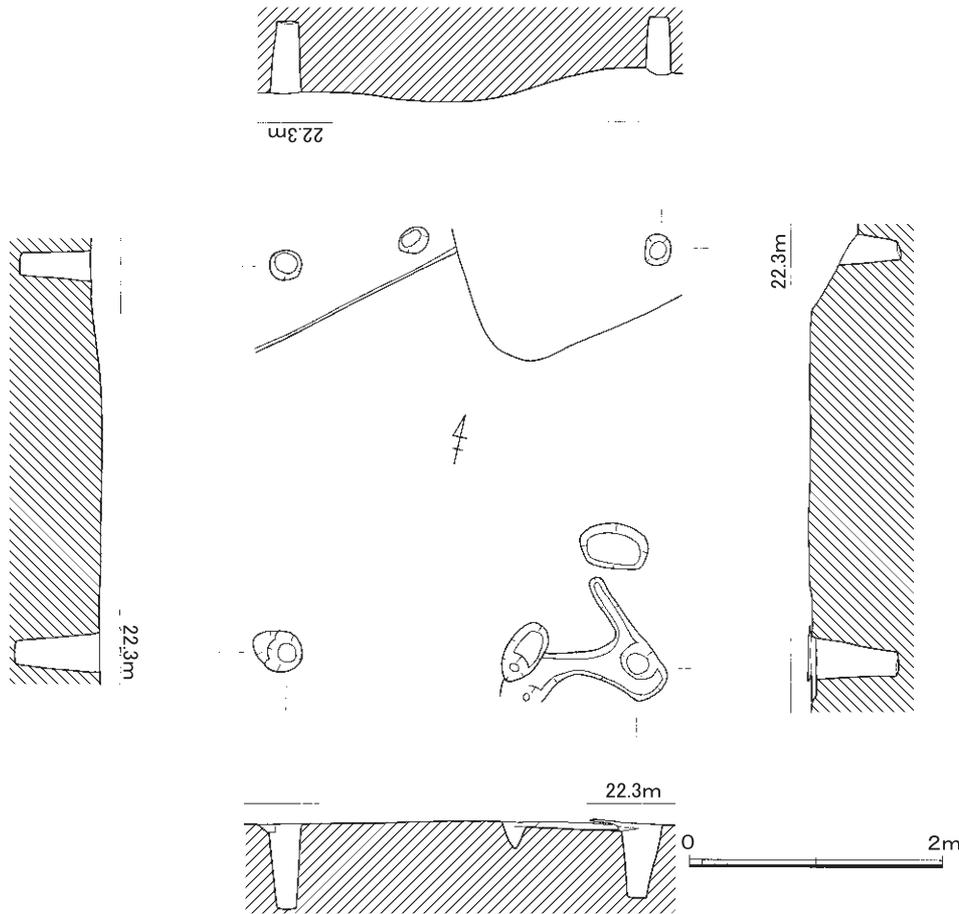
第3図 調査区遺構配置図 (1/250)

## 2. 遺構と遺物

### (1) 掘立柱建物

#### S B 01 (第4図、図版2)

西区北端に位置する側柱建物である。石蓋土坑墓を切る。主軸は北東—南西方向である。1間×1間で梁行2.8~2.95m、桁行3.1~3.4mで面積は約9.3㎡を測る。柱穴は直径25~40cmの円形・楕円形を呈し、深さ65~70cmを測る。柱穴内から土師器細片が出土した。



第4図 S B 01実測図 (1/60)

### (2) 竪穴住居

#### S C 01 (第5図、図版3)

西区中央で位置し、攪乱に大きく削られる。本来の形状・規模は不明だが、方形プランの南東コーナー部分と考えられ、残存長で長軸3.5m、短軸2.4mを測る。東壁際に幅約20cmの壁溝が巡り、南壁際に土坑を設ける。埋土は黒褐色土である。壁際土坑内より土師器・石庖丁が出土した。

#### 出土遺物 (第5図、図版25)

**土師器 (1~11)** 1~3は壺。1・2は二重口縁壺。1は口縁部下位で段をもって大きく開く。内外面ともハケ後ヨコナデのちヘラミガキ。2は口縁下半が外反しながら開き、屈折して上方へ立ち上がる。屈折部は垂下する。4~6は甕。4は口縁部が外反して大きく開き、胴部は倒卵形を呈す。底部レンズ底で輪台充填。口縁部は内外面ともハケ後ナデ。胴部外面はタタキ後下胴部タテハ

ケ。底部付近ケズリ。内面はハケ、底部は簾状ハケ。5は口縁部が直線的に開き、胴部は肩が張らず球胴ぎみ。胴部外面はハケ、内面はナデ。器壁非常に薄い。6は口縁部が大きく外反しながら開き、胴部は肩が張らず下膨れ。口縁部は内外面ともヨコナデ。頸部外面ヨコナデ。胴部内面ナデ。器表面摩滅し調整不明瞭。庄内甕か。7は器台。8は深鉢。口縁部内面を強くヨコナデし、口縁部がわずかに外反。胴部外面はハケ後ナデ。内面はヨコハケ。後述するS C 27出土の朝鮮半島系土器深鉢381と口縁部の作りが似る。9～11は鉢。9は平底で口縁部が短く外反する。内外面にヘラ状工具による線刻を施す。10・11は平底。外面はハケ、内面はケズリ。

**石器 (12)** 12は石庖丁。輝緑凝灰岩製。

#### S C 02 (第6図、図版3)

西区南側に位置し、北東隅を攪乱に削られる。平面長方形を呈し、6.6m×5.1mを測る。検出面から床面までの深さ約20cm。東・南・北壁際に幅約15cmの壁溝が巡り、床面で柱穴を3基確認した。柱穴は直径25cmの円形と長径60cmの楕円形である。床全面に褐灰色砂質土の貼床を行なう。掘り方床面では多数のピットや窪みが確認された。埋土は黒褐色土。出土遺物としては西壁際中央付近の貼床に切先を下に向け刺さった状態で、銅鏃1点(831)が出土した。

#### 出土遺物 (第6図)

**土師器 (13～26)** 13～16・18・19は壺。14は直口壺。口縁部は直線的に長く立ち上がる。胴部は肩が張り球形を呈す。口縁部は内外面とも丁寧なヘラミガキ。胴部外面はヘラミガキ、内面はハケ。15は小型丸底壺。口縁部は内湾しながら直立ぎみに長く延び、胴部は張らない。内外面ともナデ。粗製で分厚い。19は在地系壺。胴部下半に扁平な凸帯を貼り付け、ハケ状工具で斜格子刻みを施す。17はレンズ底。底部内面簾状ハケ。底部は輪台充填。V様式系甕か。20～22は高杯。20は杯部下半から内湾しながら立ち上がり境不明瞭。深く丸みを持つ。内外面とも丁寧なヘラミガキ。器壁薄い。21は内湾しながら開く。内外面ともヘラミガキ。器壁薄い。22は脚部で稜を持たず裾部が大きく広がる。円形透かしが空く。外面はハケ後ナデ、内面は柱部ナデ、裾部ハケ。23～26は鉢。23は脚付鉢。ハケ後ナデ調整。25は小型丸底鉢。口縁部は内湾しながら大きく開く。内外面とも丁寧な細密ヨコミガキが施される。26は浅鉢で内外面とも丁寧なミガキが施される。低脚高杯の杯部の可能性もあるか。

**縄文土器 (27)** 突帯文深鉢口縁部。端部に接して突帯を貼り付け刻みを施す。

**青銅器 (831)** 柳葉式銅鏃。身部側縁・関の外形ラインは明瞭なS字状を呈さず、鏃身中軸に縦一条の鑄をもつ。

#### S C 03 (第7図、図版4)

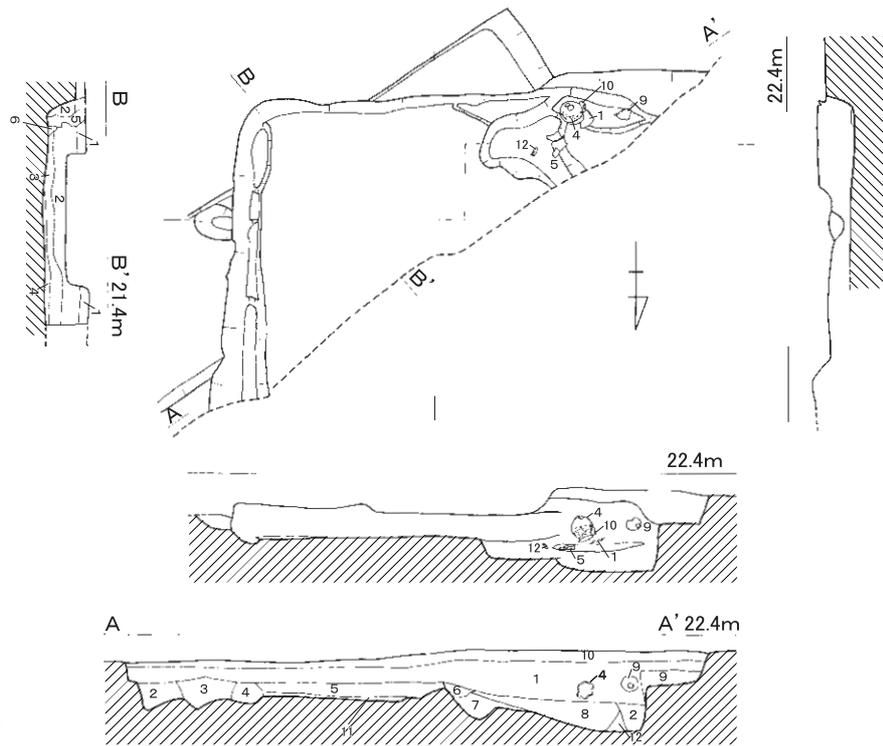
西区中央に位置する。北西部を攪乱により壊され、南側でS C 04を切る。平面方形を呈し、5.5m×5mを測る。検出面からの深さ約20cm。支柱穴は4本で、直径40～60cmの楕円形・隅丸方形を呈し、深さ30～55cmを測る。床面中央に薄く焼土を確認しており、炉跡と考えられる。埋土は灰黄褐色土。床面直上およびやや浮いた位置より土師器がまとまって出土した。

SC01 A-A'

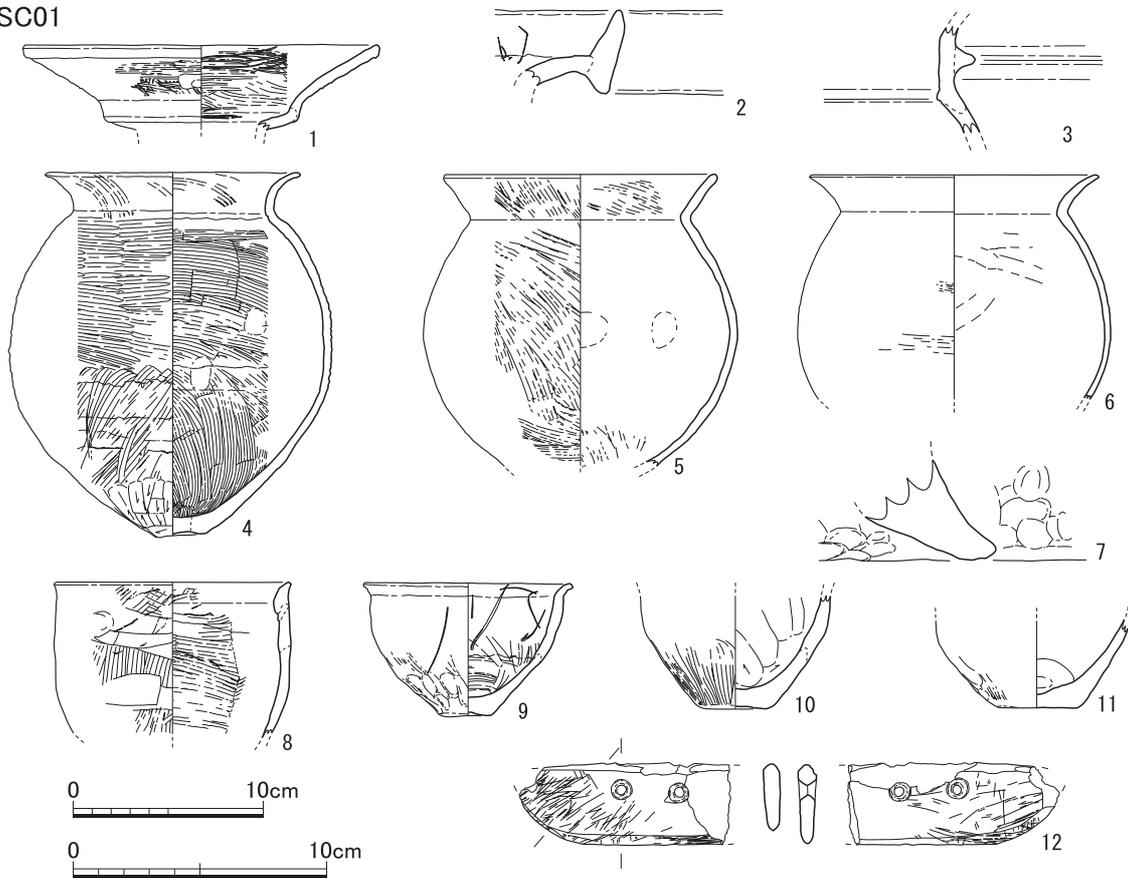
1. 黒褐色土 (5YR2/1) しまりなし。
2. 黒色土 (5YR1.7/1) しまりややあり。灰褐色土 (5YR5/2) をブロック状に含む。
3. 黒色土 (5YR1.7/1) しまりややあり。黄色砂 (2.5Y 8/8) を多く含む。
4. 灰褐色土 (5YR5/2) しまりややあり。黒色土 (5YR1.7/1) をわずかに含む。
5. 灰褐色土 (5YR5/2) 黄色砂・黒色土を多く含む。
6. 5層に同じ。黄色砂 (2.5Y8/8) が少ない。
7. 黒色土 (5YR1.7/1) しまりややあり。
8. 灰褐色土 (5YR5/2) 5層とほぼ同じだが、黒色土混じり多い。
9. 灰褐色砂 (5YR5/2) しまりなし。
10. 黒色土 (5YR1.7/1) しまりなし。(包含層)
11. 灰褐色土 (5YR5/2) 黄色砂を含む。(貼床)
12. 灰褐色土 (5YR5/2) 黄色砂を含む。

SC01 B-B'

1. 黒色土 (5YR1.7/1) しまりなし。(包含層)
2. 黒褐色土 (5YR2/1) しまりなし。
3. 灰褐色土 (5YR5/2) 黄色砂 (2.5Y8/8)・黒色土 (5YR1.7/1) をわずかに含む。
4. 灰褐色土 (5YR5/2) 黄色砂・黒色土を多く含む。
5. 黄色砂 (2.5Y8/8)
6. 黄色砂 (2.5Y8/8) 黒色土 (5YR2/1) を少し含む。



SC01



第5図 SC01実測図および出土遺物実測図 (1/60、1/3、1/4)

## 出土遺物（第8・9図、図版25）

### （1）検出中

**土師器（30・32～38）** 30は長頸壺。口縁部は直線的に長く延び端部付近がわずかに内湾する。胴部は肩が張り球形を呈す。口縁部外面はナデ後タテミガキ、内面はヨコハケ後ナデ。胴部外面はタテハケ後ミガキ、内面はハケ後ナデ。32は甕。口縁部上半がわずかに内湾し、端部面取り。口縁部内外面は丁寧なヨコナデ。頸部はナデ。胴部内面はケズリ。布留系甕。38は高杯脚裾部。外面は丁寧なタテミガキ、内面はナデ。4方向に穿孔する。33～37は鉢。36は外面がタテヘラミガキ、内面はナデ。小型の壺の可能性もある。37は小型丸底鉢。口縁部がわずかに内湾して開く。口縁部外面は丁寧な細密ヨコヘラミガキ、内面は丁寧なナデ。胴部内外面とも丁寧な細密ヘラミガキ。

**弥生土器（29・31）** 29は甕底部。平底で底薄いか。31は口縁部が逆L字状に折れ、やや上向き。

**土師器（39～49・51・52）** 39・40は壺。39は口縁部が頸部で屈折して直線的に広がる。中位に断面三角形突帯を貼り付け、弱い二重口縁状となる。胴部はなで肩となる。内外面ともハケ後ナデ。40は壺下胴部。底部平底。内外面ともハケ後ナデ。41～44は甕。41は口縁部がわずかに内湾し、端部を凹線状の面取り。肩部やや張る。肩部外面はハケ後ヨコハケ、ハケによる波状文。胴部内面はケズリ。器壁は非常に薄い。布留系甕。42は口縁端部を面取りし、内面ハネアゲ状。庄内系甕か。44は口縁部が外方へ開き端部が上方へ折れる。45～49は高杯。45は脚注部から強く屈折して中位でわずかに段が付き、裾が大きく開く。裾部中位に断面三角形の突帯が1条巡り、その上下に円形透かしあり。透かしは上下段互い違いで4方向に穿たれる。杯部脚部とも外面は丁寧なタテヘラミガキ。外来系（北陸系）搬入土器の可能性高い。47は椀形の杯部で、杯部内外面、脚部外面は丁寧なヘラミガキ。外来系（北近畿）搬入土器か。48は杯部下半が水平に近く開く。杯・脚部境に沈線状の段が付く。杯部内外面とも丁寧なヘラミガキ。脚部外面は丁寧なヘラミガキ、内面はナデ。49は脚部外面が丁寧なヘラミガキ、内面がナデ。51は鉢。内外面ともヘラミガキ。52は器台。脚端部はハケ状工具による刻みを施す。

**縄文土器（50）** 浅鉢。口縁端部は縄文後条痕施文。内外面ナデ。三万田式か。

**石器（53）** 台石で表面・裏面平滑。花崗岩製。

### S C 04（第7図）

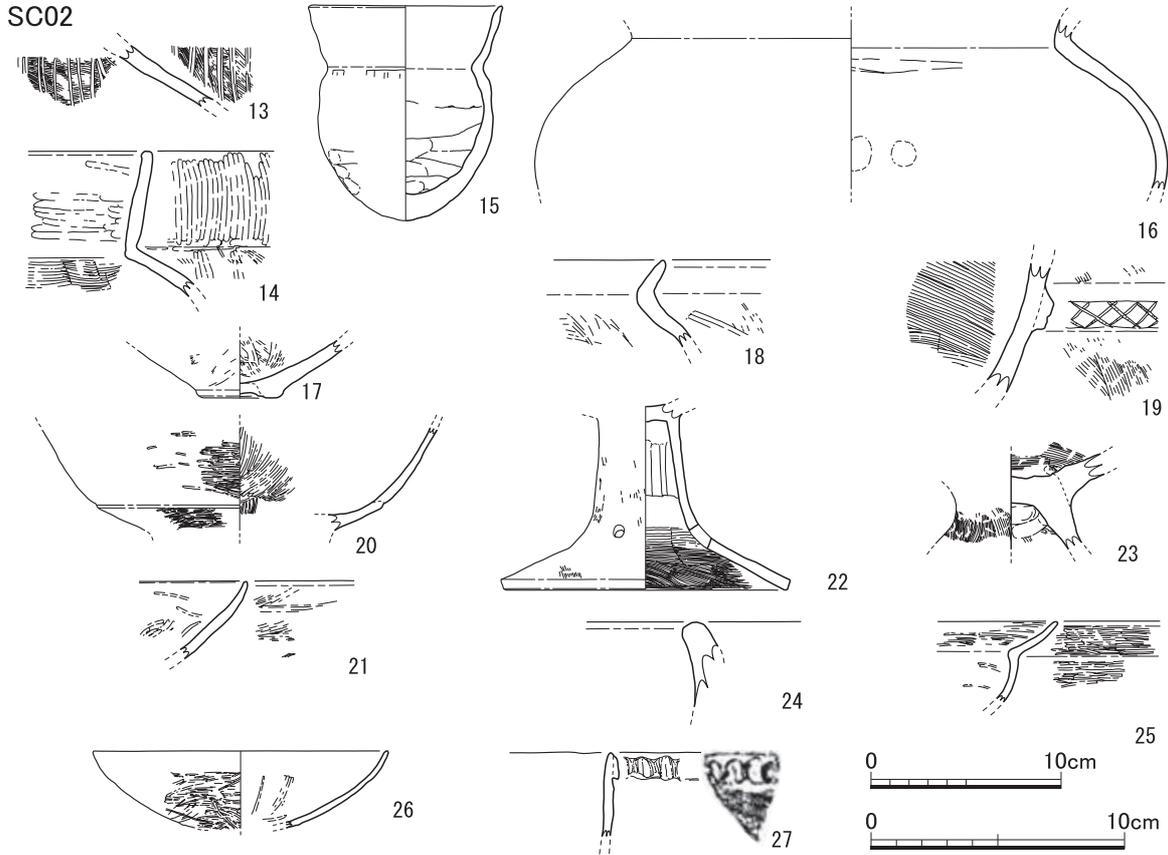
西区中央に位置する。北側をS C 03に切られる。南・東壁の壁溝のみ確認。平面方形と推定され、残存長で長軸5.0m、短軸3.8m。住居東角の柱穴より土師器が出土した。

### 出土遺物（第11図、図版26）

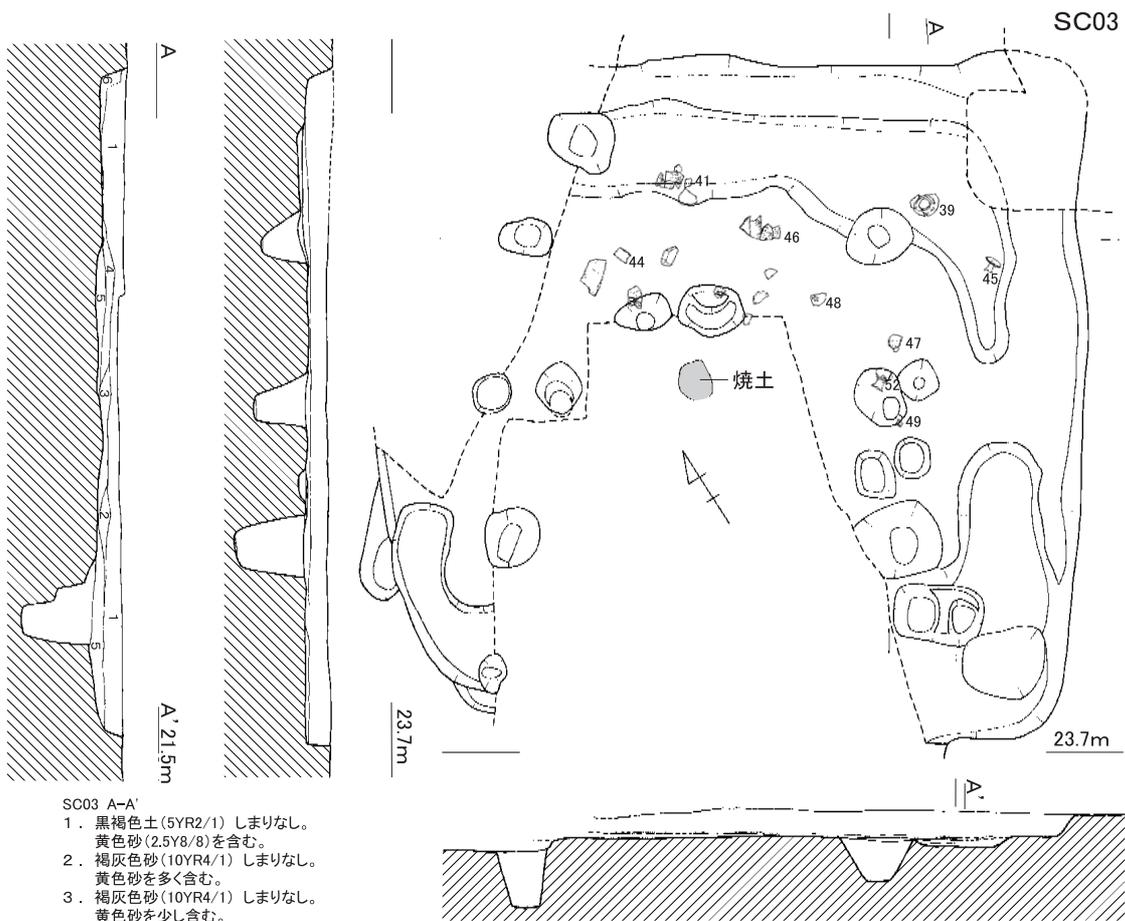
**土師器（54・55）** 54は甕。口縁部は直立ぎみに立ち上がり端部を面取り。胴部外面はハケ、内面は粗いヘラケズリ。55は鉢。口縁部がわずかに外反する。口縁部は内外面ナデ。体部外面はハケ、内面はナデ。底部外面にヘラ状工具による線刻あり。

### S C 05（第10図、図版4）

西区中央に位置する。東側を攪乱に壊され、全体的に削平される。平面長方形を呈し、5.1m×4.8mを測る。検出面から床面までの深さ約10cm。4本支柱穴と推定され、直径60～80cmの楕円形・隅丸方形、深さ20～40cmを測る。埋土は黄灰色中粒砂混じり黒褐色土である。



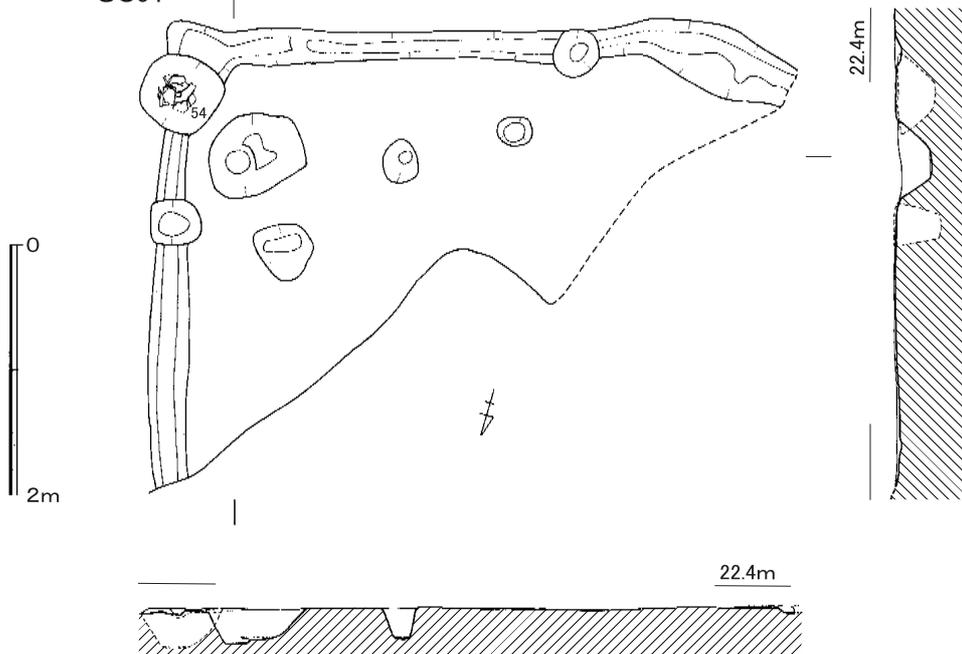
第6図 SC02実測図および出土遺物実測図 (1/60、1/3、1/4)



SC03 A-A'

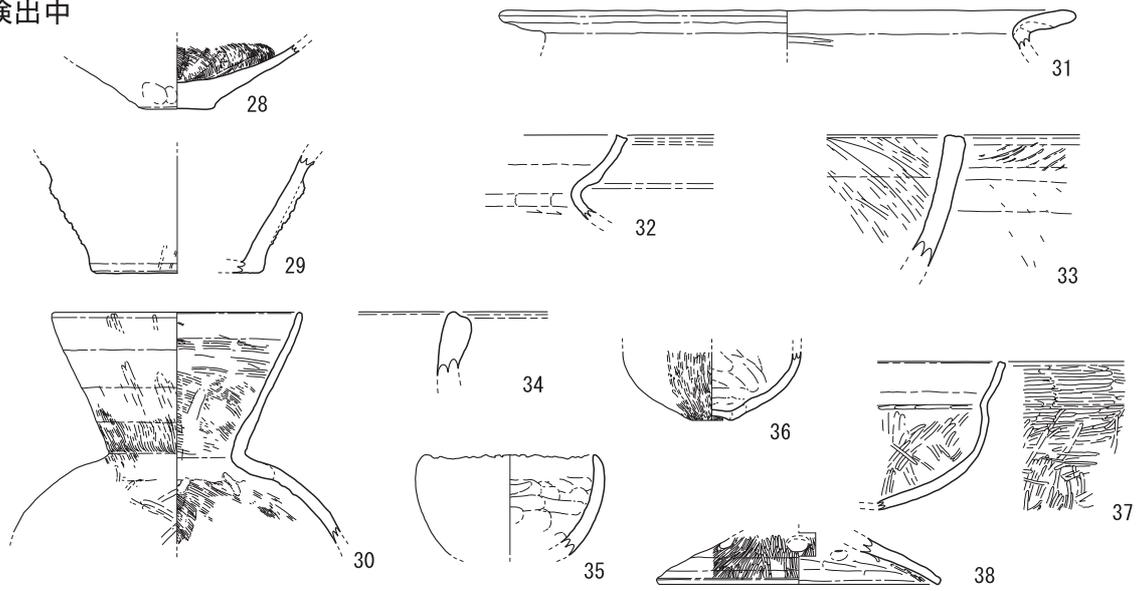
1. 黒褐色土(5YR2/1) しまりなし。  
黄色砂(2.5Y8/8)を含む。
2. 褐灰色砂(10YR4/1) しまりなし。  
黄色砂を多く含む。
3. 褐灰色砂(10YR4/1) しまりなし。  
黄色砂を少し含む。
4. 黒褐色土(10YR3/1) しまりなし。  
黄色砂をわずかに含む。
5. 黄色砂(2.5Y8/8) 地山土に似る。
6. 黄色砂(2.5Y8/8)

SC04

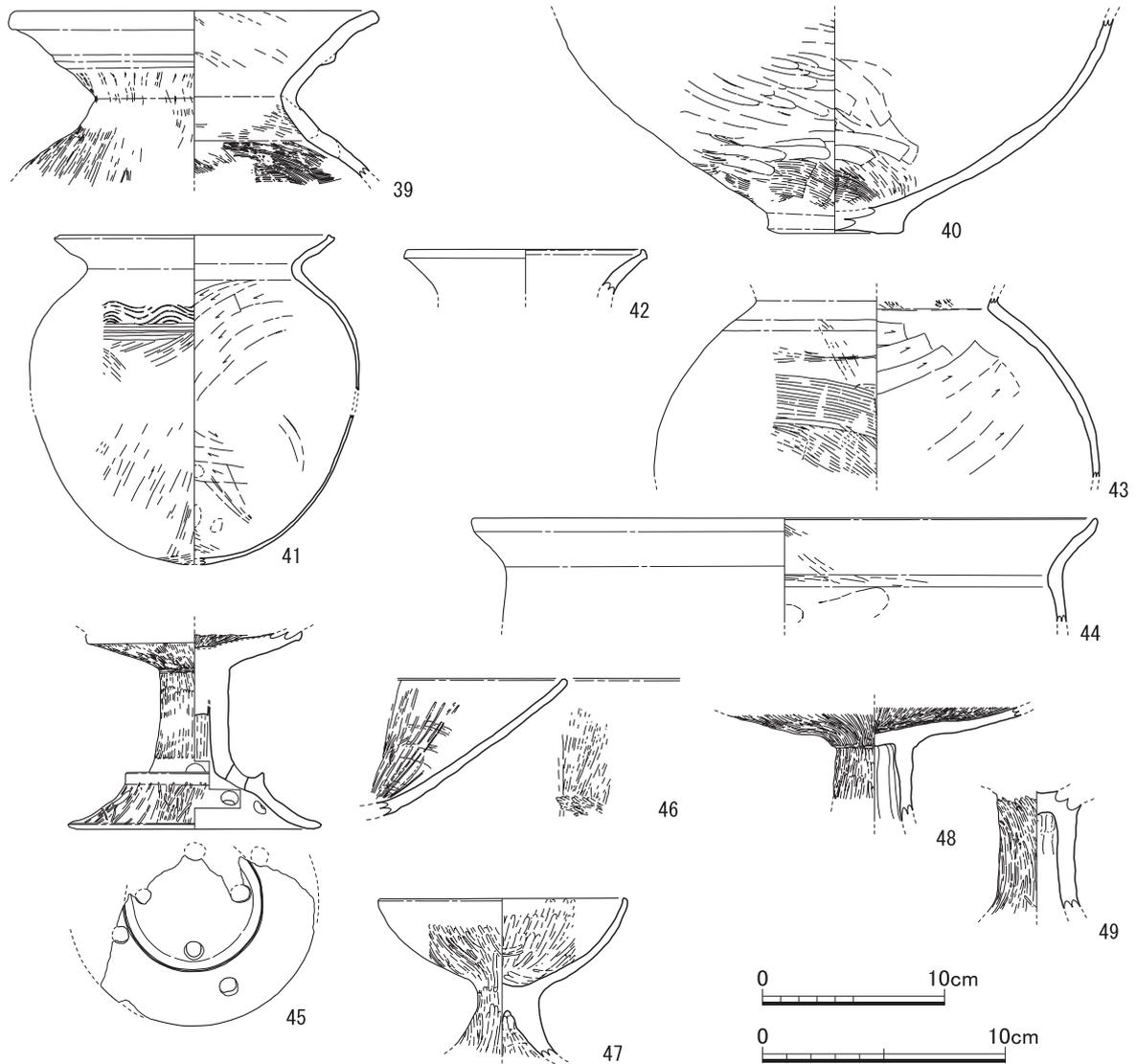


第7図 SC03・04実測図 (1/60)

検出中



SC03



第8図 SC03出土遺物実測図 (32・33・34・37・46は1/3、その他は1/4)

出土遺物 (第11図、図版26)

(1) 検出中

土師器 (56~59) 56は二重口縁壺。屈曲部は三角突帯状となる。内外面ともヘラミガキ施す。57は壺胴部か。内外面ともナデ。外面に横位の櫛描き直線文が施される。外来系搬入品か。58は高杯。屈曲部から緩やかに外反して開く。内外面とも丁寧なナデ後一部ヘラミガキ。59は鉢。内外面ともハケ。

縄文土器 (60) 浅鉢で外面貝殻条痕。屈曲部外面に刺突文あり。三万田式か。

土製品 (61) 土錘。直径1cm前後、残存長1.6cm。

(2) 住居出土

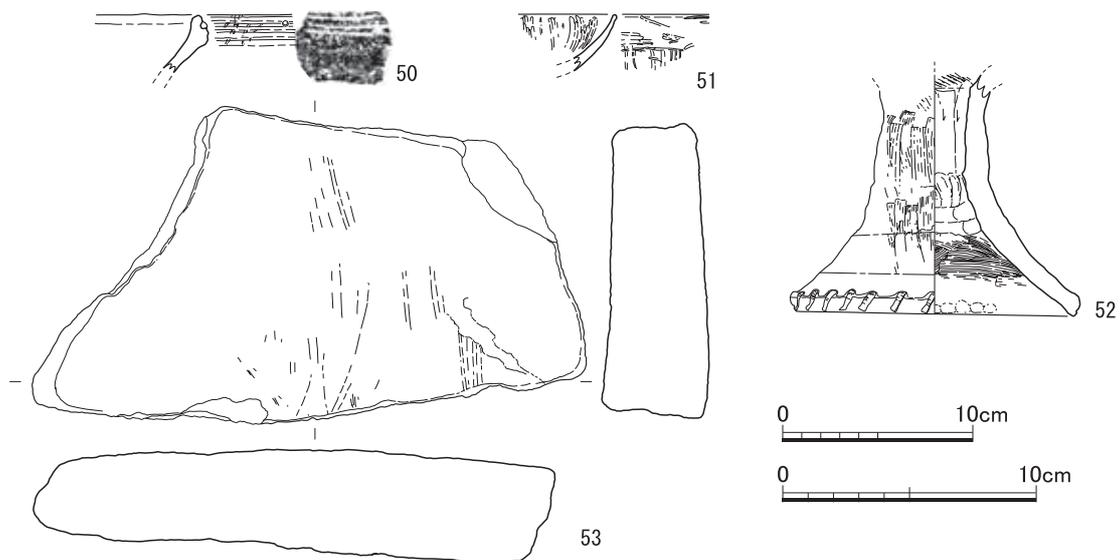
土師器 (62~65) 62は甕。肩部に突帯巡る。内外面ともハケ後ナデ。63は高杯。杯部下半と上半境の稜が段をなし、杯上半が外反する。内外面ともナデ。64・65は鉢。65は口縁部被熱。

S C 06 (第10図、図版5)

西区中央のS C 05より東へ約2mに位置する。平面長方形で3.2m×2.2mを測る。床面までの深さ約30cm。四辺とも壁際に幅約20cm、深さ10cmの壁溝が巡る。土層から床全面に黒褐色土・黄灰色粗砂混土の貼床を行なっていた可能性が高い。埋土は黒褐色土。遺物としては、床面から浮いた位置で土師器・ガラス小玉1点が出土した。

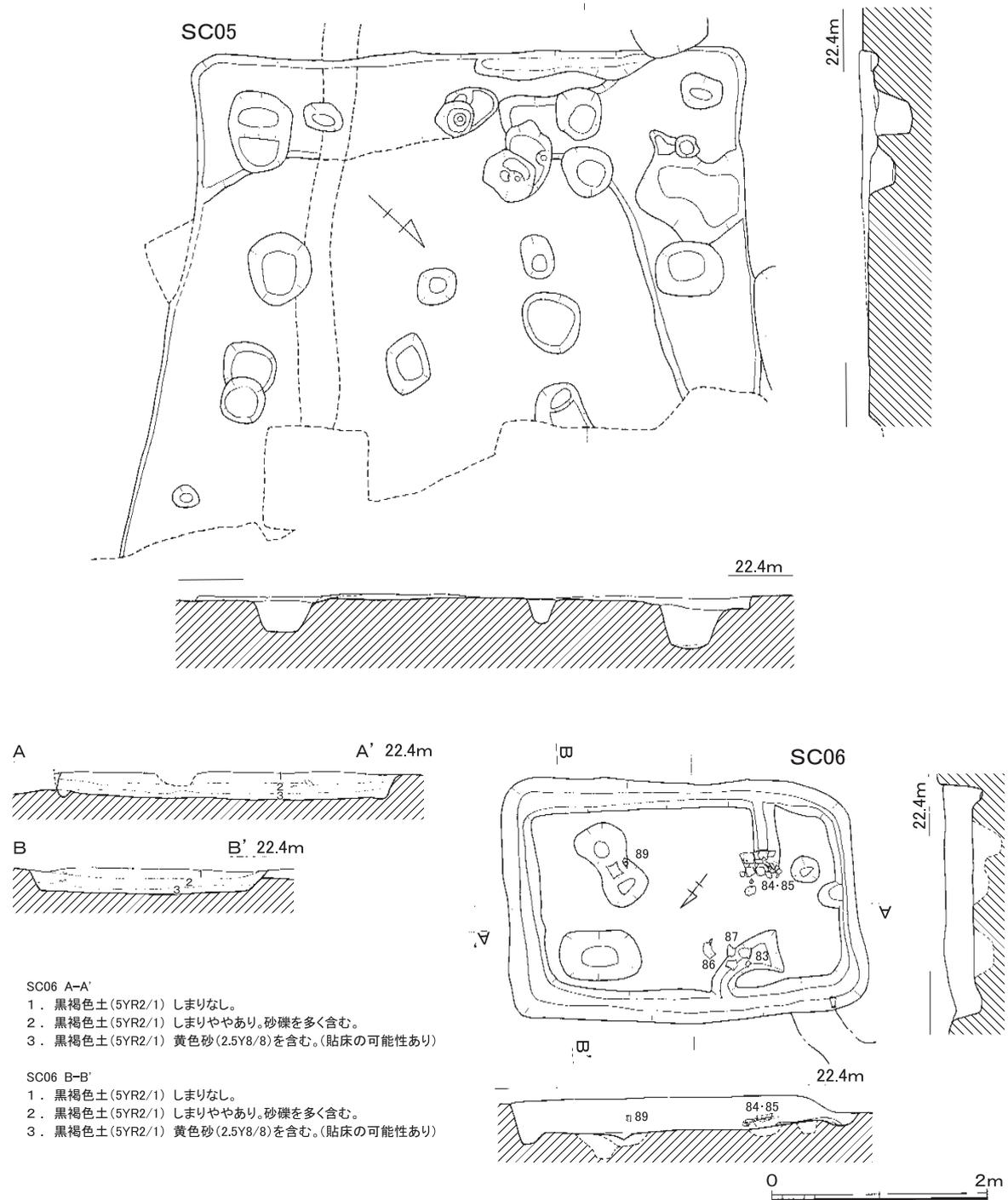
出土遺物 (第11・12図、図版26)

土師器 (66~93) 66~70・82・83は壺。66・82は二重口縁壺。66は頸部が直立し、口縁部が折れて受部はやや外傾ぎみに直立し、端部が短く外反する。外面は丁寧なヘラミガキ、内面はヨコナデ。畿内系か。82は球形の胴部から頸部がやや内傾して直立する。頸部は内外面ともハケ後ナデ。肩部外面はヨコナデ、内面はケズリ後ナデ。畿内系か。67は壺上胴部か。外面に櫛状工具による波状文・横位直線文が施される。色調は橙色。68~70・83は小型丸底壺。68は口縁部が直線的に大きく開き口径が胴部径を大きく上回る。口縁部内外面ともヨコナデ。胴部外面は条線細かいハケ後ナデ、内



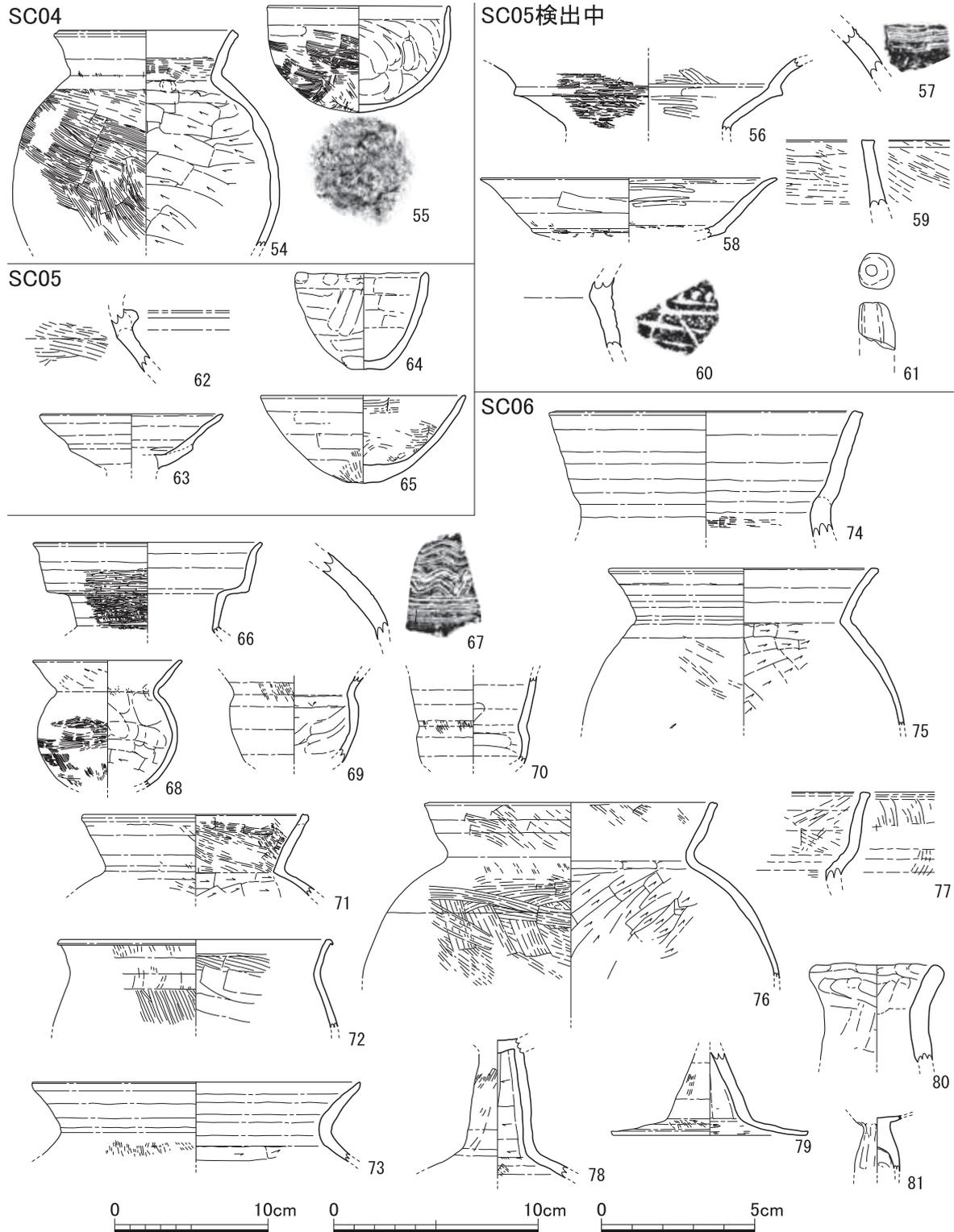
第9図 S C 03出土遺物実測図 (50・51は1/3、その他は1/4)

面は中位までナデ、下位ケズリ。調整が丁寧で器壁が薄い。69・70は口縁部が直立ぎみに延び頸部太い。内外面ともハケ後ナデ。83は口縁部が外反しながら上方へ延びる。内外面ともハケ後ナデ。71~77・84~86は甕。72は口縁部直立ぎみで端部を面取りし外側へ突出する。胴部は張らない。口縁部内外面ともハケ後ナデ。胴部外面はハケ、内面はナデ。は口縁部が直立ぎみで端部丸く、胴部は下膨れ。71・76は口縁部が直線的に開き端部は水平ぎみの面をもつ。76は口縁部上半がわずかに内湾する。胴部は肩がやや張る。口縁部は内外面ともハケ後ヨコナデ。頸部は内外面ともナデ。胴



第10図 SC05・06実測図 (1/60)

部外面はハケ、内面はケズリ。73・85は口縁部が外反して開き、端部は尖る。胴部はなで肩で下膨れを呈す。口縁部・頸部は内外面ともヨコナデ。胴部外面はハケ、内面はケズリ。74・77は二重口縁甕。山陰系。口縁部はハケ後ヨコナデ。85は口縁部が大きく開き、胴部は張らない。口縁部・頸部は内外面ともハケ後ヨコナデ。胴部外面はハケ、内面はケズリ。86は口縁部がわずかに内湾して開き、胴部は肩が張る。口縁部は内外面ともヨコナデ。肩部外面はタタキ後ヨコナデ、内面はケズ



第11図 S C 04・05検出中、S C 05、S C 06出土遺物実測図(61は1/2、57・59・60・63・67・77は1/3、その他は1/4)

リ後ナデ。78・79・87～91は高杯。87・88は杯上下半境が稜をもち、上半は外反しながら大きく開く。内外面ともヨコナデ。脚部（78・79・89～91）は細い脚柱部から裾部が強く屈曲する。89・90は外面がヘラミガキ。他はナデ。80・92は器台。81・93はミニチュア土器高杯。内外面ユビナデ。

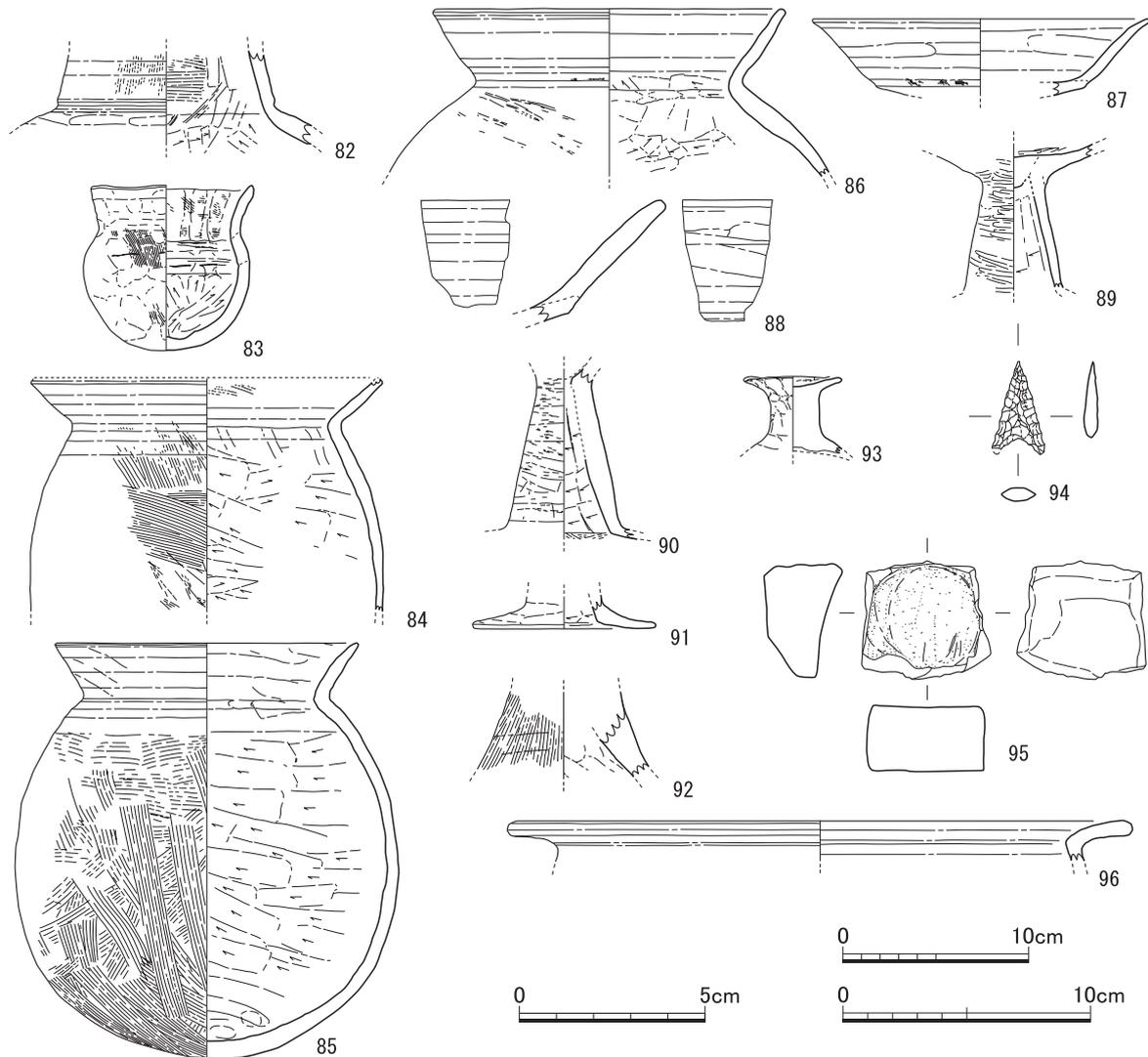
**石器（94・95）** 94は石鏃。サヌカイト製か。95は砥石。表面と裏面の一部に砥面残る。砥面は2面。

**弥生土器（96）** 甕。口縁部は逆し字状を呈し若干立ち上がる。内部に稜をもつ。

**ガラス製品（833）** ガラス小玉である。長さ5.5mm、直径5mm、孔径2mm。色調は青紺色。小口面は平坦に整形される。側面に幾つも面があり多角形状となる。肉眼視察で、孔内面に孔長軸に並行な気泡列が確認される。引延ばし技法による製作か。

**S C 07（第13図、図版5）**

西区北コーナーに位置する。南西側の一部を攪乱に壊され、東側の一部は調査区外へ続く。平面長方形で6.8m×5.8mを測る。床面までの深さ30～35cm。北壁から約5m南で床面が約10cm高くテラス状となる。土層から、床面が一段低い部分に、にぶい黄橙色砂混じり暗褐色土の貼床が施されていた可能性が高い。床面で直径40～60cmで楕円形・隅丸方形の柱穴を多数確認した。埋土は黒褐色土である。出土遺物としては、土師器・弥生土器がある。



第12図 S C 06出土遺物実測図（94は1/2、87・95は1/3、その他は1/4）

## 出土遺物

### (1) 検出中 (第14図)

**土師器 (98・101・102)** 98は甕。口縁部は短く外反する。101・102は丸底杯。口径15.3～15.6cm。内外面とも回転ナデ。底部外面回転ヘラ切り。板状圧痕あり。

**弥生土器 (97・99～100)** 97は甕棺口縁部か。端部面取りし、ヘラ描き斜格子文が施される。99は甕底部。内外面ともナデ。100は支脚。外面はタタキ後ナデ。

### (2) 住居出土 (第14図、図版27)

**土師器 (103～116・119)** 103～106・110は複合口縁壺。103は受部がわずかに内湾ぎみ。端部は面をなす。口縁部外面はハケ、内面はハケ後ヨコナデ。頸部は内外面ともハケ。104・105は受部が直線的に立ち上がり、端部外面がわずかに上方へ折れる。端部は面取り。口縁部は内外面ともハケ後ヨコナデ。頸部は内外面ともハケ。106・110は頸部で、2条突帯にハケ状工具の斜格子刻みが施される。外面はハケ、内面はハケ後一部ナデ。107～109は甕。107・108は口縁部が直立ぎみに立ち上がり、胴部は張らない。外面はタタキ後ハケ、内面はハケ後一部ナデ。109は口縁部が大きく開き上半部が内湾ぎみとなる。内外面とも丁寧なヨコナデ。布留系。111は甕底部。丸底で直径5mmほどの小孔が2ヶ所穿たれる。外面ハケ後ナデ、内面ナデ。112・113は高杯。112は脚柱部。外面は丁寧なヘラミガキ、内面はナデ。113は杯部。上半部はゆるやかに外反しながら大きく開く。外面は下半が横方向ヘラミガキ、上半が縦方向ヘラミガキ。内面は縦方向ヘラミガキ。114・115は鉢。114は口縁部が内湾しながら立ち上がり端部面取り。外面はハケ後ナデ、内面はハケ。115は底部中央に小円孔を穿つ。底部外面から体部にかけてタタキ後ナデ。畿内V様式系か。116は器台。脚裾に向かって直線的に広がり端部面取り。外面はタタキ後ナデ。内面はハケ、脚裾はユビ押しえ後ナデ。119は杯。口径14.0cm。口縁部から体部は内外面とも回転ナデ。底部外面は回転ヘラケズリ。

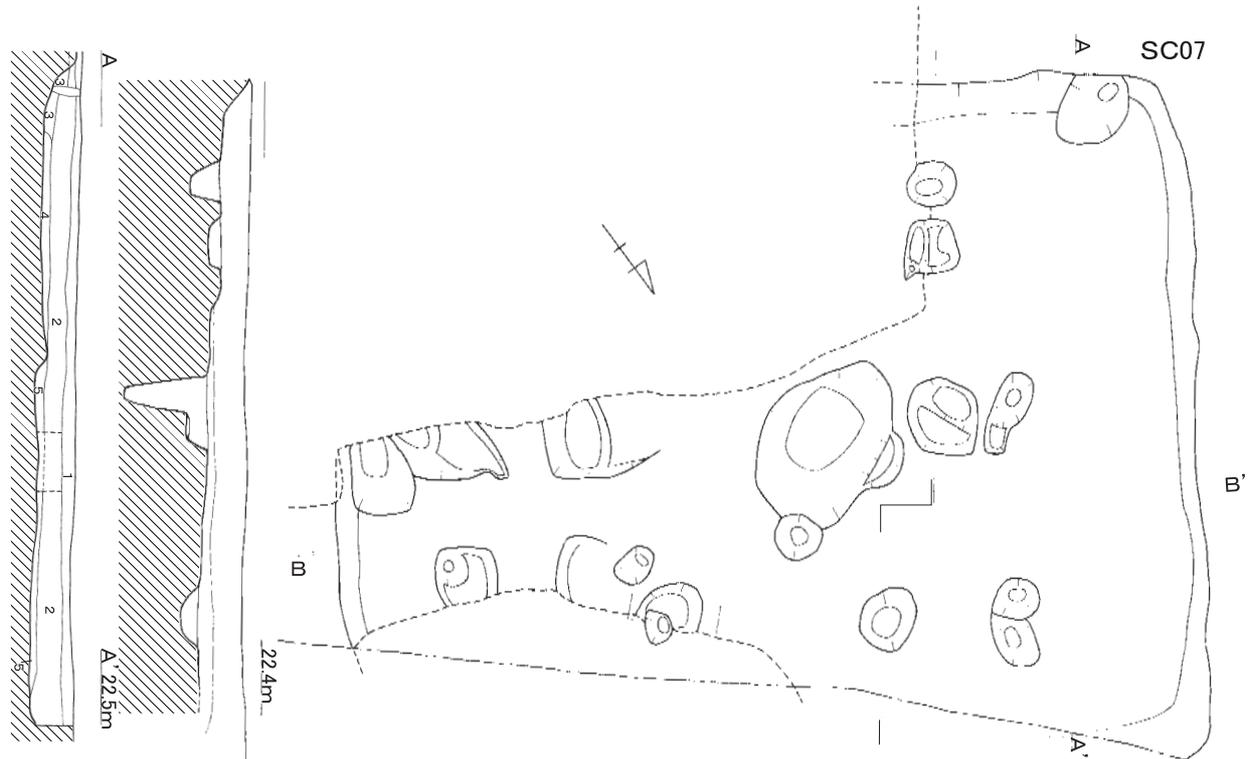
**弥生土器 (117・118)** 117・118は甕。口縁部は逆L字状を呈しやや垂下する。内面はやや突出する。118は口縁下に断面三角形の凸帯1条あり。

### S C 08 (第13図、図版6)

西区東側の北西端に位置する。調査概要で述べたとおり、一帯を包含層として掘削していたところ、かまどの粘土・焼土を確認したため、遺構検出し住居のプランを確認した。そのため遺構上位を大幅に掘りとばし、東側の一部をトレンチにより失った。平面略方形で南北3.5～4m、東西3.7～4.1mを測る。床面までの深さは残りの良い北壁付近で約25cm、その他は約5cmである。北壁にカマドが確認された。柱穴、貼床は確認されなかった。埋土は灰黄褐色土。カマドは、北壁中央に付く。馬蹄形に粘質土を積んで構築している。袖は高さ5cmで、右袖は長さ40cm、幅15cm、左袖は長さ50cm、幅20cmを測る。支脚は奥壁から20cm内側の左袖寄り位置する。角礫を使用し高さ10cmを測る。支脚の奥5cmから手前10cmの範囲で赤変した火床面が広がる。カマド内には焼土・炭が堆積する。カマド内および住居床面より須恵器・土師器が出土した。

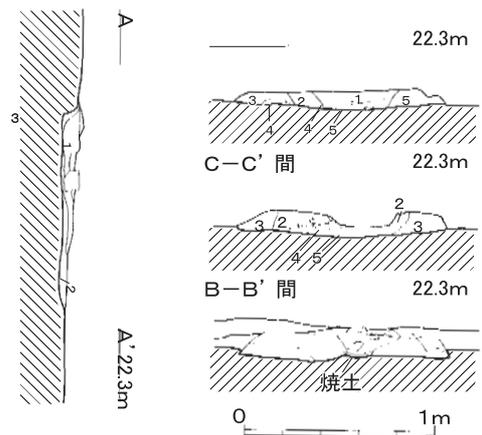
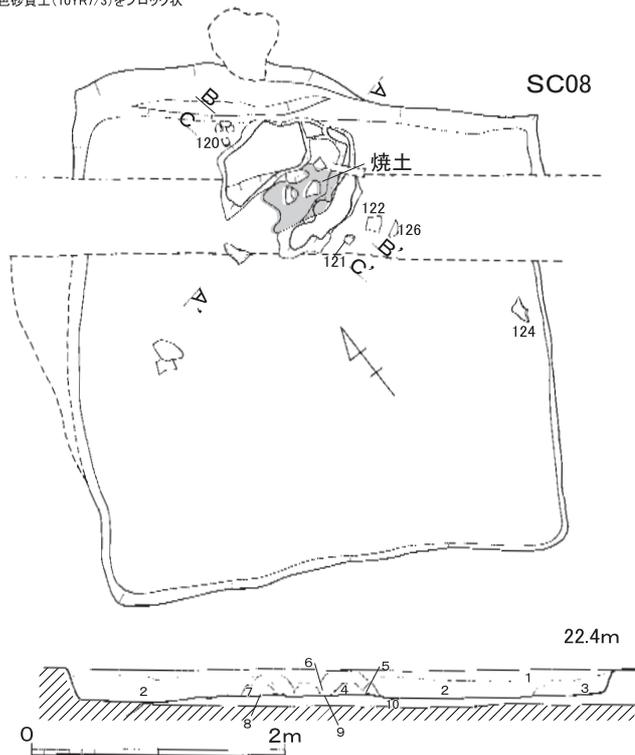
## 出土遺物 (第15図、図版27)

**須恵器 (120～125)** 120は杯H蓋。口径7.0cm。口縁体部境に浅い沈線巡る。天井部1/2回転ヘラケズリ。内面にシッタ痕あり。端部は使用による欠けあり。121～123は杯H身。121は口径12.7



- SC07 A-A'
1. 褐灰色砂質土(10YR4/1) しまりやや欠く。
  2. 黒褐色土(10YR3/1) しまり強い。粘性あり。
  3. 黒褐色砂質土(10YR3/1)
  4. 黒褐色土(10YR3/1) しまりやや欠く。粘性あり。
  5. 暗灰黄色砂質土(10YR4/2) しまりやや欠く。にふい黄橙色砂質土(10YR7/3)をブロック状に多く含む。

- SC07 B-B'
1. 黒褐色土(10YR3/2) しまりやや欠く。(包含層)
  2. 黒褐色砂質土(10YR3/1)
  3. 黒褐色土(10YR3/1) しまりやや欠く。粘性あり。
  4. 暗灰黄色砂質土(10YR4/2) しまりやや欠く。灰黄褐色砂質土(10YR6/2)をブロック状に多く含む。
  5. 暗灰黄色砂質土(10YR4/2) しまりやや欠く。にふい黄橙色砂質土(10YR7/3)をブロック状に多く含む。



- SC08カマド
1. 灰黄褐色粘質土(10YR5/2) 焼土塊。炭化物。カマド構築土塊を多く含む。
  2. 1層に同じ。(カマド構築土)
  3. にふい黄橙色粘質土(10YR6/3)(カマド構築土)
  4. 焼土(5YR5/6) しまり固い。
  5. 焼土(5YR5/6, 7.5YR5/3)・炭

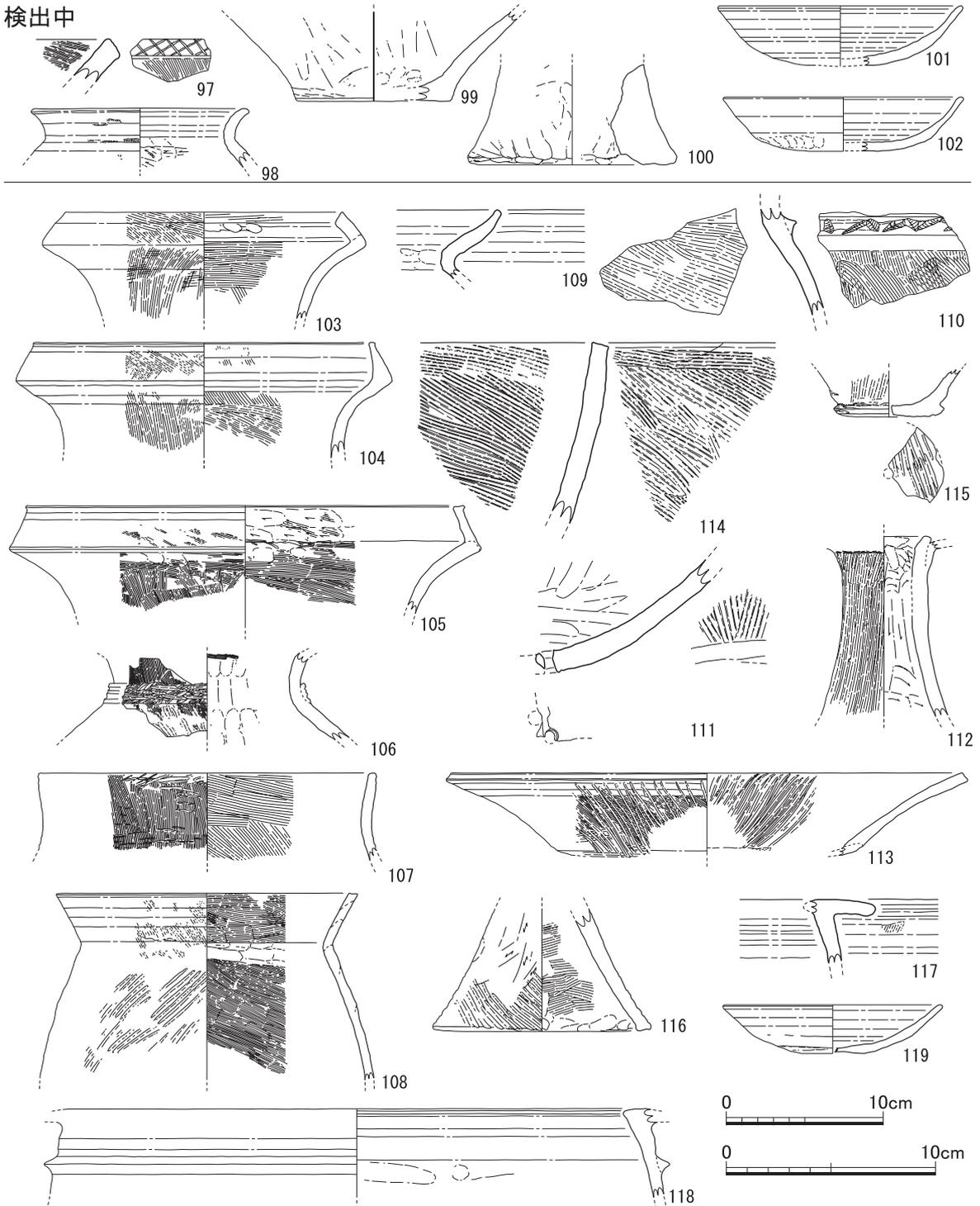
- SC08
1. 灰黄褐色土(10YR4/2)
  2. 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘性弱い。
  3. 褐灰色土(10YR4/1) 粘性ややあり。

第13図 SC07・08実測図 (1/30, 1/60)

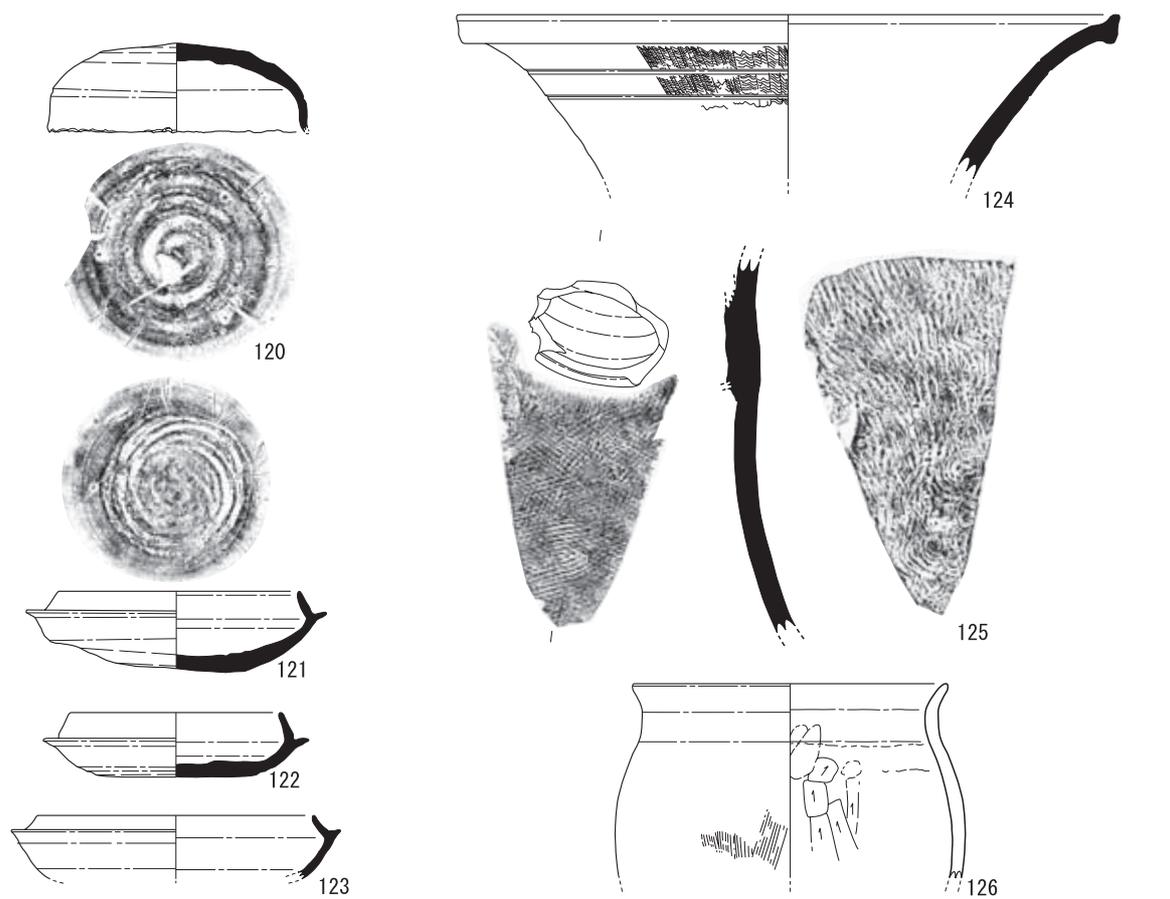
cm、立ち上がりは直線的。122は口径10.9cm、立ち上がりはやや内湾して延びる。123は14.6cm、立ち上がりはわずかに外反して短く延びる。124は大形甕。口縁部外面に沈線と波状文2段施される。125は焼き台。大甕体部外面に杯H身が釉着。

**土師器 (126)** 甕。口縁部はゆるやかに外反し、胴部がわずかに張る。口縁部は内外面ともナデ。胴部は外面がハケ、内面がケズリ。

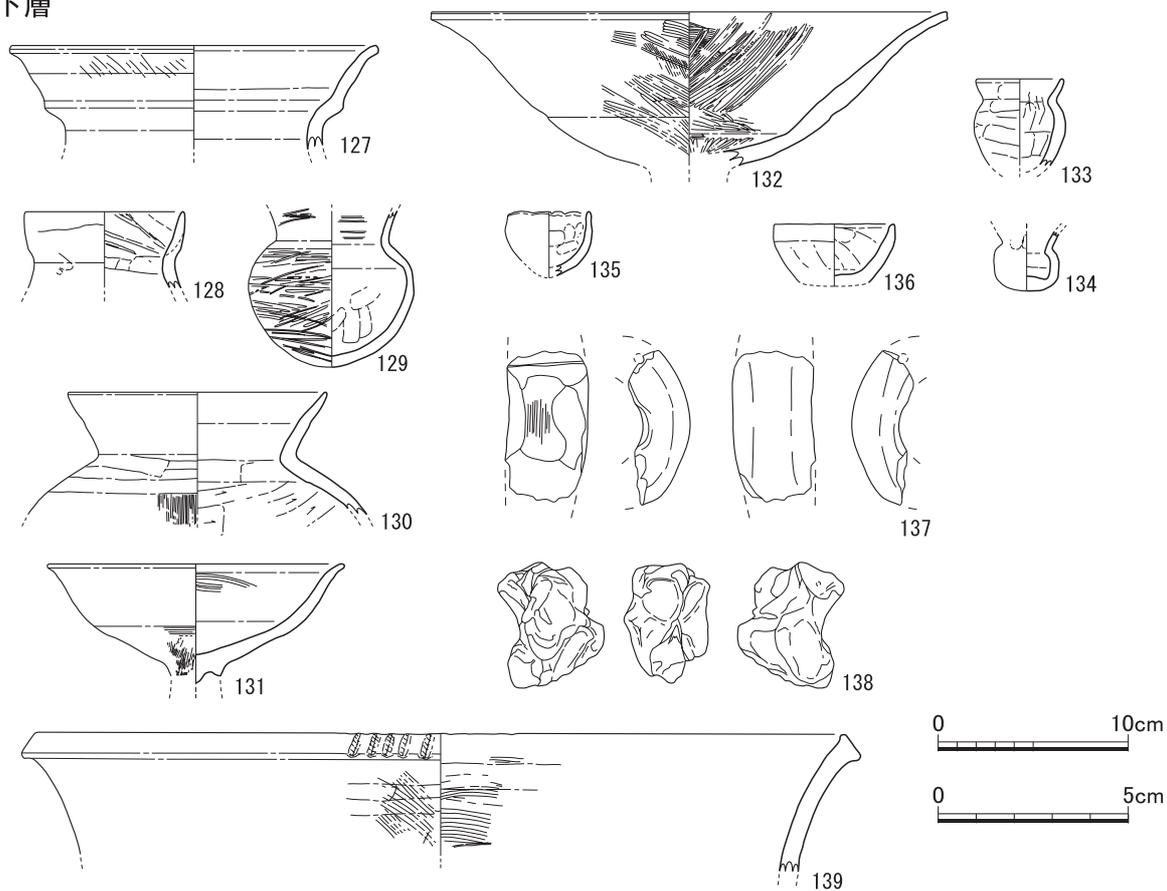
検出中



第14図 S C07検出中、S C07出土遺物実測図 (97・109・110・111・114・117は1/3、その他は1/4)



下層



第15図 S C08、S C08下層出土遺物実測図（137・138は1/2、その他は1/4）

## S C 09 (第16図、図版7)

西区東側の北西端に位置し、C 08下面で検出された。南壁側をS X 24・25に切られ、北西部は調査区外となる。検出当初は東に位置するS C 10と一連の住居と考え掘り下げたが、S C 10南壁より南で南東角のプランを確認したため、2棟の住居であることが判明した。確定前の遺物はS C 08下層、S C 09周辺上層包含層として取り上げた。また西壁調査区北壁際の土坑については、検出当初S X 27として調査、遺物取り上げを実施した。住居跡は、平面方形を呈し、6～6.2mを測る。床面までの深さは最大約20cmである。4本主柱穴で直径40～70cmの円形・楕円形、深さ40～55cmを測る。東・西・南壁で幅20～90cmの壁溝が巡る。炉跡は検出されなかった。埋土は黒褐色土。出土遺物は土師器・土製品・鉄器があり、須恵器・弥生土器が混じる。

### 出土遺物

#### (1) S C 08下層 (第15図)

**土師器 (127～134)** 127～130は壺。127は二重口縁壺。口縁部は中位で弱く折れ上半が外反する。外面はハケ後強いヨコナデ、内面は強いヨコナデ。128・129は小型丸底壺。128は口縁部がわずかに内湾して立ち上がる。129は腰高の胴部。胴部外面はナデ後横方向ヘラミガキ、内面はナデ。130は直口壺か。口縁部は直線的に開き、頸部が締まって胴部は肩が張る。口縁部・頸部は内外面ともヨコナデ。胴部外面はハケ、内面はケズリ。131・132は高杯。131は上下半境が明瞭でなく、上半部が丸みをもって開いて端部付近が短く外反する。132は上下半境が明瞭でなく、上半部は大きく開いて口縁部がわずかに外反する。外面はハケ後ナデ、内面上位はハケ後ヘラミガキ、下位はヘラミガキ。133～136はミニチュア土器。133・134は壺。135・136は鉢。

**土製品 (137・138)** 137は土製勾玉。上端の破損部分に穿孔の痕跡あり。138は焼成粘土塊。

**弥生土器 (139)** 大形甕口縁部。ゆるやかに立ち上がり端部面取り。端部に刻み目。

#### (2) S C 09 (第17・71・73図、図版27・38)

**土師器 (140～167)** 140～146は壺。140は壺口縁部。外面に櫛描き波状文、端部に刻み目を施す。141は二重口縁壺。頸部は湾曲して立ち上がる。内外面ともナデ。142は中形直口壺。口縁部は直線的に立ち上がり、胴部はあまり張らない。口縁部は内外面ともヨコナデ。胴部外面はタタキ後ナデ、内面はケズリ。143～146は小型丸底壺。143は口縁部が直線的に外方へ開き、口径が胴部径より大きい。口縁部は内外面ともハケ、胴部外面はハケ後ナデ、内面はナデ。胴部下位外面にヘラ描き線刻あり。横→縦の順。144・146は口縁部が直線的に立ち上がり、口径・胴部径がほぼ同じ。144は外面がハケ後ナデ、一部ヘラミガキ、内面ケズリ後ナデ。146は内外面ともナデ。145は口縁部が直立し、胴部径が口径を上回る。口縁部は内外面ともナデ。胴部外面はハケ後一部ナデ、内面はケズリ後ナデ。147～153は甕。147は口縁部が直立ぎみで胴部は張らない。口縁部は内外面ともヨコナデ。胴部外面はハケで中位に横方向ハケ、内面はケズリ後ナデ。148は口縁部がわずかに外反して立ち上がる。口縁部は内外面ともヨコナデ。頸部は内外面ともヨコナデ。149は口縁部がわずかに内湾して立ち上がり、端部面取り。内外面ともケズリ後ヨコナデ。150は口縁部中位からわずかに内湾し、端部外傾する面をもつ。口縁部から頸部は内外面とも丁寧なヨコナデ。151～153は二重口縁甕。山陰系か。151・152は口縁部が直立し端部がわずかに外反する。153は口縁部が外反しなが

ら立ち上がる。154～159は高杯。154は杯上下半境なく内湾しながら開く。155～158は杯下半が水平に近く開き、稜をもって上半がわずかに外反して立ち上がる。155・156はナデ、157・158はナデ後一部ヘラミガキ。159は脚裾部が折れて大きく開く。160～162は鉢。内外面ともナデ。163～165は器台。163・164は内外面ともナデ。165は内外面ともハケ後ナデ。器壁薄い。166・167はミニチュア土器鉢。

**土製品 (168・169・839)** 168は粘土塊。169は土錘。長さ4.3cm、直径1.1cm。ユビナデ仕上げ。839は土製勾玉。長さ5.4cm、幅3.6cm、厚み2.1cm。穿孔あり。

**須恵器 (170)** 杯H蓋。天井部丸みもち高い。天井部内面に当具痕あり。

**弥生土器 (171)** 甕。口縁部は、くの字状を呈し、内湾しながら立ち上がる。口縁下に断面三角形の凸帯を1条貼り付ける。

**鉄器 (807～809)** 807は鉄鏃頸部から茎部。残存長3.8cm。808は刀子。刃部から茎部。残存長8.6cm、刃部幅1.2cm、厚み1.0cm。809は不明鉄製品。板状を呈し、わずかに湾曲する。鋌あり。

### (3) S C 09周辺上層包含層 (第18図、図版28)

**土師器 (172～192)** 172～175は壺。172は壺胴部で、外面に竹管の刺突文と半裁竹管の横位直線文が施される。外面はナデ、内面はケズリ。173～175は小型丸底壺。173は胴部が扁平で、外面は丁寧なナデ後上半ヘラミガキ、内面ユビナデ。174は口縁部が直立ぎみで頸部が凹線状にくぼむ。内外面ともナデ。175は口縁部が直立ぎみで頸部が太い。内外面ともナデ。176・178・182は二重口縁甕。山陰系。176は口縁部が内湾ぎみに直立する。口縁端部面取り。178は口縁部が大きく外反する。口縁端部丸く収める。182は大形品。口縁部外面はハケが残る。177・179～181は甕。177は大形甕で口縁端部を面取りして刻みを施す。179は口縁部が直立ぎみで端部尖る。胴部は張らない。口縁部内面はハケ残る。胴部外面はハケ、内面はケズリ。180は直線的に開き端部丸く収める。調整不明瞭だが胴部内面はケズリ。181は口縁部が中位よりわずかに内湾し、端部は沈線状の面取り。内外面ともヨコナデ。内面ハケ残る。183～187は高杯。183は杯下半が水平に近く開き上半がゆるやかに外反して立ち上がる。脚柱部はわずかに開き、裾部が折れて大きく開く。杯部は内外面ともヘラミガキ。脚部外面はヘラミガキ、脚柱内面はケズリ、裾部ナデ。184の杯部は183と同形状。内外面ともハケ後ナデで、下半部内面はハケが残る。185は脚柱部中位が張る。脚上位外面はナデ、下位はヘラミガキ。内面はナデ。杯底部に軸芯穴あり。186・187は脚裾部が折れて大きく開く。186は脚柱部中位がわずかに膨らみ、屈折部内面に稜あり。188は鉢。やや平底ぎみ。外面はハケ後ナデ。内面はナデ。191は台杯鉢脚部か。基部が太く脚部が短く開く。内外面ともハケ後ナデ。189・190・192はミニチュア土器。189・190は鉢形。192は高杯形脚部。

### S C 10 (第19図、図版8)

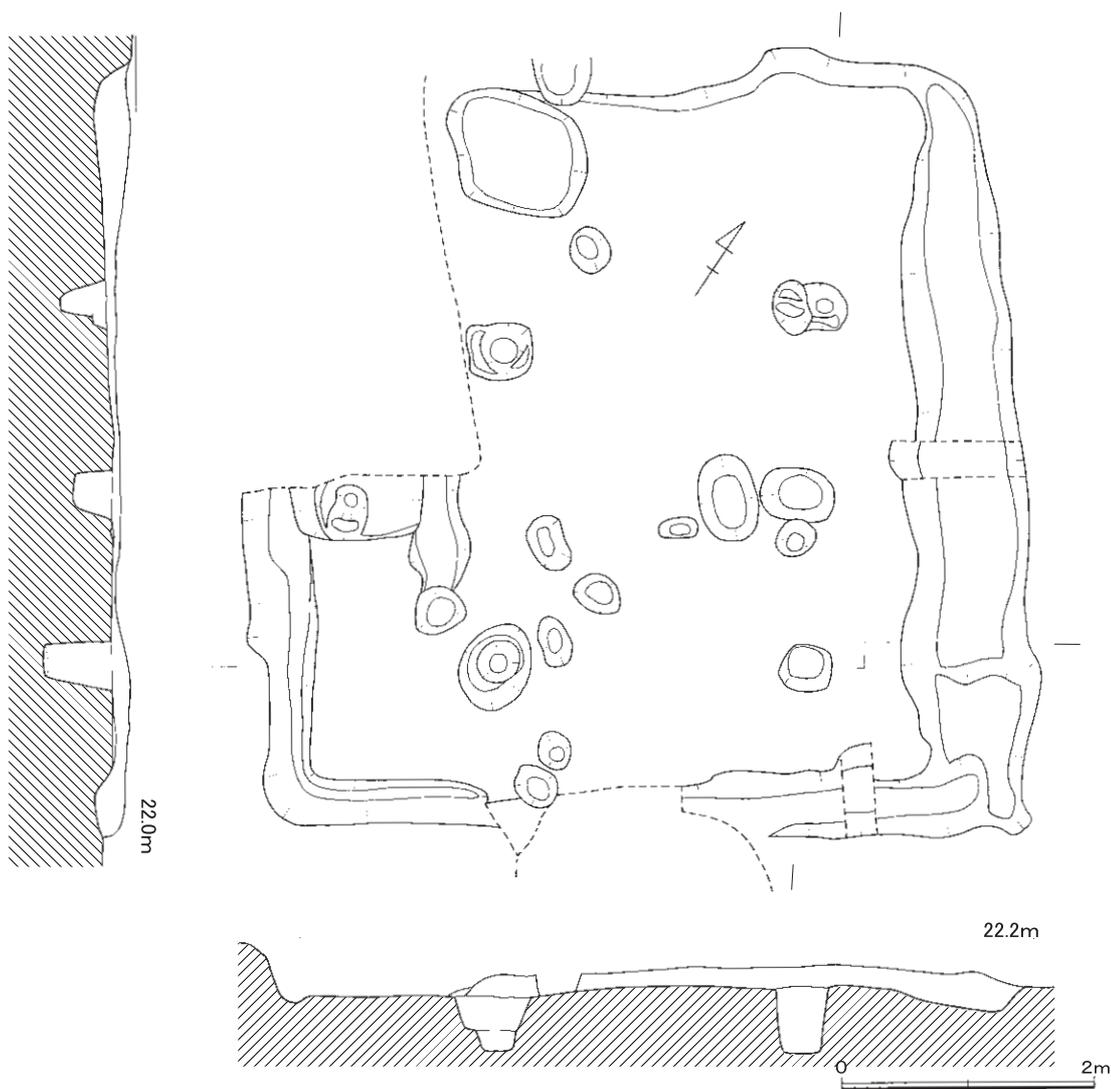
西区東側の北西端に位置し、S C 08下面で検出された。西半をS C 09に切られ、東壁に接するようにS C 11に切られる。平面長方形を呈し、東西5.7m、南北4.8mを測る。床面までの深さは最大で約15cmである。4本支柱穴と推定され、南側の2本はS C 09床面で検出された柱穴が該当する。柱穴は直径40～65cmの円形・楕円形で、深さ30～40cmを測る。壁溝、炉跡は検出されなかった。埋土は灰黄褐色砂質土である。出土遺物は、床面を中心に土師器が出土した。

出土遺物 (第22・73図、図版28)

土師器 (193~199) 193は小型丸底壺。胴部扁平。口縁部は内外面とも縦方向のヘラミガキ。胴部外面は上位縦方向ヘラミガキ、中位以下横方向ヘラミガキ。194~196は高杯。194・195は脚柱部が開きぎみで中位がわずかに膨らむ。裾部は内面が稜をもって折れる。脚部内外面はナデ後ヘラミガキ、内面ナデ。196は脚部が大きく開く。脚部外面はヘラミガキ、内面はハケ後ナデ。197は甕。口縁部は大きく開き、胴部は肩が張る。

SC11 (第20図、図版8)

西区東側の北西端に位置する。北隅付近を攪乱により壊される。住居東半は重機による表土除去および包含層掘削時に掘り下げ、結果として壁面を壊してしまった。さらに東側下面のSC29埋土と床面との層境は不明瞭で、床面は検出することができず土層で追認できたのみである。平面方形と考えられ、北西—南東方向で5.8mを測る。床面は、西側床面から2・3層境が水平につながり、3層上面に乗るように焼土が検出されていることから、3層上面が床面となる。床面までの深さは約10cmである。埋土は灰黄褐色砂質土。出土遺物は、埋土2層上面で土師器壺・高杯が一括廃棄さ

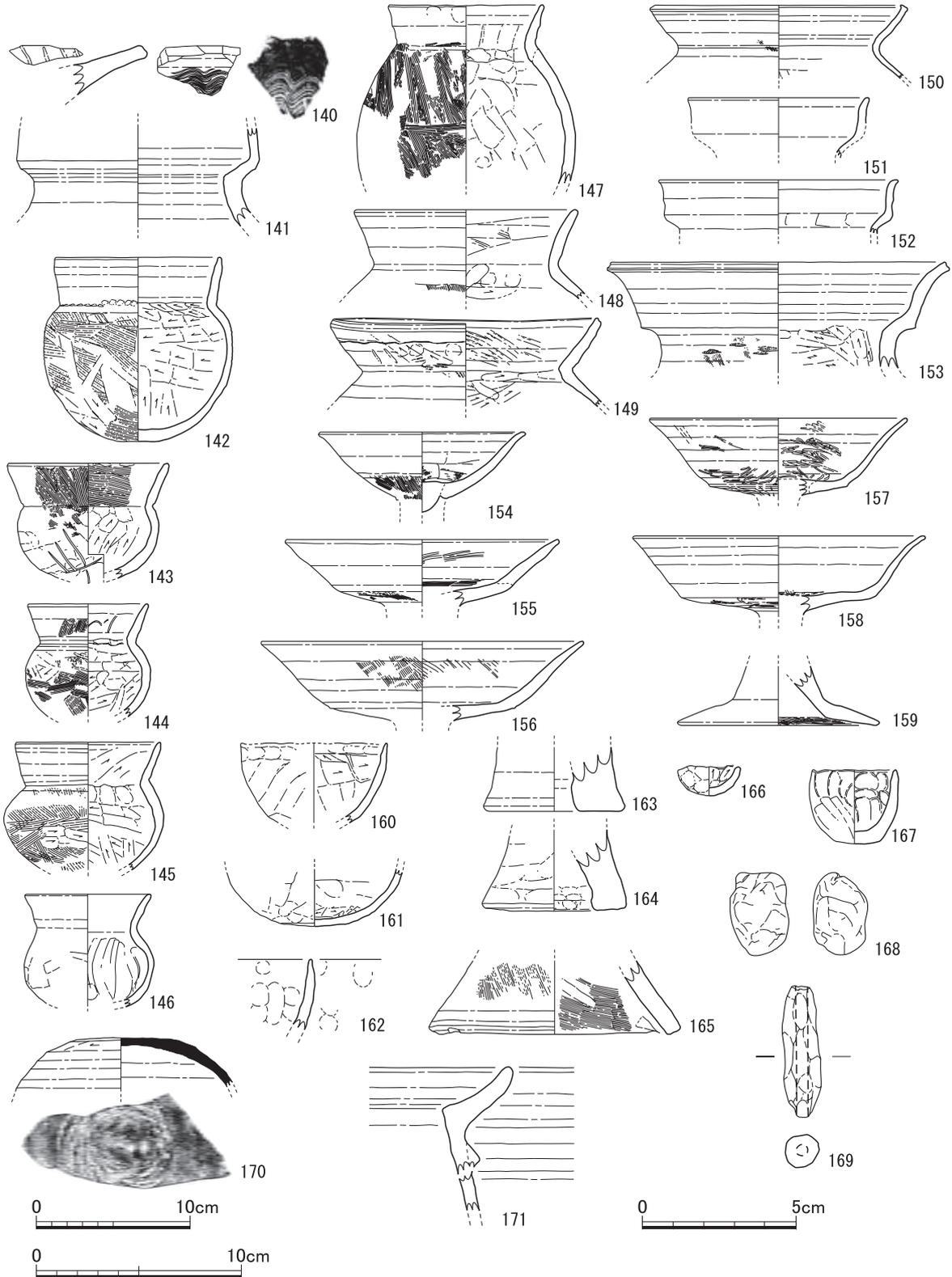


第16図 SC09実測図 (1/60)

れていた他、埋土中から多数出土した。

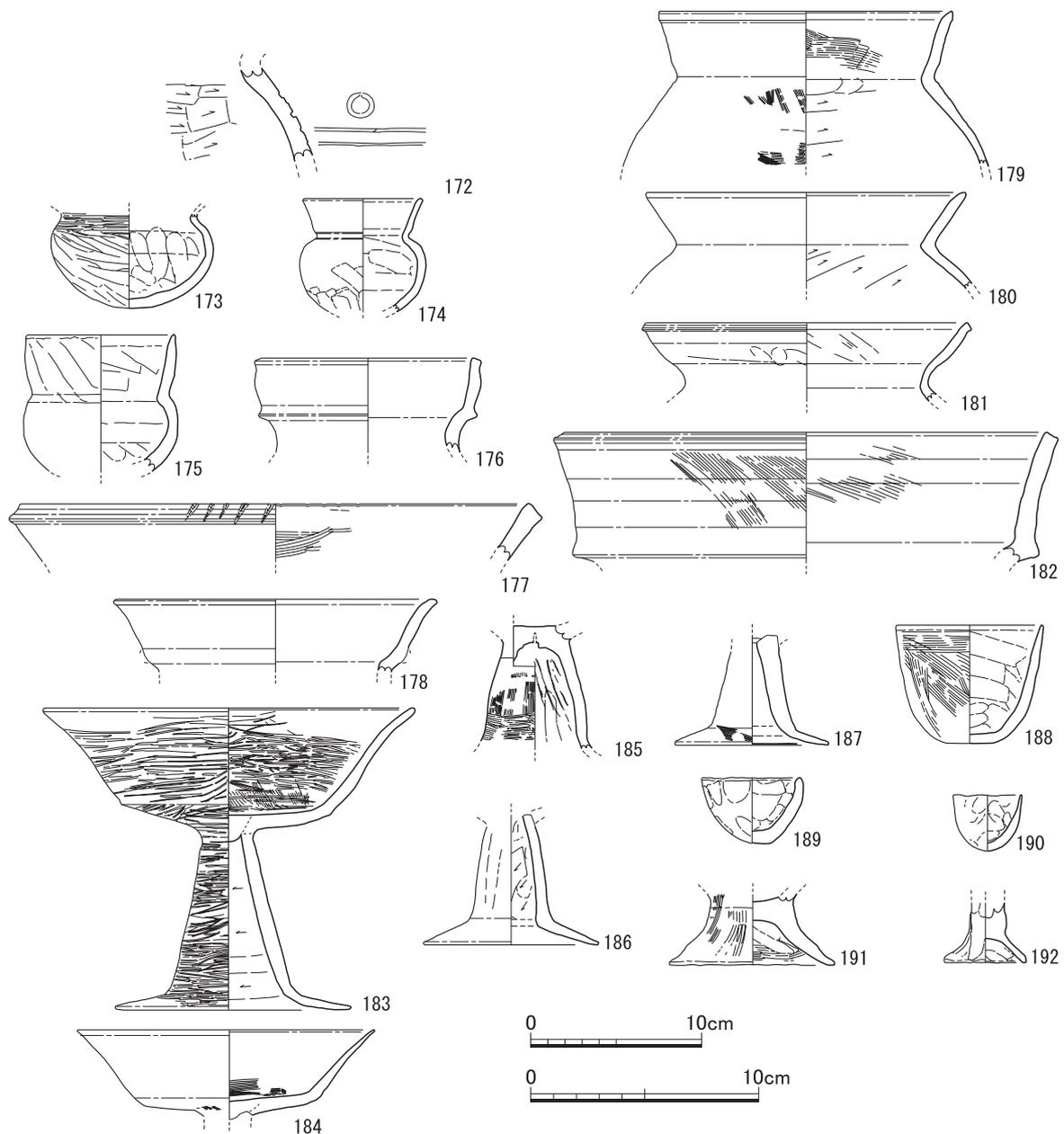
出土遺物 (第23・71図、図版28)

土師器 (211~244) 211~224は壺。211は壺口縁部。内外面ともヘラミガキ。端部に刻みを施す。212は二重口縁壺か。頸部が直立し口縁部が屈折して広がる。頸部外面にハケ状工具による有軸羽



第17図 SC09出土遺物実測図 (168・169は1/2、140・162・171は3/1、その他は1/4)

状文を施す。213は頸部が直立して細く、胴部は肩が張り大きく膨らむ。頸部は内外面ともナデ、胴部は外面がハケ、内面がケズリ。214～224は小型丸底壺。214・216は口縁部が直立して長く伸び、胴部は肩が張り無花果形を呈す。胴部外面はハケ後ナデ、内面は214がケズリ、216がナデ。217は口縁部が直立して頸部は太い。内外面ともヨコナデ。215・218は胴部が扁平。215は外面中位以下がヘラケズリ、218は外面中位以下がハケ。220・221は口縁部が直立ぎみに短く伸び、頸部が太い。220は外面ハケ、221は外面ヨコナデ。222～224は口縁部が内湾しながら短く伸びる。223は口径が胴部径を上回る。222・224は外面ハケ後ヨコナデ、223は外面ヨコナデ。225～227は甕。225は口縁部がゆるやかに外反する。口縁部外面はハケ、内面はナデ。胴部外面はハケで、中位は横方向ハケ。226は口縁部が直線的に大きく開き、胴部は球胴。口縁部は内外面ともハケ後ヨコナデ。胴部外面はハケ後ナデ。内面ケズリ。227は口縁部が直立ぎみに短く伸び端部丸い。胴部球胴を呈す。口縁



第18図 S C09周边上層包含層出土遺物実測図 (172は1/3、その他は1/4)

部・頸部はヨコナデ。胴部外面はハケ、内面はケズリ。228～236は高杯。228は杯下半が短く上半が外反しながら立ち上がり深い。内外面ともハケ後ヨコナデ。229～231は杯下半が水平ぎみに開き上半がゆるやかに外反して開く。ハケ後ヨコナデ。232は杯下半がやや丸みをもって開き上半が直線的に開く。ハケ後ヨコナデ。233は脚裾部が内面に稜をもって折れる。脚柱部中位がわずかに膨らむ。内面はケズリ。234・235は脚裾部が折れてほぼ水平に開く。内外面ともナデ。237は鉢。口縁部が短く外反し、平底。238は小型器台。外面は縦方向ヘラミガキ、受部内面横方向ヘラミガキ。脚部内面ナデ。色調はにぶい橙色。239・244は器台か。239は皿状の杯部で口縁部直下に穿孔あり。ハケ後ナデ、内面の一部ヘラミガキか。240～243はミニチュア土器。240～242は鉢形。243は壺形。

**石器 (245)** 石鏃。凹基三角形。黒曜石製。

**土製品 (246・840)** 246・840は土製勾玉。ナデ仕上げ。840は長さ4.25cm、幅3.1cm、厚み1.7cm。穿孔あり。

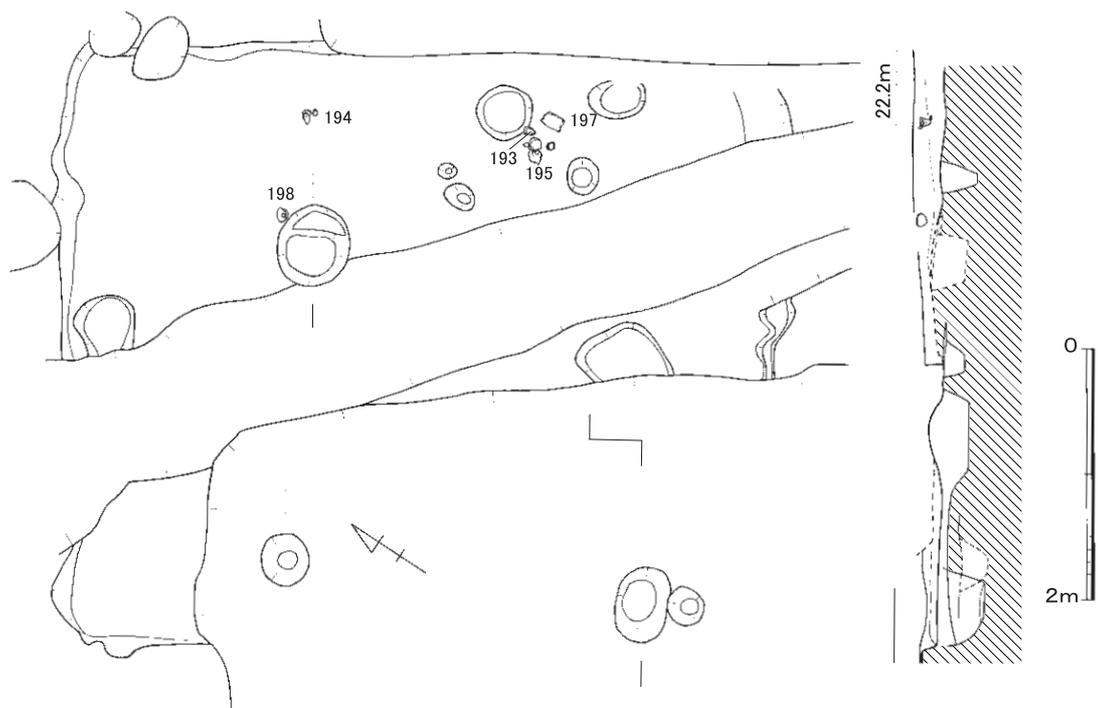
**S C 12 (第20図)**

西区北コーナーに位置し、北壁をS C 09・S X 29に切られ、東側を試掘トレンチにより大きく壊される。平面方形と推定され、南北4.0m、東西残存長2.9mを測る。支柱穴は、直径30～45cmの円形で、深さ35cmを測る。

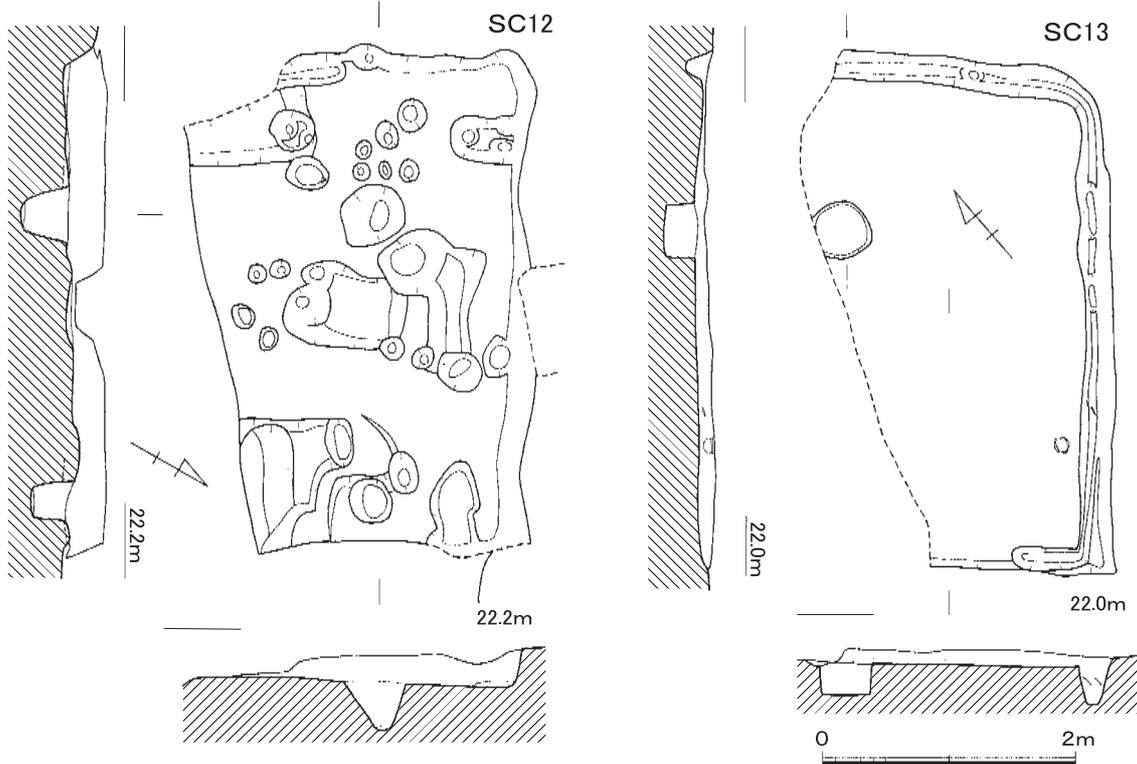
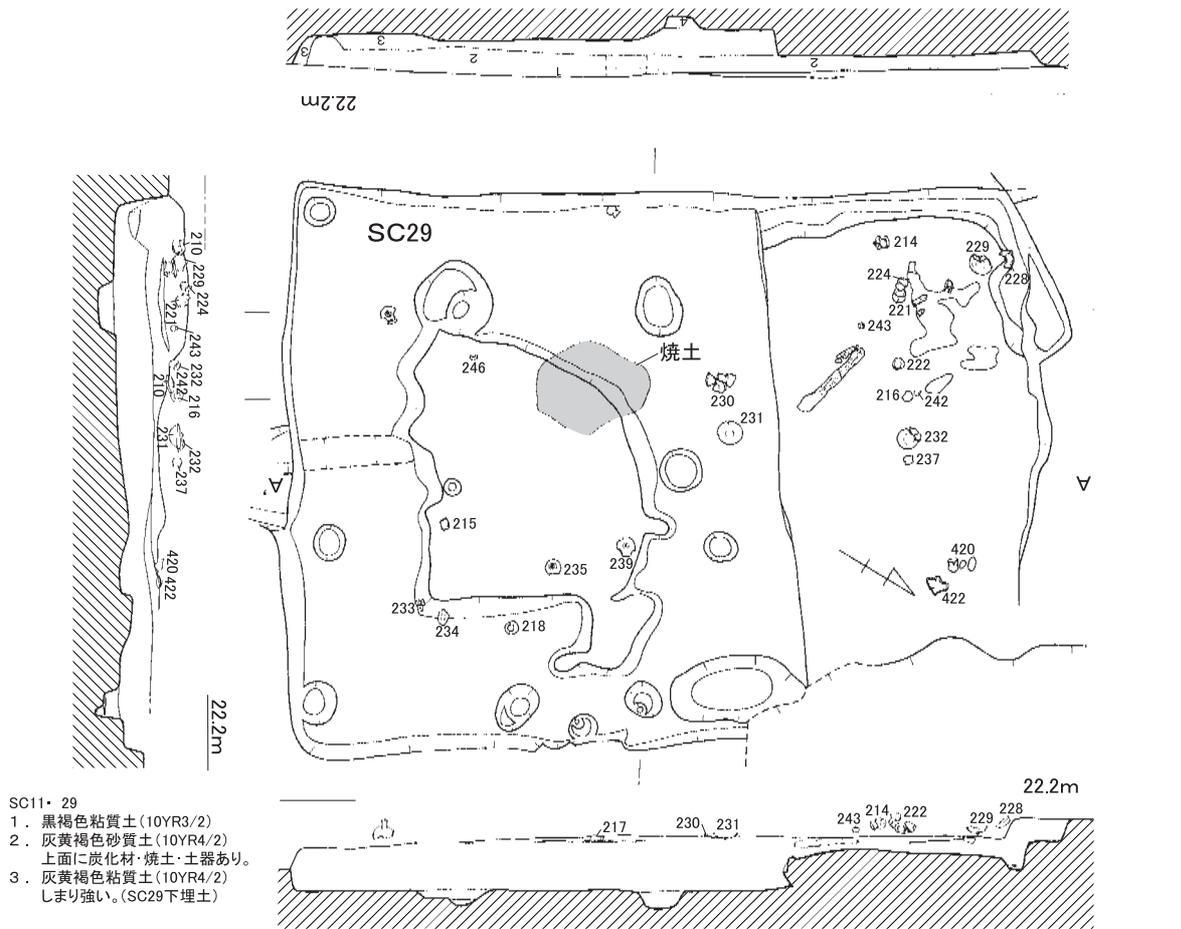
**出土遺物 (第22図、図版29)**

**須恵器 (200・201)** 200は杯H蓋。口径12.8cm。口縁部体部境にわずかに沈線あり。口縁端部に使用による欠けあり。201は杯H身。口径13.2cm。受部は内傾して短く立ち上がり、端部わずかに上方へ折れる。

**土師器 (202)** 甕。口縁部は直立ぎみで胴部は張らない。口縁部は内外面ともヨコナデ。胴部は



第19図 S C 10実測図 (1/60)



第20図 SC11・12・13・29実測図 (1/60)

外面がハケ、内面がナデ。

**石器 (203)** 砥石。長さ17.2cm、幅4.6cm、厚み3.7cm。砥面は4面である。流紋岩か。

**S C 13** (第20図、図版8・9)

西区東側に位置し、北西側をSD15に切られ、攪乱に大きく壊される。平面方形で南北4.0m、東西残存長2.5mを測る。床面までの深さは最大で10cm。柱穴は直径約40cmの円形で深さ25cm。壁面に幅20cm、深さ10～30cmの壁溝が巡る。埋土は灰黄褐色土。

**出土遺物** (第22・71図、図版29)

**土師器 (204・205)** 204は小型丸底鉢。口縁部は内湾して短く立ち上がり、口径が胴部径より小さい。口縁部は内外面ともヨコナデ。胴部外面上位はハケ後細密ヘラミガキ、中位以下はケズリ後ナデ後細密ヘラミガキ。胴部上位内面はヨコナデ後一部ヘラミガキ、下位はハケ後ナデ。205は甕。口縁部はゆるやかに内湾し球胴となる。口縁部・頸部は丁寧なヨコナデ。肩部外面はヨコハケ。

**鉄器 (814)** 不明鉄製品。板状で断面L字状に一辺を折る。残存長4.3cm、厚み0.3cm。

**S C 14** (第21図、図版9)

西区東側に位置し、北壁側をSD15・SX30に切られる。平面略方形で東西3.4m、東西残存長3.8m。床面までの深さ最大25cm。北側端の床面で炉跡を確認。ややくぼみ0.3m。

**出土遺物** (第22・24図、図版29・38)

**土師器 (206～210)** 206は二重口縁壺。山陰系。口縁部外面にハケ状工具角による刺突。207・208は甕。口縁部がゆるやかに外反する。口縁部は内外面ともハケ後ナデ。208は口縁部がわずかに外反しながら大きく開き端部を面取り。胴部は張らない。口縁部胴部は内外面ともハケ。209・210は鉢。209は浅鉢で、口縁部ヨコナデ、体部ナデ。210は口縁部が内湾しながら立ち上がり内傾する。口縁端部はヨコナデ後刻みを施す。体部は外面がタタキ、内面はハケ。

**弥生土器 (247)** 大形甕。口縁部直線的に開き胴部砲弾型を呈す。胴部下位に断面コ字形の凸帯が1条巡る。胴部は内外面ともハケで下位外面はハケ後ケズリのナデ。

**S C 15** (第21図、図版10)

東区北側の調査区東壁際で一部が検出され、大半は調査区外へ延びる。平面方形。現状で、南北3.7m、東西2.3m。床面までの深さ23cm。床面直上で須恵器・鉄器が出土。

**出土遺物** (第24図、図版29・38)

**須恵器 (248～252)** 248・249は杯B身。底部から体部が強く折れて直線的に外方へ開く。248は口径13.8cm。249は口径16.7cm。250は皿。口径24.6cm。251は高杯。脚裾部は大きく広がり端部が下方へ短く折れる。252は短頸壺。口径18.8cm。

**石器 (253)** 石鏃。凹基三角形。黒曜石製。

**瓦 (254)** 平瓦。外面斜格子タタキ、内面布目残る。

**鉄器 (815)** 刀子。刃部。残存長6.0cm、幅1.4cm。刃背厚0.4cm。

**S C 16** (第21図、図版10)

東区北側の調査区東壁際で一部が検出され、大半は調査区外へ延びる。平面方形。南北3.3m。床面までの深さ32cm。

出土遺物 (第24・71図、図版30・38)

須恵器 (255~257) 255は杯B身。口径13.4cm。底部から体部が折れて外反ぎみに立ち上がる。

256は杯B蓋。口径24.4cm。端部が短く折れる。257は皿。口径19.2cm。口縁部が短く外方へ開く。

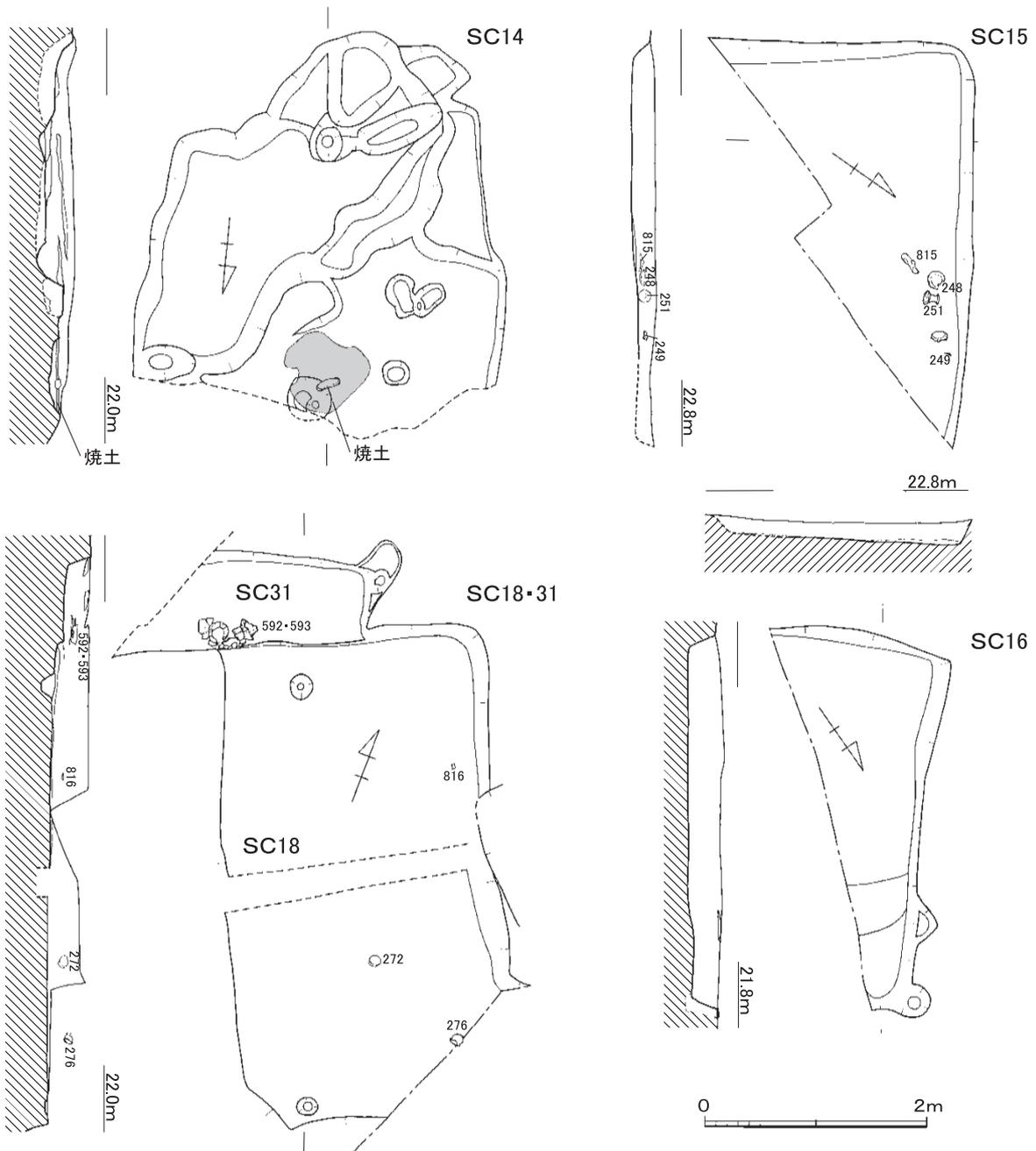
土師器 (258) 甕。口縁部は内外面ともヨコナデ。胴部は外面がヨコナデ、内面がケズリ後ナデ。

土製品 (259) 不明土製品。断面楕円形の棒状の体部両側面にヒレ状のものが付く。ナデ仕上げ。

鉄器 (810) 紡錘車。円盤の直径4.1cm。棒の残存長2.0cm、直径0.5cm。

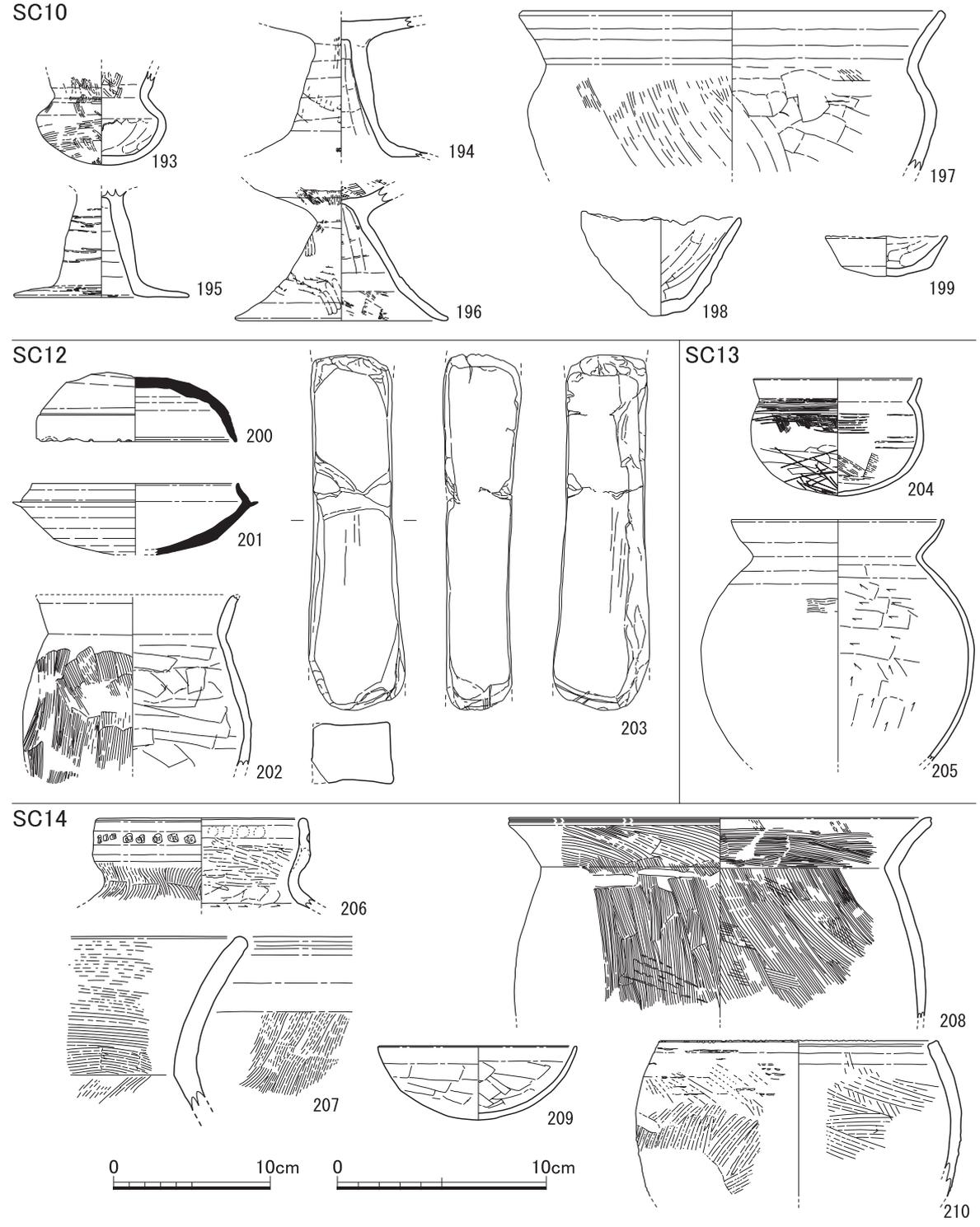
S C 17 (第25図、図版11)

東区北側調査区東壁付近に位置する。北東隅をS C 15に切られ西壁中央を攪乱により壊される。

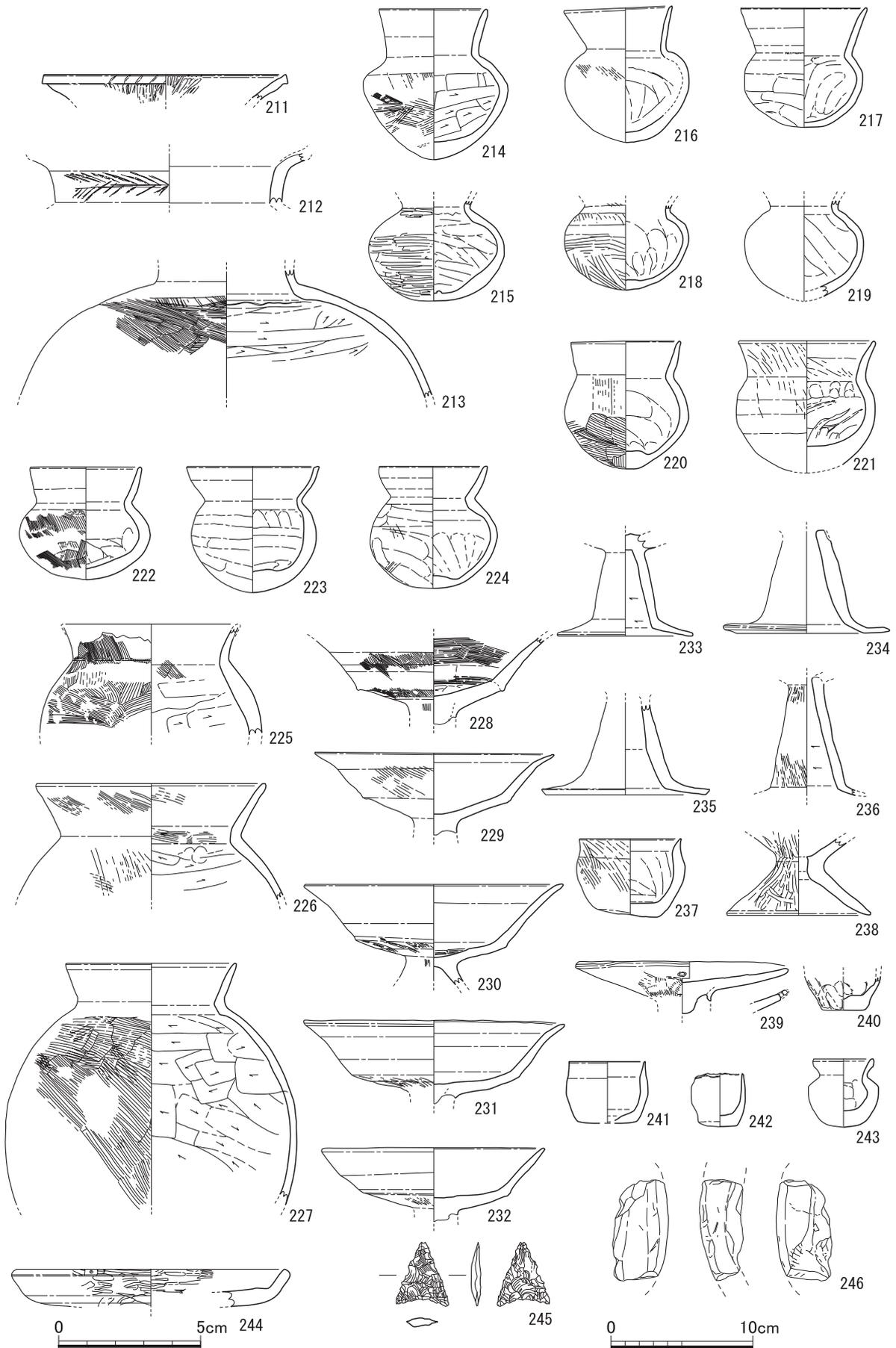


第21図 S C 14・15・16・18・31実測図 (1/60)

南東隅付近は、SC19と切り合いプランが明確でない。平面方形で、南北5.6m、東西5.6mを測る。床面までの深さ25cm。主柱穴は不明だが、東側で直径40～65cm、深さ40cm前後の柱穴を3基検出した。南壁の西寄りでは灰白色粘土と焼土が検出された。粘土は南壁際に位置し、右側は残存長95cm、残存幅50cm、高さ5cmを測る。左側は平面楕円形を呈し、長さ45cm、幅40cm、高さ50cmを測る。焼土は粘土の手前に平面C字形に広がり焼けは弱い。左側粘土の南側には壺が置かれていた。さらに南壁から約2m離れて灰白色粘土と焼土が検出された。粘土は30cm×30cm、高さ5cmを測る。焼土

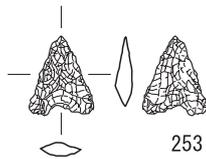


第22図 SC10、12、13、14出土遺物実測図 (203・207は1/3、その他は1/4)

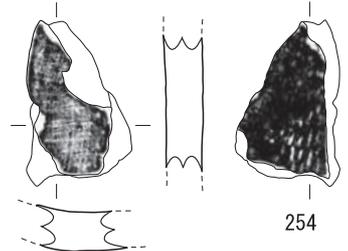
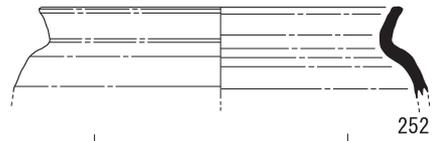
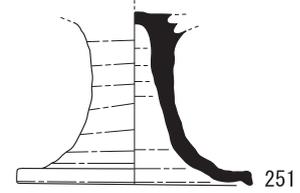
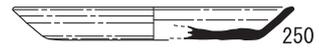


第23図 SC11出土遺物実測図 (245・246は1/2、その他は1/4)

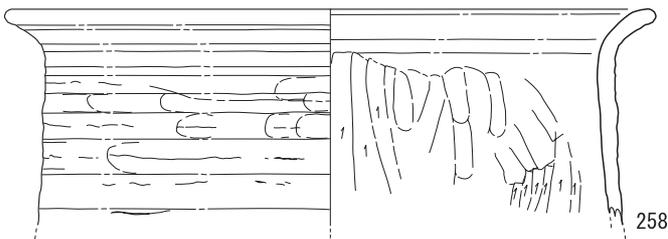
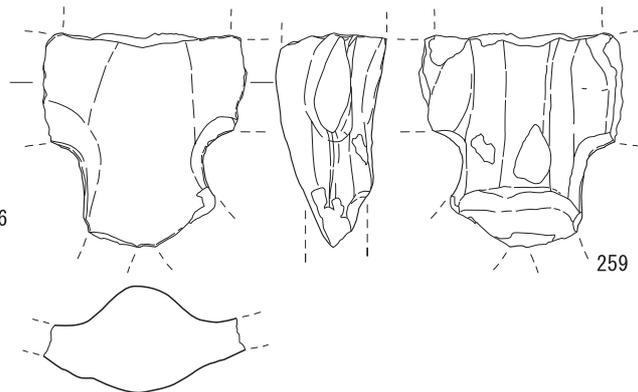
SC14



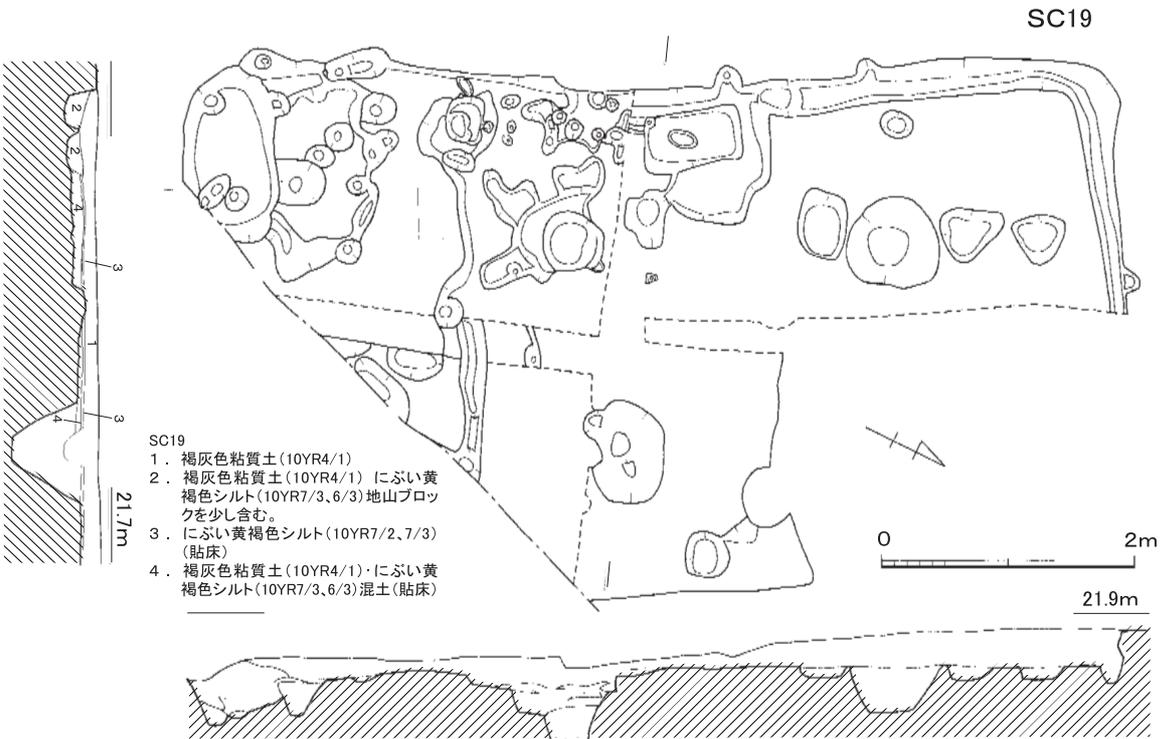
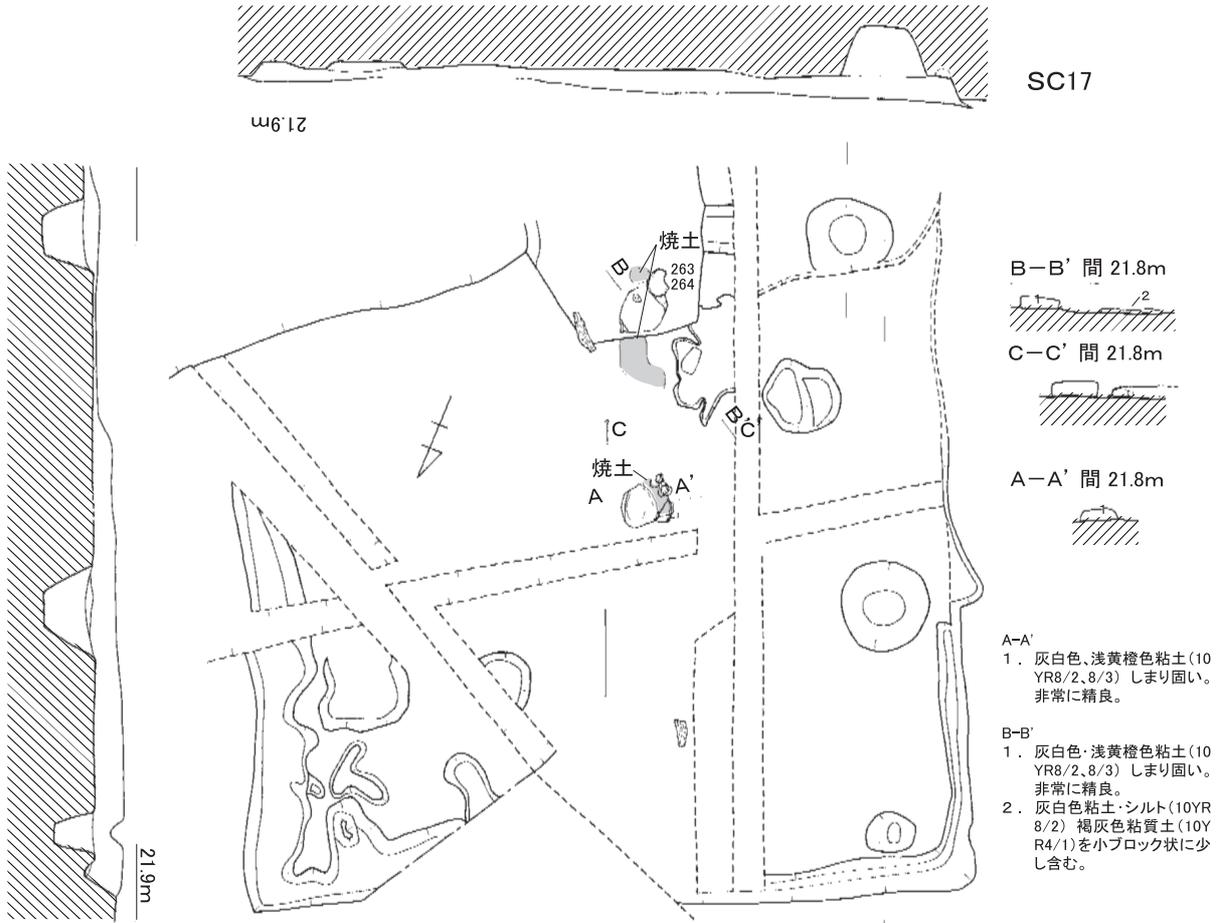
SC15



SC16



第24図 SC14、15、16出土遺物実測図 (253・259は1/2、254は1/3、その他は1/4)



第25図 SC17・19実測図 (1/60)

は粘土の西側に接して広がり、45cm×10cmを測る。焼土上に土師器壺・高杯が置かれていた。これらはカマドの痕跡と考えられ、カマド使用後の祭祀が行なわれたものと思われる。

#### 出土遺物（第27図、図版28）

**土師器（260～268）** 261は小型丸底壺。口縁部は直立ぎみで頸部が太い。口縁部は内外面ともハケ後ナデ。胴部は外面ナデ、内面上半はナデ、下半はケズリ。260・262～264は甕。262は口縁部が直線的に開き端部面取り。胴部は球胴を呈す。口縁部は内外面ともハケ後ヨコナデ。胴部は外面がハケ、内面がケズリ。263・264は口縁部が直立ぎみで、263は端部が内側にわずかに延びる。264は端部を丸く収める。口縁部は内外面ともヨコナデ。胴部外面は263がナデ、264がケズリ。265は高杯。杯部下半は丸みをもってほぼ水平に広がり、上半は口縁部が外反する。脚部は裾部が折れて水平に開く。266は鉢。内外面ともナデ。口縁部は連続した指押さえにより波状を呈す。267・268はミニチュア土器。267は鉢。268は脚付鉢。

**土製品（269）** 土製紡錘車。直径3.4～3.7cm、最大厚1.1cm。

**石器（270）** 石鏃。凹基三角形。黒曜石製。

#### S C 18（第21図、図版10）

東区北側調査区東壁際に位置する。S C 17に南側1/2以上を切られ、S C 31を切る。平面方形と推定される。東西残存長4.5m、深さ30cm。支柱穴、炉跡は不明。出土遺物は土師器・鉄器が出土した。またS C 17東壁際の南側で管玉4本がまとまって出土した。

#### 出土遺物（第27・71・73図、図版30・38）

**土師器（271～276）** 271・272は小型丸底壺。口縁部は短く立ち上がる。272はわずかに内湾ぎみ。271はハケ後ナデ。272はハケ後ナデ、体部下半内面はケズリ。273・274は甕。273は口縁部が内湾しながら立ち上がり、胴部は肩が張る。胴部は外面がハケ、内面がナデ。274は口縁部がゆるやかに外反し、胴部は張らない。口縁部から胴部上半外面はナデ、胴部下半外面はタタキ。口縁部から頸部内面はナデ、胴部はケズリ。275は高杯。上下半境は稜をもち、上半は口縁部付近が外反する。杯部深い。276は脚付鉢か。口縁部は短く内湾して立ち上がる。口縁部・胴部は内外面ともハケ後ナデ。脚部はナデ

**鉄器（816）** 鉄鎌切先。刃部幅2.3cm、残存長5.3m、最大厚0.5cm。

**管玉（834～838）** 長さ1.54cm～2.3cm、直径0.47～0.5cm。孔径0.2～0.25cm。両端部および孔周辺を面取りする。研磨痕わずかに残る。色調は緑灰～暗緑灰色。石材は蛇紋岩か。

#### S C 19（第25図、図版10）

東区北側調査区東壁際に位置し、西側をS C 17、北側をS C 15に切られる。平面方形か。北西―南東約7.4m。土層観察からS C 17との切り合いが確認され、西壁から約5m東で東壁と壁溝が検出された。4本支柱と推定され、柱穴は直径60～70cmの平面楕円形、深さ45～50cm。壁際に幅約20cmの壁溝が巡る。床全面に黄橙色砂の貼床を施す。出土遺物は土師器がある。

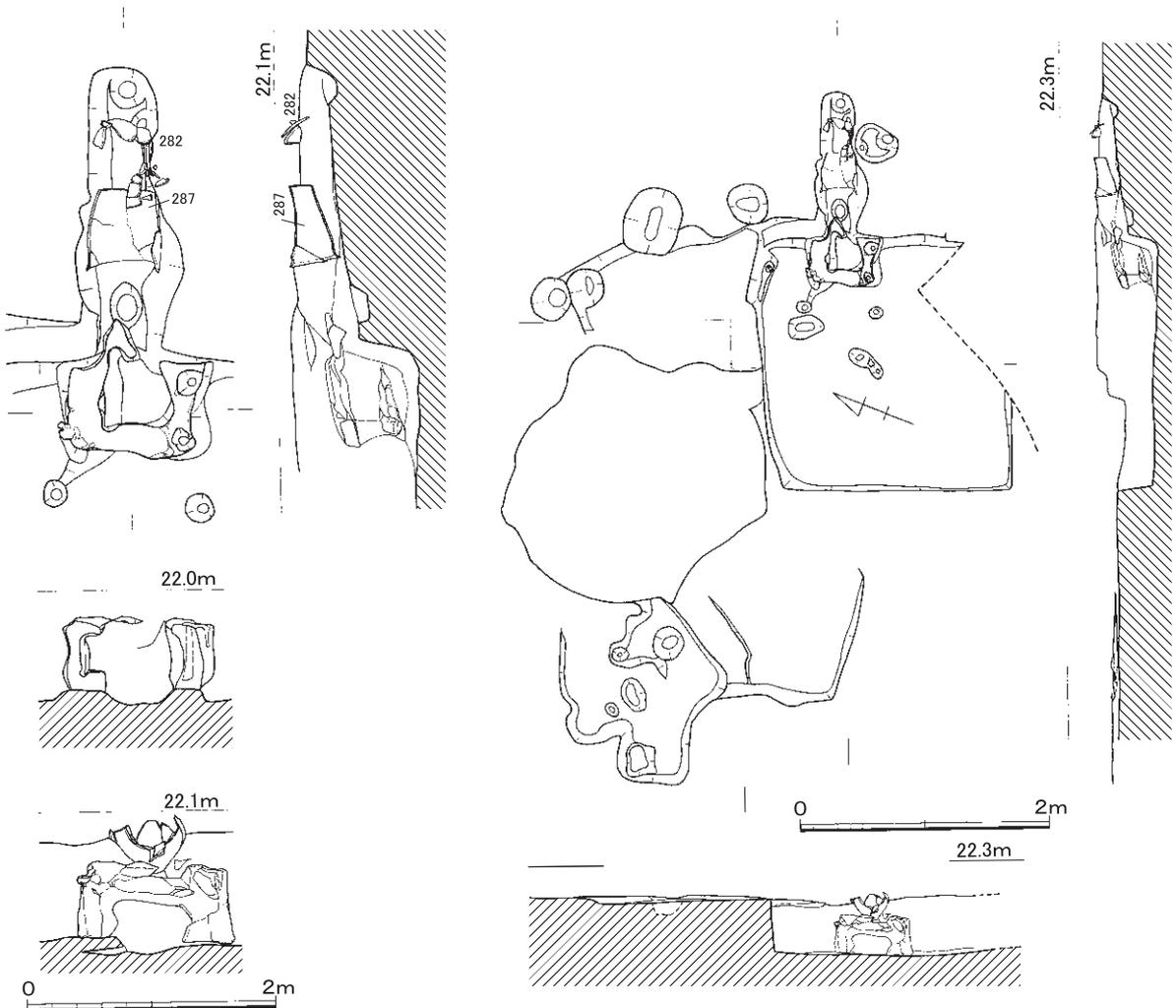
#### 出土遺物（第28図）

**土師器（277～279）** 277は鉢。底部凸レンズ状。内面上位ヘラミガキ。278・279は甕。278は口縁部はわずかに外反しながら直立ぎみに立ち上がる。口縁部は内外面ともヨコナデ。胴部は外面がハ

ケ、内面上位はハケ、中位はケズリ。279は口縁部が内湾しながら立ち上がる。器壁薄い。280は支脚か。外面ナデ。

**S C21** (第26図、図版12)

東区中央に位置し、北東角を攪乱に壊される。S C22・29を切る。平面方形で2.5m×2.0m、深さ30～45cm。北壁にカマド・煙道が検出され、柱穴は未検出。埋土は黒褐色粘質土。カマドは、北壁中央に付き完存していた。平面コの字形に粘質土を積んで構築し、幅125cm、奥行き75cm、高さ60cm。焚口は長方形を呈し、幅60cm、高さ40cm。掛け口は台形を呈し、幅40cm・60cm、奥行き50cm。左袖内壁裾は内側に10cm、高さ15cmで突出する。床面および内壁は強く被熱し橙褐色に変色する。煙道は、壁から約2m延び、幅は手前が90cm、奥が55cmを測る。深さは手前が40cm、奥が25cm。入り口側では、カマド本体天井部から煙道に向かって20cm構築土が延び、煙道床面から約10cm浮いてトンネル状となる。煙出し側は床面が一段下がる。煙道内には甌と甕が据えられており、煙突の土管として使用されたものと考えられる。カマド内には焼土・炭が厚く堆積していた。住居西側の周辺で須恵器が出土しており、S C21は堅穴の周囲がベット状遺構で住居の一部であった可能性も考えられる。



第26図 S C21およびカマド実測図 (1/30、1/60)

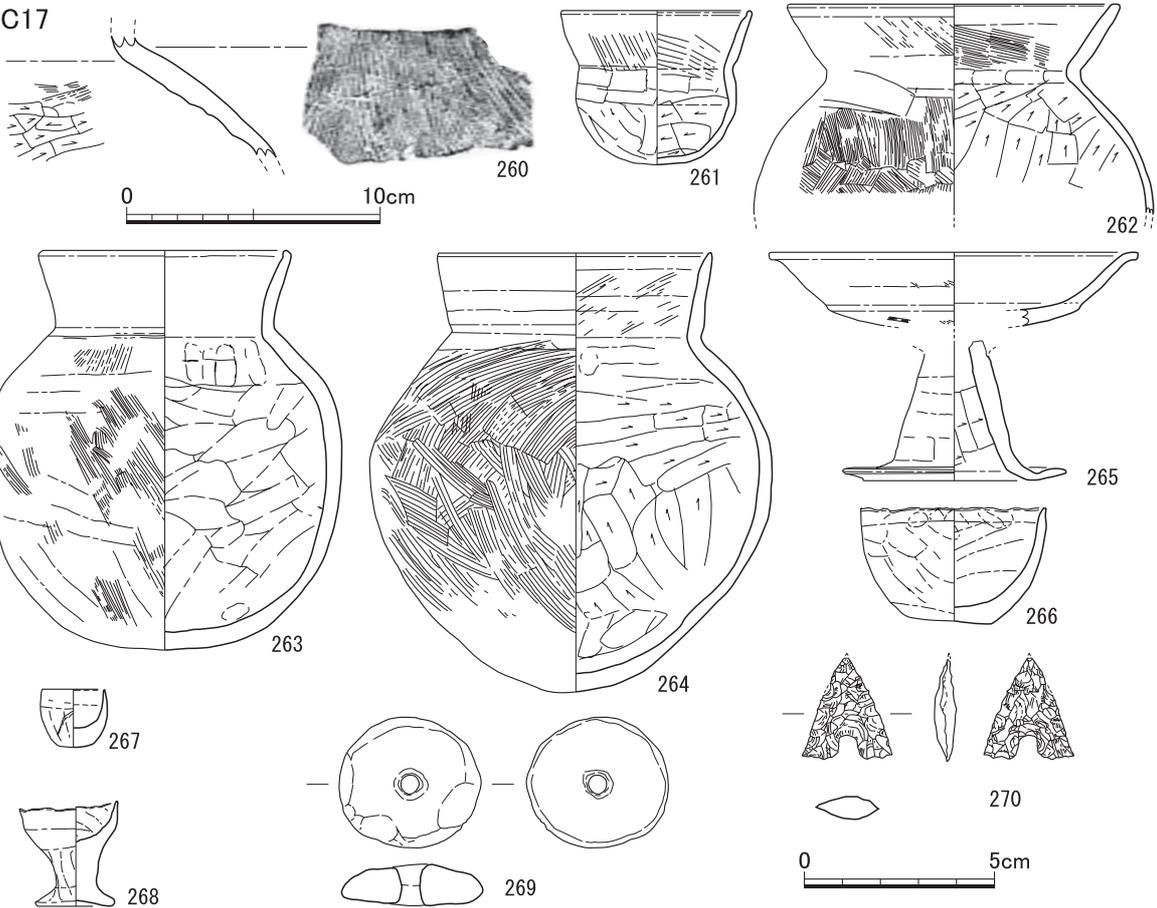
出土遺物 (第28図、図版31)

(1) 住居内

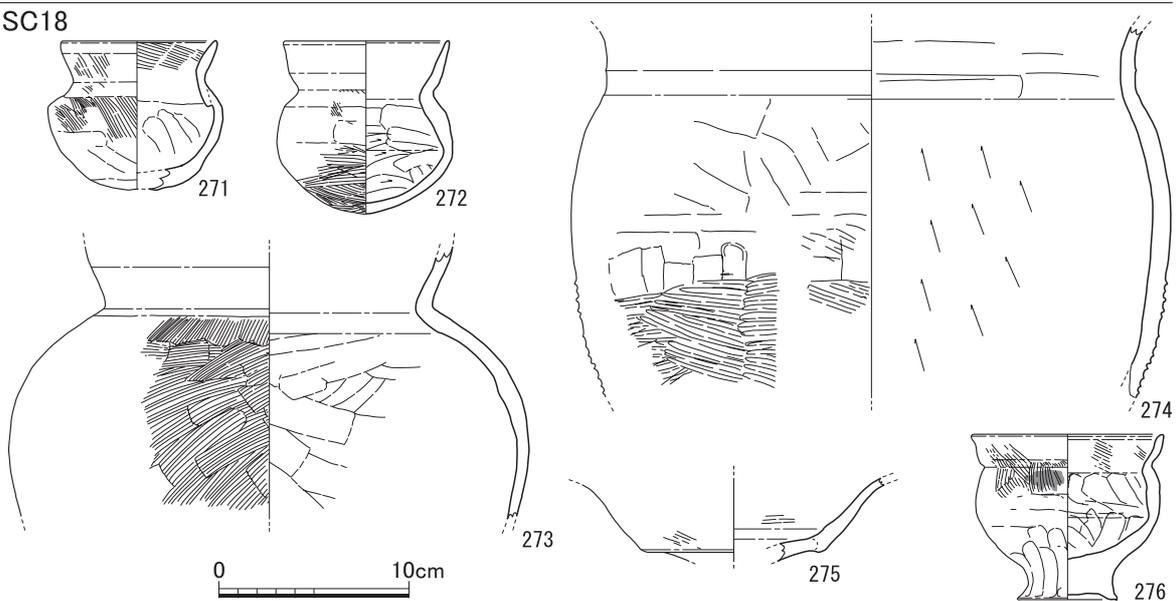
須恵器 (281~284) 281・282は杯B蓋。口径18cm、21.3cm。端部がわずかに下方へ折れる。天井部回転ヘラケズリ。283は杯B身。口径13.2cm。284は皿。口径20.3cm。

土師器 (285) 片口鉢である。内外面ナデ。

SC17



SC18



第27図 SC17・18出土遺物実測図 (269・270は1/2、260は1/3、その他は1/4)

**鉄器 (818)** 鉄鏃である。長五角形で片関と推定される。

## (2) カマド煙道内

**土師器 (286・287)** 286は甕である。外面全面ナデ、口縁部・底部内面ナデ、胴部内面ケズリ。287は甑である。口縁部はゆるく外反し、体部は緩やかに内湾して底部に至る。底部内面に棧の痕跡あり。体部中位に把手が2つ付く。

### S C 22

調査区中央に位置し、S C 21・29に北半を切られ、南側をS D 29に切られる。東壁は周辺の削平が激しく未検出。平面方形で、南北5.4m、深さ5cmを測る。北壁際に幅30cmの壁溝が巡る。主柱穴は2基確認され、直径40～50cmの平面楕円形で深さ30～50cm。炉跡は検出されなかった。

### 出土遺物 (第28図、図版31)

**土師器 (288～295)** 288～292は壺。288・289は複合口縁壺。288は受部がやや内傾し、わずかに内湾する。289は受部がほぼ直立し、端部は外傾する面をなす。口縁部外面はヘラ描き鋸歯文を施す。口縁部は内外面ともヨコナデ。頸部はハケ後ナデ。290は畿内系二重口縁壺。口縁屈曲部は断面三角形に垂下し、口縁部外面に円形浮文貼り付け後竹管刺突。291は壺胴部。肩部に櫛描き横位直線文後縦位の直線垂下文を施す。292は小型丸底壺。口縁部は大きく開き頸部太い。胴部は外面がハケ後ナデ、内面がケズリ。293は鉢。体部は内湾して立ち上がり口縁部が内傾する。端部面取り。体部外面はハケ後ナデ、内面はハケ。294・295は小型器台。294は脚部で内外面ともハケ後ナデ。295は受部で、外面はナデ後ヘラミガキ、内面はナデ。

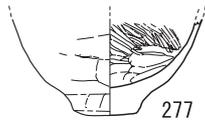
### S C 23 (第29図、図版13)

北区中央に位置し、東壁側を試掘トレンチ、攪乱に壊される。ほぼ重複して2棟切りあう。南北・西壁付近のテラス上面と土層2層上面が新しい住居の床面となる。上層住居は平面方形で、南北4.6m、東西5.0m、深さ15cm。2本主柱穴か。南壁にカマドが検出された。カマドは南壁の東寄りに付く。構築土である明黄褐色粘土のブロックが散乱し、粘土のほぼ中央に支脚と考えられる角礫が置かれる。右袖と思われる粘土は、現状で長さ90m、最大幅80cm。焼土は南壁から1.3mの位置で表土除去時に確認された。カマド右袖脇で一部構築土の下になって土師器小型丸底壺・高杯と砥石破片が出土した。砥石細片の一部は壺の中に納められていた。カマド廃棄に伴う祭祀行為であると考えられる。下層住居は、平面方形で南北4.4m、深さ30cm。2本主柱穴か。炉跡は検出されなかった。出土遺物は土師器の他、縄文土器が混ざる。

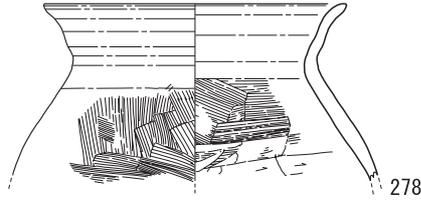
### 出土遺物 (第30図、図版31)

**土師器 (296～317)** 296～300・307は壺。296は壺底部。下胴部外面はハケ後ナデ、内面はハケ。底部外面はケズリ、内面はナデ。297は直口壺。297は口縁部が直線的に外方へ延び、口縁部は内外面ともヨコナデ。頸部外面はハケ後ナデ、内面はナデ。胴部外面はハケ、内面はヘラケズリ。298～300は小型丸底壺。298は口縁部が外方へ延び、胴部上半外面はヘラミガキ。299は口縁部が短く延び、胴部はやや下膨れ。胴部外面はハケ、内面はヘラケズリ。300は口縁部が短く直立ぎみに延び、内外面ともナデ。307は二重口縁壺。山陰系。口縁部は内外面ともハケ後ヨコナデ。301～307は甕。301は口縁部が短く外反し、胴部は張らない。胴部外面はタタキ、内面はハケ。302・303は

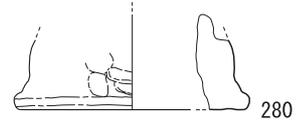
SC19



277



278

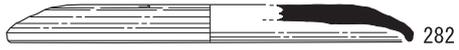


280

SC21



281



282



283



284



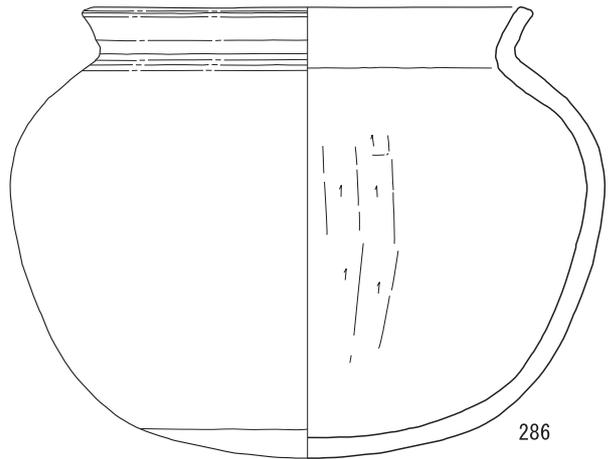
285



0

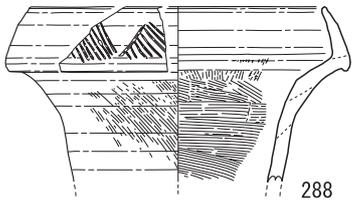
10cm

SC21かまど

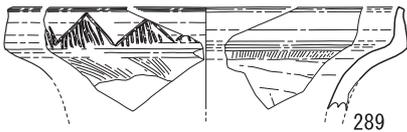


286

SC22



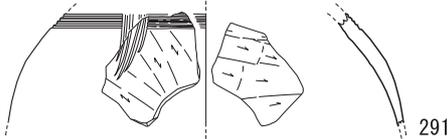
288



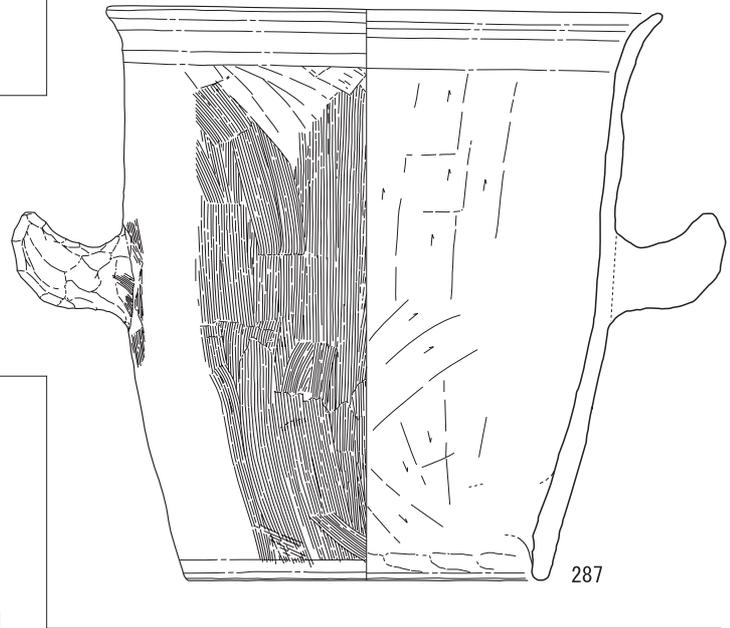
289



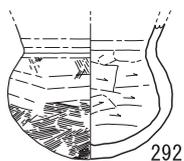
290



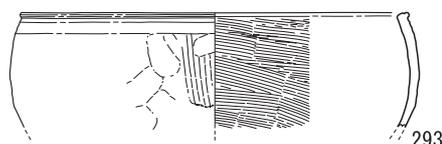
291



287



292



293



294



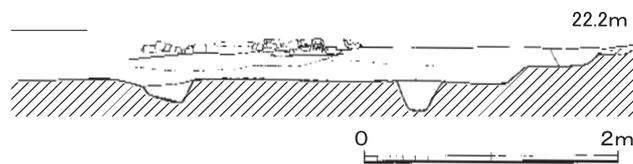
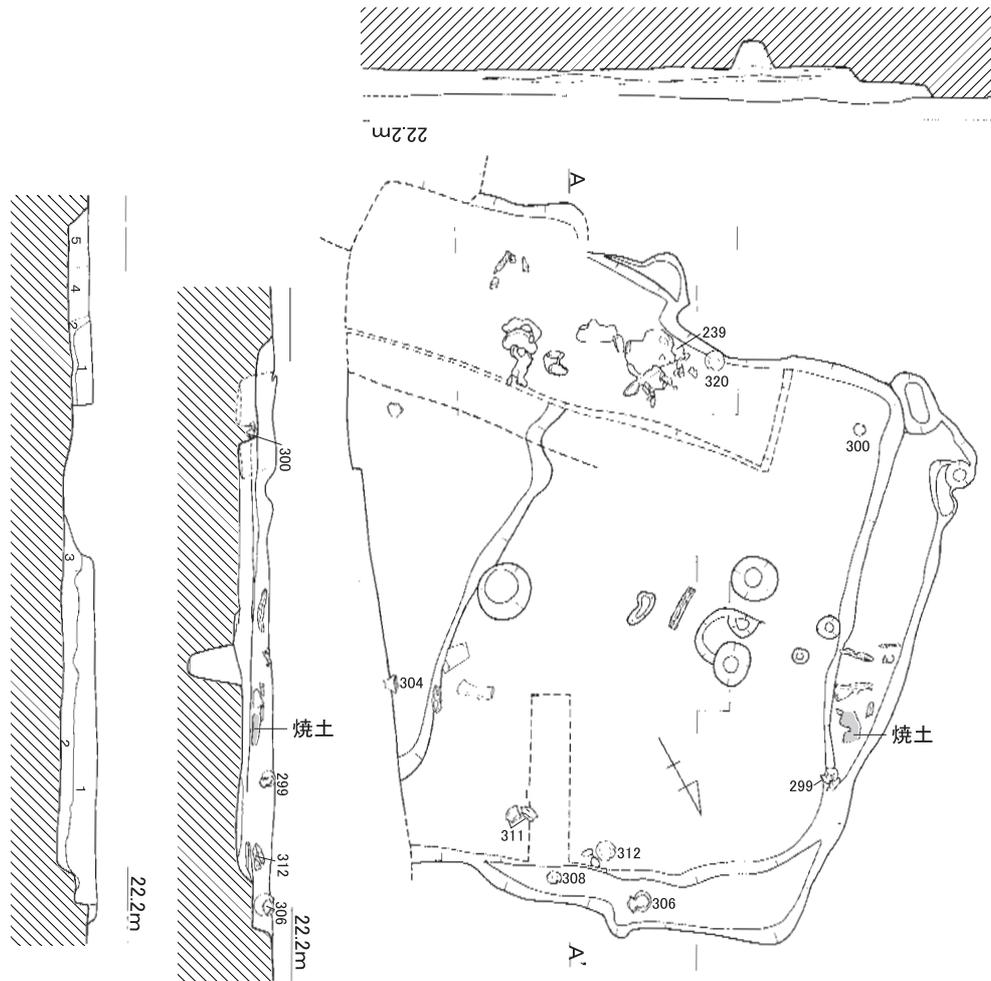
295



0

10cm

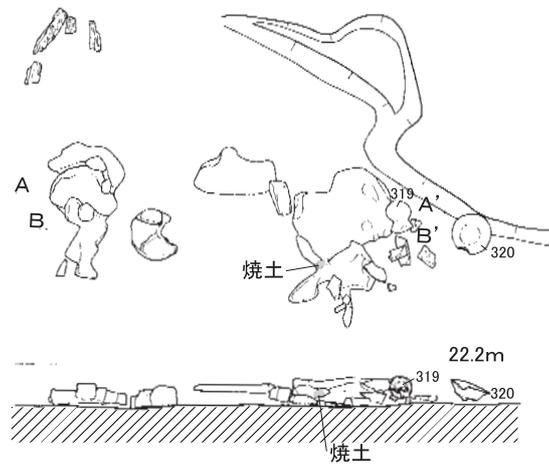
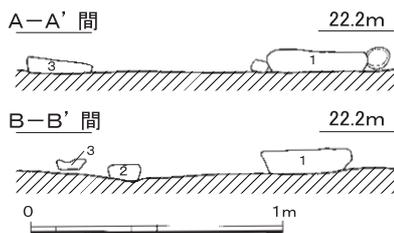
第28図 SC19・21・22出土遺物実測図 (285・295は1/3、その他は1/4)



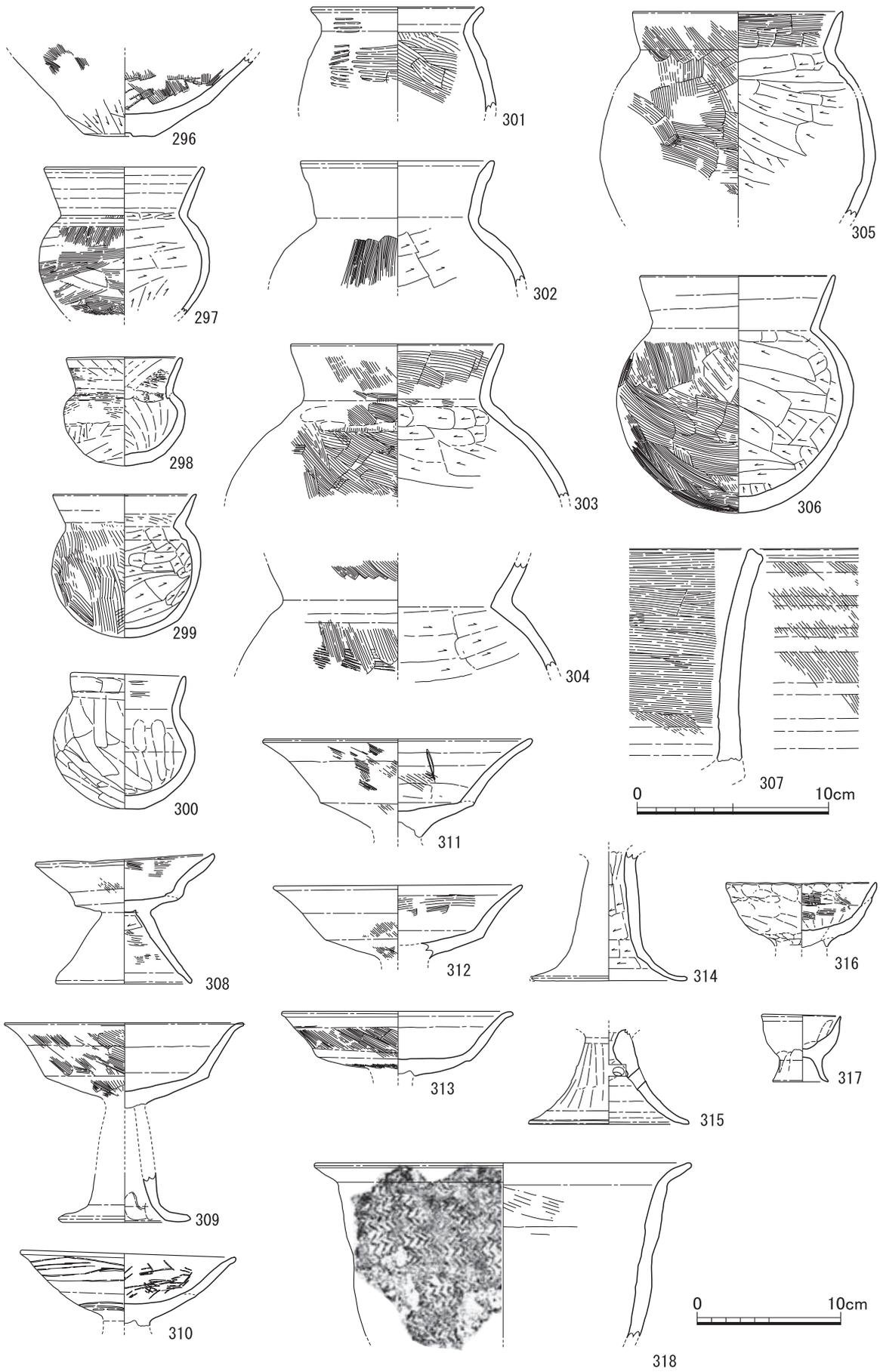
1. 褐灰色粘質土(10YR4/1) 炭化物粒を多く含む。にぶい黄橙色砂細粒～中粒(10YR6/3,7/3)をブロック状に含む。下層はラミナ状。
2. 灰黄褐色砂質土(10YR5/2,5/3)
3. 1層・2層混土
4. 褐灰色粘質土(10YR4/1) 炭化物粒を少し含む。粘土塊を含む。
5. 褐灰色粘質土(10YR4/2)

カマド

1. にぶい黄橙色～明黄褐色(10YR7/4～7/6) 粘土しまり固い。非常に精良。カマド構築土(袖部)
2. にぶい黄橙色(10YR7/4) しまり固い。ややシルト質。カマド構築土の崩落土。
3. 1層に同じ。



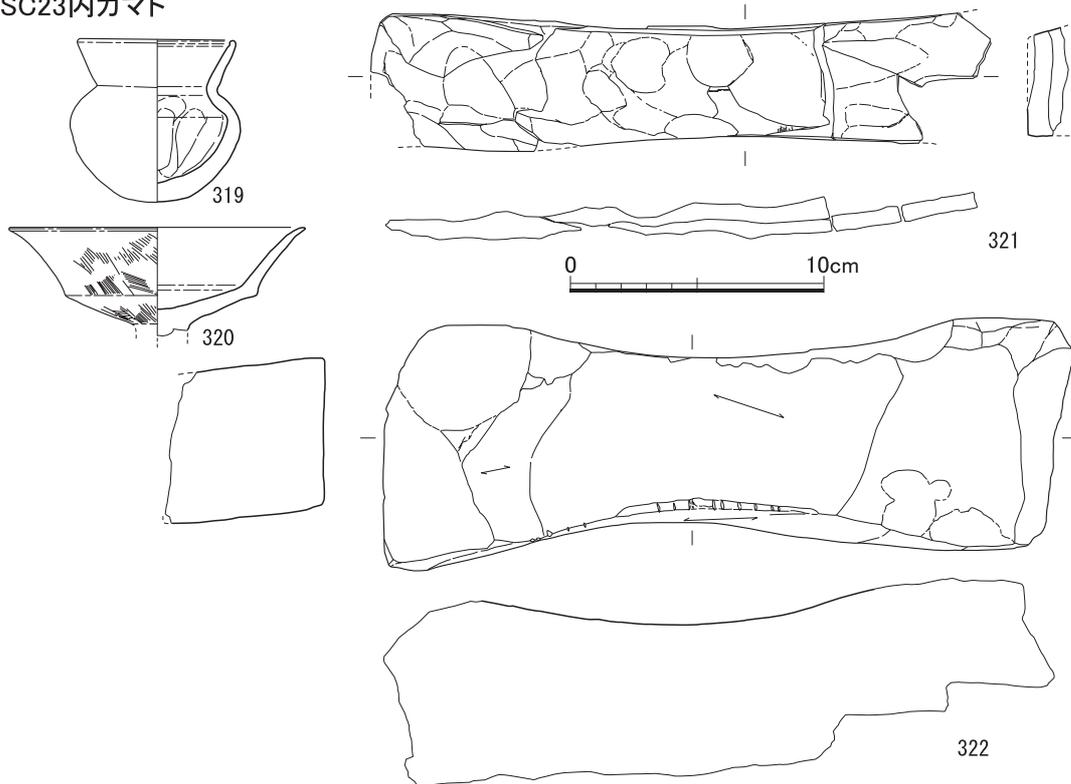
第29図 SC23およびカマド実測図 (1/30, 1/60)



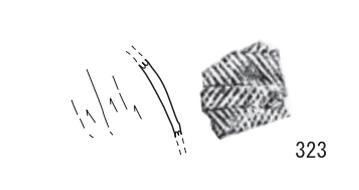
第30図 S C23出土遺物実測図(307は1/3、その他は1/4)

口縁部が直立ぎみに延び、胴部は肩がやや張る。302は口縁部・頸部が内外面ともヨコナデ。303は口縁部が内外面ともハケ後ナデ。胴部内面は粗いヘラケズリ。304は口縁部がわずかに内湾しながら外方へ延びる。頸部外面は横方向ハケ後ヨコナデ、胴部外面は一部タタキ後ハケ。胴部内面は粗いヘラケズリ。305は口縁部が直線的に立ち上がり、胴部はなで肩。口縁部は内外面ともハケ。胴部外面はハケ、内面は粗いヘラケズリ。306は口縁部が直立ぎみで、胴部は球胴。口縁部・頸部は内外面ともヨコナデ。胴部外面はハケ、内面は粗いヘラケズリ。308～315は高杯。308は杯部上半が一段屈曲して外方へ開く。脚部は直線的に開く。310は杯部が湾曲しながら立ち上がり口縁部が

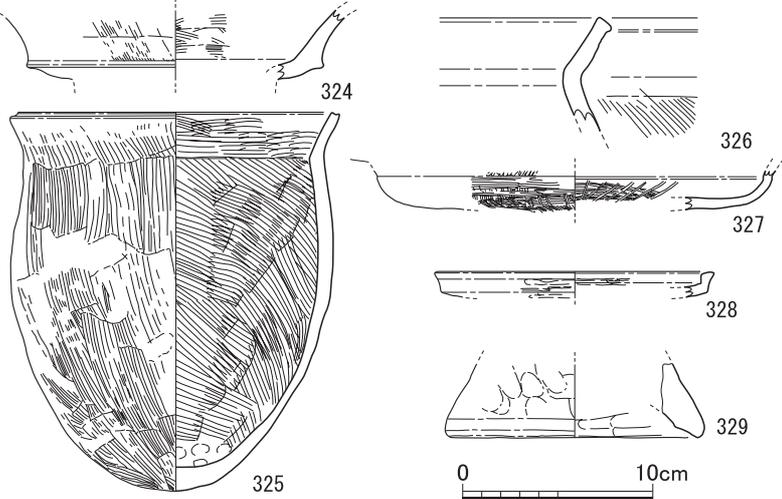
SC23内カマド



SC24



SC25



第31図 SC23内カマド、SC24・25出土遺物実測図 (321・322・323・326は1/3、その他は1/4)

わずかに外反する。309・312・313は杯部下半が水平ぎみに開き、上半が外方へ開き口縁部がわずかに外反する。311は杯部下半が短く開き、上半がゆるやかに外反する。杯部深め。314は脚柱部から裾部がゆるやかに開く。315は裾に向かってゆるやかに開く。穿孔あり。316は脚付鉢か。碗形で内外面とも指押さえが残り凹凸あり。317はミニチュア脚付鉢。

**縄文土器 (318)** 318は押型文土器。粗大な山形押型文を縦位に施す。ヤトコロ式に相当しよう。

**カマド出土 (第31図)**

**土師器 (319・320)** 319は小型丸底壺。口縁部は直線的に開き端部がわずかに内折する。胴部は腰高で無花果形。内外面ともナデ。

**石器 (321・322)** 321・322は砥石。321は破片が6点接合して復元された。残存長24.5cm、残存幅5.5cm。粘板岩製か。322は長さ27.25cm、幅10.1cm、高さ8.2cm。砂岩製。

### S C 24

東区中央に位置し、北側をS C 23、南側をS C 28、東側をS C 23に切られる。西側を攪乱に壊される。全体的に削平を受け、残りが非常に悪い。平面形・規模不明。

**出土遺物 (第31・71図)**

**土師器 (323)** 甕で外面横位羽状タタキ、内面ケズリ。器壁非常に薄い。庄内系。

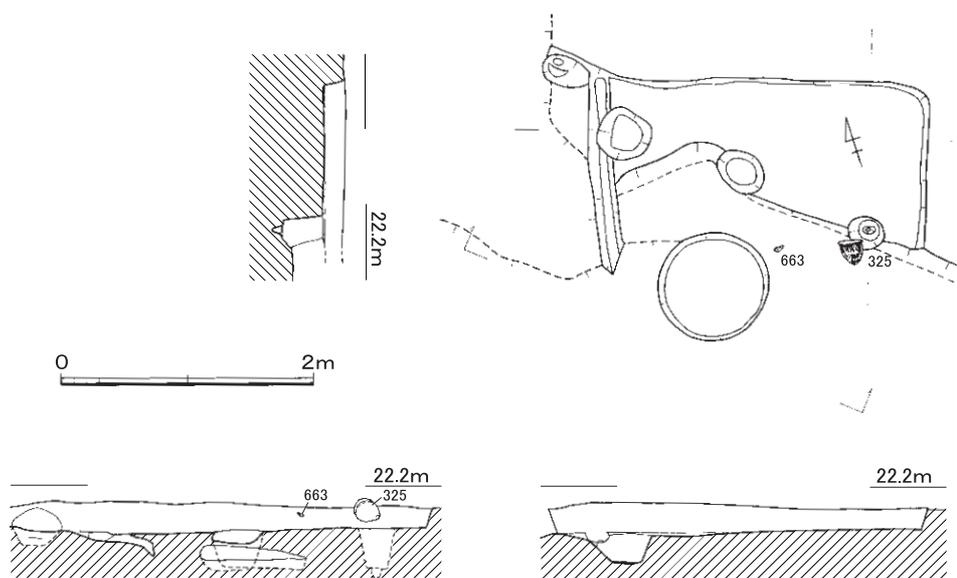
**鉄器 (819)** 鉄鏃茎部か。残存長4.7cm、幅1.3cm、厚み0.4～0.7cm。

### S C 25 (第32図、図版14・15)

東区南側に位置し、西側をS C 28に切られ、南側の大半を攪乱に壊される。平面方形と推定される。現状で3.0m×1.5m、深さ15～20cm。土層観察から床面には約5cmの厚みで貼床されていた可能性が高い。東壁寄りの推定貼床上面から青銅製鋤先が出土した。この他に土師器が出土した。

**出土遺物 (第31・72図、図版31・38)**

**土師器 (324～329)** 324は二重口縁壺。口縁部は屈曲して外反しながら大きく開く。325・326は甕。325は口縁部が直立ぎみに短く延び端部は面取り。胴部は砲弾形で底部丸底。口縁部は内外面



第32図 S C 25実測図 (1/60)

ともハケ後ナデ。胴部内外面ともハケ。底部内面指押さえ後ナデ。327は高杯か。内外面ともハケ後まばらなヘラミガキ。328は器台。受部は端部が短く上方へ折れる。内外面ともヘラミガキ。329は器台脚部。

**青銅器 (832)** 青銅製鋤先。約1/2が残る。袋部基部は断面U字形を呈し、刃部は丸みを持ちU字形となる。残存長5.75cm。

#### S C 26・27 (第33図、図版14・15)

東区南側に位置し、北側、南西角を攪乱に壊される。2棟重複しており、前後関係はS C 26→S C 27。検出面直下で焼土と須恵器が出土したが、遺構の明確なプランは確認できなかった。奈良時代の何らかの遺構が存在していた可能性はある。S C 26は、平面方形で、東西5.6m、深さ20cm。西壁際に壁溝が巡る。床面で支柱穴2本と炉跡が検出された。柱穴は直径約60cmの平面楕円形で深さ10～35cmを測る。炉跡は南壁から1mに位置する偏在炉で、70×40cmの楕円形を呈す。出土遺物は土師器の他、弥生土器が混じる。S C 27は南壁周辺のみ検出。平面方形と推定される。南壁付近テラス上面と土層3層上面が床面となる。深さ10cm。支柱穴は2本検出され、直径30～60cmの平面円形・楕円形で深さ15～35cm。炉跡は南壁から1.4mに位置する偏在炉で、40×30cmの楕円形を呈する。焼けは弱い。南側の土坑を中心に床面からやや浮いた位置で土師器がまとまって出土した。住居廃棄に伴う祭祀と考えられる。出土遺物は土師器・鉄器の他、須恵器が混じる。特に、祭祀に伴う土師器と共に朝鮮半島系軟質土器が出土し注目される。

#### 出土遺物

##### (1) S C 26 (第34図、図版32)

**土師器 (330～343・345)** 330～333は壺。330は二重口縁壺。口縁部は屈曲部から外方へ延びる。端部はやや外傾した面をなす。331～333は小型丸底壺。口縁部は直線的に開き、頸部が締まる。胴部外面はハケ後一部ナデ、内面は指ナデ。334～337は甕。334は口縁部が大きく開き端部内面肥厚する。口縁部・頸部は丁寧なヨコナデ。胴部外面は縦方向後横方向ハケ、内面はヘラケズリ。335は口縁部が直立ぎみで頸部が締まり、胴部は肩がやや張る。口縁部は内外面ともタタキ後ヨコナデ。胴部外面ハケ後ナデ、中位外面はタタキ残る。336は口縁部が外反して大きく開き、胴部は肩が張らない。口縁部は内外面ヨコナデ。胴部外面はハケ。338は大形甕頸部。断面コ字形の凸帯を貼り付けハケ状工具による刻み施す。内外面ハケ。339・340は高杯。杯部下半から上半が湾曲して立ち上がる。口縁端部はわずかに外反する。内外面ともナデ。341・342は鉢。341は口縁部が直立し体部がわずかに膨らむ。口縁部は指押さえが残り端部は波状を呈す。体部も凹凸激しい。345はミニチュア土器鉢。

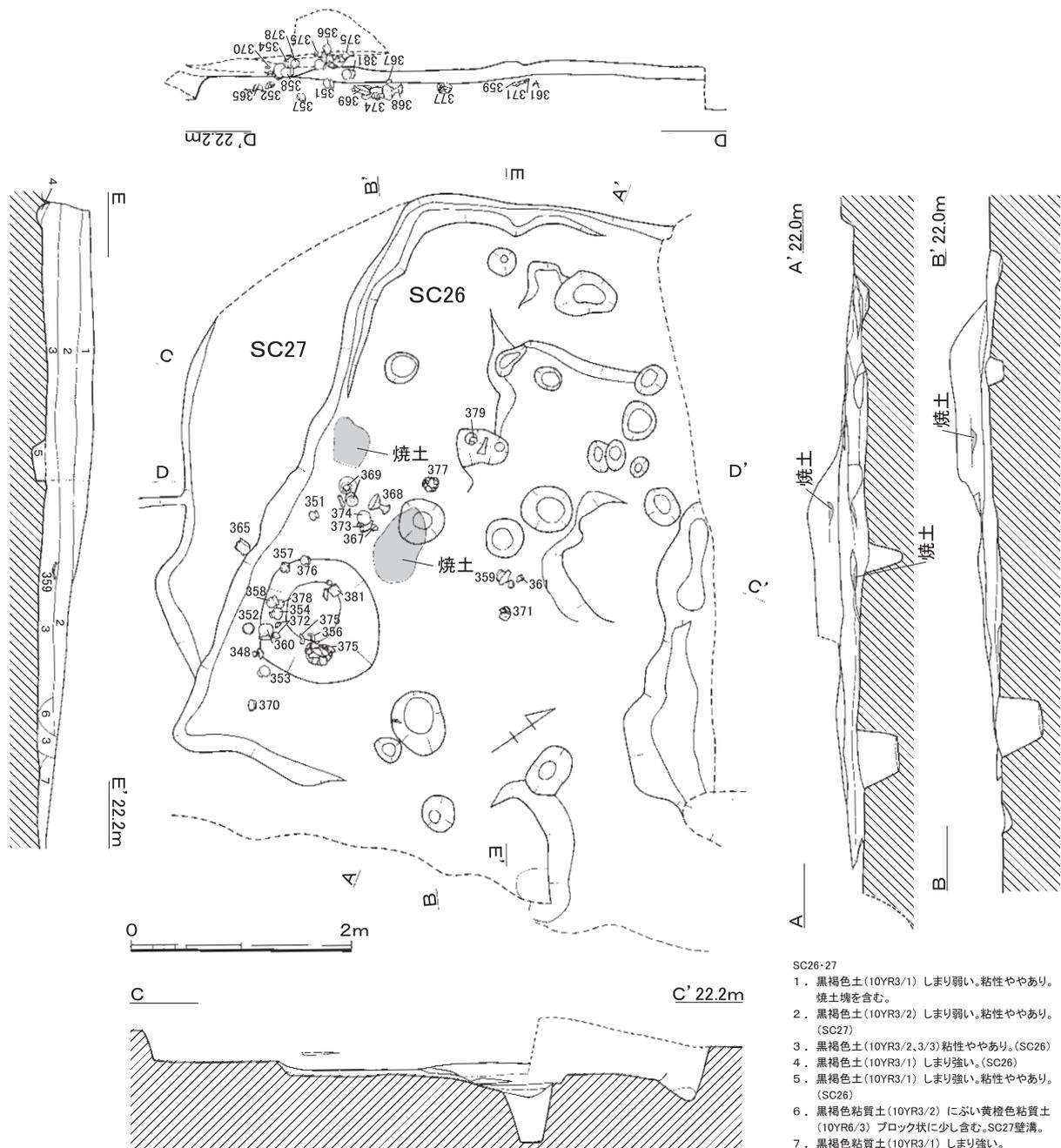
**弥生土器 (343・344)** 343は甕蓋。344は甕口縁。口縁部は逆L字状に折れ、端部は垂下し内面は突出する。

##### (2) S C 27 (第34・35・71図、図版32・38)

**土師器 (346～380)** 346～360は壺。346は二重口縁壺。山陰系か。口縁部やや外方へ延びる。347～358は小型丸底壺。347～350は口縁部が短く立ち上がり胴部は張らない。347は口縁部がタタキ後ナデ。348～350はハケ後ナデ。351～353は口縁部が外方へ延び、胴部がやや張る。ハケ後ナデ。351・

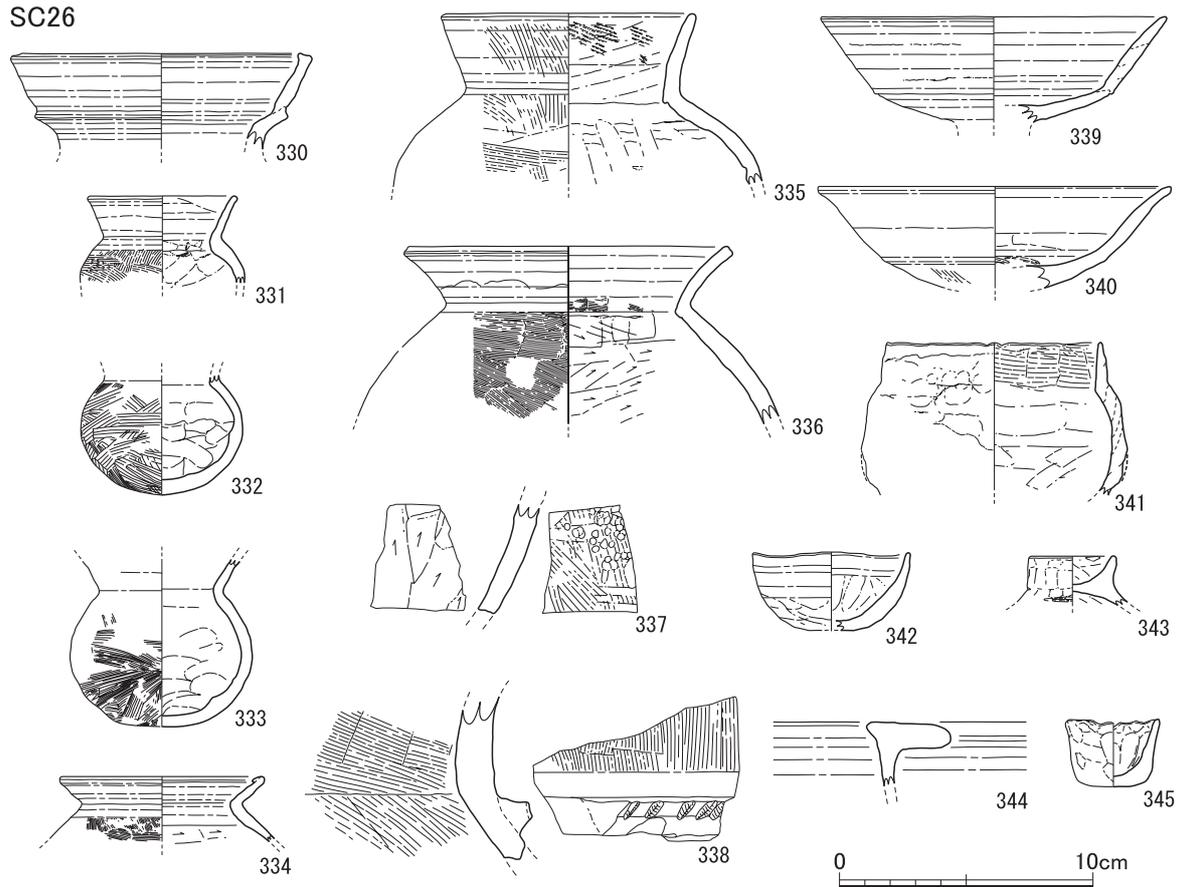
353は口縁端部が短く外反する。354は口縁部が直立ぎみで胴部は肩が張る。ハケ後ナデ。355は口縁部が大きく開き頸部は太い。口径が胴部径を上回る。ハケ後ナデ。358は口縁部が直立し頸部が太い。胴部は張らない。ナデ。359・360は直口壺。359は口縁部が外方へ直線的に延び、胴部は中位が張り球胴を呈す。胴部は外面がハケ後ナデ、内面はヘラケズリ。360は口縁部が直立ぎみに長く延び、胴部は下膨れを呈す。口縁端部は指押さえにより波状を呈す。内外面とも粗いハケ。

361～367は甕。361は口縁部が直立ぎみに長く延び、胴部は肩が張らない。362は口縁部が大きく開き端部内面が肥厚する。胴部は肩が張らない。口縁部は丁寧なヨコナデ。胴部は外面が横方向の細密タタキ、内面はナデ。庄内系甕。363は口縁部が大きく開き端部を面取り。口縁部・頸部は内外

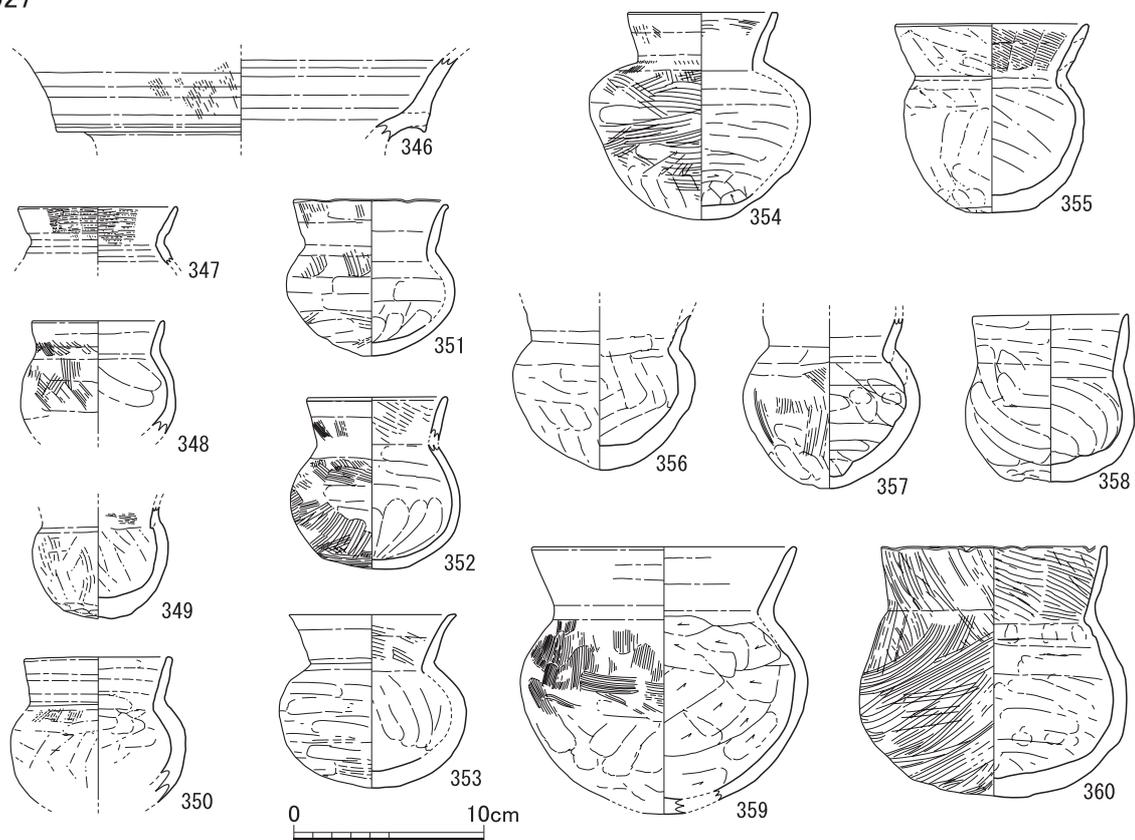


第33図 S C 26・27実測図 (1/60)

SC26



SC27



第34図 SC26・27出土遺物実測図 (337・338・344は1/3、その他は1/4)

面ともヨコナデ。胴部内面はケズリ。364・365は口縁部が外反しながら延び端部外面がやや肥厚する。口縁部・頸部はヨコナデ。胴部は外面ハケ後ナデ、内面がケズリ後一部ナデ。367は口縁部が直立して長く延び、胴部は肩が張らず中位が張る。口縁部・頸部は内外面ともハケ後ナデ。胴部は外面がハケ、内面がケズリ。368～373は高杯。368は杯部下半が上方へ短く開き上半が上方へ外反して延びる。杯部深い。脚部は裾に向かって開き裾部が折れる。脚部外面は縦方向ヘラミガキ。370は杯部上半が直線的に上方へ立ち上がる。杯部深い。内外面ともナデ。369・371・373は杯部下半が水平ぎみに開き、稜をもって上半がわずかに外反して開く。脚部は裾に向かって開き裾部が折れる。杯部は369がハケ後ナデ、371がハケ後ナデ後ヘラミガキ、373がハケ後一部ナデ。374～380は鉢。374は体部から口縁部が真っ直ぐ延びる。端部は波状を呈す。内面は粗いハケ、他はナデ。375は脚付鉢としたが高杯の可能性もある。体部は外方へ開き底部が小さい。内外面ともハケ後ナデ。376は口縁部が直立する。口縁端部は連続した指押さえにより波状を呈す。内外面ともナデ。377は底部平底で口縁部が短く外反し立つ。口縁部は連続した指押さえにより波状を呈す。内外面ともナデ、底部から体部下位ケズリ後ナデ。378・379は平底で、体部上位がややすぼまり口縁部がわずかに外反する。口縁端部は連続した指押さえにより波状を呈す。380は碗形を呈す。体部下半外面はケズリ。

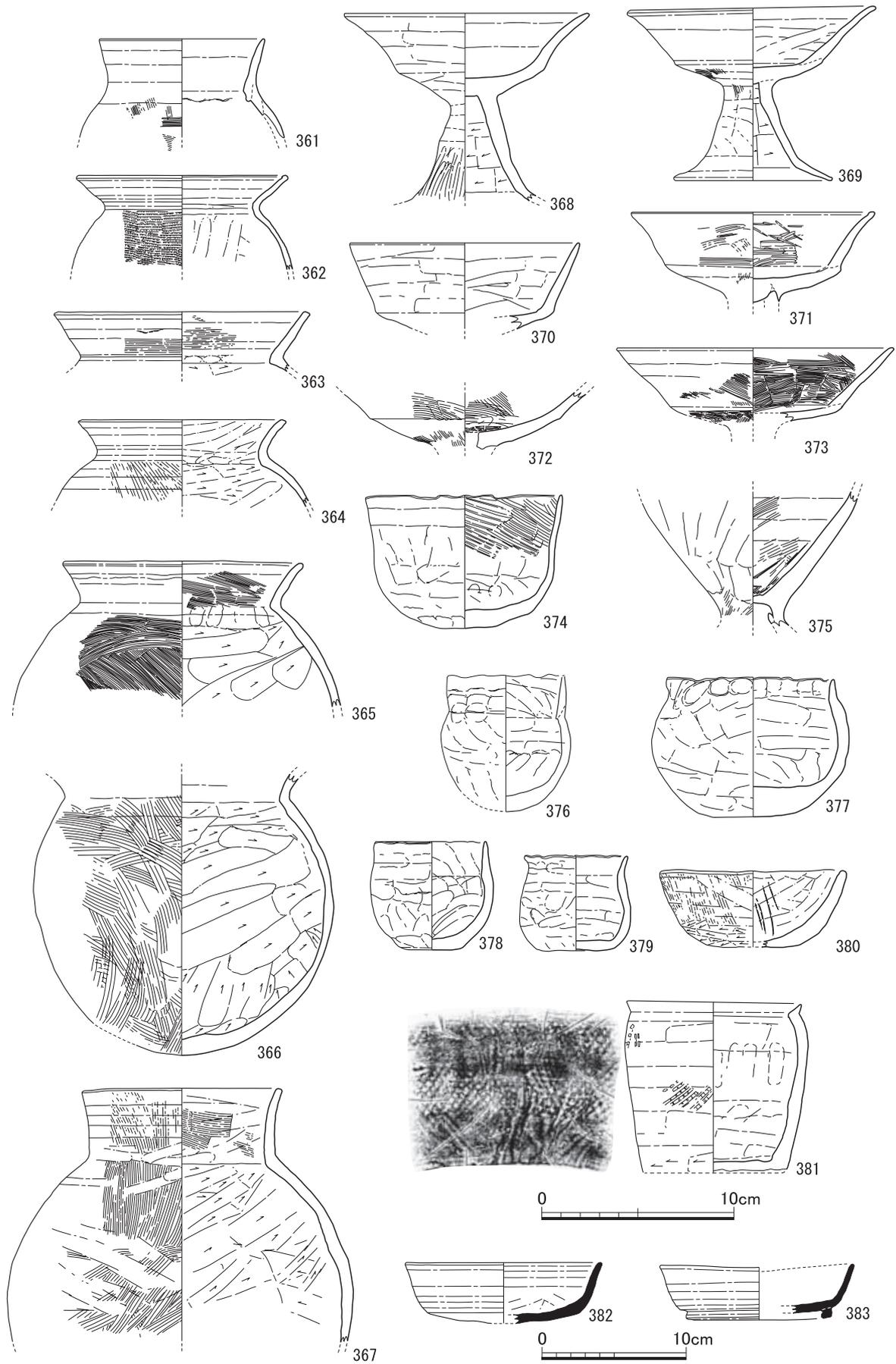
**朝鮮半島系土器 (381)** 軟質土器深鉢。平底で体部がやや丸みをもって上方へ立ち上がり、頸部がすぼまり口縁部が短く外方へ折れる。口縁部は内面が強いヨコナデにより面をなす。体部上半から中位外面は格子目タタキ後回轉的なヨコナデ、体部下半は回轉的なヘラケズリが1回で全周する。体部内面は丁寧なナデ。底部外面は表面が剥落し調整等不明。平面形はやや楕円形を呈す。口縁部から体部全面が黒ずみ、体部上半にコゲ附着。外面はスス全周せず側面1/2に附着し、反対側が弱く赤変する。

**須恵器 (382・383)** 382は杯身。口径13.7cm。底部外面回轉ヘラ切り後ナデ。383は杯B。口径13.5～14.1cm。

**鉄器 (817・820～822)** 817・820は刀子。817は刃部。残存長6.6cm、幅1.05cm、刃部厚0.35cm。820は刃部から茎部。残存長6.85cm、幅1.6cm、刃部厚0.35cm。821・822は鋤先。821は側縁を折り曲げソケット部とする。刃部は三角形を呈するか。822は両側縁を折り曲げソケット部とする。刃部は直線刃。長さ6.0cm、幅2.15cm、最大厚1.0cm。

### S C 28 (第36図、図版15)

東区南側に位置し、南壁付近をS C 30に切られ、東壁付近を攪乱に壊される。平面長方形で、東西4.1m、南北6.2m以上、深さは25cmを測る。北壁から1～1.5m内側の床面で、東西方向に走る幅15～25cmの溝が検出され、北壁際の一部は一段高くテラスとなる。支柱穴は不明。南東側の床面で焼土が2ヶ所確認され、炉跡の可能性が高い。北壁中央でカマドが検出された。住居床面から浮き、カマド床面は北壁テラスや埋土4層上面と同レベルである。北壁から、にぶい黄橙色粘土で構築された袖が2本延びる。高さ10cmで、右袖は長さ60cm、幅25cm、左袖は長さ40cm、幅25cmを測る。支脚は扁平な棒状の川原石を使用し、壁面から40cm内側で横倒しとなる。支脚の手前から45cm、幅40cmの範囲で赤変した火床が広がる。遺物は、カマド周辺、埋土上層で須恵器が出土したほか、土師



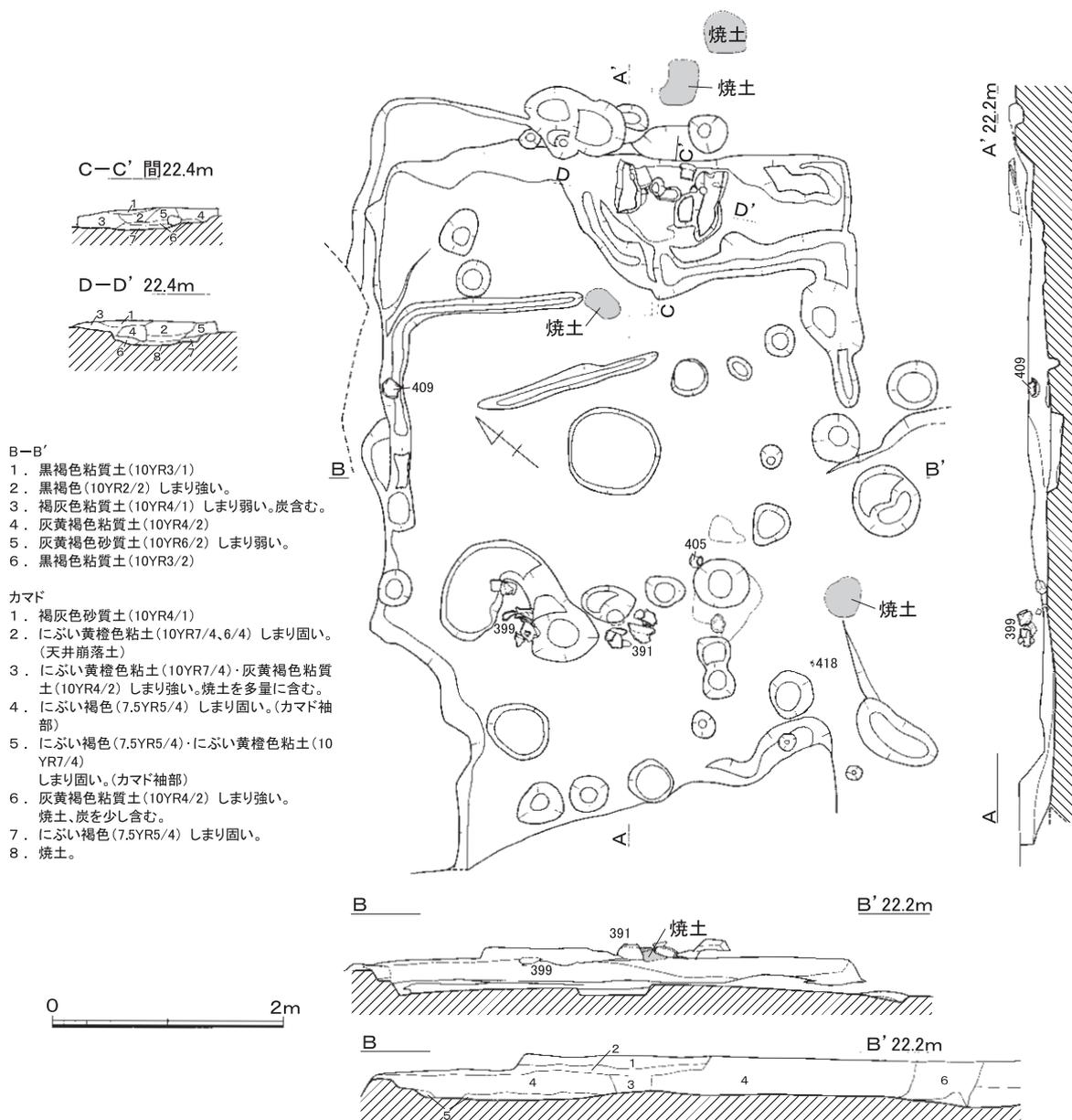
第35図 S C 27出土遺物実測図 (381は1/3、その他は1/4)

器、鉄器が出土した。住居は2棟重複しており、カマドが付き須恵器が出土する上層住居と下層住居となる。

**出土遺物 (第37・38図)**

**須恵器 (384~387)** 384~386は杯H蓋。384・385は口径13.2~13.6cm、口縁体部境に細い沈線が巡り、口縁部はわずかに開きながら下がる。端部内面にわずかな段が付く。天井部1/3に回転ヘラケズリ。386は天井部が平坦で天井部1/2以上に回転ヘラケズリ。387は杯B蓋。口径12.4cm、端部はわずかに下方へ折り曲げる。天井部回転ヘラケズリ。

**土師器 (388~390・393~416)** 390は小型丸底壺。口縁部は短く外方へ立ち上がり、頸部は締まる。底部は平底ぎみ。内外面ともナデ、底部内面ユビナデ。388・389・393~395は甕。388は口縁



第36図 S C 28実測図 (1/60)

部が外反しながら直立ぎみに延び、胴部球胴を呈す。口縁部上位は内外面ともヨコナデ、下位は内外面ともハケ後ヨコナデ。胴部外面はハケ、肩部横方向、内面はケズリ。ケズリ粗く器壁分厚い。389は口縁部が内湾しながら開く。口縁部は内外面ともハケ後ヨコナデ。肩部外面はハケ後ヨコナデ、内面ナデ。393は口縁部が直線的に大きく開き、胴部は張らない。口縁部外面はハケ後ナデ、内面はハケ、胴部外面はハケ、内面は頸部ヨコナデ、以下ケズリ。395は二重口縁甕。口縁部は屈曲が弱く、胴部はなで肩。口縁部はヨコナデ、端部内面は強いヨコナデ。頸部内外面ヨコナデ。肩部外面ハケ後ヨコナデ、以下ハケ。胴部内面ケズリ。396は甑。口縁部がわずかに外反し、胴部は張らずにすぼまる。胴部中位に把手の剥離痕あり。口縁部は内外面ともナデ。胴部外面はハケ後ナデか。内面はハケ後ケズリで部分的にケズリなしの箇所あり。397～403は高杯。397・399・401は、杯部下半が丸みもち境が不明瞭で上半が直線的に大きく開く。上下半境内面にわずかに段が付く。杯部は内外面とも397は内外面ともハケ後縦方向ヘラミガキ。398は杯部内外面ともナデ後縦方向ヘラミガキ、脚部外面はナデ後ヘラミガキ、内面はナデ。401はヨコハケ後ナデ。398は杯部上下半境が稜をもって折れて上半が上方へ延びて口縁部が外反する。杯部深め。内外面ともハケ後ヨコナデ。400は杯部上下半境に明瞭な段が付き、上半が上方へ延びる。杯部外面はナデ、内面はハケ後ナデ。402は脚部中位が細くゆるやかに裾が広がる。脚部外面は上位がハケ後ナデ、下位ハケ、内面がナデでシボリ痕あり。403は脚部が大きく開き、外面はヘラミガキ、内面はハケ後ナデ。円形の穿孔あり。404は器台。外面はユビナデ、内面ナデでシボリ痕あり。底部外面ナデ。405～411は鉢。405は脚付鉢か。体部外面は摩滅、内面はハケ後ナデ。接合部外面ナデ。406・408は丸底。406は体部上位外面がタタキ、下位はナデ。上位内面はハケ後一部ナデ、下位ナデ。408～411は平底。408は外面がナデ、内面がハケ後ナデ。409は口縁部が波状を呈す。口縁部は内外面ともナデ、体部外面はタタキ後ナデ、内面はナデ。410・411は椀形を呈す。410は端部が面をなし、内外面ともハケ後ナデ。411は内外面ともナデ。412～416はミニチュア土器。412～415は鉢形。412・414・415はカマド出土。平底で体部が丸みをもってほぼ直立する。416は脚付鉢。

**弥生土器 (391・392)** 391・392は甕。391は口縁部がくの字状に開き、胴部は倒卵形を呈す。頸部と胴部下半に断面コの字状の突帯を貼り付ける。口縁部外面はハケ後ヨコナデ、内面はハケ。頸部は内外面ともナデ。胴部外面はハケ後下位ナデ、内面はハケ。

**石製品 (417～419)** 417は砥石。砥面は4面。残存長5.05cm、最大幅2.9cm。砂岩製。418は石庖丁。刃部・背部欠損しており形状不明。穿孔あり。輝緑凝灰岩製か。419は表面が原石の表面を残し、裏面を大きな剥離で加工。下部は丸みをもつように加工途中か。碧玉製。玉未成品の可能性あり。

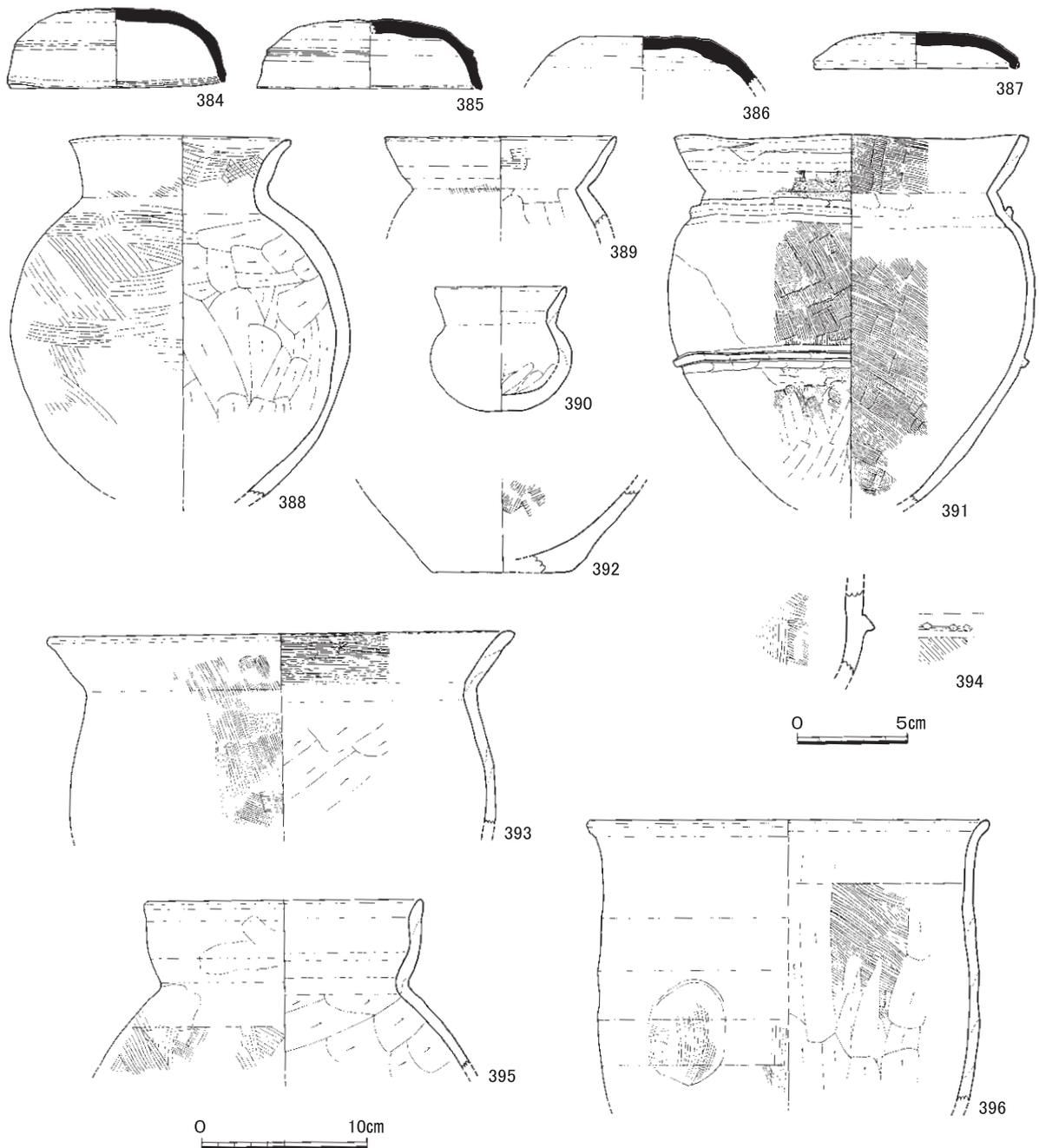
#### SC29 (図版8・9・12)

東西区境に位置する。SC11に切られる。平面長方形で、東西3.9m、南北4.4m、深さ40cmを測る。支柱穴、炉跡は検出されなかった。遺物は、土師器が出土した他、北東部埋土上層で須恵器が出土した。

#### 出土遺物 (第39・40図、図版32・33)

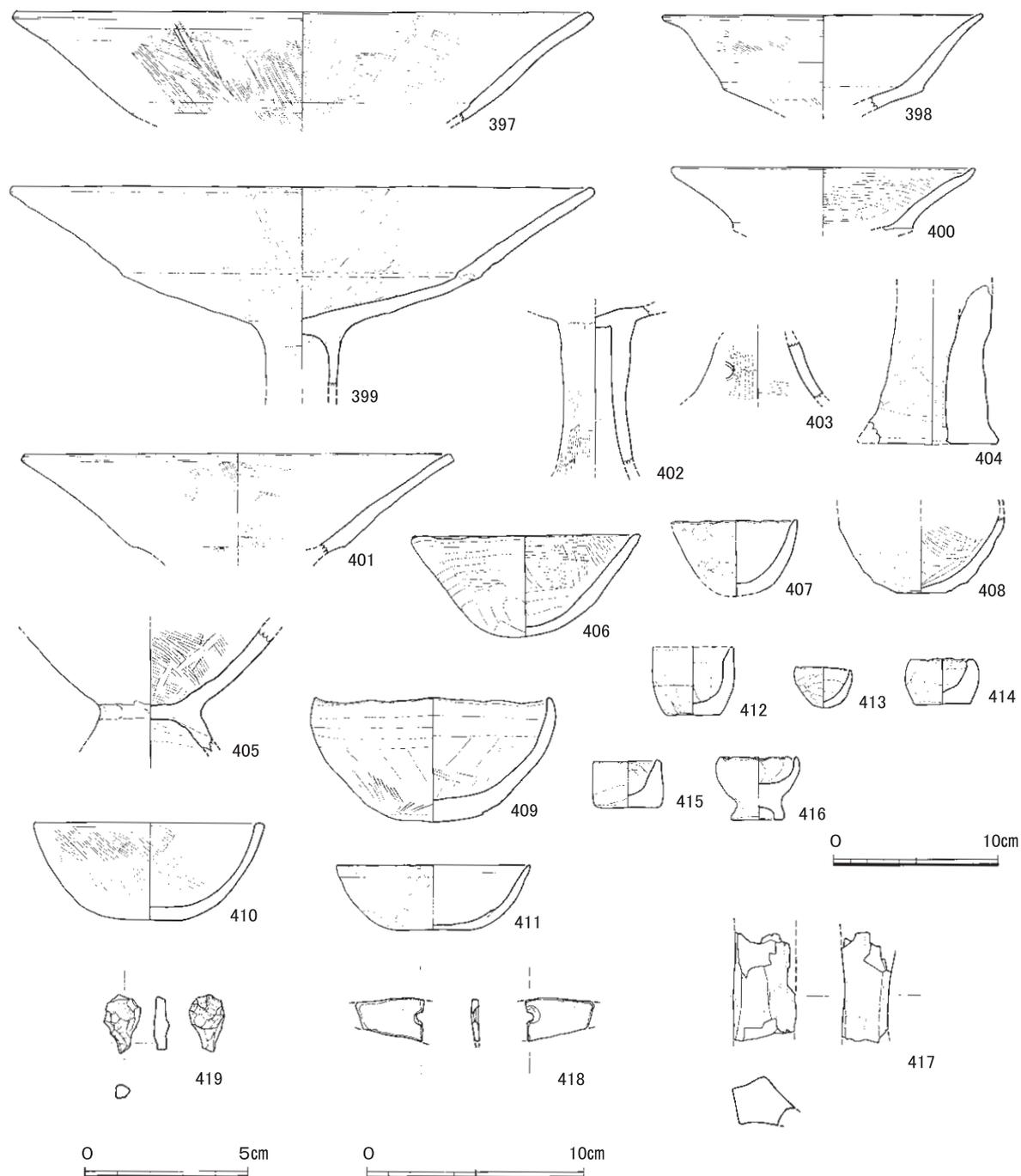
**土師器 (420～426・434～450)** 420・421・424・435～437は小型丸底壺。420は口縁部が長く延び口径が胴最大径を上回る。口縁部内外面ともヨコヘラミガキ。421は口縁部が短く延び、頸部が締

まる。424・435は口縁部が大きく開き頸部が太い。口径が胴部径を上回る。外面はハケ後ナデ、内面は424がケズリ後ナデ、435はナデ。436・437は口縁部が直立ぎみに短く伸び胴部やや扁平。器壁分厚い。425・438は壺か鉢か。425は指押さえにより口縁部がわずかに外反する。端部が波状を呈す。外面はユビナデのちナデ、内面上位はナデ、下位は指押さえ。438は口縁部がわずかに外方へ折れ内面が面をなし、胴部は中位が張り、底部は平底。胴部外面はナデ、内面はケズリ。422・423は中型直口壺。422は口縁部が直線的に長く外方へ伸び、胴部は丸みが無く算盤玉状を呈す。胴部外面はハケ、内面上位はナデ、下位はケズリ。389は口縁部が直立ぎみに長く伸び頸部が締まる。胴部は肩が張る。胴部外面はハケ、内面上位がナデ、下位がケズリ。434・439は甕。434は口縁部



第37図 S C 28出土遺物実測図 (394は1/3、その他は1/4)

がわずかに外反しながら大きく開く。口縁部は内外面ともハケ後ヨコナデ。胴部外面はハケ、内面はケズリ。426・440～444は高杯。426は杯部上半が大きく外反し、脚部は接合部から裾に向かって大きく開く。杯部は内外面ともハケ後ヨコナデ。脚部外面はナデ、内面はケズリ後ヨコナデ。440・442は杯部上半がわずかに外反しながら大きく開く。441は杯部上半が上方へ直線的に延びる。内外面ともハケ後ヨコナデ。443は杯部下半が水平に近く開き上半が直立ぎみに立つ。杯部深い。内外面ともヨコナデ。444は脚部が裾に向かって大きく開く。外面はハケ後ヨコナデ、内面はケズリ。445～447は鉢。445は尖底ぎみで口縁部が指押さえにより波状を呈す。内外面ともナデ。446は口縁



第38図 S C 28出土遺物実測図 (419は1/2、417・418は1/3、その他は1/4)

部が指押さえにより短く外反する。内外面ともナデ。447は外面がヘラケズリ後ナデ、内面がケズリ後ヘラミガキ。448は器台。わずかに内湾しながら立ち上がる。外面はハケ、内面はハケ後ケズリ。449・450はミニチュア土器鉢。指押さえ、ユビナデ。

**石器 (427・451)** 427は石庖丁。細い半月形を呈し、穿孔2個あり。刃部両刃か。残存長7.8cm、幅3.5cm。粘板岩製。451は砥石。砥面は4面。表面磨耗し擦痕不明。残存長5.4cm、幅5.1cm、厚み2.7cm。

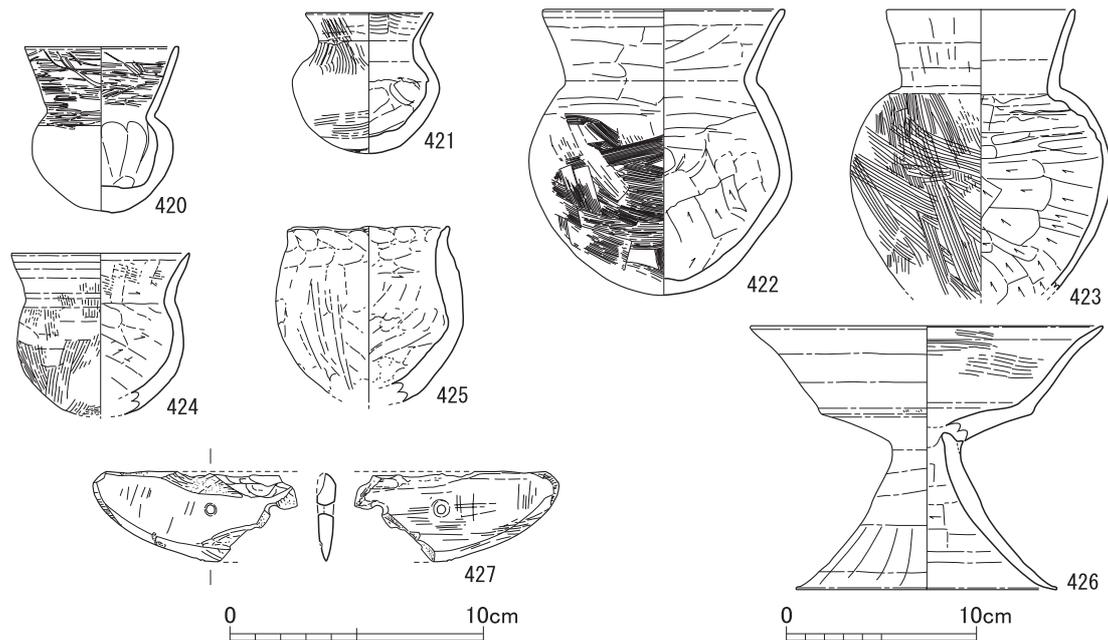
**須恵器 (428~433)** 428・430・431は杯H蓋。428は口縁体部境に浅い沈線が巡る。焼き歪みが著しい。430は口径14.1cm。口縁体部境に稜をもち口縁端部は丸く収める。431は口縁体部境に沈線が巡り、口縁部は開く。口縁端部内面がわずかに段をなす。429は杯B蓋。端部はわずかに下方へ折れる。432は杯H身。口径13cm。立ち上がりは短く、端部を丸く収める。433は杯B身。

**S C 30 (第41図、図版16)**

東区南西端に位置する。北東側および南側の一部を攪乱により壊される。平面長方形で東西5.9m、南北5.6m、深さ25cmを測る。壁際に壁溝が巡り、幅25~35cm。南壁側のみ幅50~85cmと広い。支柱穴は4本で、柱穴は直径35~60cmの平面円形・楕円形で深さ30~55cmを測る。北西角で灰白色粘土と焼土、北壁際中央で焼土を検出した。北西角の粘土は北壁から弧を描くように延び、幅30cm、高さ最大5cmを測る。粘土から西へ20cm離れて壁溝にかかった位置で、焼土が70×45cmの楕円形に広がる。遺物は埋土下層で土師器壺・高杯を中心にまとまって出土しており、これは住居廃棄に伴う祭祀行為と考えられる。この他、鉄器、鉄滓が出土した。

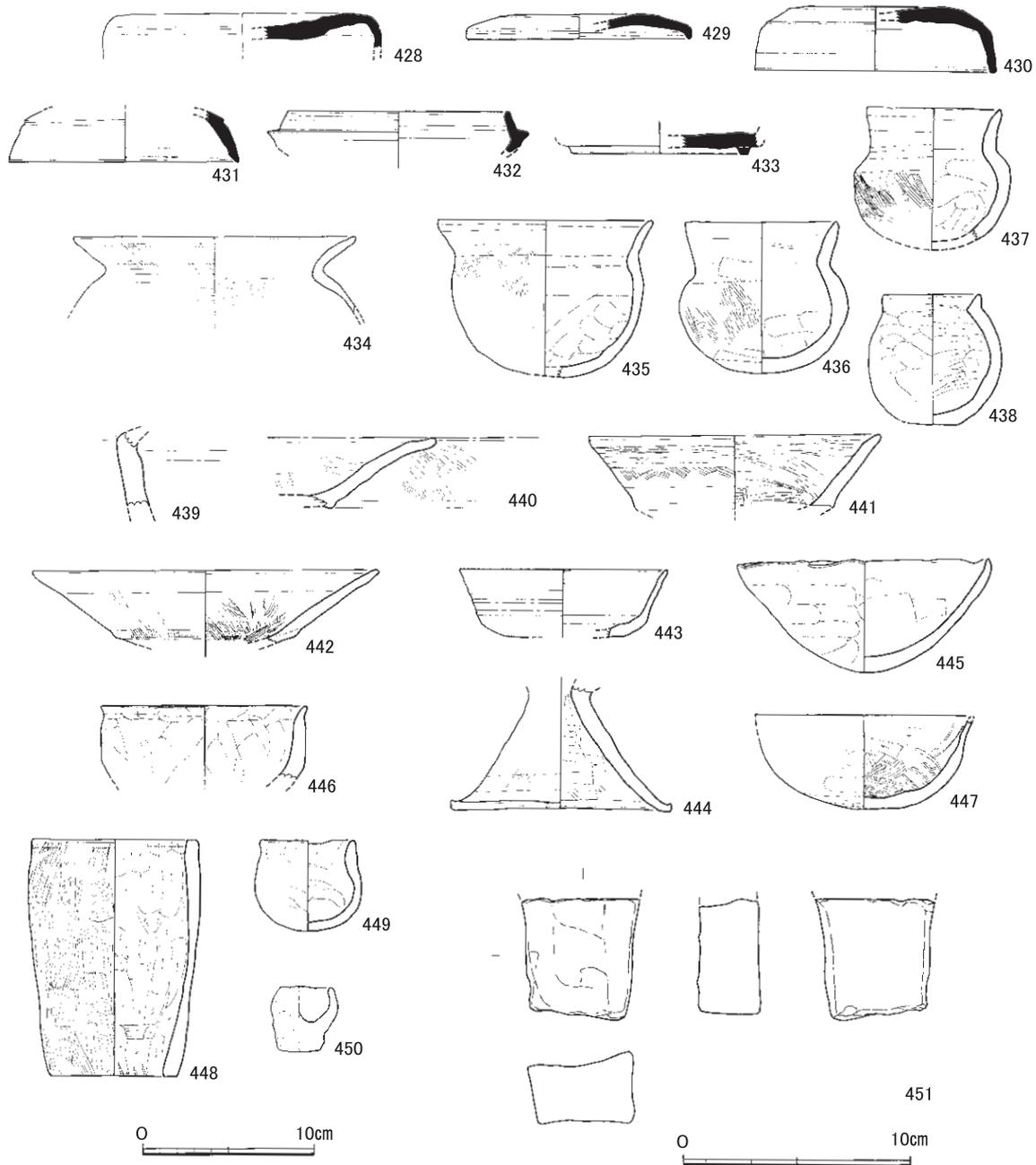
**出土遺物 (第42~44図、図版33)**

**土師器 (452~504)** 452・454~456・464~477は壺。452は二重口縁壺。屈曲部が下方へ延び、端部を面取り。内外面ともヨコナデ。454・455は口縁部が直線的に開いて頸部が締まり、胴部は肩が張り球胴。口縁部・頸部は内外面ともハケ後ヨコナデ、454の頸部の一部は後ミガキ。456は口縁部

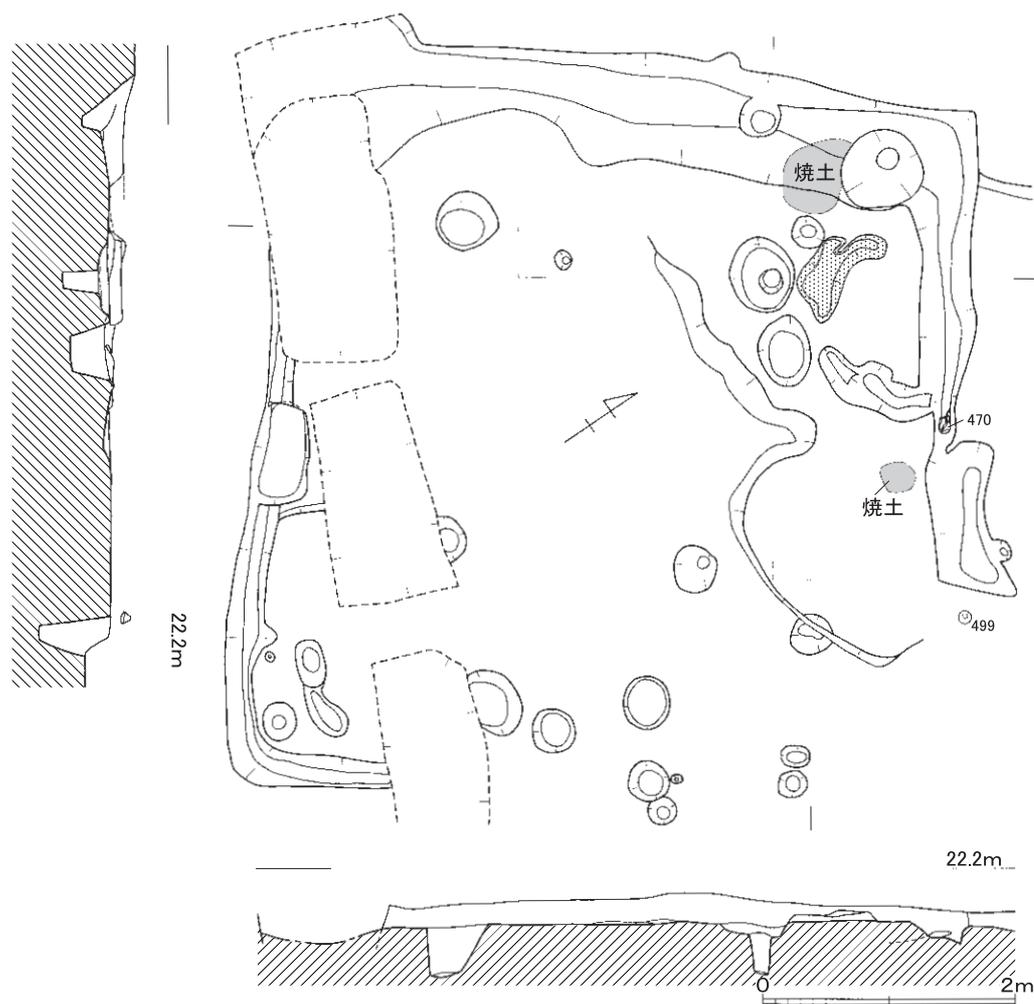


第39図 S C 29出土遺物実測図 (427は1/3、その他は1/4)

が外反しながら上方へ開き、胴部は中位が張る。口縁部・頸部はハケ後ヨコナデ。胴部外面はハケ、内面はケズリ。457～463は甕である。457・460・461・463は口縁部が直立ぎみでわずかに内湾する。口縁端部は丸い。胴部は下膨れぎみである。胴部内面は粗いケズリで器壁厚い。461は頸部から肩部外面にへら状工具による横位の「W」状の線刻あり。458は口縁部が大きく開く。459は胴部が長胴ぎみで口縁部から体部まで内外面ともハケ。462は口縁部がゆるやかに外反し胴部は張らない。464は口縁部が直立ぎみに立ち、胴部は肩が大きく張る。口縁部・頸部は内外面ともヨコナデ。468は複合口縁壺。頸部に刻み目突帯貼り付け。胴部外面はタタキ、内面はハケ。465～467・469・470は直口壺。465・467は口縁部が直線的に外方へ長く延び、胴部球胴。胴部外面は細密なハケ。466・

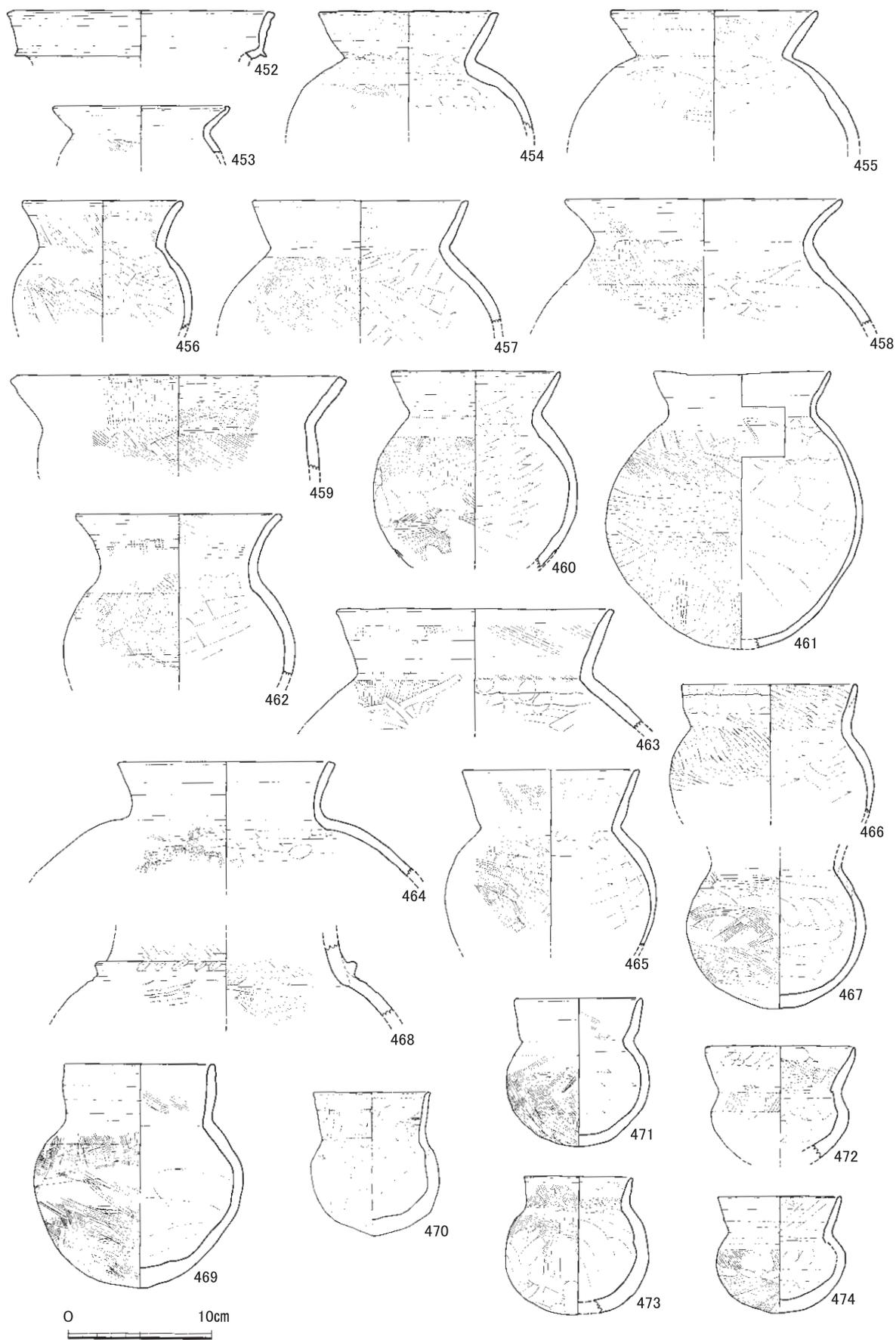


第40図 S C 29出土遺物実測図 (439・440・451は1/3、その他は4/1)

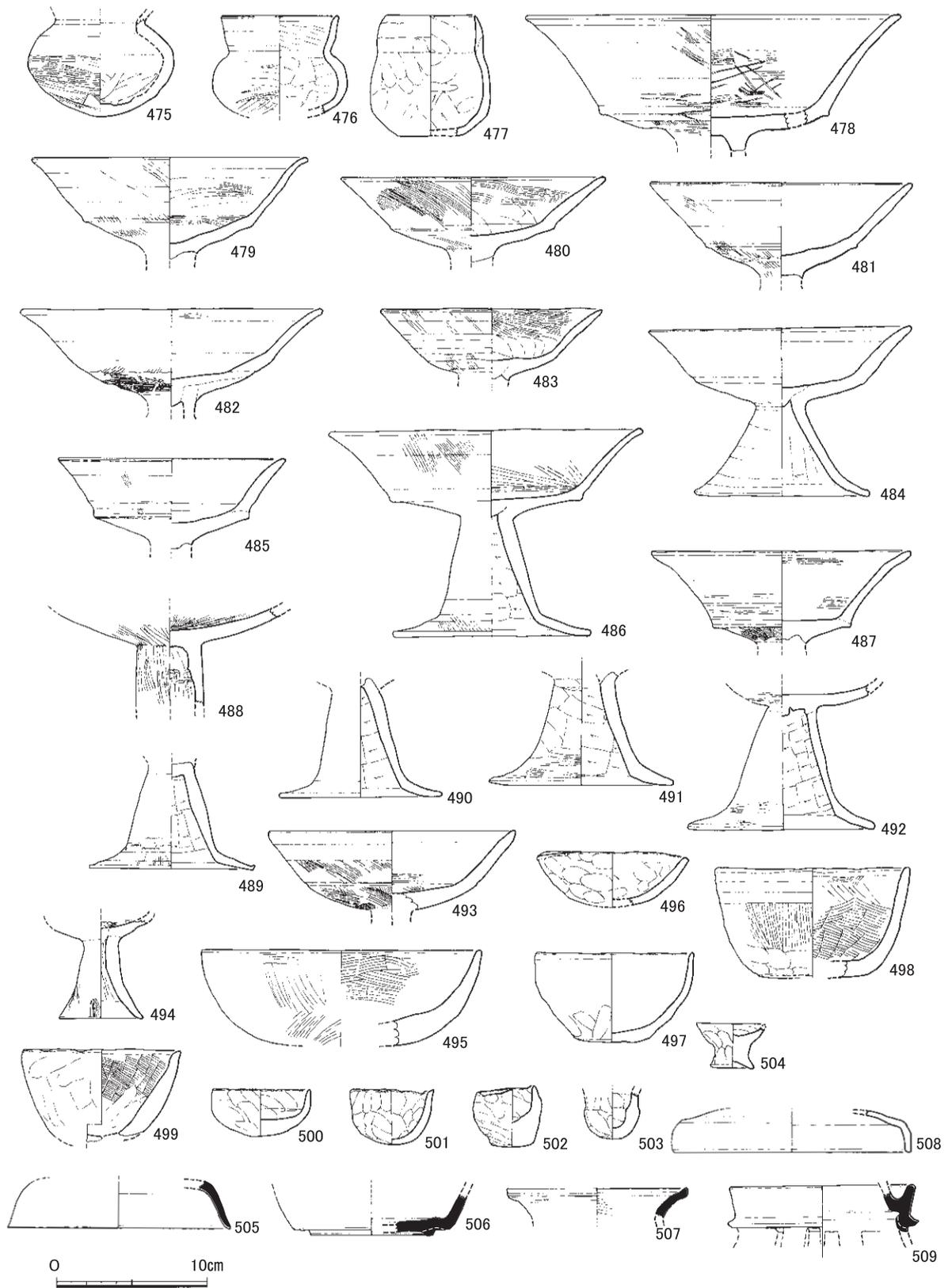


第41図 SC30実測図 (1/60)

469は口縁部がわずかに内湾して直立ぎみに立ちあがり、胴部は球胴だがいびつ。466は口縁部内面、胴部外面はタタキ。胴部内面はケズリ。469は胴部内面がナデ。470は口縁部が直線的に立ち上がり、端部はわずかに外反する。胴部内面はナデ。471～477は小型丸底壺。471・476は口縁部が直立ぎみで頸部が凹線状にくぼむ。476は胴部がやや扁平で、胴部外面の一部にヘラミガキ。472は口縁部が大きく開き口径が胴部径を上回る。473は口縁部が短く直立し、胴部は下膨れ。475は頸部が締め、胴部が扁平で算盤玉状を呈す。477は口縁部が内湾しながら内傾して立ち上がり、胴部は張らず平底状を呈す。内外面ともナデで、底部内面はケズリ。478～494は高杯。478・486は杯部下半が水平ぎみに開き、境に稜が付き、上半が外反しながら開く。478の杯部は内外面ともハケ後ヨコナデ後一部ヘラミガキ。486の脚部は脚柱部がやや開いて裾部が折れて開く。杯部は内外面ともハケ後ヨコナデ。479～482・484は杯部下半が丸みをもち上半が直線的に開き口縁部がわずかに外反する。上下半境にわずかに段が付くか沈線状となる。484の脚部は裾に向かって大きく開く。杯部は内外面ともハケ後ヨコナデ。483は上下半境無く丸みをもって外方へ立ち上がる。内外面ともハケ後ヨコナデ。485・487は杯部上下半境に稜が明瞭に付き、上半が外反しながら立ちぎみに開く。杯部深い。488は杯部下半が丸みをもち脚部は基部が太い。杯部内外面・脚部外面はヘラミガキ、脚部内



第42図 S C 30出土遺物実測図(1/4)



第43図 S C30出土遺物実測図(1/4)

面はケズリ。493は浅い椀状を呈し、上下半境の位置に細い沈線が巡る。杯部上位はヨコナデ、以下はハケのちヨコナデ。489～492は高杯脚部。脚柱部は裾に向かって開きぎみで、裾部が屈曲して開く。内面に稜が付く。柱部外面はナデ、内面はケズリ。495～499は鉢。496は浅い鉢状で内外面ともユビナデ。497・499は小さい平底から体部が内湾しながら立ち上がる。499は底部に焼成前穿孔あり。498は大きい平底から体部下半が内湾し上半は外方へ立ち上がる。500～504はミニチュア土器。500～502は鉢。503は体部上位が括れる。504は高杯。

**須恵器 (505～509)** 505・508は杯H蓋。505は口径14.7cm。508は口径15.7cm。口縁部体部境は屈曲し、口縁部は丸みをもって下がる。端部は丸い。506は杯B身。底部から体部が折れて外方へ延びる。高台は底部端から内側にあり高さ低い。507は甕。口縁部は大きく外反し端部は折れて上方へ延びる。509は円面硯。外提部外傾ぎみで突帯は断面三角形。内面の硯部脚部境は凹線状に段をなす。脚部は圈脚。製作工程としては、陸部から脚部を作ったのち、外提部・突帯を付けたものと考えられる。年代は、手法・器形から8世紀中頃以降と考えられる。

**土製品 (510)** 粘土塊。

**石器 (511)** 砥石。砥面3面。裏面の端に直径3mmの穿孔あるが貫通しない。

#### S C 31 (付図、図版10)

東区北側に位置し、S C 17・18に東側の大半を切られる。南側を攪乱に壊される。平面方形か。深さ約20cm。出土遺物は土師器。

#### 出土遺物 (第44図)

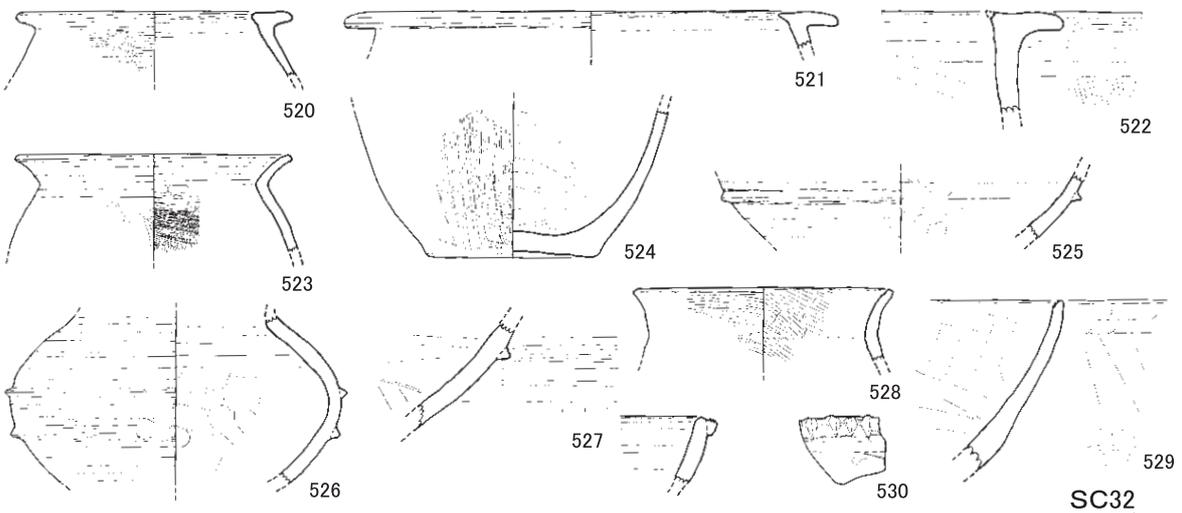
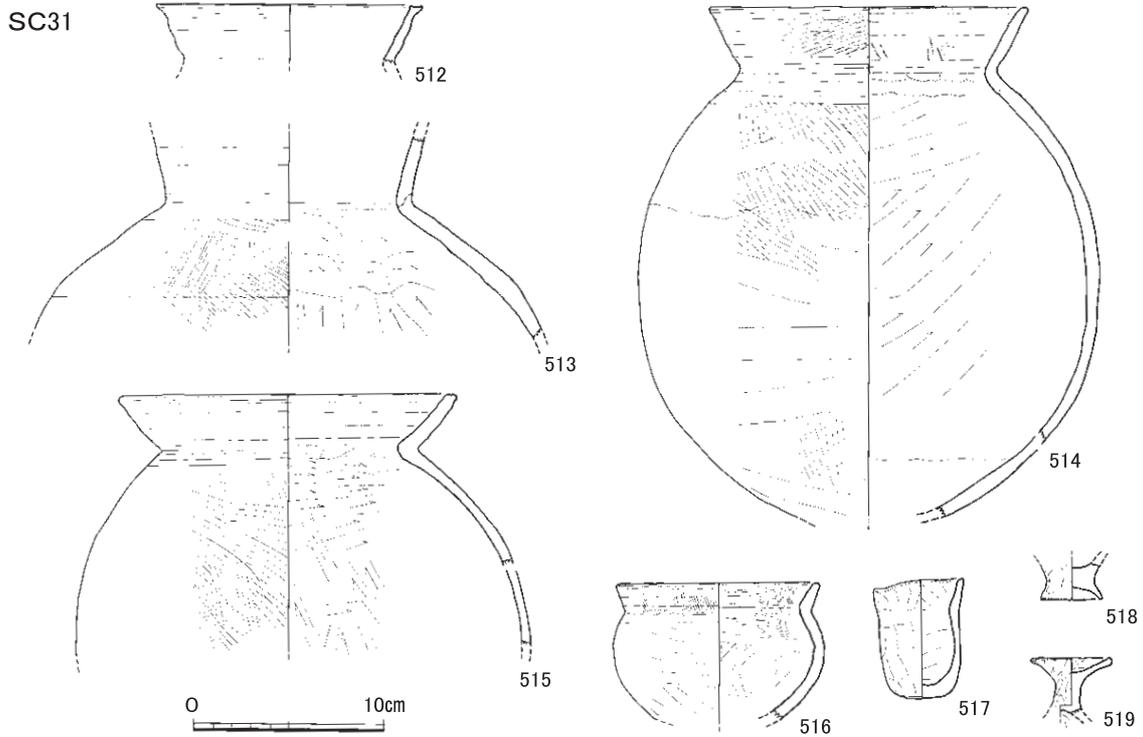
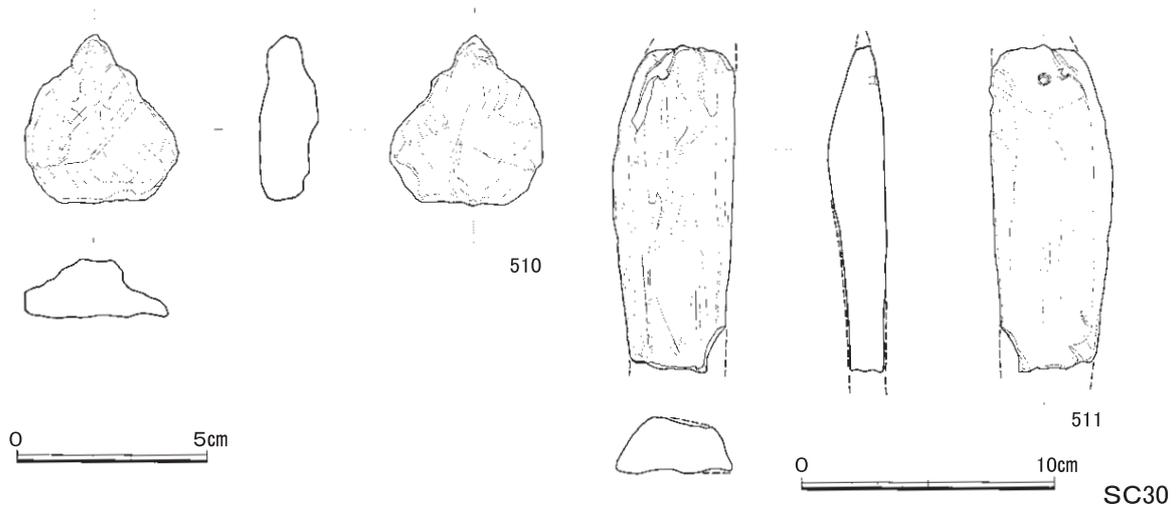
**土師器 (512～519)** 512～515は甕。512は口縁端部を面取りし端部外面が突出する。513は口縁部が直立ぎみに延び、頸部が締め、胴部が大きく張る。胴部外面はハケ、内面はケズリ。514・515は口縁部がくの字状に開き頸部が締め、胴部は球胴でやや下膨れ。514は口縁部が内外面ともタタキ後ヨコナデ。頸部が内外面ともヨコナデ。胴部外面はハケ後一部ナデ、内面ケズリ。515は口縁端部が面をなし、口縁部・頸部は内外面ともヨコナデ。胴部外面はハケ、内面はケズリ。516は鉢か。口縁部がくの字状に短く曲がる。内外面ともハケ後ナデ。517～519はミニチュア土器。517は鉢。518は脚付鉢か。519は高杯。

#### S C 32 (付図)

東区中央東壁側に位置し、北側をS C 19に切られ、東側の一部は調査区外へ続く。平面円形と推定され、直径5.5m以上。床面までの深さ最大15cmを測る。支柱穴は壁面から約1m内側に3基検出され、壁際の一部には壁溝が巡る。柱穴は直径65～80cmの楕円形で、深さ50～60cmを測る。炉跡は不明。出土遺物は、弥生土器、土師器、鉄器がある。

#### 出土遺物 (第44・71図)

**弥生土器 (520～527・529・530)** 520は無頸壺。口縁部ヨコナデ。胴部外面ヘラミガキ、内面ナデ。525～527は鋤先口縁壺胴部。胴部最大径と下胴部に三角突帯が2条貼り付けられる。521～524は甕。521・522は口縁部が逆L字状を呈し端部がやや下がり内側への突出も目立つ。523は口縁部がくの字状に屈曲する。口縁部は内外面ともナデ。胴部は内外面ともハケ。529は椀形の鉢。内外面ともナデ。530は刻目突帯文深鉢。突帯は端部に付き、突帯全面に刻み。



第44図 S C 30~32出土遺物実測図 (510は1/2、511・522・527・529・530は1/3、その他は1/4)

**土師器 (528)** 528は甕。口縁部がわずかに外反しながら立つ。口縁部から胴部まで内外面とも粗いハケ。

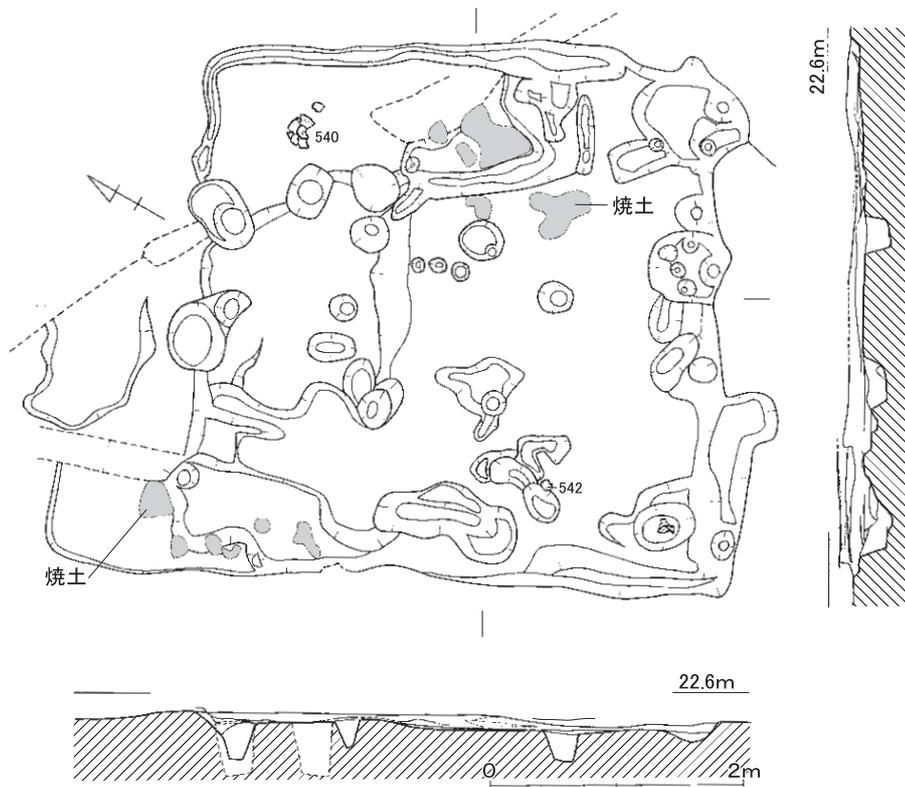
**鉄器 (823)** 曲刃鎌。柄側を直角に折り曲げるか。幅最大3.35cm、厚み0.6cm。

**S C 33** (第45図、図版17)

東区北側の調査区東壁寄りのS C 17・19の下面で検出された。平面長方形を呈し、東西4.5m、南北4.3m、深さ10cmを測る。柱穴は多数検出されたが支柱穴は不明。柱穴は、直径25~55cmの平面円形・楕円形で、深さ15~40cmを測る。北壁と東壁の一部に壁溝が付く。北壁側中央と南西角で床面に焼土のブロックが散乱する。炉跡はされなかった。出土遺物は、土師器の他、縄文土器・弥生土器が混じる。

**出土遺物** (第46・71図、図版32)

**土師器 (531~535・537~550)** 531は脚付き小型丸底壺。口縁部は内湾して外方へ開き、体部は扁平となる。脚部は強く開く。口縁部外面はヘラミガキ、内面はハケ後暗文状ヘラミガキ。体部上半外面はハケ、下半はケズリ後ヘラケズリ、内面はヘラミガキ。脚部外面はヘラミガキ、内面はナデ。532~535は甕。532は口縁部が大きく外反する。胴部外面は細密タタキ後ハケ、内面はヘラケズリ。533・534は胴部肩部外面がヨコナデ、以下はタタキ。肩部内面はナデ、以下はケズリ。535は口縁部がわずかに内湾しながら大きく開き、端部面取り。口縁部は内外面ともヨコナデ。537~541は高杯。537・539は杯部下半が外反しながら水平ぎみに開き、境に明瞭な稜が付き、上半が外反しながら直立ぎみに延びる。537はハケ後ヨコナデで、底部外面はヘラミガキ。538はヨコナデ。



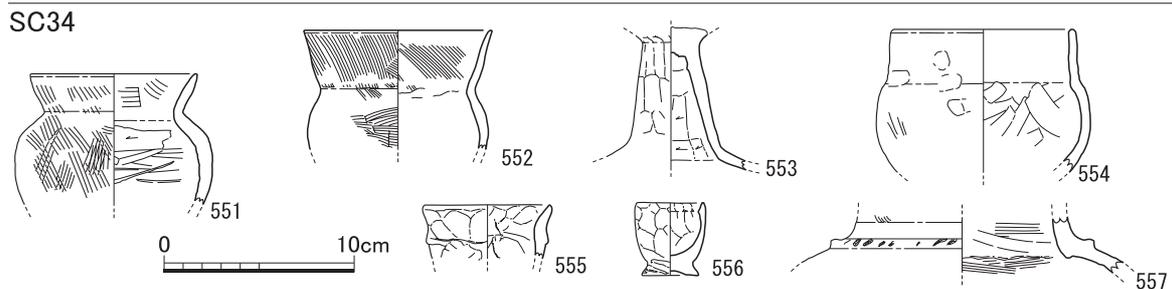
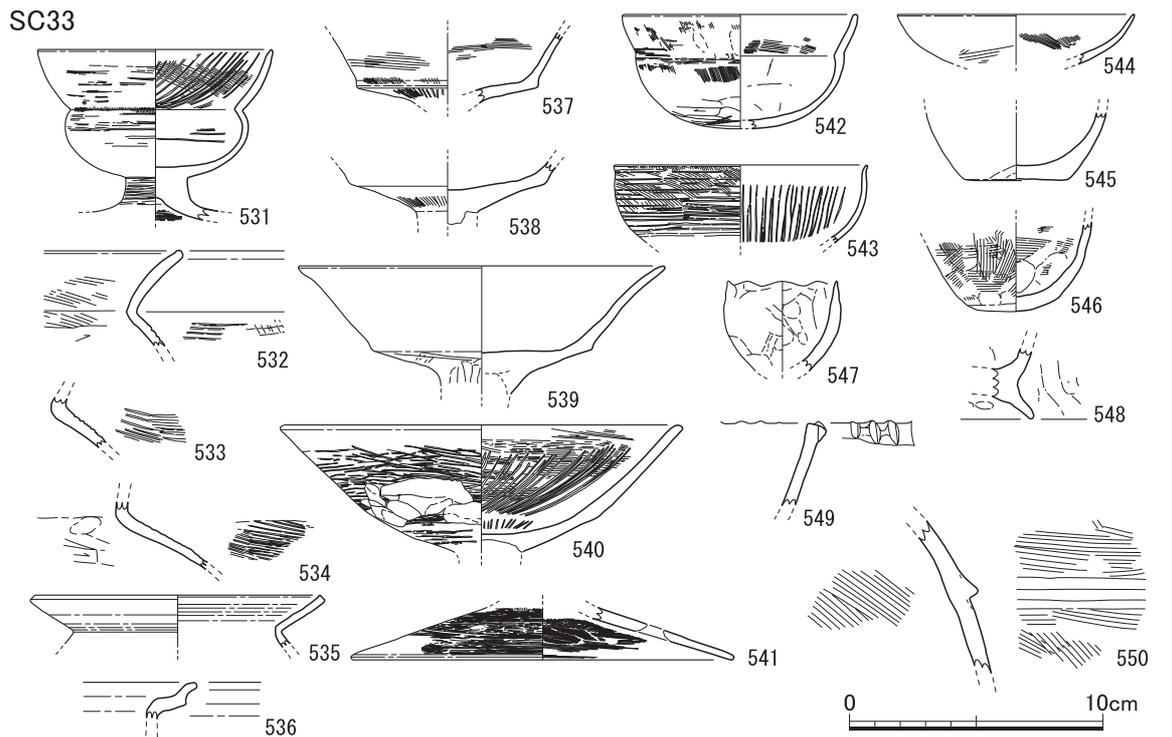
第45図 S C 33実測図 (1/60)

539は杯部下半が水平ぎみに開き、境に明瞭な稜が付き、上半が外反しながら大きく開く。内外面ともナデ。540は杯部が接合部から丸みをもって開く。外面はヘラミガキ、内面はハケ後暗文状のヘラミガキ。541は脚裾部で、大きく開く。542～546は鉢。542は小型丸底鉢。口縁部は内湾しながら外方へ立ち上がり、体部は張らず浅い。口縁部外面はハケ後ヨコナデ後ヘラミガキ、内面はハケ後ヨコナデ。体部上位外面はハケ、下位はケズリ後まばらなヘラミガキ、内面は板状工具によるミガキ。543は椀形を呈し、口縁部が短く外反する。外面はハケ後ヘラミガキ、内面はナデ後暗文風の縦方向ヘラミガキ。544は浅鉢状を呈す。口縁部は内外面ともヨコナデ、体部は内外面ともハケ。545・546は平底から体部が丸みをもって立ち上がる。545はナデ、546はハケ後下位ナデ。547・548はミニチュア土器。547は鉢。口縁部波状を呈す。548は脚付鉢か。

**弥生土器 (549・550)** 549は刻目突帯文深鉢。端部に接して突帯を貼り付け全面を刻む。内外面ともナデ。550は壺。断面三角形突帯を1条貼り付ける。内外面ともハケ。

**鉄器 (811)** 刀子刃部から茎部。残存長4.3cm、刃部幅1.5cm、厚み0.3cm。

**縄文土器 (536)** 浅鉢か。内外面ともヘラミガキ。



第46図 S C 33・34出土遺物実測図 (532・533・534・536・548・549・550は1/3、その他は1/4)

S C 34

西区中央のS C 23下面で検出した。検出したのは西側の一部である。深さは約5 cmを測る。床面直上で土師器が出土した。

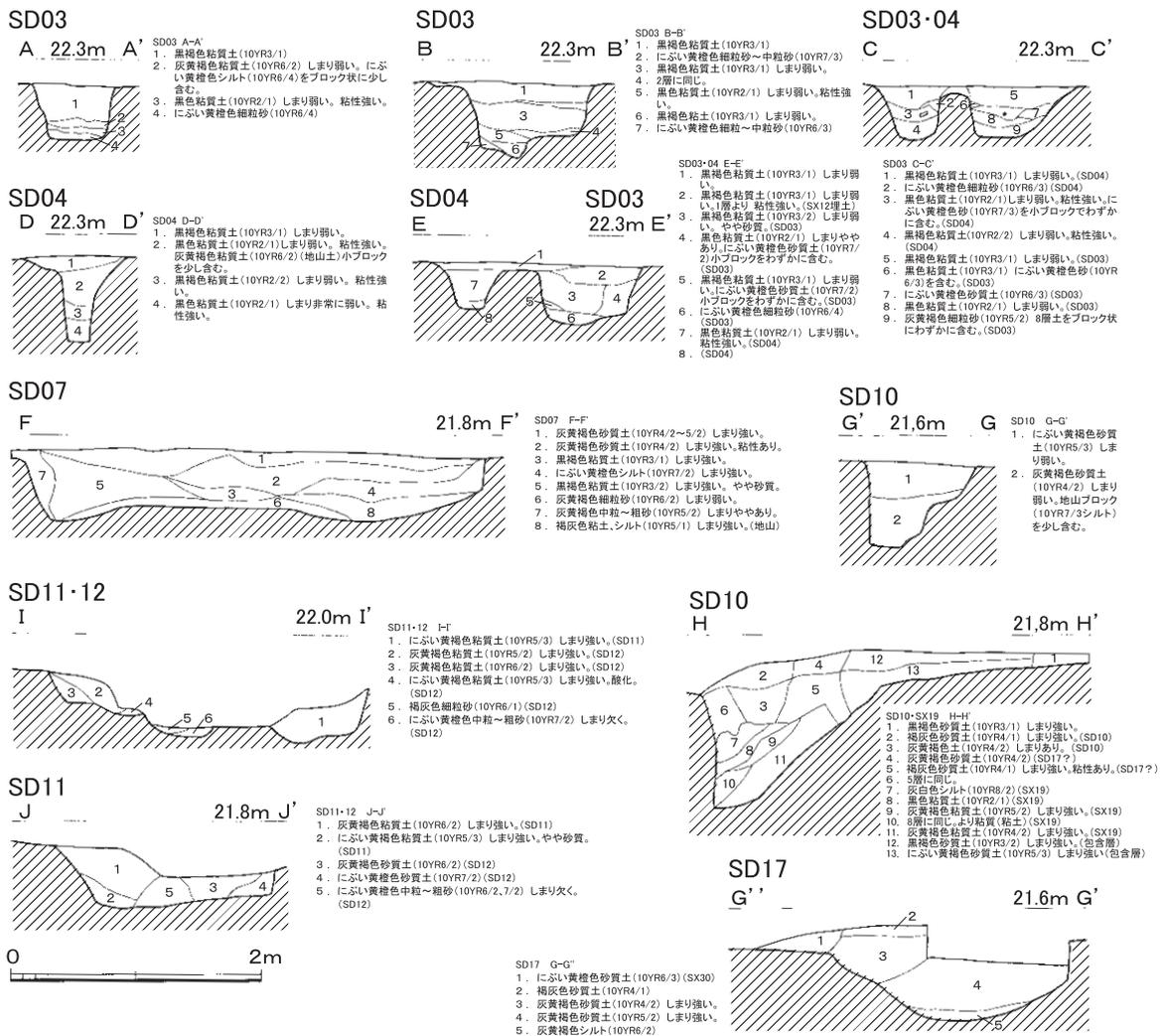
出土遺物 (第46図)

**土師器 (551~557)** 551・552・554は小型丸底壺。551は口縁部が短く外方へ立ち上がり、頸部は締まる。外面はハケ後ナデ、内面はナデ、ケズリ。552は口縁部が外方へ長く伸び、頸部が太く口径が胴部径を上回る。内外面ともハケ後ナデ。553は高杯。裾部は稜をもたず屈曲する。554は口縁部がわずかに内傾して立ち上がり、胴部は張らない。内外面ともナデ。555・556はミニチュア土器。555は壺形、556は鉢。557は複合口縁壺。頸部に断面三角形の突帯を貼り付けハケ状工具による刻みを施す。外面はナデ、内面はハケ。

(3) 溝跡

S D 03 (第47・付図、図版18・20)

西区北側に位置し、北東一南西方向に真っ直ぐ延びる。S D 04、S K 02を切る。幅1 m前後で断面逆台形を呈し、最も深い所で55cm。溝底は中央が若干低いが、ほぼ水平である。調査区北東壁か



第47図 S D 03・04・07・10・11・12・17 土層断面図 (1/60)

ら南へ2 mとC—C' 以南はS D04と完全に重複する。埋土中層と最下層に薄く砂層が入る。弱い流水があったものと考えられる。

**出土遺物** (第48図、図版34)

**土師器 (558～577)** 558・559は複合口縁壺。559はヘラ描き鋸歯文が施される。560は小型丸底壺。ハケ・ナデ仕上げ。561～564は甕。561・562は胴部外面タタキ。庄内甕。561は口縁部が外反し端部をわずかにつまみ上げる。563は口縁部が直線的に開き端部を軽く面取りする。頸部内外面ハケ。564は底部がレンズ底で外面タタキ後ハケ、内面ハケ。在来系。565・566は高杯。565は上下半境に稜が付き、外反しながら立ち上がる。杯部深い。566は稜が付き、わずかに外反しながら大きく開く。567は鉢。底部外面中央に方形の凹みあり。外面タタキ。568～577はミニチュア土器鉢。574・575は脚付。576は体部上位がくびれる。577は内外面ヘラミガキ。

**弥生土器 (578・579)** 578は甕。外面ハケ、内面ナデ。579は屈曲深鉢。屈曲部に刻目突帯付く。外面条痕か。

**土製品 (580)** 土製勾玉。穿孔あり。断面C字形。

**S D 04** (第47図、図版18・20)

西区北側に位置し、S D03に切られながら並行して真っ直ぐ延びる。幅1～1.3m。溝底に階段状を呈す土坑状の落ちが連続する。土坑間は断面逆台形を呈し、深さ40～45cm。土坑部分は断面逆台形から壁が真っ直ぐ落ち底面平坦、深さ60～95cmを測る。埋土黒褐色粘土。

**出土遺物** (第48・71図、図版35・38)

**弥生土器 (581～583)** 581・582は甕底部。外面はハケ、内面はナデ。583は器台。内外面ナデ。

**鉄器 (812)** 鉄鏃。無茎凹基。鏃身は扁平な板状である。基部に矢柄の先端が残る。長さ3.4cm、幅3.15cm、厚み0.15cm。

**S D 05**

西区中央南端に位置し、北西—南東方向にほぼ真っ直ぐ延びる。S D01の延長線上にあり、同じ溝の続きの可能性はある。幅0.6～1.2m、断面浅い鍋底状で深さ10～15cmを測る。溝底は西に向かってわずかに下る。埋土下層に砂層が入り、わずかな流水の痕跡がある。

**出土遺物** (第48図)

**土師器 (584)** 杯。底径10cm。底部外面は回転糸切りで、板状圧痕あり。

**石器 (585)** 剥片。左側縁下方の一部と右側縁上方に使用痕あり。黒耀石製。

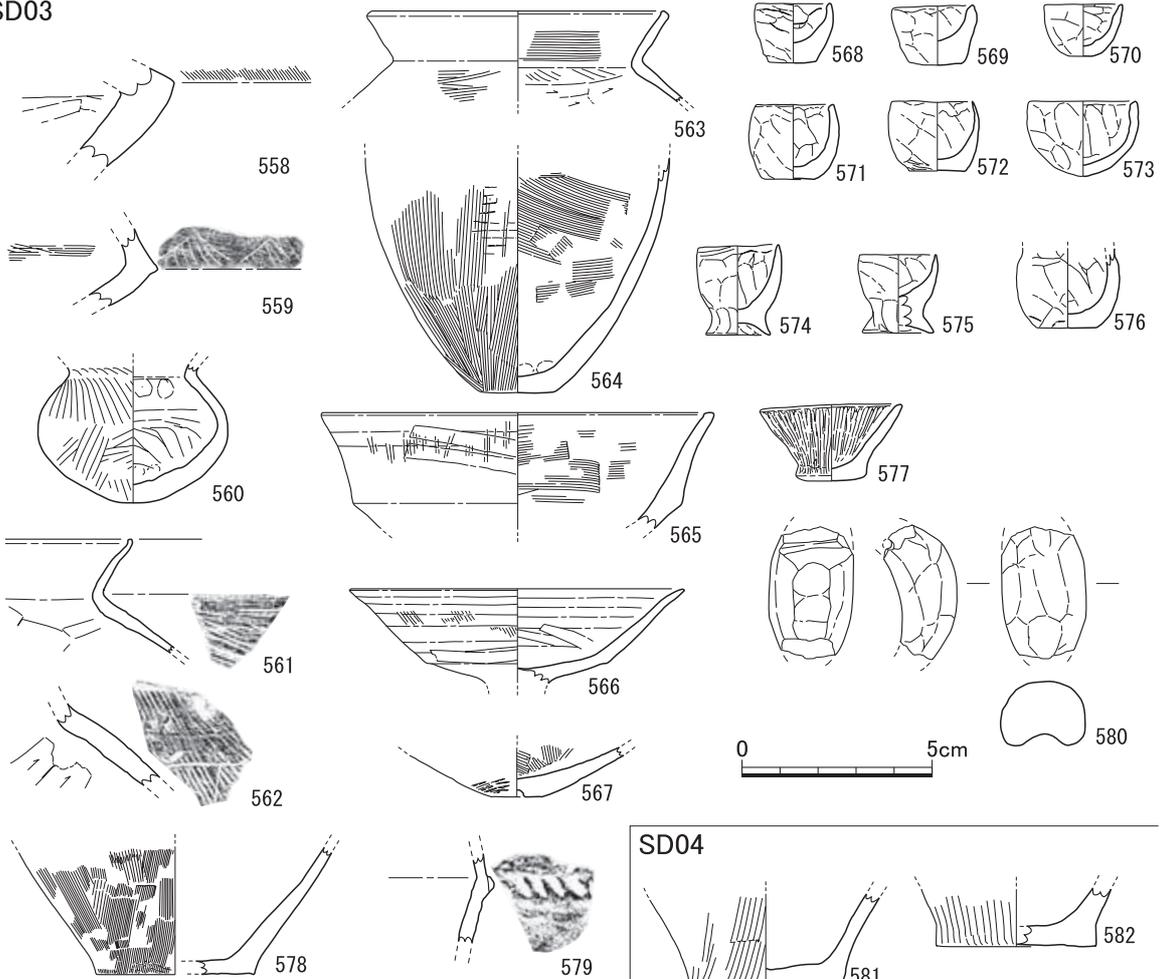
**S D 06** (図版18)

西区南東側に位置し、北北東—南南西方向に真っ直ぐ延びる。中央付近・北端を攪乱に削られる。幅0.6～0.7m、断面逆台形を呈し、深さ25～40cmを測る。溝底は北東に向かって下る。

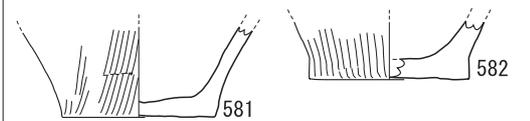
**出土遺物** (第48図)

**縄文土器 (586～590)** 586～588・590は浅鉢。いずれも内外面ともミガキ。586・587は同一個体であろう。頸部は形骸化し沈線を施す。588・590は同類型。口縁部内面は肥厚し段を形成する。589は深鉢。ほぼ直立する口縁部に2条の沈線を施す。586～590は後期末～晩期初頭、広田式に相当する。

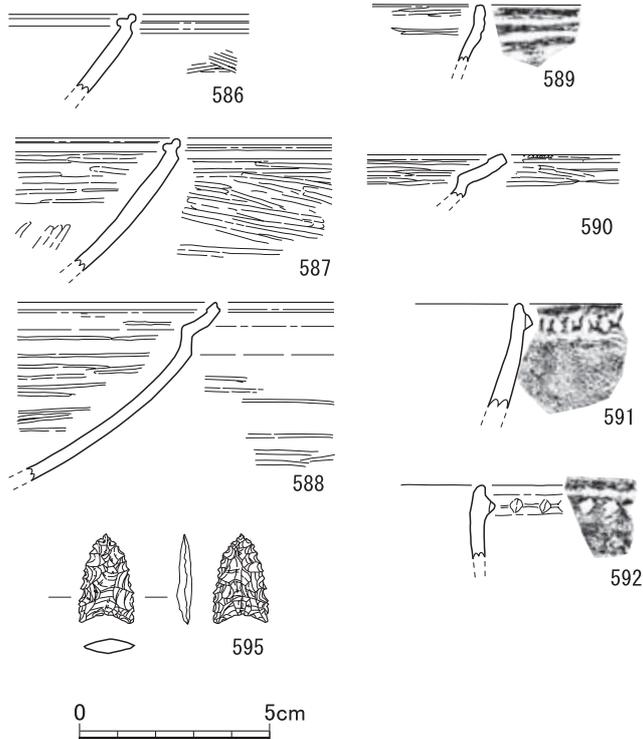
SD03



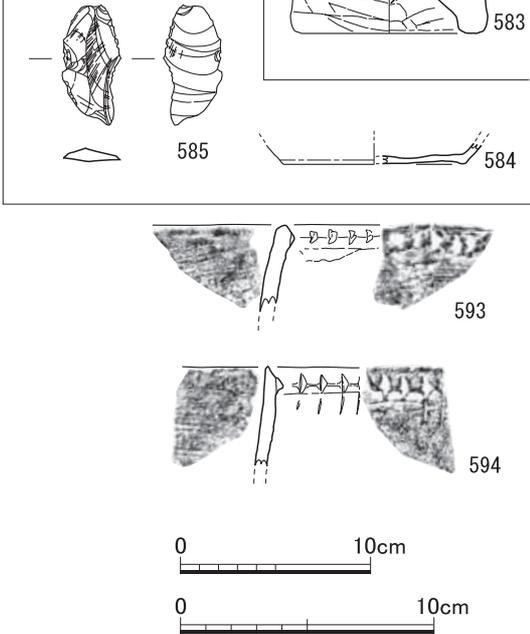
SD04



SD06



SD05



第48図 S D03・04・05・06出土遺物実測図(580・585・595は1/2、558・559・561・562・579・586~594は1/3、その他は1/4)

**弥生土器 (591～594)** 591～594は刻目突帯文深鉢。口縁端部からやや下がった位置に細い突帯を貼り付け、突帯中央に刻みを施す。刻み細い。591は内外面ともナデ。592は外面がナデ、内面が条痕。593・594は内外面とも条痕。

**石器 (595)** 無茎凹基石鏃。安山岩製。

#### S D 07 (第47図、図版18)

西区南東端に位置し、略東西方向で南に向かって湾曲する。S X14に切られる。溝底にS X13がある。幅最大5.5m、壁は立ちぎみで溝底はほぼ平坦だが南側が深い。深さ最大75cm。溝底は東に向かって上がり東端で消える。埋土は粘質土・シルト・砂で強弱の流水を繰り返している。自然流路の可能性が高い。

#### 出土遺物 (第49図、図版34・35)

**弥生土器 (596・597・603)** 596・597は壺。596は袋状口縁壺で、屈曲部に焼成前穿孔あり。597は鋤先口縁壺か。内外面とも丹塗りされる。603は甕。口縁部はくの字状に立ち上がり、胴部が張る。外面はハケ、内面はナデ。

**土師器 (598～602)** 601は脚付小型丸底壺。口縁部がわずかに内湾して長く伸び、体部は浅い。口縁部・体部は内外面ともナデ後密なヘラミガキ。脚部外面はハケ後ナデ、内面はナデ。598～600は甕。598・599は口縁部がわずかに内湾しながら外方へ立ち上がり、胴部はなで肩を呈す。口縁部・頸部は内外面ともヨコナデ。胴部外面はハケで、肩部は横方向、内面はケズリ。器壁薄い。600は口縁部が真っ直ぐ外方へ開き端部は尖る。口縁部外面はヨコナデで輪積み痕を残し、内面はハケ。胴部外面はハケ、内面はケズリ。602は鉢。丸底でやや丸みをもって上方へ延びる。内外面ともハケ後ナデ。

#### S D 08

西区南東端に位置し、東西方向に真っ直ぐ延びる。S X16を切る。幅0.6～0.9m、断面逆台形から壁が真っ直ぐ落ち底面平坦。深さ70～100cm。溝底は45cmの高低差で西へ下る。埋土上層灰黄褐色砂質土、下層砂層。

#### 出土遺物 (第49図)

**土師器 (604)** 器台。脚部は薄く端部面取り。端部はナデ、他は内外面ともハケ後一部ナデ。

#### S D 10 (第47図、図版19)

西区東壁際北端に位置し、略南北方向に真っ直ぐ延びる。S D17・19、S X19を切る。幅0.7～1m、断面逆台形を呈し、深さ40～70cmを測る。溝底は北へ向かって下る。埋土灰黄褐色砂質土。

#### 出土遺物 (第49・50図、図版35)

**縄文土器 (605～607)** 605・606は粗製深鉢。607は鉢。後期後葉～晩期前半に位置づけられる可能性が高い。

**陶磁器 (608)** 龍泉窯系青磁椀。外面に鎬連弁文を有する。釉はオリーブ灰色を呈す。

**石器 (609)** 砥石。砥面は4面である。長さ8.45cm、幅2.8cm、厚み1.1cm。

**土師器 (610～616)** 610は小型丸底壺。口縁部は直線的に外方へ伸び、胴部は球形。口縁部内外面・胴部外面はハケ、胴部内面はナデ。611は甕。口縁部は大きく開き、胴部はなで肩を呈す。口

縁部・頸部は内外面ともヨコナデ。胴部外面はハケで、肩部横方向、内面はケズリ。612は高杯。杯部下半は水平ぎみに短く開き、上下半境に明瞭な稜が付いて上半が内湾ぎみに外方へ開く。外面は縦方向ヘラミガキ、内面は横方向ヘラミガキ。外面に黒色物による文様あり。中心から放射状に幅0.5～1cmの線を10本以上描く。613～616は鉢。613は小型丸底鉢。口縁部下半以下は丁寧なヨコ方向ヘラミガキ。614は口縁部が内傾し端部内面が肥厚する。内外面ともナデ。615・616は浅鉢状を呈す。内外面ともヘラミガキ。

**弥生土器 (617)** 大形甕棺。胴部中位と下位に2条の扁平な突帯を貼り付け、ハケ状工具により刻みを施す。胴部外面はハケ後下位ヘラミガキ、内面はハケ後一部ナデ。胴部最大径58cm。

#### SD11 (第47図、図版18・20)

西区東寄りに位置し、北東—南西方向に真っ直ぐ延びる。試掘トレンチがほぼ真上を同方向に入るため上半が削られる。北端に攪乱が入る。SD12・20、SK14・15を切り、SK11・16に切られる。北延長線上に東区SD21・22が延びる。残存幅最大1.5m、断面逆台形を呈し、深さ最大60cmを測る。溝底は南から北へ向かって下る。2ヶ所でまとまって溝底に小ピットが検出された。埋土灰黄褐色粘質土。

#### 出土遺物 (第51図)

**須恵器 (618～621)** 618～620は杯B身。底部から体部は丸みを持ち、高台は高く外側に踏ん張る。621は高杯。脚部基部は太く、裾部は強く開き端部が下方へ折れる。

**陶磁器 (622～630)** 622は龍泉窯系青磁碗。底部外面はヘラケズリ。高台の外面まで施釉し、明オリーブ灰色を呈す。外面に鑄連弁文、見込みに草花文のスタンプを施文する。623～628は白磁碗。623は口縁部が玉縁口縁。624は高台が短く断面方形で、底部見込みに段がある。高台外面まで施釉。白磁IX類。625・626は高台が細く高い。627・628は高台が高い。625・627・628は見込みに段がある。625・626は高台外面まで施釉、627・628は底部外面露胎。629・630は白磁皿。627は底部平底で外面露胎。白磁皿IX類。628は高台低く、全面施釉。

**土師器 (631～633・635～639)** 631は碗。内外面ナデで、体部内面はミガキ。632・633は小皿。口径9.4cm。器高1.4～1.5cm。底部外面は回転ヘラ切り後ナデ。635は高杯。外面はナデ。636は甕。口縁部が外方へ折れ、頸部に断面三角形突帯を貼り付け刻みを施す。口縁部は内外面ともナデ。胴部外面はナデ、内面はハケ。637・638は鉢。内外面とも指押さえ・ユビナデ。639は甑把手。

**弥生土器 (634)** 甕。上げ底状を呈す。

**瓦質土器 (640～642)** 播鉢。640は3単位以上、641は5単位の櫛目がある。

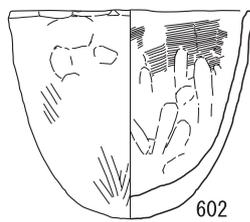
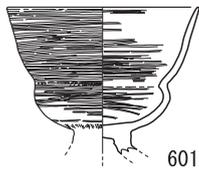
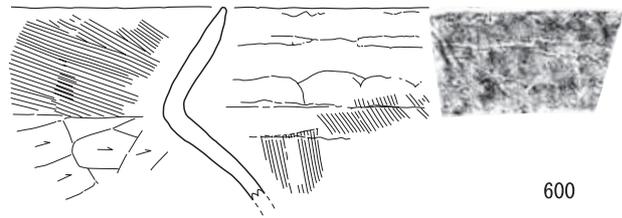
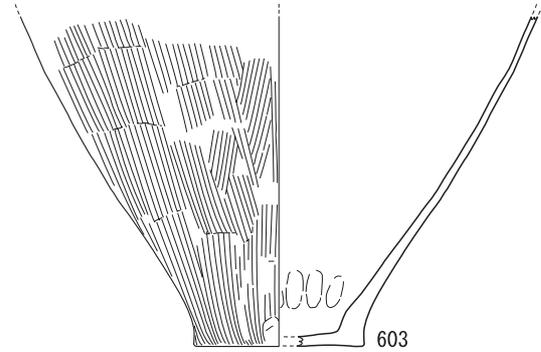
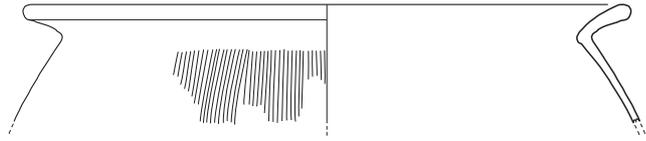
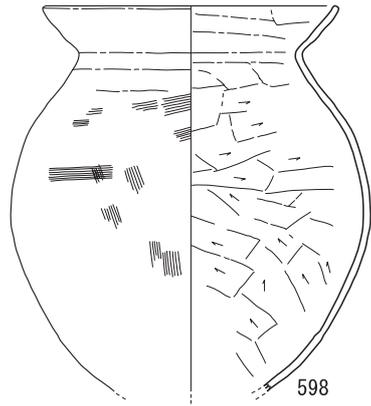
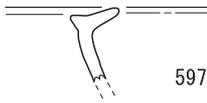
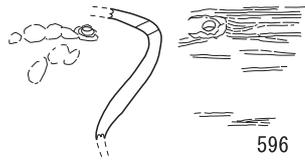
**土製品 (643)** 棒状土製品。ナデ。

**石製品 (644・645)** 644は滑石製石鍋。口縁部直下に鏝が付く。645は凹石。

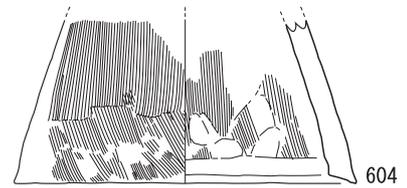
#### SD12 (第47図、図版18・20)

西区東寄りに位置し、北北東—南南西方向に真っ直ぐ延びる。試掘トレンチがほぼ真上を同方向に入るため上半が削られる。北端に攪乱が入る。SD20、SK14・15を切り、SD11、SK11・16に切られる。東区SD21・23に繋がり同一の溝である。残存幅最大約1.5m、断面逆台形を呈し、一部2段堀状を呈す。深さ最大約50cmを測る。溝底は高低差約5cmで南から北へ向かって下る。埋

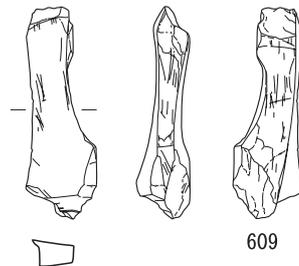
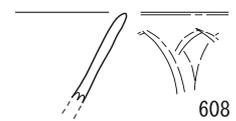
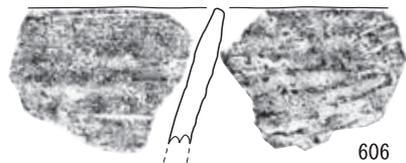
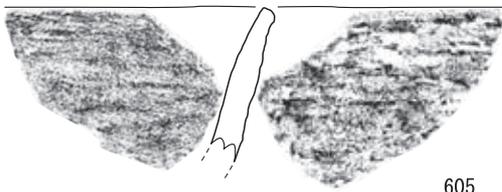
SD07



SD08



SD10



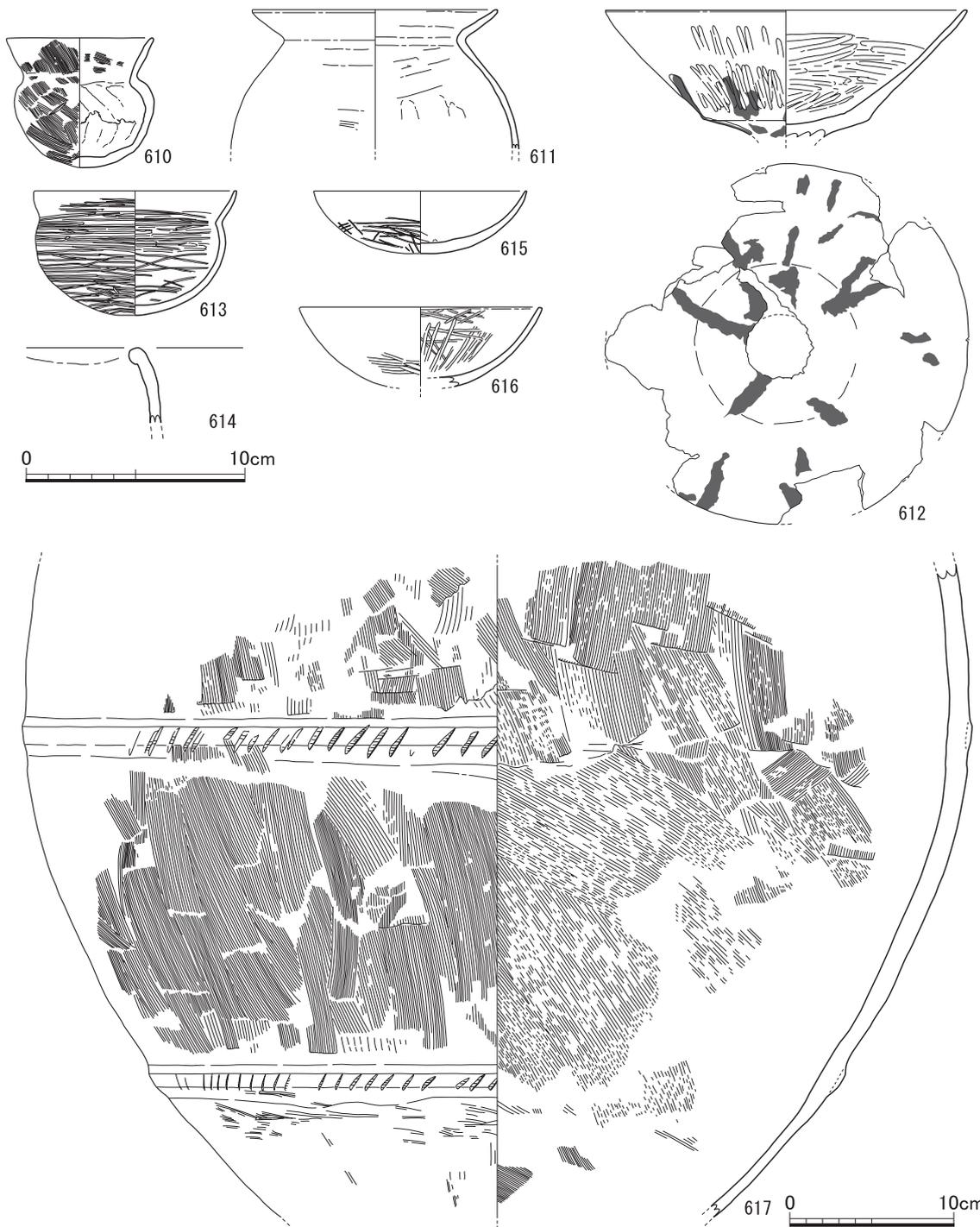
第49図 SD07・08・10出土遺物実測図 (598・601~604は1/4、その他は1/3)

土灰黄褐色粘質土で下層は砂層である。

出土遺物 (第52図)

須恵器 (646~648) 646は杯H蓋。口縁体部境に細く浅い沈線が巡る。端部は外方へ曲がり、内面がわずかに沈線状に窪む。647・648は皿。口径17.0cm、20cm。

陶磁器 (649~651) 649は龍泉窯系青磁碗。内面に片彫り文様あり。釉はオリーブ灰色を呈す。650は白磁碗。口縁部は玉縁状を呈す。651は緑釉陶器碗。内外面とも施釉し、明黄緑色を呈す。



第50図 S D 10出土遺物実測図 (617は1/3、その他は1/4)

**土師器 (652～656・658～660)** 652・653は椀。底部内面はミガキ。654は丸底鉢。内面はヘラミガキ、底部外面はヘラ切り後ナデ。655は高杯脚部。裾に向かってゆるやかに開き、裾部が折れる。656は鉢。底部は平底で丸みをもって体部が立ち上がる。内外面ともユビナデ。658～660は甌。658は外面がハケ、内面はヘラケズリ。659は内外面ともヘラナデ。

**弥生土器 (657)** 甕棺口縁部。口縁部はT字形を呈し内側に大きく突出する。口縁部下に断面三角形突帯が巡る。

**土製品 (661)** 棒状土製品。ナデ。残存長15.3cm、幅5.2cm、厚み2.9cm。

**石器 (662)** 磨石。

#### S D 13 (図版18)

西区中央に位置し、北北東—南南西方向に延びる。北端、南側の一部は攪乱に削られる。幅1～2m、断面浅い皿状を呈し、深さ約20cmを測る。溝底は北に向かって下る。埋土灰黄褐色土。溝北側のS C 12周辺検出時に深さ数cmで埋土灰黄褐色土の溝を確認しており、本来は北側へ延びS D 21へ繋がっていた可能性がある。

#### 出土遺物 (第52図)

**土師器 (663)** 甌把手。ナデ。

**土製品 (664)** 断面円形の棒状を呈す。ナデ。残存長4.2cm、幅2cm、厚み1.5cm。

#### S D 15 (図版19)

西区東側に位置し、北北東—南南西方向に真っ直ぐ延びる。南を攪乱に、北をS X 30に削られる。S C 13・14を切る。幅1.2m、断面逆台形を呈し、深さ30cmを測る。溝底ほぼ水平。埋土灰黄褐色土。S D 06の延長線上にあり、同一の溝である可能性高い。

#### 出土遺物 (第52図)

**土師器 (665)** 杯。底部外面は回転糸切り後ナデ。底部7.8cm。

#### S D 16 (図版19)

西区東側に位置し、北北東—南南西方向に東へわずかに湾曲しながら延びる。南端を試掘トレンチに削られる。S C 14を切る。幅50cm、断面浅い皿状を呈し、深さ10cmを測る。埋土黒褐色土。

#### S D 17 (第47図、図版19)

調査区東壁際中央に位置し、略南北方向に東へ大きく湾曲しながら延びる。S D 19を切り、S D 10に切られる。幅1.3～2.2m、断面鍋底状を呈し、深さ60cmを測る。埋土灰黄褐色砂質土。

#### 出土遺物 (第52図、図版35)

**弥生土器 (666～668)** 666は甕。口縁部がくの字状を呈す。667は器台。外面ナデ。内面は瘤状を呈す。成形は粘土紐積み上げでなく、粘土塊積み上げによる。668は蓋。端部に2孔1対の紐通し孔を対称位置に開ける。内外面ともナデ。外面は丹塗り。

#### S D 18 (図版19)

調査区東壁際中央に位置し、南北方向に延びる。幅0.9～1.3m、浅い皿状を呈し、深さ10～20cmを測る。

#### 出土遺物 (第53図)

**土師器 (669)** 丸底杯。口径14.8cm。口縁部内外面ともナデ。体部内面へラミガキ。

#### S D 19 (図版19)

西区北東に位置し、西北西—東南東方向に真っ直ぐ延びる。西端を攪乱に壊される。幅0.8～1.2m、断面箱形を呈し、深さ30～40cmを測る。埋土黒褐色粘質土で、最下層は砂層となる。

#### 出土遺物 (第53図)

**弥生土器 (670・671)** 670・671は甕。670は底部が分厚く外に突出する。

#### S D 20

西区北西に位置し、西北西—東南東方向に真っ直ぐ延びる。S C 08・09・10、S D 11・12に切られる。東端を攪乱に壊される。幅0.8～1m、断面箱形を呈し、深さ50～80cmを測る。埋土黒褐色粘質土で、最下層は砂層となる。S D 19の延長線上に位置し、形状、埋土が同一であることから同一の溝と考えられる。S D 19・20の溝底は西から東へ向かってゆるやかに下り、高低差約15cmである。わずかに流水があったと考えられる。

#### 出土遺物 (第53図)

**土師器 (672・673)** 672は小型丸底壺。口縁部が外方へ開き、胴部やや扁平で平底ぎみ。673は甕で口縁部がくの字状に折れる。口縁部はヨコナデ。頸部はハケ後ナデ。胴部は内外面ハケで、肩部外面横方向。

**弥生土器 (674)** 甕。底部は分厚く外へ突出する。内外面ともナデ。

**縄文土器 (675)** 浅鉢。内外面ともミガキ。後期末～晩期初頭。広田式に相当する。

#### S D 21

西区北端中央に位置する。南を攪乱に壊される。北側はS D 22～24につながる。幅6.2m、幅広く底面が複数の溝状となる。S D 22～24の重複部分であるが、切り合いが不明瞭で分別できなかったためS D 21として遺物を取り上げた。

#### 出土遺物 (第53・71図)

**須恵器 (676～678)** 676は杯B身。底部から体部が折れて立ち上がる。高台は底端部の内側に付く。677は短頸壺肩部。把手あり。678は鉢か。口縁部は外傾して立ち上がり端部は面をなす。

**黒色土器 (679・680)** 679は黒色土器B類椀口縁部。内外面ともへラミガキ。680は椀底部。内外面ともヨコナデ。

**土師器 (681・685)** 681は鉢。口縁部はやや内湾して短く延び、頸部がややくびれて胴部に至る。内外面ともナデ。685は大形鉢。口縁部がわずかに内湾して開き、体部に繋がる。外面はナデ、内面はハケ。

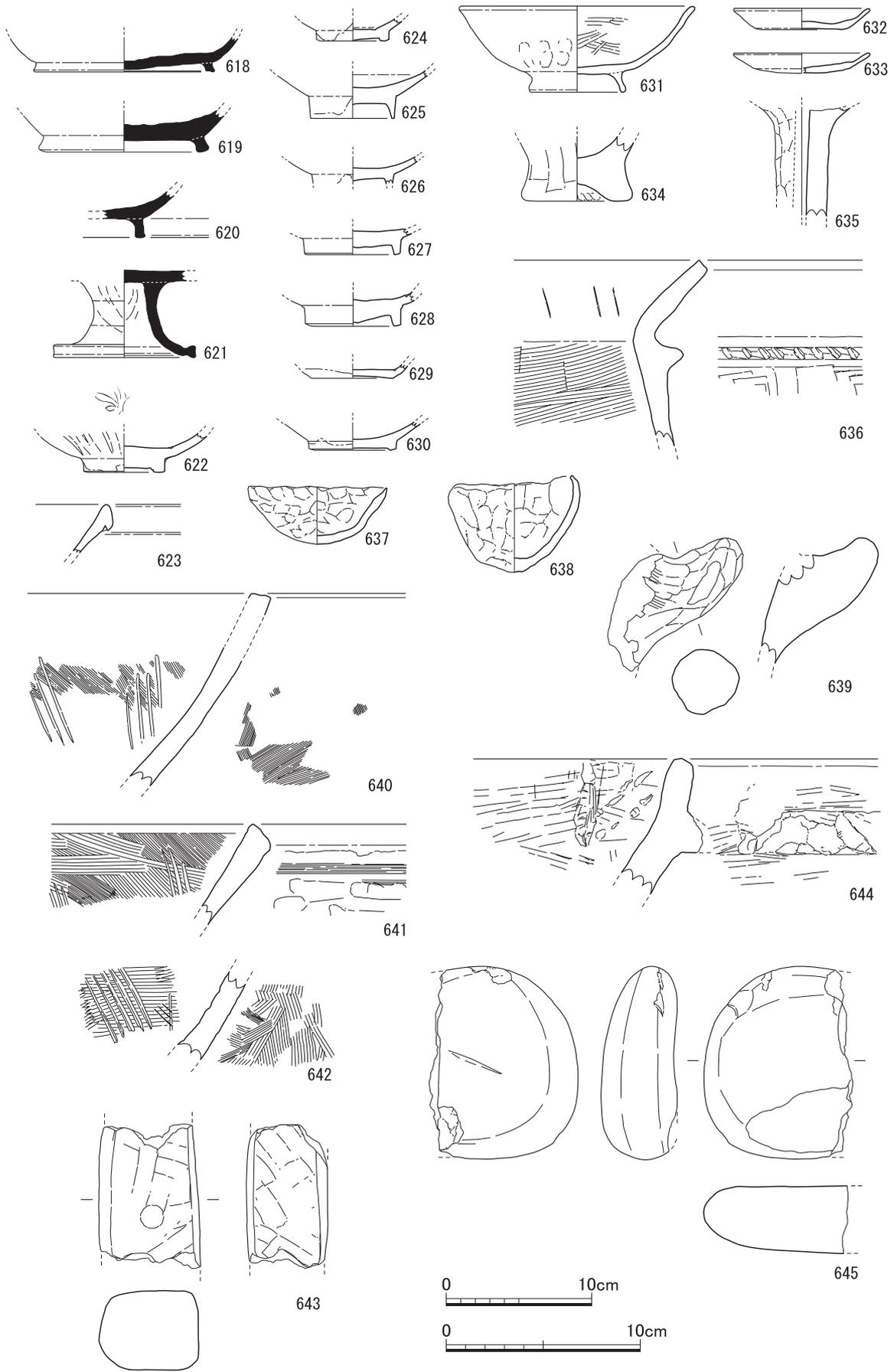
**弥生土器 (682～684)** 甕。口縁部は断面三角形でやや長く伸びる。外面はハケ、内面はナデ。

**瓦 (686)** 平瓦。外面は縄目タタキ、内面は布目痕。

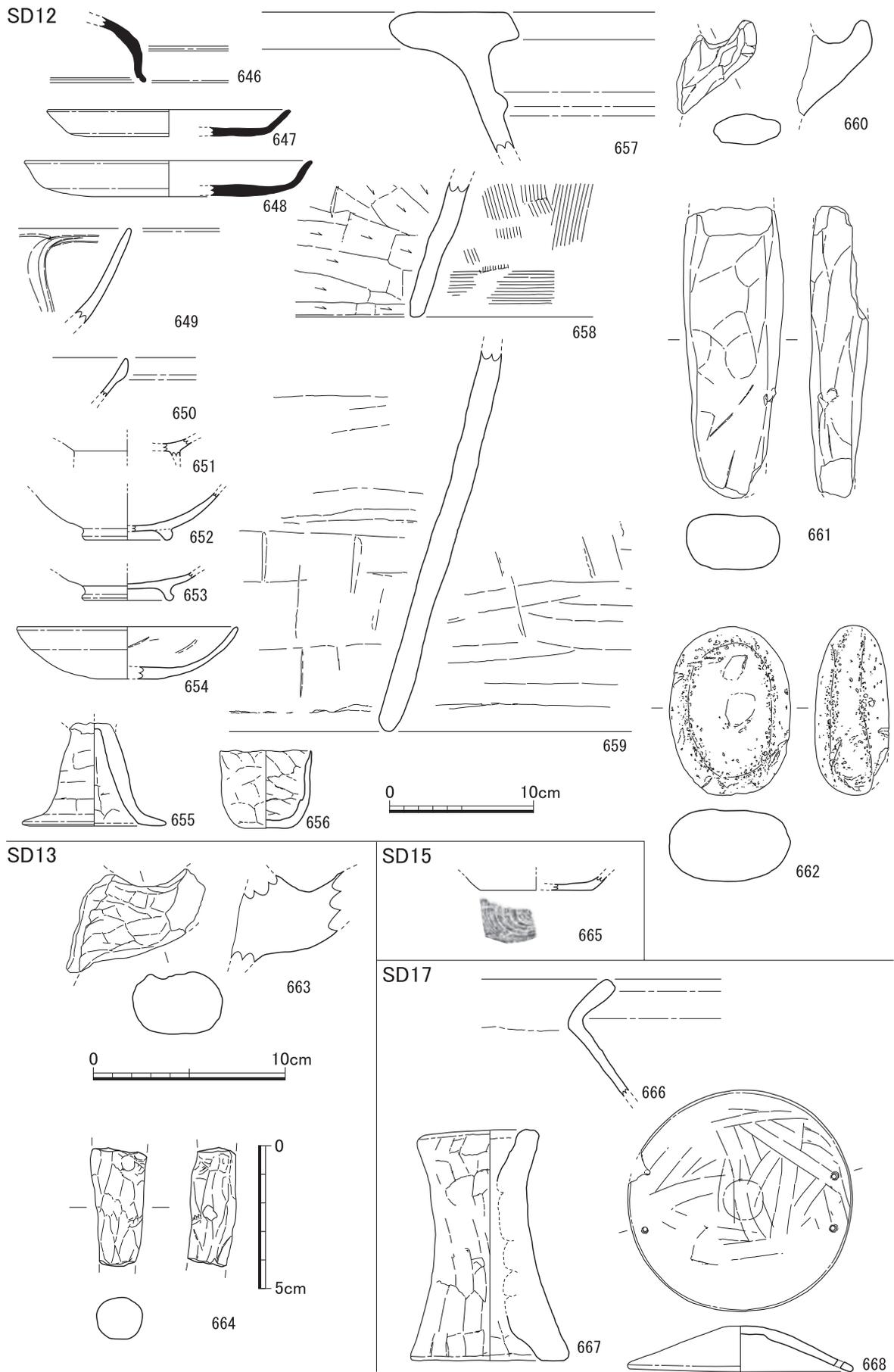
**鉄器 (826)** 鉄釘。残存部長4.85cm、上端径0.5cm、下端径0.3cm。

#### S D 22 (図版19)

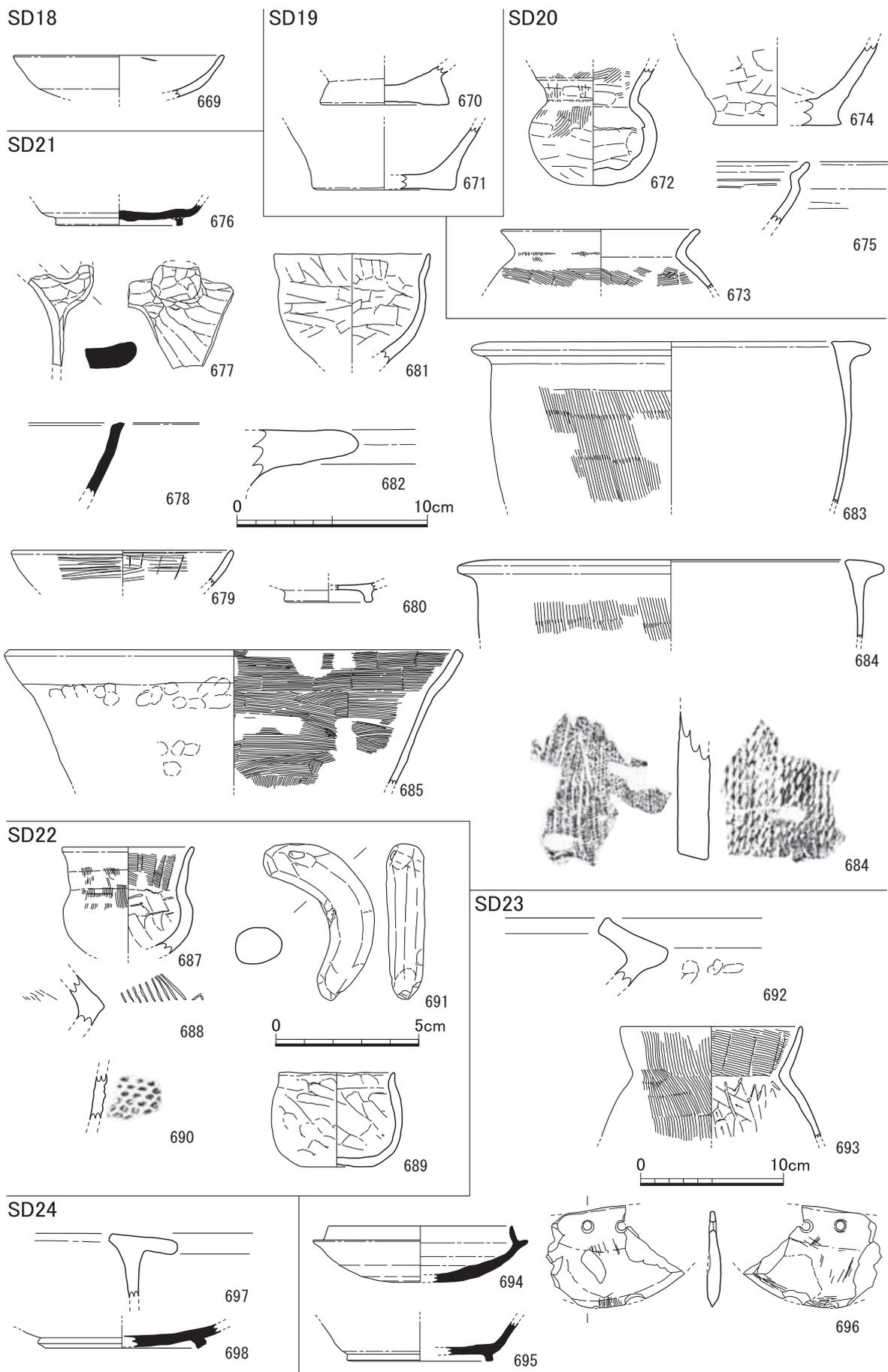
東区南東に位置し、北北東—南南西方向に北へ真っ直ぐ約14m延びてから東へ曲がる。幅0.7～1m、断面逆台形を呈し、深さ20～50cmを測る。溝底は高低差10cmで南から北へ下る。埋土灰黄褐



第51図 S D 11出土遺物実測図 (623・636・639~645は1/3、その他は1/4)



第52図 S D 12・13・15・17出土遺物実測図(664は1/2、646・649・650・657~663・666は1/3、その他は1/4)



第53図 S D 18~24出土遺物実測図(691は1/2、675・677・679・682・684・688・690・692・696・697は1/3、その他は1/4)

色粘質土。位置、形状、埋土からSD11と同一の溝と考えられる。

#### 出土遺物（第53図）

**土師器（687・688・689）** 687は小型丸底壺。口縁部は直立ぎみに延びる。ハケ後ナデ。688は複合口縁壺。口縁受部外面にヘラ状工具による鋸歯文を施す。689は鉢。口縁部が短くわずかに外反し、体部は張らず底部平底を呈す。内外面ともナデ。

**縄文土器（690）** 690は押型文土器。楕円押型文を縦位に施す。

**土製品（691）** 土製勾玉。穿孔空くが貫通しない。ナデ。

#### SD23（図版19）

東区南東に位置し、北北東—南南西方向にゆるいS字を描くように延びる。SX42を切る。幅0.5m前後、断面浅い皿状で、深さ5～10cmを測る。表土除去時にSD22・23の埋土と思われる灰黄褐色土を掘り下げたため、遺構上半を削平した。溝底ほぼ水平。埋土砂層。位置、形状、埋土からSD12と同一の溝の可能性高い。

#### 出土遺物（第53図、図版35）

**土師器（692・693）** 692は複合口縁壺。口縁受部はわずかに外反し内傾する。端部面をなす。693は甕。口縁部はわずかに内湾し直立ぎみに長く延びる。胴部は張らない。口縁部は内外面ともハケ。胴部外面はハケ、頸部内面はナデ、以下ケズリ。

**須恵器（694・695）** 694は杯H身。口径12.9cm。受部は外反しながら短く立ち上がる。受け部は丸みをもつ。695は杯B身。体部は底部から折れて外方へ立ち上がる。

**石器（696）** 石庖丁。穿孔2個。刃部両刃。

**鉄器（827）** 板状を呈す。残存長1.6cm、幅2.1cm、厚み0.2cm。

#### SD24（図版19）

東区南東に位置し、北北東—南南西方向に真っ直ぐ延びる。南端を攪乱に切られる。幅1～1.5m、断面浅い皿状を呈し、深さ15～20cmを測る。溝底は北から南へ下る。

#### 出土遺物（第53図）

**弥生土器（697）** 甕。口縁部逆L字状を呈し、端部が下がり内側が突出する。

**須恵器（698）** 杯B身。底部は丸みもち、高台は高めで外側へ踏ん張る。

#### SD25（第3図）

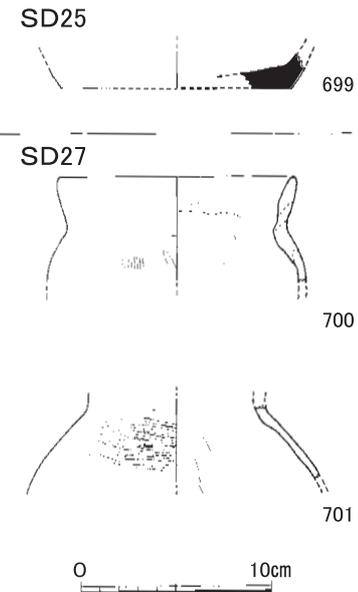
東区南東側に位置し、SD22と重複する。結果的に明確な溝状を呈さず、SD22・23間で周辺より一段低い部分となった。

#### 出土遺物（第54図）

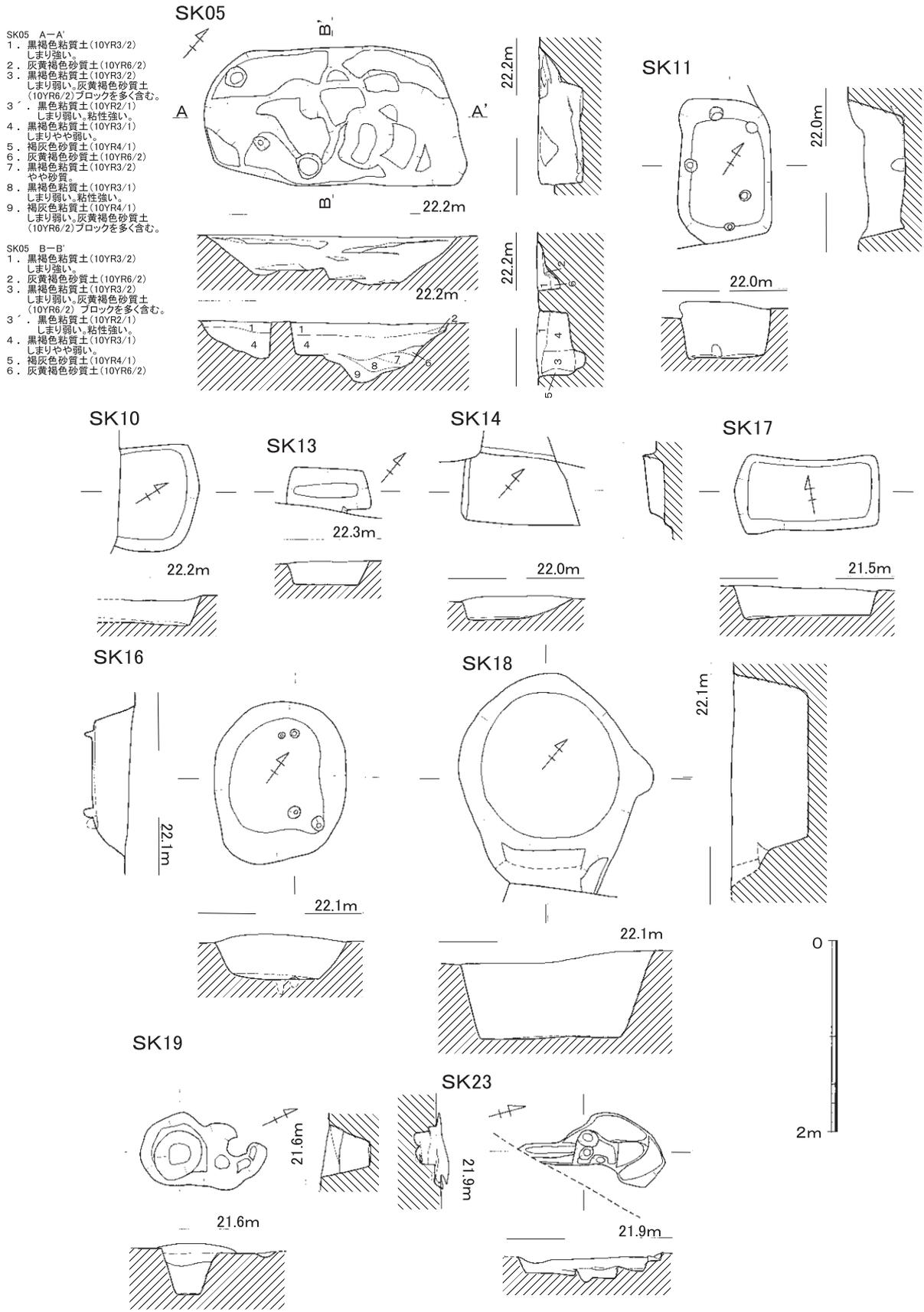
**須恵器（699）** 杯Aか。内外面とも回転ナデ。

#### SD26

東区北西端に位置し、北東—南西方向に真っ直ぐ延びる。幅1.5m、断面逆台形を呈し、深さ50



第54図 SD25・27出土遺物  
実測図(1/4)



第55図 SK05・10・11・13・14・16~19・23実測図 (1/60)

cmを測る。埋土黒褐色粘質土。

#### S D 27

北東区西側に位置し、北東—南西方向に真っ直ぐ延びる。幅0.6～0.8m、断面逆台形で20～50cmを測る。埋土黒褐色粘質土。

#### 出土遺物 (第54図)

**土師器 (700・701)** 700・701は甕。700は口縁部が直立ぎみに延びる。口縁部・頸部は内外面ともヨコナデ、胴部外面はハケ、内面はナデ。701は胴部がなで肩。肩部は内外面ともナデ、胴部外面はタタキ、内面はケズリ。

#### (4) 土坑

#### S K 02

西区北西西壁際に位置し、S D 03を切る。平面隅丸方形を呈し、長さ74cm、幅63cm、深さ42cmを測る。壁面は直立ぎみで、南側がテラスとなり、北側が1段深くなる。

#### S K 03

西区北西に位置し、S D 01に切られる。平面方形を呈し、長さ115cm、幅108cm、深さ15cmを測る。壁面は直立し、底面平坦となる。

#### S K 04

西区北西南壁際に位置し、S D 01、S X 01を切る。平面隅丸長方形で長さ178cm、幅75cm、深さ53cmを測る。壁面は直立ぎみで、南側がテラスとなり、北側が深くなる。

#### S K 05 (第55図)

西区北東に位置し、南東隅を攪乱に削られる。平面隅丸長方形を呈し、長さ290cm、幅150cm、深さ60cmを測る。壁面は南壁が直立し、他はゆるやかに立ち上がる。北側がテラスとなり、底面はほぼ平坦となる。東側がピット状に一段深い。北側テラスに1ヶ所、西側底面に2ヶ所ピットがある。

#### 出土遺物 (第56図)

**石器 (702)** 凹基三角形石鏃。黒曜石製。

#### S K 10 (第55図)

西区南壁際中央に位置し、南側は調査区外へ延びる。平面方形で幅114cm、残存長83cm、深さ25cmを測る。壁面はほぼ直立し、底面は平坦である。

#### 出土遺物 (第56図)

**土師器 (703)** 鉢である。外面タタキ後ハケ、内面ハケ後ナデ。

#### S K 11 (第55図)

西区北端に位置し、S D 11を切る。平面隅丸長方形を呈し、長さ152cm、幅97cm、深さ63cmを測る。東西壁面はなだらかに立ち上がり、南北壁面は直立する。底面は平坦で、ピットが壁際に4基、北東側に1基ある。

#### 出土遺物 (第56図)

**土師器 (704・706)** 704は杯。底径9.1cm、底部外面回転糸切り。706は鉢。体部上位外面ハケ、中位以下タタキ。内面ナデ。

弥生土器 (705) 甕底部。底部は上げ底状となる。

S K 13 (第55図)

西区東側北コーナーに位置し、S C 12を切る。平面隅丸長方形を呈し、長さ88cm、幅46cm、深さ23cmを測る。壁面はなだらかに立ち上がり、底面は平坦である。

出土遺物 (第56図)

須恵器 (707) 杯H身。口径11.2cm。立ち上がりは内傾して短く延びる。受部は丸みをもつ。

S K 14 (第55図)

西区東側に位置し、S D 12に東側、S K 11に南西隅を切られる。現状で平面長方形を呈し、残存長123cm、幅70cm、深さ22cmを測る。壁面はなだらかに立ち上がり、底面は平坦で南に傾斜する。遺物は土師器在来系壺・鉢が出土した。

出土遺物 (第56図)

土師器 (708) 鉢。口縁部に向かって緩やかに内湾して立ち上がる。内外面ともハケ後ナデ。

S K 16 (第55図)

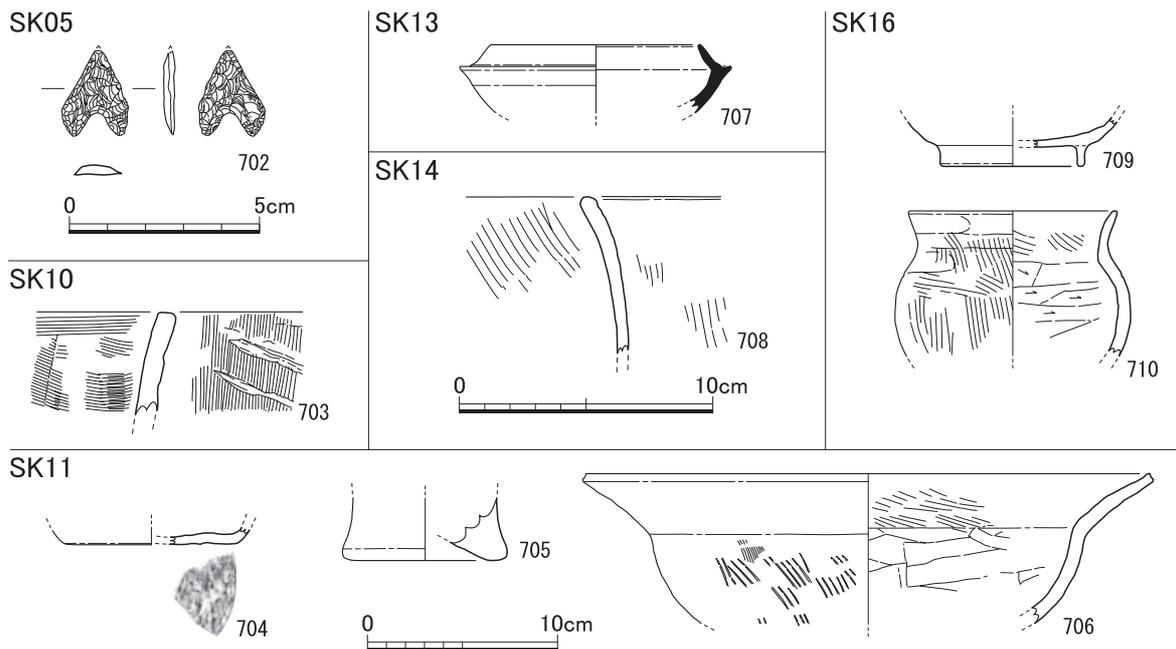
西区東側北端付近に位置し、S D 21を切る。平面楕円形を呈し、長径167cm、短径136cm、深さ62.5cmを測る。壁面はなだらかで断面は深い皿状となる。底面にピットが3基検出された。

出土遺物 (第56図)

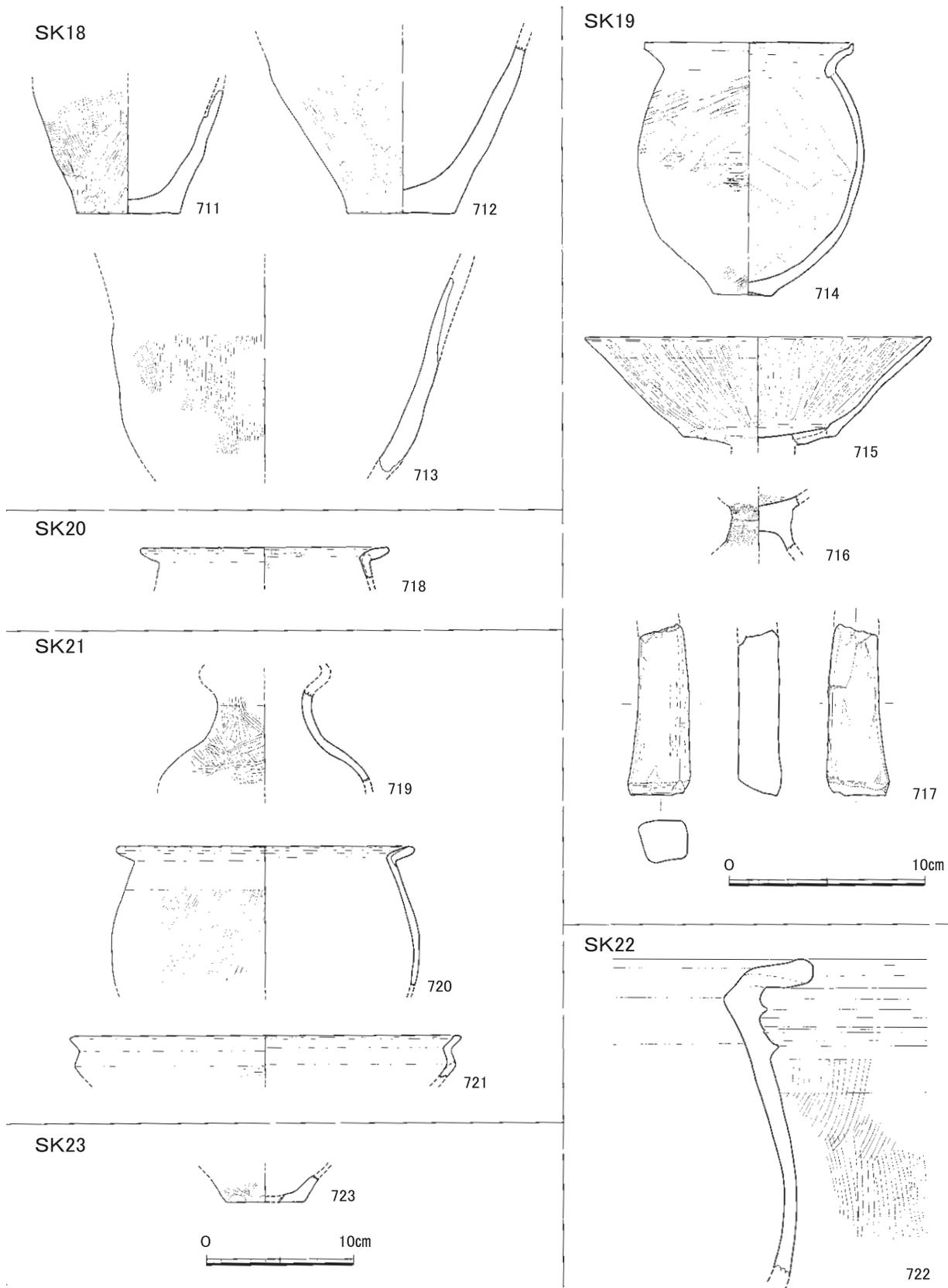
土師器 (709・710) 709は椀である。底部に高く細い高台が付く。底部外面に板状圧痕あり。710は小型甕。口縁部ゆるやかに外半し、端部丸い。口縁部内外面ナデ。胴部外面ハケ、内面ケズリ。

S K 17 (第55図)

西区東側北東隅に位置する。平面長方形を呈し、長さ150cm、幅91cm、深さ33cmを測る。壁面は直立ぎみで、底面は平坦である。主軸がほぼ東西方向。出土遺物は土師器細片がある。



第56図 S K 05・10・11・13・14・16出土遺物実測図 (702は1/2、703・708は1/3、その他は1/4)



第57図 SK 18~23出土遺物実測図(1/3、1/4)

#### S K 18 (第55図、図版21)

東区中央に位置し、S C 22・29に下面で検出された。平面楕円形を呈し、長径53cm、短径46cm、深さ32cmを測る。壁面は比較的なだらかに立ち上がり、底面は平坦である。埋土下層から弥生土器甕がまとまって出土した。

#### 出土遺物 (第57図)

**弥生土器 (711~713)** 甕である。712・713は底部で外面ハケ後ヘラミガキ、内面ナデである。713は下胴部で、外面ハケ、内面ナデである。

**S K 19 (第55図、図版21)** 東区北端に位置し、S X 45の下面で検出された。平面楕円形を呈し、長径53cm、短径46cm、深さ32cmを測る。壁面はなだらかに立ち上がる。

#### 出土遺物 (第57図、図版35)

**土師器 (714~716)** 714は甕である。口縁部は外反し、端部外面が強くナデられ受口状となる。底部輪台成形で不安定な平底。胴部外面タタキ後下半ナデ、内面ナデ。畿内V様式系甕か。715・716は高杯。715の杯部は上下半境が稜をなし、わずかに外反しながら大きく開く。内外面とも放射状ヘラミガキ。716は脚杯接合部。脚部外面ハケ、内面ナデ。杯底部内外面ともミガキ。

**石器 (717)** 砥石である。砥面4面。

#### S K 23 (第55図)

北東区中央に位置し、東側を攪乱に壊される。平面不整形で、長さ65cm、幅64cm、深さ18cmを測る。底面は中央が平面方形で一段深くなる。テラスおよび底面にピットがある。

#### 出土遺物 (第57図)

**弥生土器 (723)** 甕底部。外面ハケ後ナデ。丹塗りされる。

### (5) 性格不明遺構

#### S X 01 (第58図、図版21)

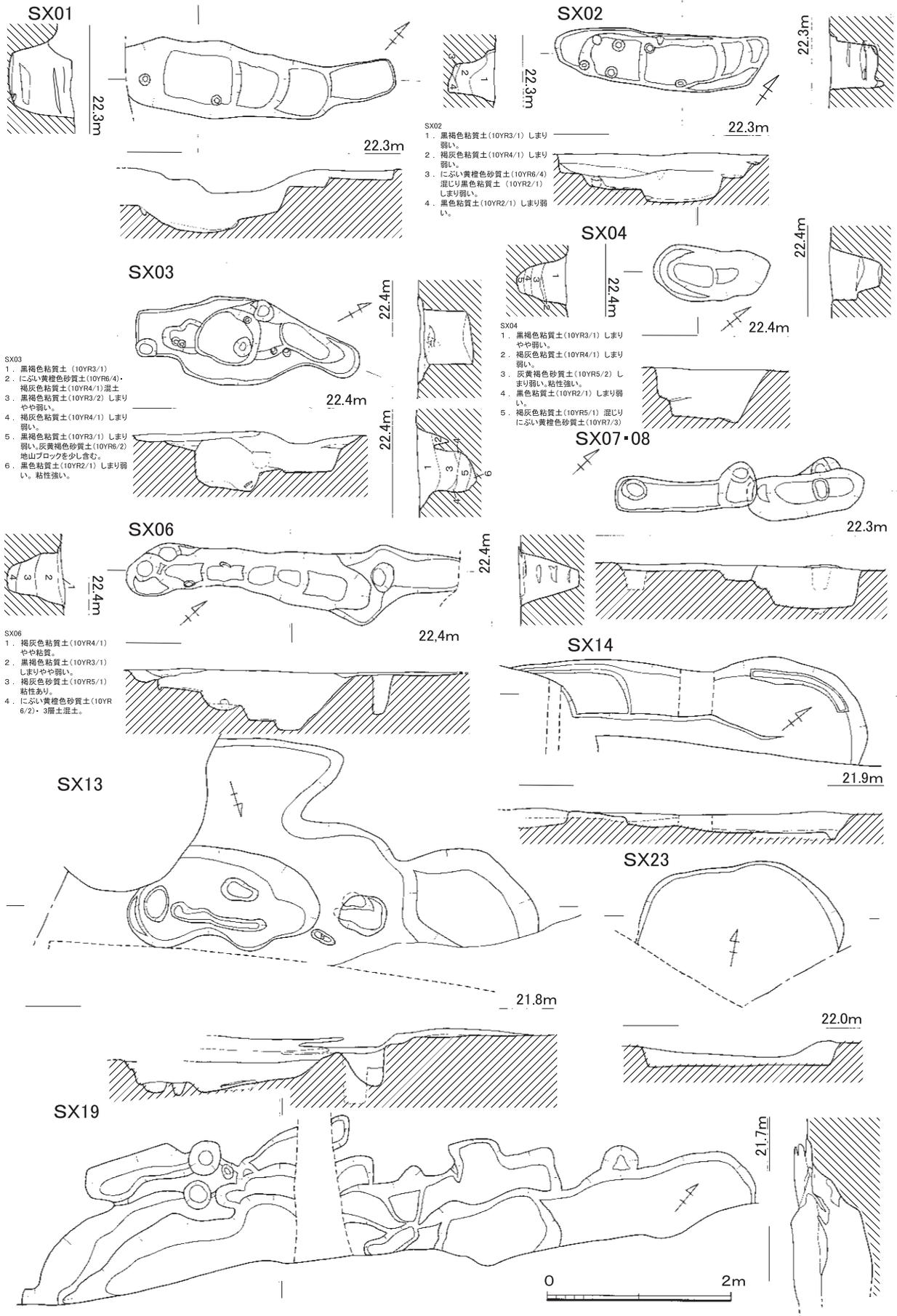
西区西側に位置し、S D 01、S K 04に切られる。南側が調査区外へ延びる。S X 01~04・05・07・08は主軸を同じくして、S D 04との間約3mで並行してほぼ一直線に並ぶ。S X 01は平面隅丸長方形を呈し、長さ2.98m、幅0.94m、深さ70cmを測る。溝状で、壁面はほぼ直立する。底面は南側に1段、北側に3段テラスが付いて階段状を呈し、中央が一番深くなり、平面方形、底面皿状となる。テラス、底面にピットがある。埋土黒褐色粘質土。

#### S X 02 (第58図、図版21)

西区西側に位置する。平面長楕円形を呈し、長径2.31m、短径0.72m、深さ60cmを測る。壁面は直立する。底面は南側に2段、北側に2段テラスが付いて階段状を呈し、中央が一番深くなり、平面長方形で底面皿状となる。南側テラス、底面東西壁際にピットがある。ピットは東西2基で1セットとなる。埋土黒褐色粘質土。出土遺物は弥生土器または土師器細片が出土した。

#### S X 03 (第58図、図版21)

西区西側に位置する。平面不整楕円形を呈し、長さ2.45m、幅0.95m、深さ75cmを測る。壁面は直立する。底面は南側に1段、北側に2段テラスがあつて階段状を呈し、中央が一番深くなり、平面円形、底面平坦となる。テラス、底面にピットがある。埋土黒褐色粘質土。



- SX03
1. 黒褐色粘質土 (10YR3/1)
  2. にぶい黄褐色砂質土 (10YR6/4)・褐灰色粘質土 (10YR4/1) 混土
  3. 黒褐色粘質土 (10YR3/2) しまりやや弱い。
  4. 褐灰色粘質土 (10YR4/1) しまり弱い。
  5. 黒褐色粘質土 (10YR3/1) しまり弱い、灰黄褐色砂質土 (10YR6/2) 地山ブロックを少し含む。
  6. 黒色粘質土 (10YR2/1) しまり弱い。粘性強い。

- SX02
1. 黒褐色粘質土 (10YR3/1) しまり弱い。
  2. 褐灰色粘質土 (10YR4/1) しまり弱い。
  3. にぶい黄褐色砂質土 (10YR6/4) 混じり黒色粘質土 (10YR2/1) しまり弱い。
  4. 黒色粘質土 (10YR2/1) しまり弱い。

- SX04
1. 黒褐色粘質土 (10YR3/1) しまりやや弱い。
  2. 褐灰色粘質土 (10YR4/1) しまり弱い。
  3. 灰黄褐色砂質土 (10YR5/2) しまり弱い。粘性強い。
  4. 黒色粘質土 (10YR2/1) しまり弱い。
  5. 褐灰色粘質土 (10YR5/1) 混じりにぶい黄褐色砂質土 (10YR7/3)

- SX06
1. 褐灰色粘質土 (10YR4/1) やや粘質。
  2. 黒褐色粘質土 (10YR3/1) しまりやや弱い。
  3. 褐灰色砂質土 (10YR5/1) 粘性あり。
  4. にぶい黄褐色砂質土 (10YR6/2)・3層土混土。

第58図 S X 01~04・06~08・13・14・19・23実測図 (1/60)

**S X 04** (第58図)

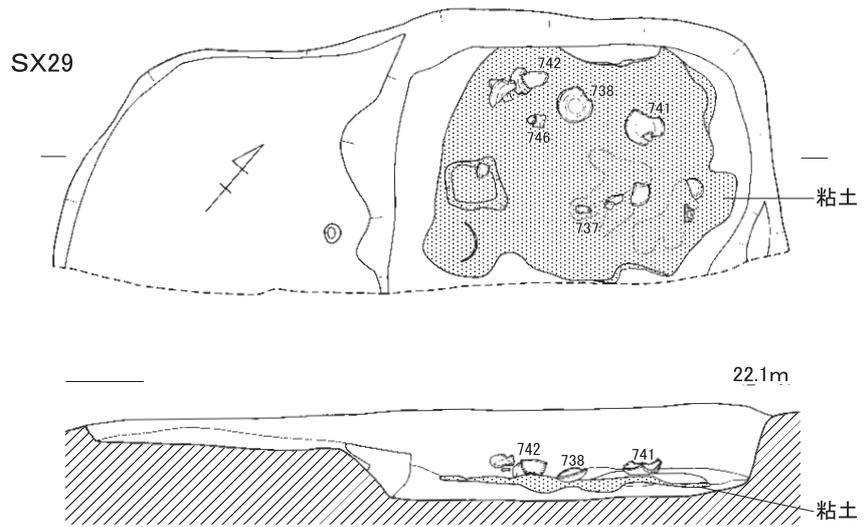
西区西側に位置する。平面楕円形を呈し、長さ1.44m、幅0.64m、深さ60cmを測る。壁面は直立する。底面は南側に1段テラスがあり、中央・東側が深くなる。埋土黒褐色粘質土。出土遺物は弥生土器甕破片がある。

**S X 06** (第58図)

西区西側に位置する。平面溝状の不整形で、長さ3.68m、幅0.9m、深さ66.5cmを測る。壁面はゆるやかに立ち上がり、底面は南側に4段、北側に1段テラスが付き階段状を呈し、中央北寄りが一番深くなる。北側テラス中軸線上、南側テラス壁際にピットがある。埋土上層は黒褐色粘質土、下層は褐灰色砂質土となる。出土遺物は土師器布留系甕がある。

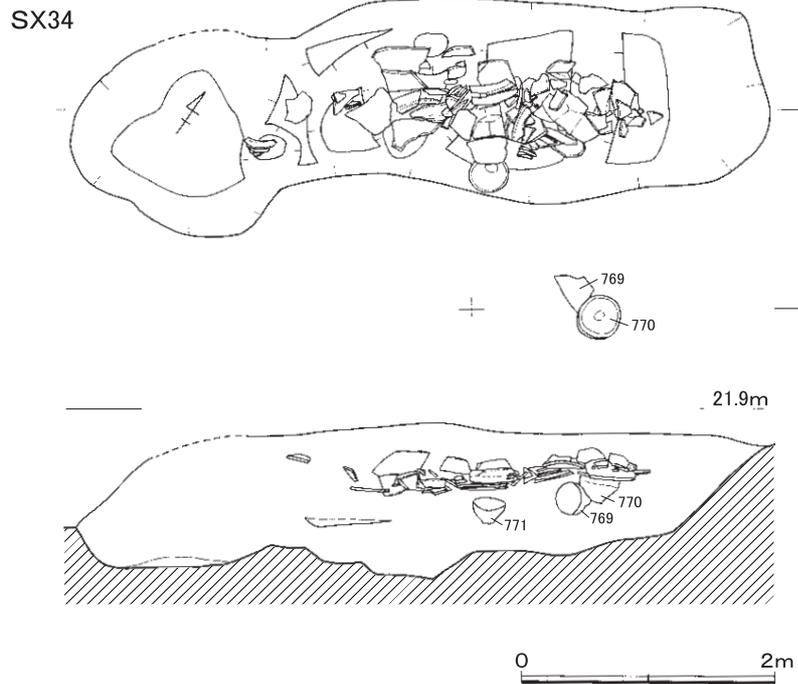
**S X 07・08** (第58図、図版21)

西区西側北壁寄りに位置する。平面隅丸長方形のS X 07とS X 08が連結する。全長2.7m。S X 07の長さ1.54m、幅0.48m、深さ28cm、S X 08の長さ1.27m、幅0.59m、深さ53cmを測る。底面にピットがある。埋土黒褐色粘質土。出土遺物はS X 07で弥生土器・土師器細片がある。



**S X 13** (第58図)

西区南東側に位置し、SD07と重複する。SD07中層から切り込む。北側は攪乱により壊される。平面不整形で、底面中央が平面楕円形で一段深くなる。長径2.1m、短径1.2mを測る。底面にピットがある。

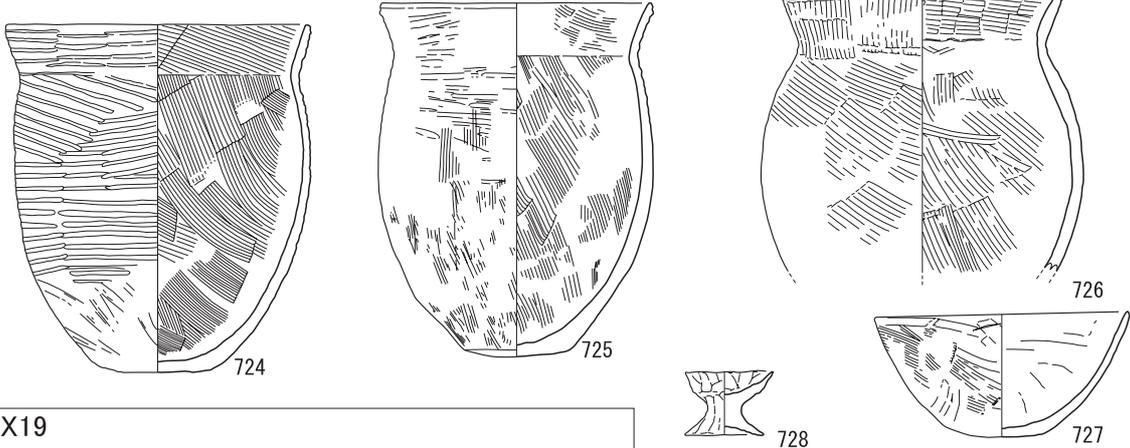


**S X 14** (第58図、図版21)

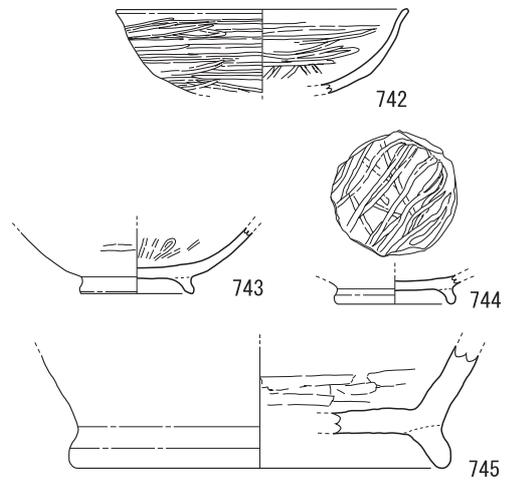
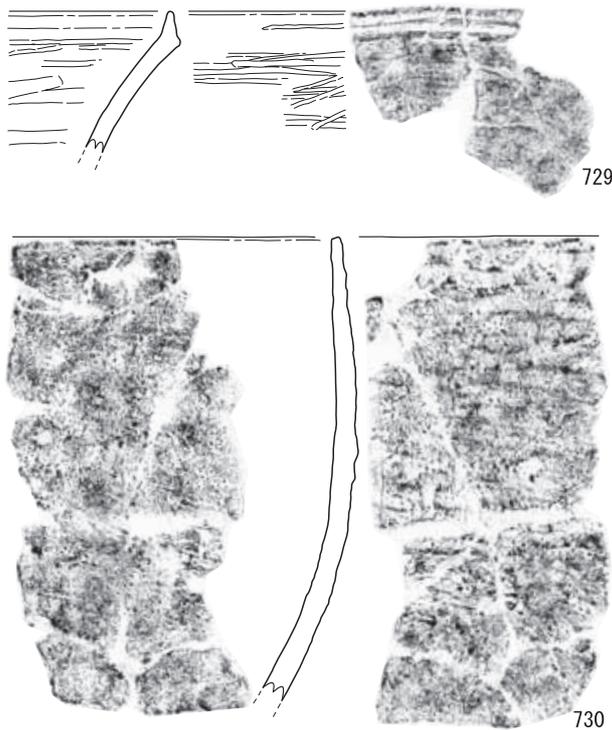
西区南東隅に位置する。SD07、S X 15を切る。東側を試掘トレンチによ

第59図 S X 29・34実測図 (1/30)

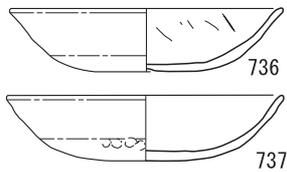
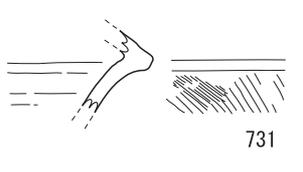
SX15



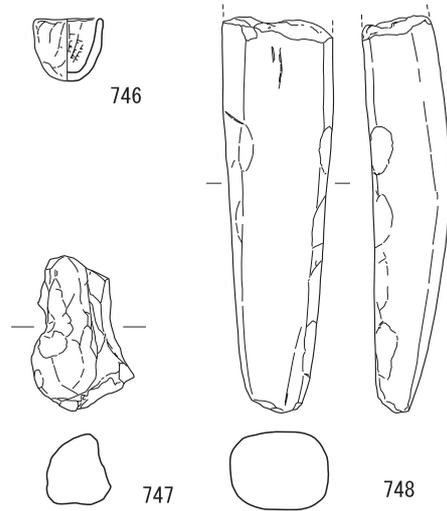
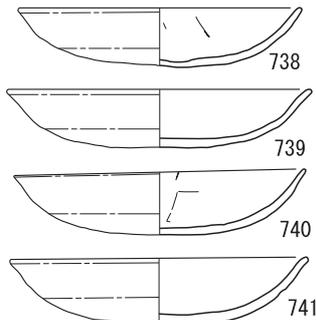
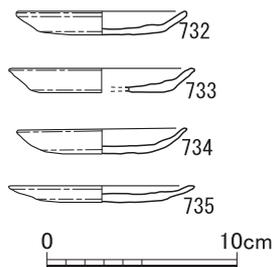
SX19



SX28



SX29



0 5cm

0 10cm

第60図 S X 15・19・28・29出土遺物実測図 (747は1/2、729~731・748は1/3、その他は1/4)

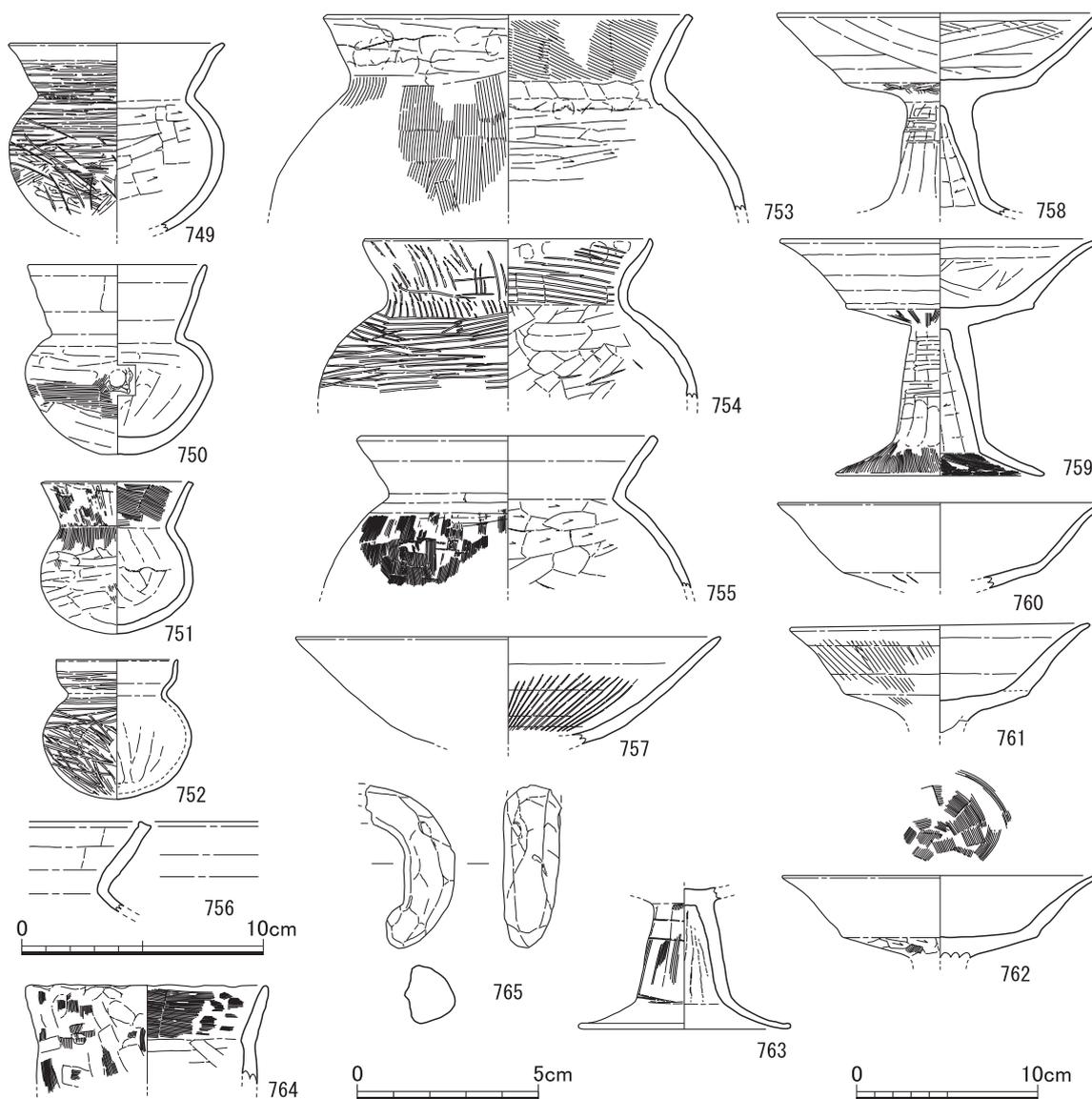
り削平される。平面隅丸方形と推定され、残存長3.7m、深さ20cmを測る。壁面はゆるやかに立ち上がり、底面は平坦。北西壁際に溝が巡る。埋土灰黄褐色粘質土。出土遺物は須恵器・土師器皿である。

**S X 15 (図版21)**

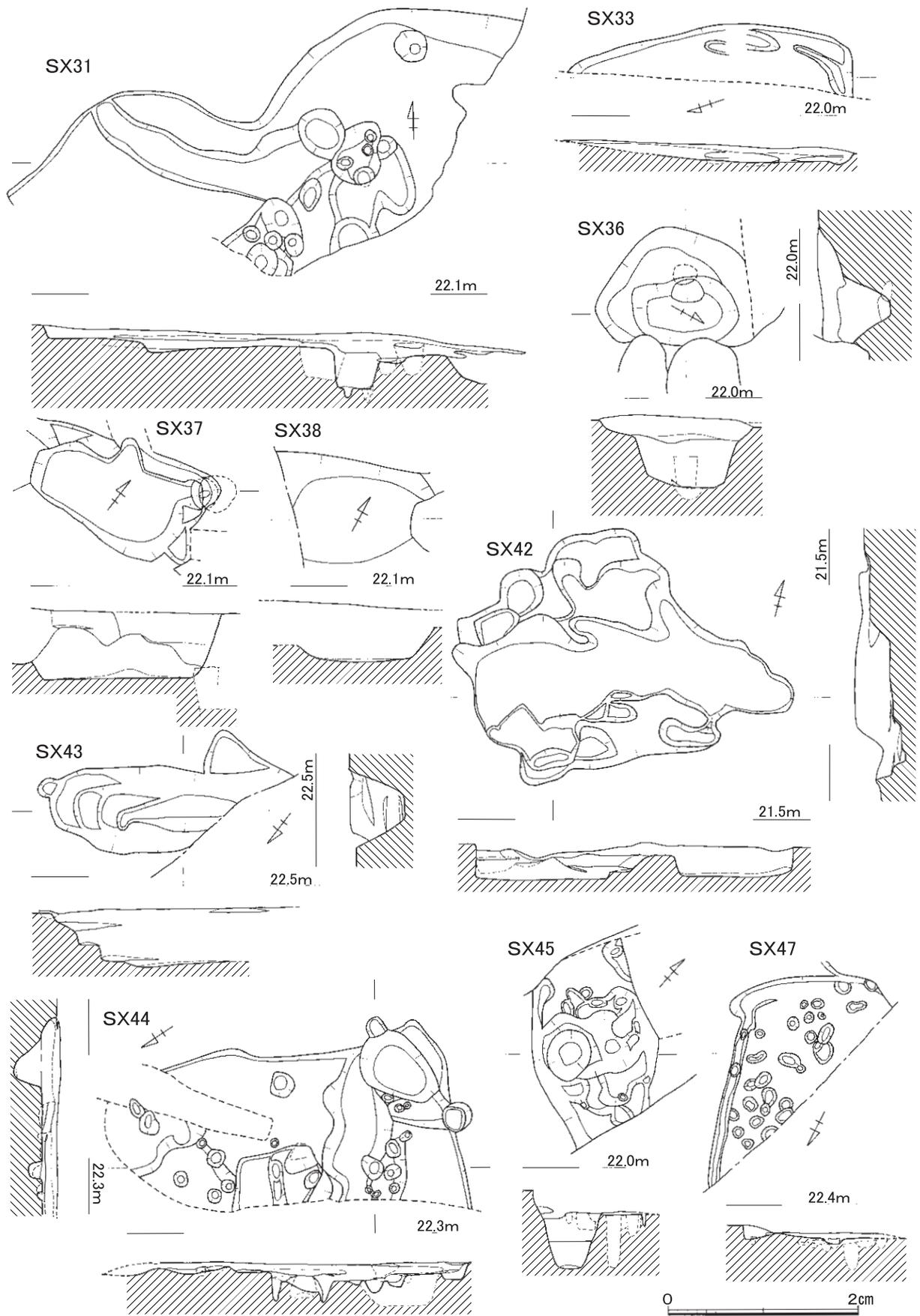
西区南東隅に位置し、北側を試掘トレンチに削平され、表土除去時に遺構の上層を削平してしまった。平面長方形を呈し、残存長2.76m、幅2.22m、深さ27.5cmを測る。壁面は直立し、底面は平坦で平面円形のピット、土坑状の落ち込みがある。埋土は灰黄褐色粘質土で、上層に炭化物・焼土が混じる。床面直上で弥生土器が出土した。

**出土遺物 (第60図、図版37)**

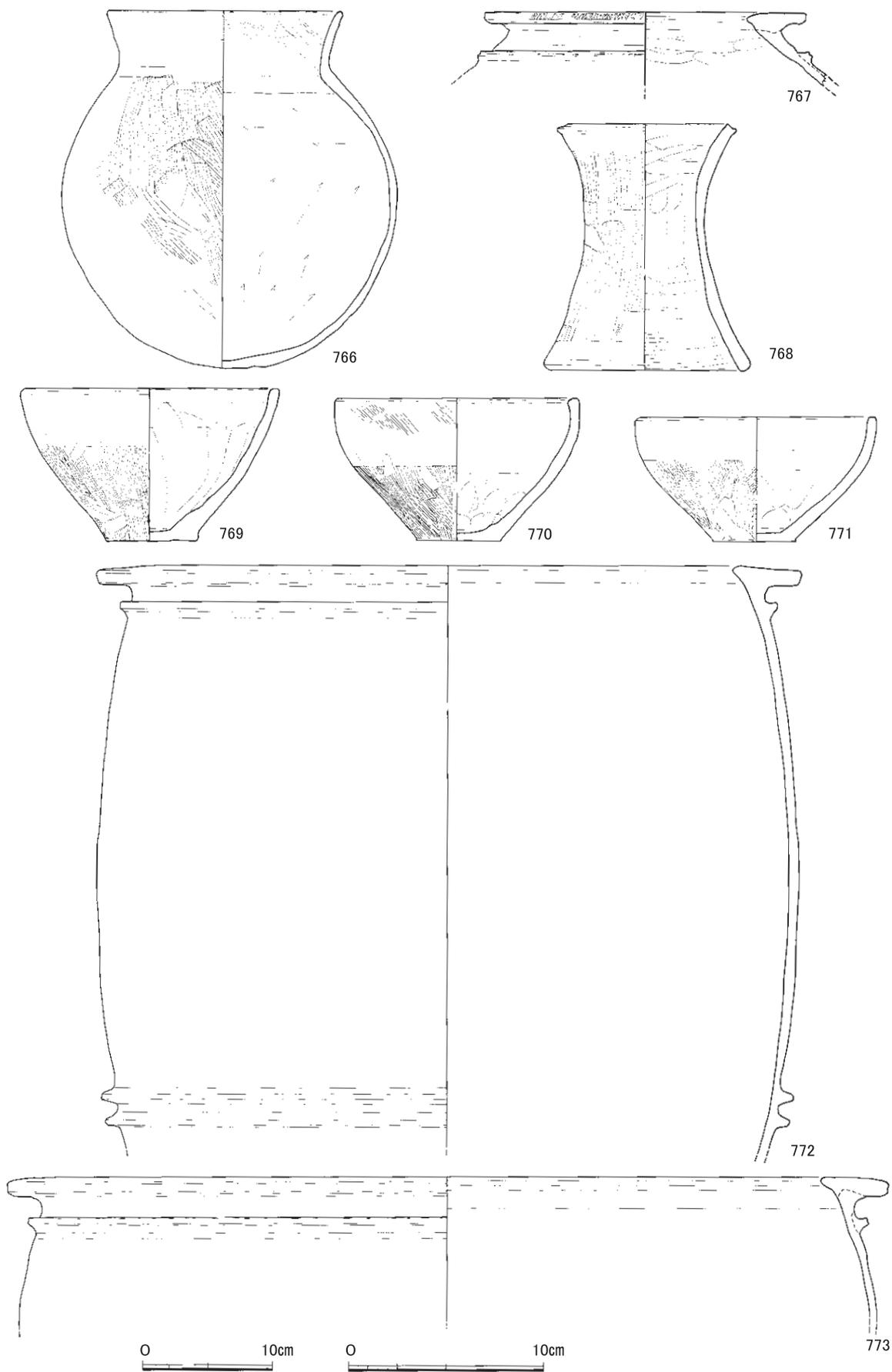
**弥生土器 (724~728)** 724~726は甕。724・725は口縁部が直立ぎみに延び端部面取り。胴部は張らず底部はレンズ状底。724は外面タタキ後底部付近ナデ、内面ハケ。725は口縁部外面タタキ、内



第61図 S X 27出土遺物実測図 (765は1/2、756は1/3、その他は1/4)



第62図 S X 31 · 33 · 36~38 · 42~45 · 47実測図 (1/60)



第63図 S X 34出土遺物実測図 (1/4、1/6)

面ハケ。胴部外面タタキ後ハケ、底部付近ケズリ後ハケ。内面ハケ。726は口縁部が直立ぎみに延び端部面取り、胴部は中位がやや張り球胴ぎみ。内外面ともハケで口縁部の一部後ナデ。727は鉢。内外面とも口縁部から中位はハケ後ナデ、中位以下はナデ。728はミニチュア土器高杯。

#### S X 19 (第58図)

西区南東側東壁際に位置し、SD10・17に切られる。東側は調査区外へ続く。溝状を呈し、西壁側にテラスが数段付く。埋土は粘質土と灰白色砂・シルトの互層状となり、自然堆積層と思われる。流路もしくは低地への落ちか。出土遺物は、縄文土器がある。

#### 出土遺物 (第60図、図版37)

**縄文土器 (729・730)** 729は深鉢。やや内屈する口縁部に2条の浅い沈線を施す。頸部内面に種子状の圧痕が観察される。後期末に位置づけられよう。730は深鉢。体部から口縁部にかけて緩やかに内湾する。内外面とも条痕ののち粗いナデ。後期末～晩期前半に位置づけられる可能性が高い。

#### S X 23 (第58図)

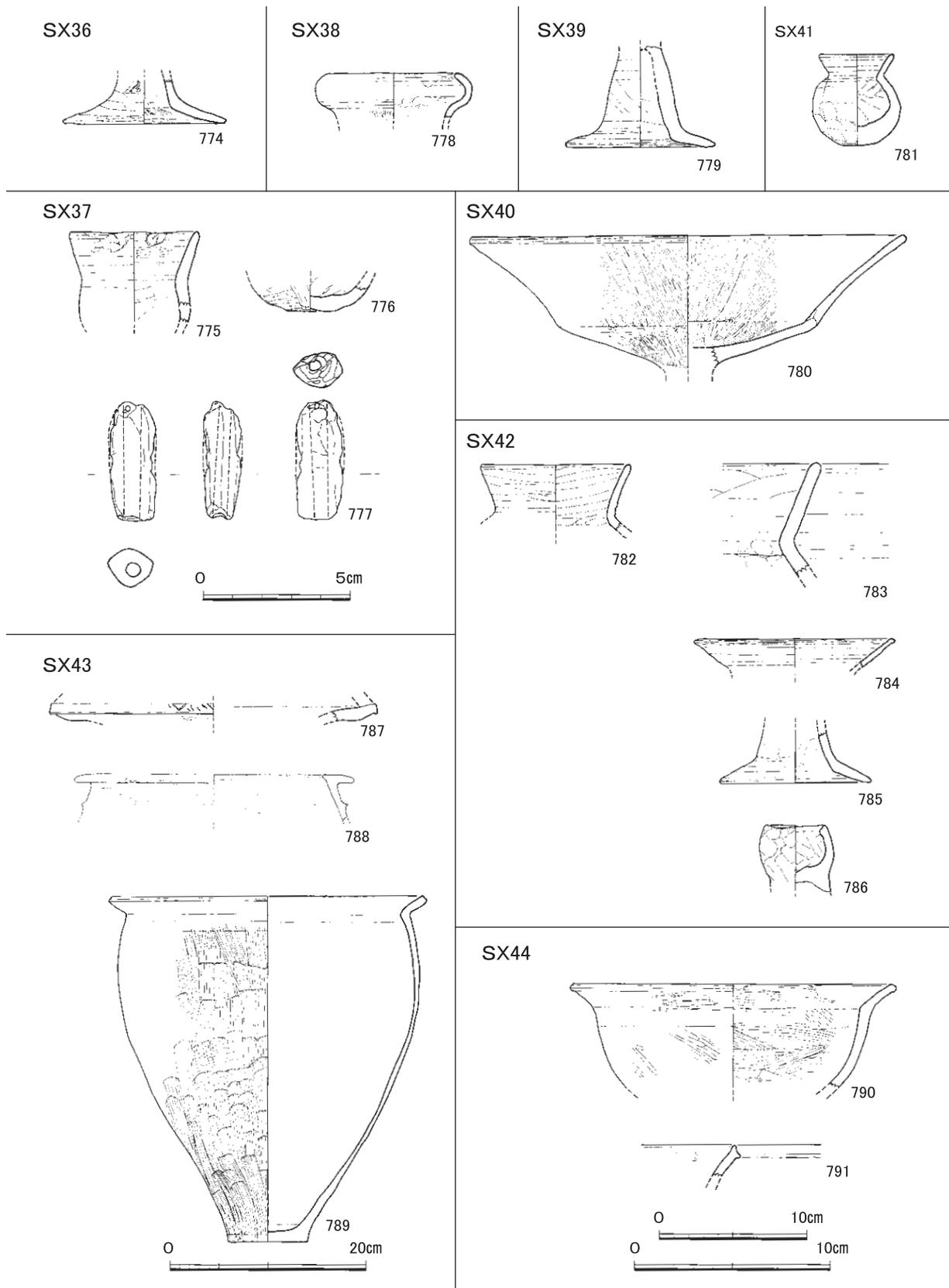
西区東側北コーナーに位置し、東側を試掘トレンチに、南側を攪乱に壊される。平面隅丸方形と推定され、1.96m×1.64m、深さ30.5cmを測る。壁面は直立ぎみで、底面は平坦となる。出土遺物は底部糸切りの土師器杯、黒色土器碗などがある。

#### S X 27

西区東側北コーナー西壁際に位置する。当初SXとして調査したが、結果としては、SC09南側の一部と壁際土坑であった。遺物はSX27として取り上げた。

#### 出土遺物 (第61図)

**土師器 (749～764)** 749～752は壺。749は中型直口壺。口縁部は真っ直ぐ開き端部付近が外反する。口縁部外面はナデ後ヘラミガキ、内面はナデ。胴部外面はヘラミガキ、中位以下ハケ後ヘラミガキ。内面はケズリ。750～752は小型丸底壺。750は口縁部が長く延び、胴部は肩が張る。胴部中位に焼成後打ち欠きによる穿孔がある。ハケ後ナデ。751は口縁部が、真っ直ぐ延び、胴部下膨れ、ハケ後ナデ。752は口縁部が中位で折れ受口状を呈す。口縁部から胴部上半外面はヘラミガキ、胴部下半以下外面はケズリ後ナデ後ミガキ。内面はナデ。器壁薄く丁寧な作り。753～756は甕。753・754は口縁部が真っ直ぐ開き、端部面取り。胴部はなで肩ぎみ。753は口縁部に接合痕・指頭圧痕・ハケを残す。754は口縁部がわずかに外反し、端部付近は内湾する。胴部は肩が張る。口縁部内外面ともタタキ後ナデ。胴部外面はタタキ、内面は粗いケズリ。755は口縁部が直線的に外方へ開き、端部に弱い面取り。胴部は肩が張らない。口縁部内外面・頸部外面はナデ。胴部外面はハケ、内面はケズリ。756は口縁部上半が内湾ぎみに立ち上がり、端部は凹線上の面取り。内外面とも丁寧なヨコナデ。布留系甕。757～763は高杯。757は杯部が稜をもたず直線的に開く。内面は放射状のミガキ。758～763は杯部下半が水平ぎみに開き、稜をもって上半が外反しながら立ち上がる。脚部は脚柱部がわずかに開き、裾部が折れて大きく開く。杯部は内外面ともハケ後ナデ。脚部は外面ハケ後ナデ、柱部内面はケズリ、裾部内面はハケ後ナデ。脚杯接合は凸面付加法。764は鉢。口縁部はわずかに開く。口縁部から体部外面はハケ後ナデで、指押さえ残る。口縁部内面はハケ、体部内面はナデ。



第64図 S X 36~44出土遺物実測図 (1/2、1/3、1/4、1/6)

土製品 (765) 土製勾玉。穿孔あり。ナデ。

S X 28

西区東側北コーナーに位置し、S X 23に切られる。S C 09の東壁際部分に含まれる。底面にピットが2基ある。遺物はS X 28として取り上げた。

出土遺物 (第60図、図版36)

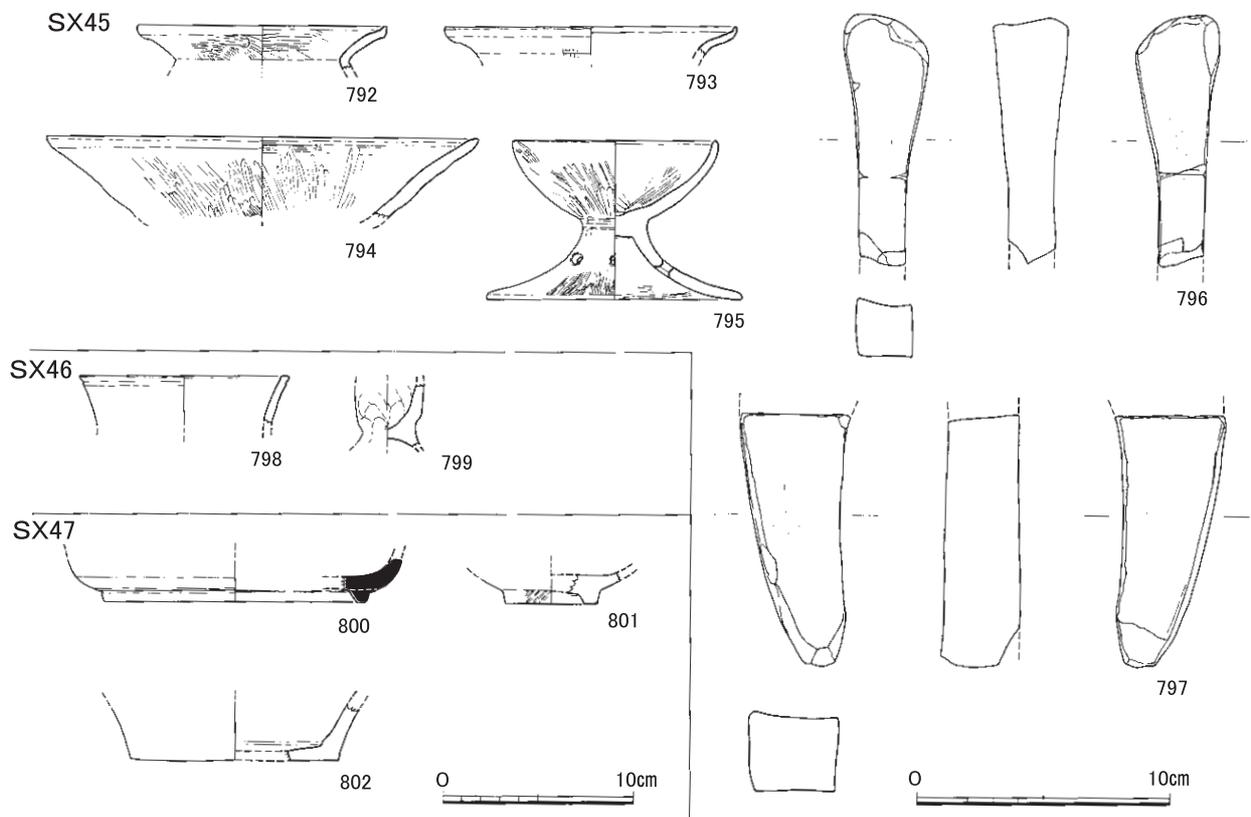
弥生土器 (731) 複合口縁壺口縁部。外面ハケ、内面ナデ。

S X 29 (第59図、図版21)

西区東側北コーナーに位置し、S C 12を切り、東側を試掘トレンチにより壊される。現状で平面隅丸長方形を呈し、長さ2.89m、幅1.11m、深さ37cmを測る。壁面はゆるやかに立ち上がり、底面は南側がテラスとなり、北側が平面隅丸方形で一段深い。底面から約5cm浮いて灰白色の粘土が一面に広がり、その上に土師器杯、小皿、碗の完形品が乗る。粘土の厚みは約5cmである。この上層は焼土・炭化物・土師器の混じる灰黄褐色粘質土が堆積する。壁面・底面で焼けた箇所は確認できなかった。出土遺物は他に、棒状土製品、粘土塊などがある。

出土遺物 (第60図、図版36)

土師器 (732~744・746) 732~735は小皿。口径9~9.8cm、底部外面回転ヘラ切りで板状圧痕あり。736~741は丸底杯。口径14.4~16cm。口縁部は内外面ともヨコナデ。体部外面は回転ヘラ切り後ナデ、内面はミガキ。底部外面に板状圧痕あり。742~744は碗である。高台は比較的高く、体部は下位で屈曲する。体部は内外面ともヘラミガキを施す。746はミニチュア土器鉢。



第65図 S X 45~47出土遺物実測図 (1/3, 1/4)

**瓦質土器 (745)** 大形鉢である。底部に高台が付く。内外面ともナデ。

**土製品 (747・748)** 747は焼成粘土塊である。指の跡が付く。748は棒状土製品である。長さ15.8cm、幅4.4cm、厚み3.1cm。

**S X 31** (第62図)

西区東側北端に位置し、S D 21と重複するが、切り合い不明。平面不整形で、中央が土坑状に深くなり、溝が西から取り付く。深さ20~30cmで、中央が58cmを測る。

**S X 33** (第62図)

西区東側に位置し、西側を攪乱に大きく壊される。本来平面隅丸方形と推定され、現状で、長さ3m×0.6m、深さ16cmを測る。東壁際に部分的に壁溝が巡る。

**S X 34** (第59図、図版22)

北東区東側中央に位置する。S X 36を切る。平面隅丸長方形を呈し、長さ2.7、幅0.8m、深さ60cmを測る。壁面はゆるやかに立ち上がり、底面は南・北側がテラスとなり、中央が一番深くなる。主軸底面は低い階段状、横断底面は鍋底状となる。検出面および埋土最上層で土師器、弥生土器、甕棺の破片が大量に出土した。さらに土器群の下面で、鉢が3点正置・横倒しの状態で出土した。埋土は上層が黒褐色粘質土、下層が灰黄褐色砂質土で、遺物はすべて上層に含まれる。

**出土遺物** (第63図、図版36)

**土師器 (766)** 甕。口縁部がゆるやかに外反し端部は丸く収める。胴部は球胴で最大径は中位よりやや下がる。口縁部外面はナデ、内面ハケ後ナデ。胴部外面ハケ、内面ケズリ。

**弥生土器 (767~773)** 767は甕。口縁部はほぼ水平で断面逆L字状を呈し、端部はわずかに垂下する。胴部は大きく張る。口縁端部に刻みを施し、口縁部下に1条のM字突帯を貼り付ける。768は器台。口縁端部を面取りし、外面はハケ後ナデ、内面はナデ、裾部はハケ。769~771は鉢。平底の底部から体部が内湾して立ち上がる。口縁部から上半はヨコナデ、下半は外面ハケ、内面ナデ。772・773は甕棺。772は口縁部が逆L字状を呈し、やや垂下する。内側はわずかに突出し口縁下に1条の突帯が付く。772は断面三角形、773は断面M字形。773の胴部にやや細い断面M字形突帯が2条付く。

**S X 36** (第62図、図版22)

北東区東側に位置する。S X 34に切られる。攪乱に北西側を壊される。平面楕円形を呈し、長径1.9m、短径1.4m、深さ75cmを測る。東・南側がテラスとなり中央が一段深くなる。平面隅丸長方形を呈す。断面播鉢状を呈す。

**出土遺物** (第64図)

**土師器 (774)** 高杯。裾部が折れて広がる。内外面ともハケのちナデ。脚柱部内面はケズリ。

**S X 37** (第62図、図版22)

北東区中央に位置する。S X 38に切られる。平面不整形隅丸長方形を呈し、長さ1.75m、幅1.35m、深さ70cmを測る。壁面は直立し、底面は平坦となる。北隅の底面から奥行き0.5m、幅0.4mで横穴が空く。

**出土遺物**（第64図）

**土師器（775・776）** 775は小型丸底壺。内外面ともナデ。776は鉢か。体部外面はケズリ。

**土製品（777）** 土錘。全面ナデ。長さ4.1cm、直径1.3～1.5cm。

**S X 38**（第62図、図版22）

北東区中央に位置する。S X 37を切る。南側の一部は調査区外となる。平面楕円形で、残存長径1.6m、短径1.1m、深さ60cmを測る。壁面はゆるやかに立ち上がり、底面はほぼ平坦となる。

**出土遺物**（第64図）

**弥生土器（778）** 袋状口縁壺。外面はヘラミガキ、内面はナデ。

**S X 39**（図版22）

北東区北東側に位置し、南北端は調査区外へ続く。南側でS X 40と接する。土坑が連続した溝状を呈し、南側から円弧を描くように東へ曲がり、2条に分かれて調査区外へと延びる。最大幅0.85m、深さ0.5mを測る。

**出土遺物**（第64図）

**土師器（779）** 高杯。裾部は折れて広がる。脚柱部内面はケズリ、他はナデ。

**S X 40・41**（図版22）

北東区南東側に位置し、南側は調査区外へ続く。土坑が連続した溝状を呈し、南側から1mで2条に分かれて北東―南西方向に真っ直ぐ延びる。最大幅0.6m、深さ0.5mを測る。

**出土遺物**（第64図）

**（1）S X 40**

**土師器（780）** 高杯。杯部上下半境に稜が付き、上半が外反しながら大きく開く。内外面とも縦方向ヘラミガキ。

**（2）S X 41**

**土師器（781）** 小型丸底壺。口縁部が直線的に開き、頸部が締まる。内外面ともナデ。

**S X 42**（第62図、図版22）

東区南東端に位置し、S D 23・24の下面で検出された。平面不整形で、3.45m×2.6m、深さ40cmを測る。壁面は直立し、底面は平坦となり、東西側にテラスが付き中央が深くなる。

**出土遺物**（第64図）

**土師器（782～786）** 782は壺か。内外面ともヨコナデ。783・784は甕。783は口縁部が直立ぎみに延びる。内外面ともヨコナデ。784は口縁部が大きく開き、端部はやや外傾する面をなす。内外面とも丁寧なヨコナデ。布留式系。785は高杯。裾部は折れて広がる。脚柱部内面はケズリ、その他はナデ。786はミニチュア土器脚付鉢。

**S X 43**（第62図、図版22）

東区北西端に位置し、南側は調査区外へ続く。溝状を呈し、幅0.9m、深さ55cmを測る。断面播鉢状を呈し、北側に3段テラスが付く。

**出土遺物**（第64図、図版37）

**弥生土器（787～789）** 787は複合口縁壺。口縁部外面にヘラ描き鋸歯文を施す。788・789は甕。7

88は口縁部が逆L字状を呈し、やや垂下する。口縁下に断面三角形突帯を1条貼り付ける。789は口縁部がくの字状を呈し、端部は凹線状の面をなす。胴部の張りは弱い。口縁部は内外面ともナデ。胴部外面はハケ、内面はナデ。

#### S X 44 (第62図)

東区北西端に位置し、西側・北東隅を攪乱に壊される。平面方形と推定され、3.5m×1.8m、深さ20cmを測る。壁面は直立し、底面は平坦である。南東隅に平面楕円形のピットがあり、西側中央が平面方形の土坑状に深くなる。さらに底面全体に小ピットが多数検出された。埋土黒褐色粘質土。竪穴住居状の遺構である。

#### 出土遺物 (第64図)

**土師器 (790・791)** 790は鉢。口縁部が大きく開き、体部は丸みをもってすぼまる。体部外面はタタキ、内面はハケ。791は甕。口縁部端部は凹線状の面をなし体部外面が下方へ突出する。

#### S X 45 (第62図)

東区北端に位置する。東西側は調査区外となり、北側は攪乱に壊される。平面形は不明で、壁面が直立して底面が平坦となる。壁際の一部に溝が巡り、壁際中央にS K 19が掘られる。さらに底面に直径約20cmの小ピットが多数検出された。埋土黒褐色粘質土。

#### 出土遺物 (第65図)

**土師器 (792~795)** 792・793は甕。口縁部は強く外反し、端部をわずかに摘み上げる。内外面ともハケ後ヨコナデ。794・795は高杯。794は杯部上半が直線的に大きく開く。内外面とも縦方向へラミガキ。795は低脚高杯。杯部は深い碗形を呈し、脚部は大きく外反する。脚部に小円孔が7個開く。杯部・脚部とも内外面は丁寧な縦方向へラミガキ。

**石器 (796・797)** 砥石。いずれも砥面は4面。砂岩製。

#### S X 46 (図版22)

東区北西端に位置し、西側は調査区外となる。S X 47に切られる。W字状に幅0.2m、深さ約10cmの溝が走り、幅0.6m、深さ約10cmの東西方向の溝につながる。溝で囲まれた内側は平坦で平面不整形の土坑とピットがある。埋土灰黄褐色粘質土。壁溝のみ残った竪穴住居状である。

#### 出土遺物 (第65図)

**土師器 (798・799)** 798は甕。799はミニチュア土器脚付鉢。

#### S X 47 (第62図、図版22)

東区北西端に位置し。西側は調査区外となる。平面隅丸方形と推定され、現状で2.25m×1.7m、深さ5~10cmを測る。壁面は直立し、底面は平坦となる。東壁際に溝が巡り、直径20cm以下の小ピットが多数ある。埋土灰黄褐色粘質土。竪穴住居状である。

#### 出土遺物 (第65図)

**須恵器 (800)** 杯B身。底部から丸みをもって体部が立ち上がる。高台は底端部に付く。

**陶磁器 (801・802)** 801は白磁碗。高台外面から底部外面は露胎。802は中国陶器瓶か。

### (6) 甕棺墓

#### S J 01 (第66・67図、図版23)

北東区東側に位置する小形の甕棺墓である。墓壙は平面隅丸方形を呈し、長さ1.15m、幅1.3m、深さ65cmを測る。墓壙の南西隅を奥へ0.6m、幅0.7m掘り込んで、下甕全体を37°の強い角度で挿入している。棺は小形の甕を用い、接口式の複棺である。甕接口部は分厚く粘土目張りされる。主軸方向はN—46°—Wである。

**上甕 (803)** 口径29.2cm、胴部最大径28.8cm、器高32.1cmを測る。口縁部は逆L字状を呈してやや立ち上がり、内側に稜がつく。胴部は大きく張る。口縁部内面、胴部外面はハケ。

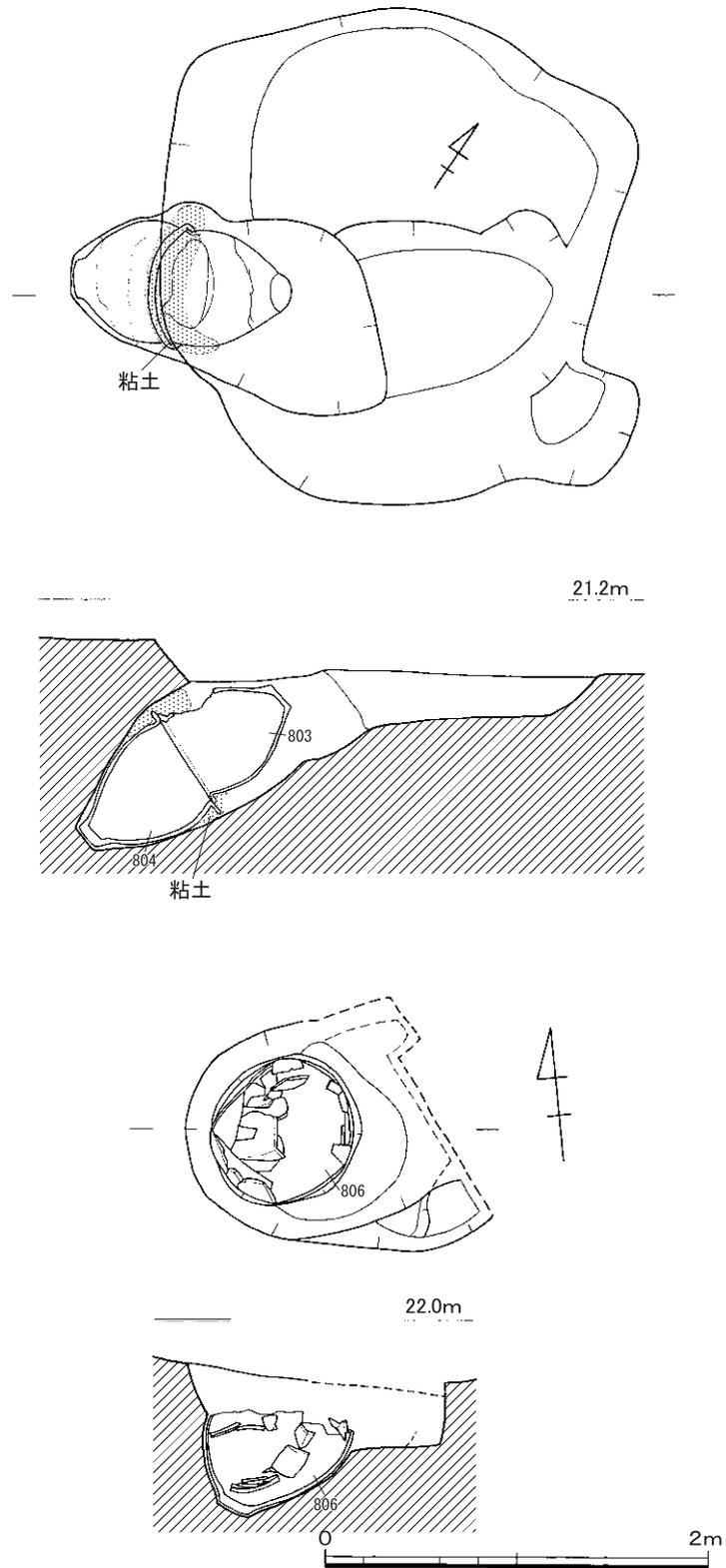
**下甕 (804)** 口径32.7cm、胴最大径31.2cm、器高34.5cmを測る。口縁部は逆L字状を呈してやや立ち上がり、内側に稜がつく。胴部内外面にハケが残る。

**S J 02 (第66・68図、図版23)**

北東区東側調査区北壁際に位置する小形の甕棺墓である。北側を攪乱に壊され、上部を大きく削平されるため、墓壙の形状は不明である。現状で長さ0.6m、幅0.6m、深さ15cmを測る。墓壙の南西隅から幅0.45mで下方へ掘り込んで、下甕を55°の強い角度で挿入している。棺は下甕の上部まで壊されており、上甕と下甕の破片が下甕内へ落ち込んでいた。棺は小形の甕を用いている。主軸方向はN—84°—Wである。

**上甕 (805)** 口径29.3cm、胴最大径30.0cm、器高30.6cmを測る。口縁部は逆L字状を呈してやや立ち上がり、内側に弱い稜がつく。胴部は大きく張る。胴部外面はハケ。

**下甕 (806)** は口縁部打ち欠きの小形甕で、頸部口径22cm、胴径36.9cm、残存高41.3cmを測る。頸部が締まり、



第66図 S J 01・02実測図 (1/60)

胴部最大径が中位にある。下胴部が締まり腰高となる。頸部外面はハケ。

### (7) 土墳墓

#### S K 20 (第69図)

北東区中央に位置し、S K 21を切る。主軸をN-79°-Wにとる。墓壙は2段に掘り込まれ、1段目は隅丸長方形を呈し、壁面はゆるやかに立ち、断面は逆台形を呈す。長さ2.16m、幅1.29m、深さ25cmを測る。2段目は1段目のほぼ中央に掘り込まれ、東小口壁が切り合いにより不明瞭。平面形は隅丸長方形と推定され、長さ1.4m以上、幅0.55m、深さ40cmを測る。床面は平坦で、壁面はほぼ直立する。埋土最上層より遺物が出土した。

#### 出土遺物 (第57図)

弥生土器 (718) 甕。口縁部は逆L字状を呈し、やや立ち上がる。

#### S K 21 (第69図)

北東区中央に位置し、S K 20に西側を切られる。主軸をN-23°-Wにとる。墓壙は2段に掘り込まれ、1段目は隅丸長方形を呈すと推定される。壁面はほぼ直立し断面は箱形を呈す。幅1.28m、深さ45cmを測る。2段目墓壙を挟んで対称の位置にピットが2基掘り込まれる。2段目は1段目のほぼ中央に掘り込まれ、北西小口壁が切り合いにより削平される。平面形は隅丸方形と推定される。長さ0.9m、幅0.5m、深さ36cmを測る。床面は平坦で、壁面は直立する。埋土最上層より遺物が出土した。

#### 出土遺物 (第57図)

弥生土器 (719~720) 719は袋状口縁壺か。頸部は細く、胴部は中位が最大径となる。外面はヘラミガキ、内面はナデ。720は甕。口縁部が逆L字状を呈し、やや立ち上がる。

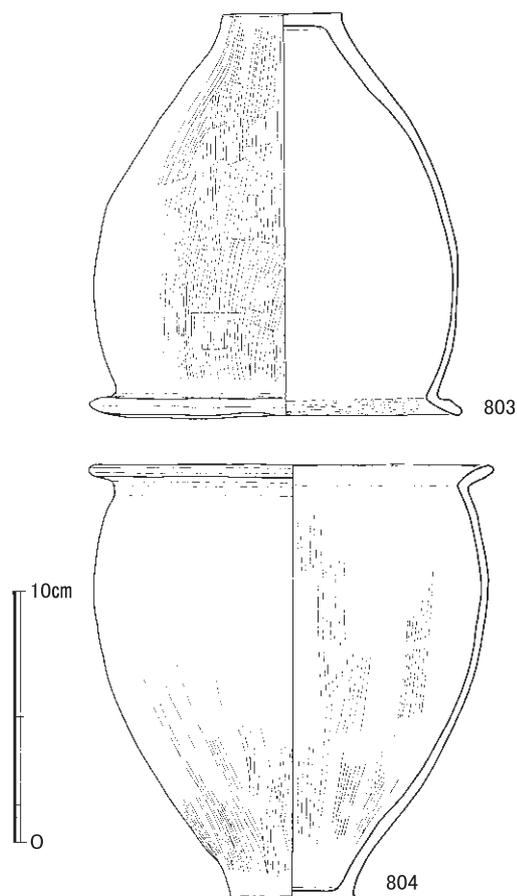
縄文土器 (721) 浅鉢。

#### S K 22 (第69図、図版23)

北東区中央に位置し、S K 20・21の南側に隣接する。主軸をN-62°-Eにとる。墓壙は2段に掘り込まれ、1段目は不整隅丸長方形を呈し、壁面は直立ぎみで断面箱形を呈す。東壁の中ほどにテラスが付く。長さ1.95m、幅1.03m、深さ60~75cmを測る。2段目は1段目の南側寄りに掘り込まれる。平面形は隅丸長方形で東小口側が丸みをもつ。長さ1.18m、幅0.45m、深さ22cmを測る。床面は平坦で、西小口側西壁際と北壁際に溝状の落ち込み、主軸線状にピット1基を検出した。埋土上層より遺物が出土した。

#### 出土遺物 (第57図)

弥生土器 (722) 壺か。頸部に断面三角形突帯を



第67図 S J 01甕棺実測図 (1/6)

2条貼り付ける。外面はハケ、内面はナデ。

**(8) 石蓋土墳墓 (第70図、図版24)**

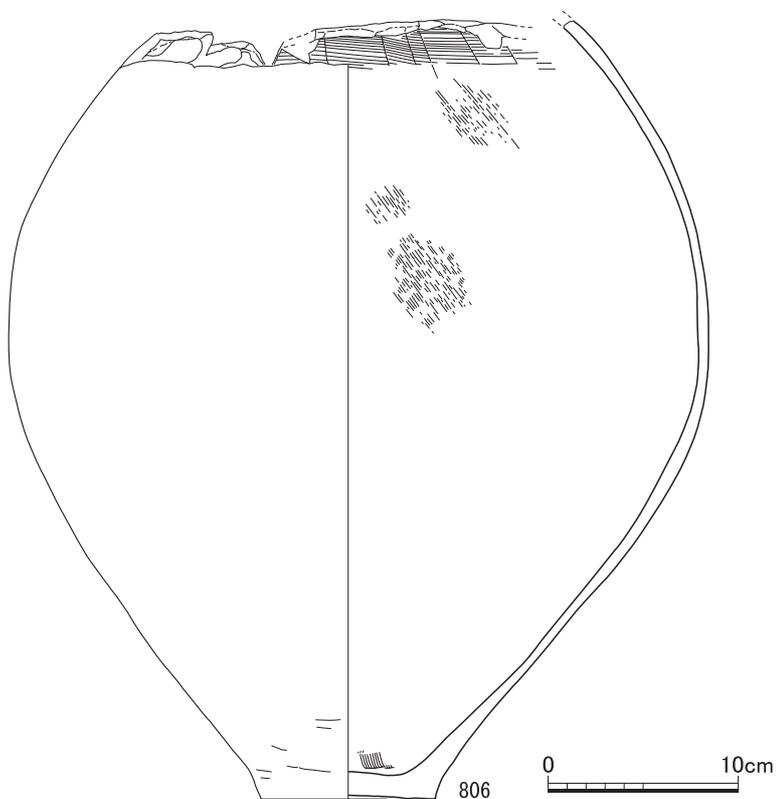
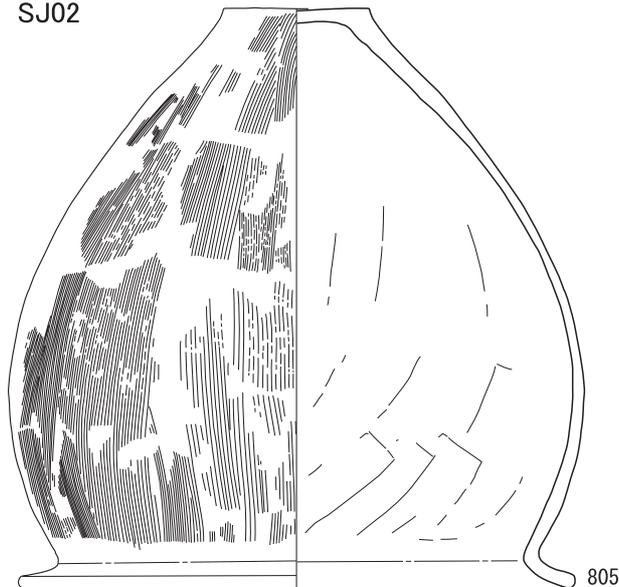
西区西側西壁際に位置し、S B 01の北隅柱穴に切られる。主軸をN-66°-Eに取る。掘方は隅丸長方形を呈し、長さ2.32m、幅1.63m、深さ18cmを測る。石蓋は中央を除き4石残っていた。東側2石は中央に向かって落ちており、西側2石は水平であるが全体に墓壇内に落ち込んでいた。蓋石直下には粘土が薄く広がっていた。墓壇は掘方のほぼ中央に掘り込まれる。平面隅丸長方形を呈し、長さ2.04m、幅0.7m、深さ45cmを測る。壁面は下半が直立し上半はゆるやかに開く。床面は平坦で、西端に5cmほどの厚さで平面U字状に赤色顔料が確認された。副葬品は出土しなかった。

**(9) 包含層出土遺物 (第74・75図、図版37)**

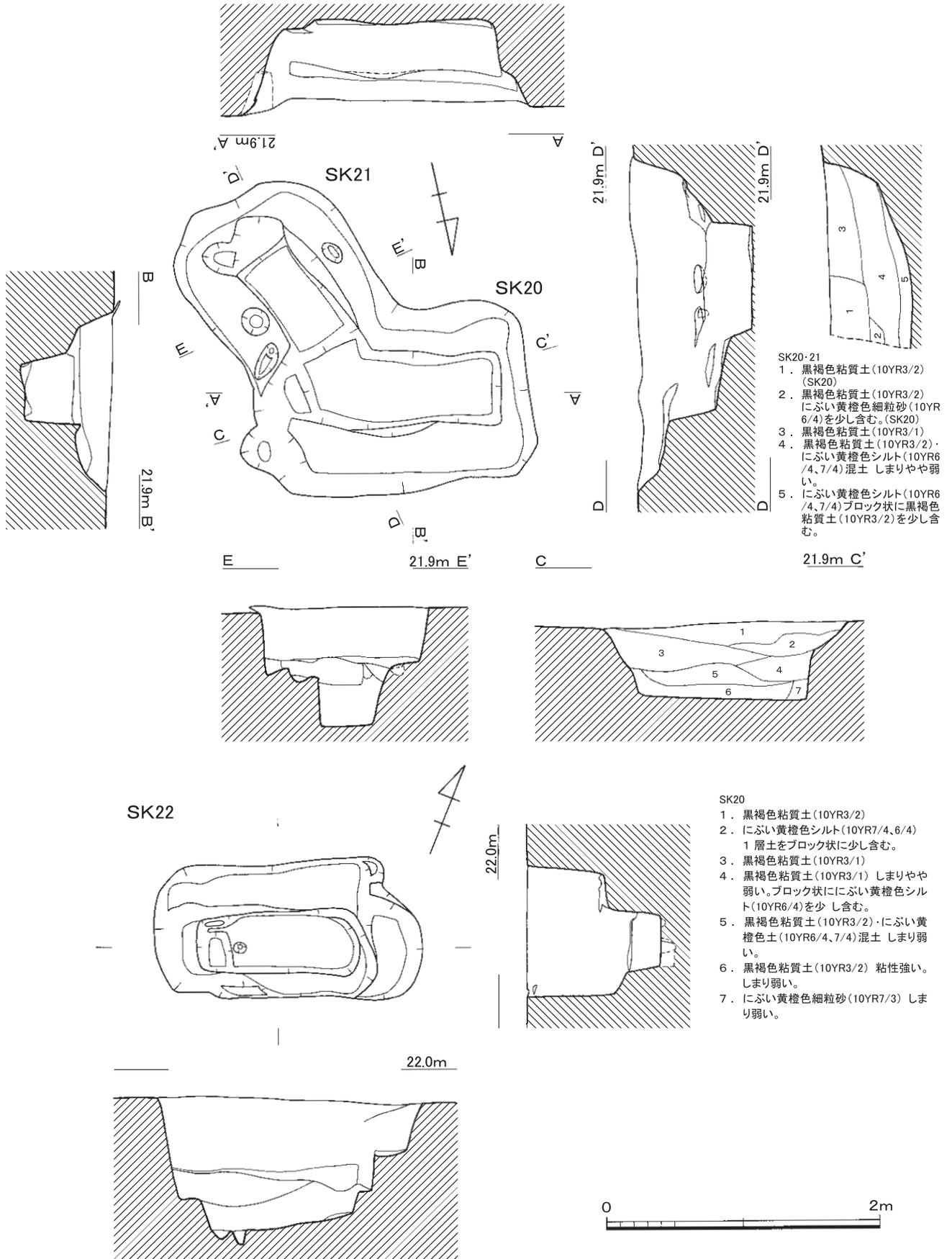
**土師器 (841~868・870~896)**

841~861・866・867は壺。841は畿内系二重口縁壺。842~844・866・867は山陰系二重口縁壺。口縁部から頸部は丁寧なヨコナデ。842・843は口縁部の屈曲が弱く、844は口縁部が内傾する。866・867は受部が直立し、端部は866が丸く、867は凹線状の面をなす。845~848は直口壺。845・846は口縁部がやや外傾。848は小振りで口縁部がやや内傾する。849~856は小型丸底壺。849・850は口縁部がゆるやかに外反し頸部がくびれない。851は口径が胴部径より大きい。胴部外面に横方向のへら書き線刻あり。852~856は比較的丁寧な作り。852~855は口縁部が直立ぎみで頸部が比較的締まる。856は口縁部がわずかに内湾する。857~860は壺胴部。857~859は外面にへら書きの線刻あり。857は太い線刻で横方向のL字状を

SJ02



第68図 S J 02 甕棺実測図 (1/4)

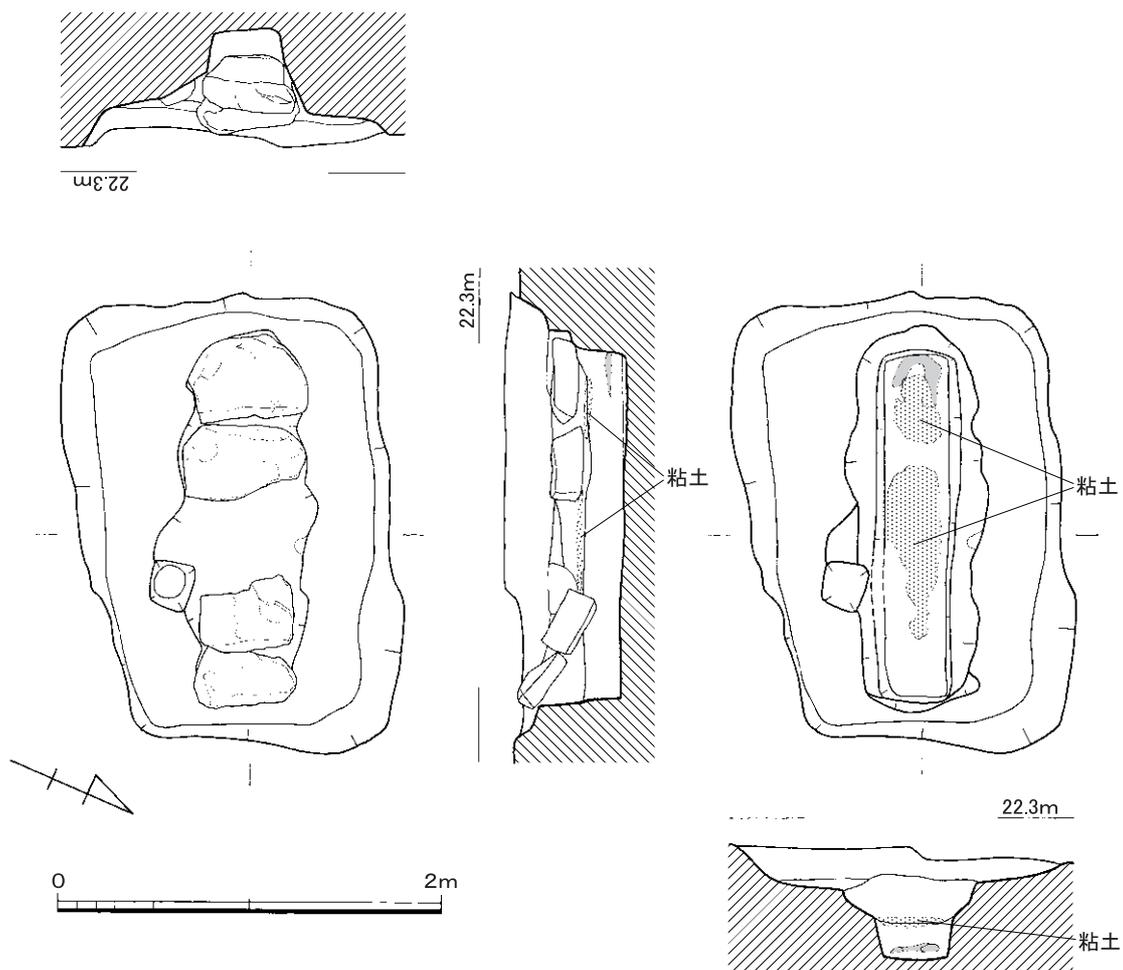


第69図 土坑墓 (SK20・21・22) 実測図 (1/40)

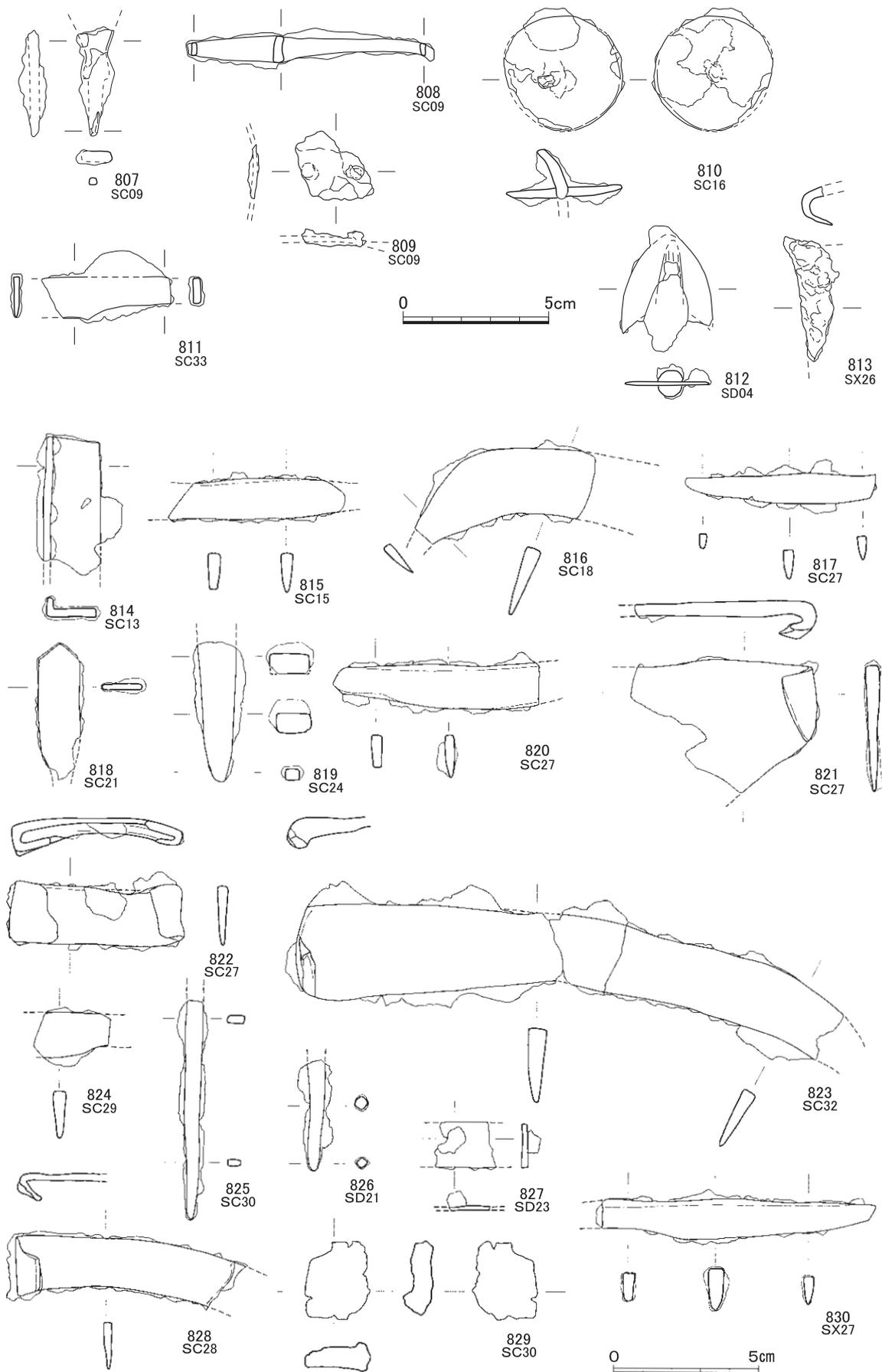
呈す。858は縦方向2条と横方向1条の線刻が直交する。859は縦横方向の線刻が交差し建物の絵面を思わせる。860は直径約8mm焼成後穿孔あり。861は大型壺。頸部に扁平な突帯を貼り付け後ハケ状工具により斜格子の刻みを施す。862～868・870・871は甕。862は頸胴部外面に縦位のヘラ書き線刻を施す。863は口縁部が大きく外反し、胴部は張らない。864は口縁部が直立ぎみで胴部が張る。865は口縁部が直立ぎみで胴部が張らない。870・871は口縁部が短く外反し胴部がやや丸みをもってすぼまる。内外面ともナデ。872～880は高杯。872は杯部下半が小さく上半が短く開く。873～875は杯部下半がやや丸みを持ち、境に稜が付いて上半はわずかに外反して大きく開く。876～878は脚裾部が折れて水平近く開く。879・880は脚部が裾に向かってわずかに外反しながら開く。881～883は鉢。883は口縁部を連続的に指押さえして波状を呈す。884は器台。885・886は丸底杯。口径15～15.4cm。887は杯。底部外面は回転ヘラ切り888・889は椀。体部内面にヘラミガキ。890～896はミニチュア土器。890・891は底部平底の鉢。892～895は丸底の鉢。896は脚付鉢。

**弥生土器 (869)** 甕。上げ底となる。

**須恵器 (897～904)** 897は杯H蓋。口縁部体部境に沈線が巡り、口縁部は丸みをもって下がる。口径15cm。898～900は杯H身。立ち上がりは短く内傾する。899・900は立ち上がりが外反する。口



第70図 石蓋土坑墓実測図 (1/40)



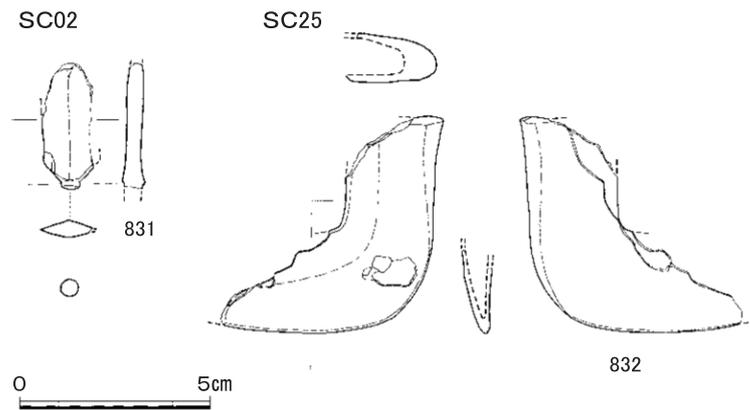
第71図 各遺構出土鉄器実測図 (1/2)

径は12.8cm、12.5cm、10cm。901は杯B身で、体部は直線的に立ち上がる。高台は底端部に貼り付けられる。902は高杯か。端部は折れて直立し、太くて面をなす。903は有蓋高杯蓋か。天井部に扁平なボタン状のツマミが付く。口縁部はやや開く。904は甕。

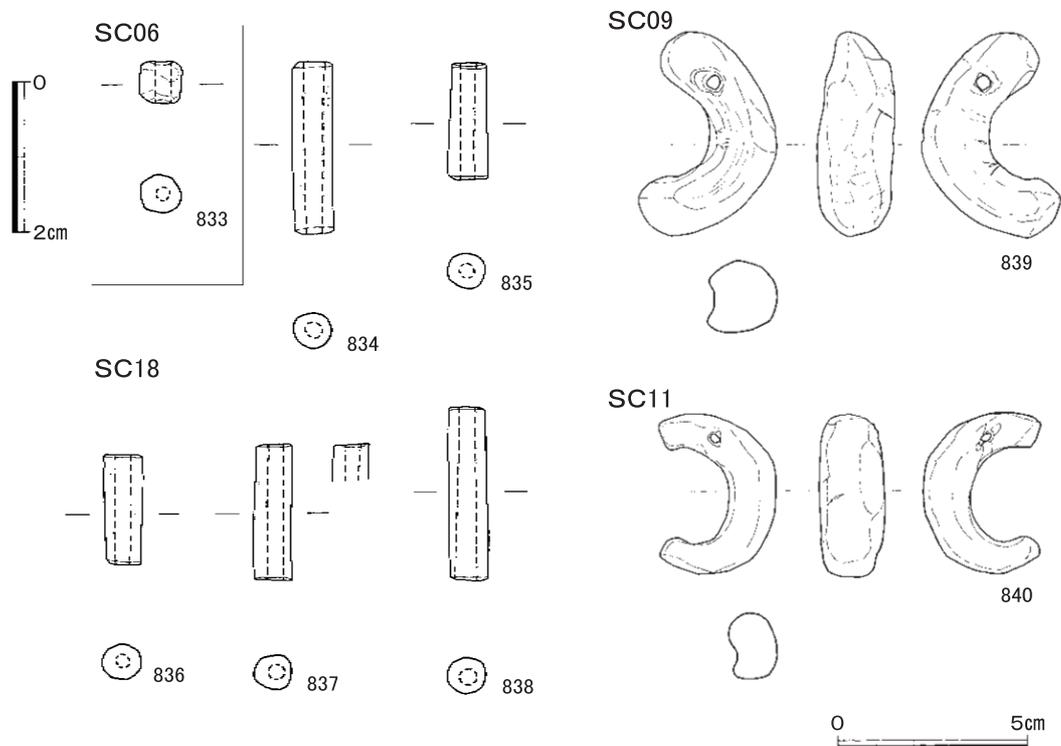
**土製品 (905・906)** 905は棒状を呈し、ユビナデ仕上げ。ミニチュア甌の把手の可能性あり。906は土師器小型品の体部片に直径6mm程の焼成後穿孔を施す。

**瓦 (907)** 平瓦。凹面布目痕あり、凸面斜格子タタキ。

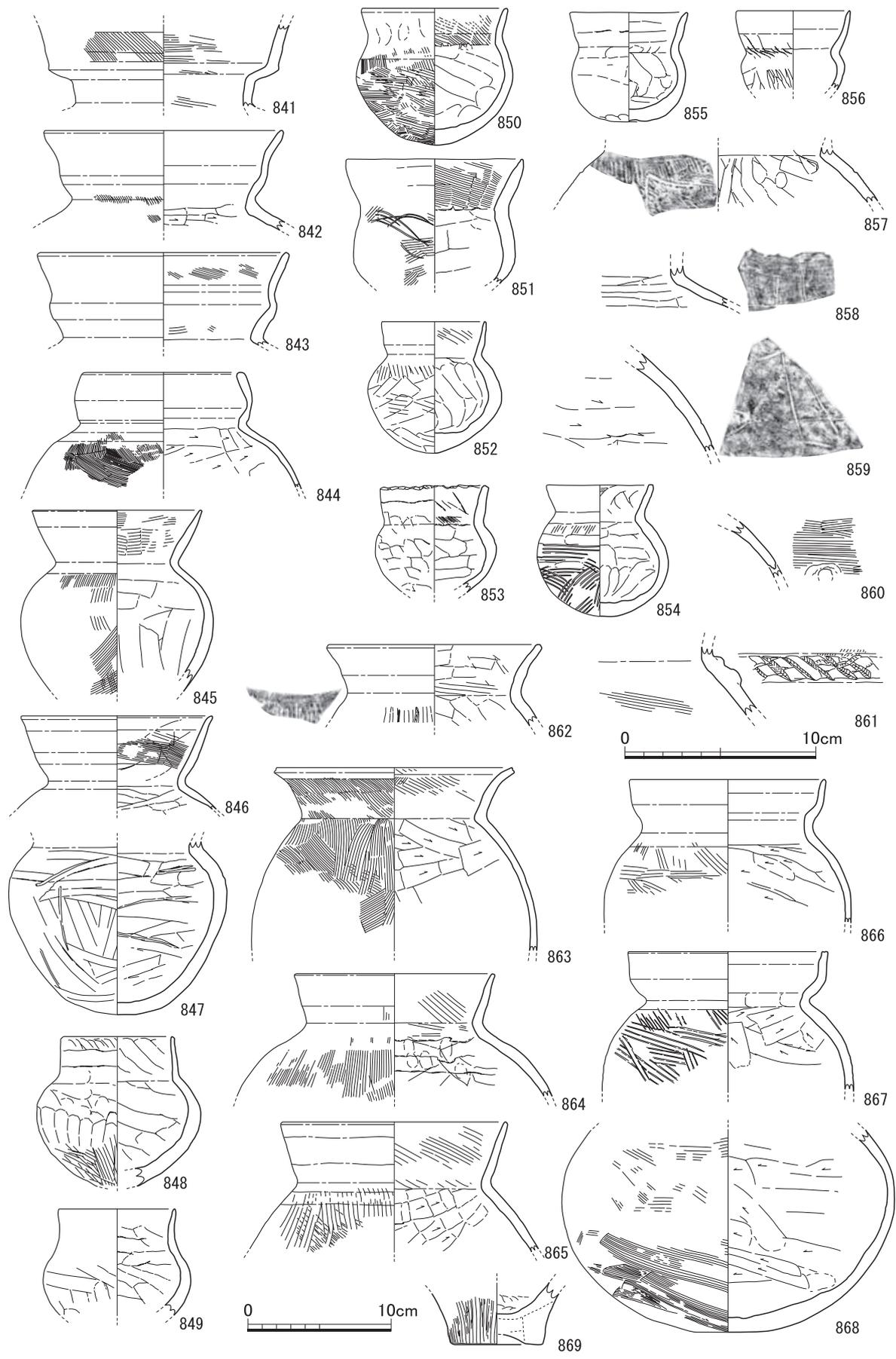
**石器 (908)** 砥石。砥面4面。砂岩製。



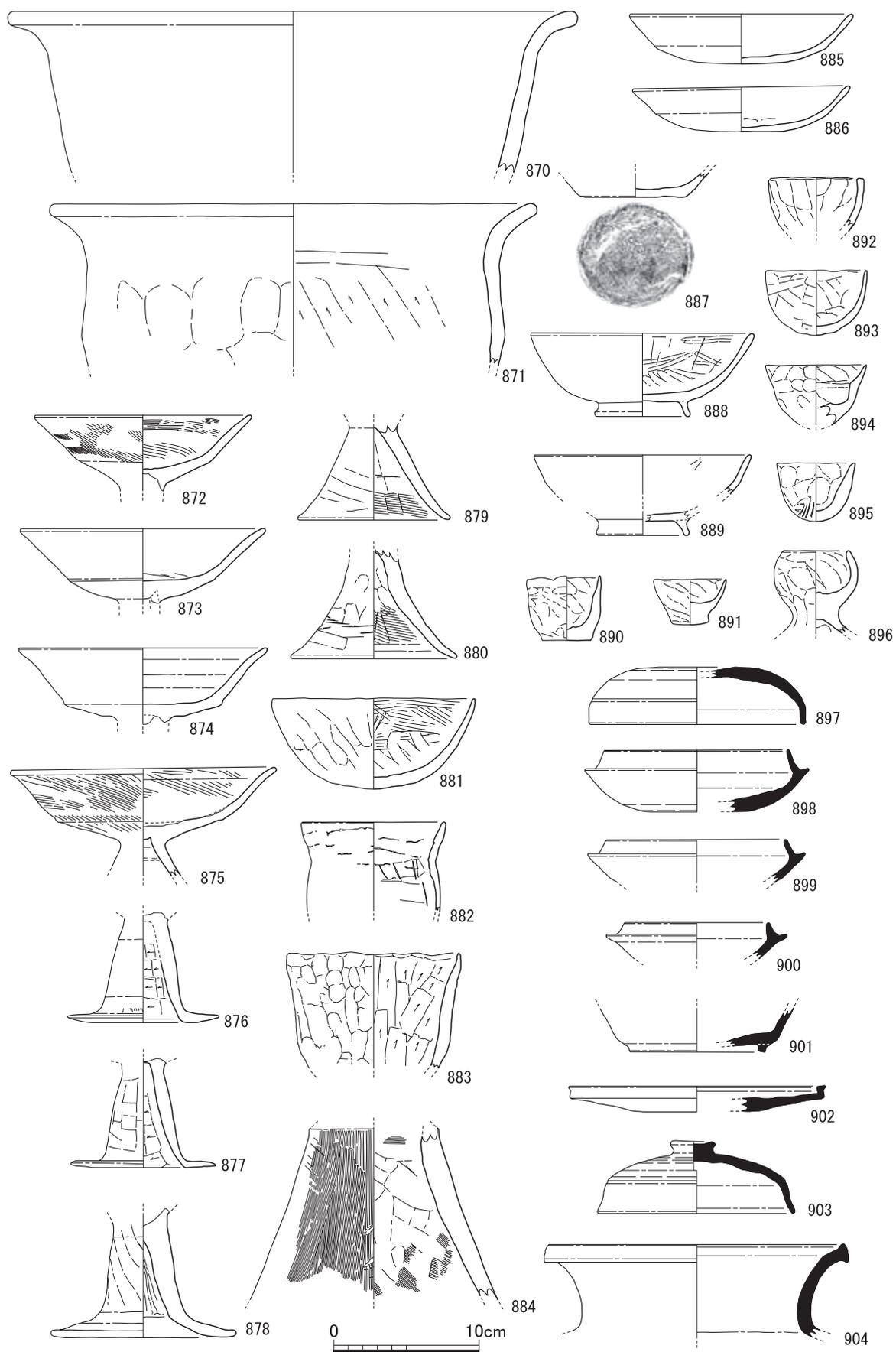
第72図 S C 02・25出土青銅製品実測図 (1/3)



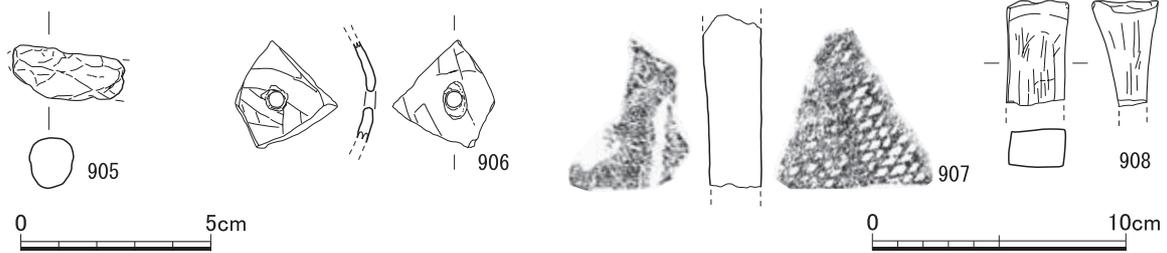
第73図 竪穴住居出土ガラス小玉・土製管玉・勾玉実測図 (1/1、1/2)



第74図 包含層出土遺物実測図 (630~633は1/3、その他は1/4)



第75図 包含層出土遺物実測図 (1/4)



第76図 包含層出土遺物実測図（905は1/2、その他は1/3）

## IV. まとめ

### （1）遺構の変遷

今回の調査では、縄文時代・弥生時代・古墳時代・奈良時代・中世の遺構・遺物が確認された。以下では、時代ごとにその変遷を示すこととする。なお、溝の所属時期は、検出時や混ざり込みを除いた最新の遺物による。また、部分的に特定の時期の遺物が集中する箇所については第77図中に示し、関連の時代で取り上げることとする。

#### ○縄文時代

縄文時代の遺構は確認されておらず、縄文土器・石器が散発的に出土している。本書では縄文土器14点（突帯文除く）、石鏃を報告した。出土地点に関しては、古墳時代以降の竪穴住居や溝、土坑からの出土であり、調査区内での明確な偏りも認められない。

土器に関しては、時期的に大きく2大別できる。318・690は早期の押型文土器である。318はヤトコロ式、690は稲荷山式あるいは早水台式と考えられる。周辺では、石勺遺跡F地点や原ノ口遺跡1・2次調査地点からも押型文土器が出土しており、春日丘陵から派生する低丘陵上に当該期の遺跡が点在する状況がうかがえる。50・60・586～590・605・606・675・729・730は後期後葉～晩期初頭の土器である。50・60は太郎迫式、586～590・675・729は広田式（天城式～古閑式並行）に相当しよう。当該期は、遺跡の増加期であることが知られているが、石勺遺跡の周辺での出土例は殆ど知られておらず、貴重な資料といえよう。なお、調査区南端付近に位置するSD07については、当該期の資料が比較的まとまって出土しており、近辺に集落の存在も予測される。

#### ○弥生時代

遺構は、竪穴住居SC32、土壌SK18、SX38・43、溝SD04・07・17・19・20の他、調査区北東部に集中して甕棺墓SJ01・02、土壌墓SK20・21・22が確認された。石蓋土壌墓は弥生時代後期から古墳時代に比定される。

中期前半として、SD19・20、SK18が検出された。また遺物がSD11・21で確認された。溝SD19・20は微高地を横断し牛頸川へ向かって延び、わずかに流水の痕跡が確認されており、灌漑用の溝の可能性が推測される。SK18は粘質土の自然堆積状況や形状から貯蔵穴の可能性は低い。遺構・遺物ともに少なく、過去の調査では遺跡の東側を中心に集落が確認されていることから、活動

の痕跡が認められるものの集落外と判断される。

中期後半から後期はS C32、S D04、17、S J01・02、S X38・43が検出された他、S D07・12・24で遺物が確認された。竪穴住居は調査区北東部で検出され中期後葉に位置づけられる。溝S D04は中期後半以降、S X38・43は中期末に位置づけられる。

墓地については、甕棺墓S J01・02は小児棺で主軸を北東―南西方向に取り中期末に位置づけられる。また、S X34・43で中期後半の大形甕棺が確認された。土壙墓S K20・21・22は埋土上層より中期末の土器が出土しており、中期末以降と考えられる。また、調査区南東部のS C14、S D10で後期終末の甕棺が出土し、S D04の北西側で石蓋土壙墓が確認された。

調査地北東に隣接するH地点では同時期の墓地が確認され、中期後半は大形甕棺主体、中期末段階に中小形棺が主体となり土壙墓が並存すること、後期に石棺墓、木棺墓が主体となることが明らかにされており、今回の調査成果はそれと一致することが分かった。さらに、中期後半段階の墓地はH地点から南のK地点調査区の北半まで広がること、後期段階の墓地はさらに南側に広がること、後期終末まで墓地が営まれたことが新たに明らかとなった。

#### ○古墳時代後期

遺構は竪穴住居S C09・12・28・30、溝S D12の一部・S D23、S X47が確認された。調査区の中央西側に集中する。時期はⅢB期と考えられる。S C08からは、焼き台と考えられる大甕破片に蓋杯が釉着した資料が出土している。須恵器生産地から離れた場所での生産関連資料であり、今後は周辺の調査で類例の出土に注目したい。

#### ○古代

遺構は竪穴住居S C15・16・21、S D21・24が確認された。また遺物はS C30の一部、溝S D11・12の一部でも出土した。竪穴住居が調査区北部に集中し、住居の南側に溝が巡る。時期はⅦA～ⅦB期の8世紀前半から中頃である。注目すべき遺物としては、S C30から円面硯が出土した。本遺跡J地点では8世紀中頃から後半の火葬墓1基が確認されている。本遺跡の西側約500mの原ノ口遺跡では北を意識した区画溝と掘立柱建物が確認され、古代官道との関係が指摘されている。周辺の状況も合わせると、石勺遺跡についても何らかの公的な性格を伺わせる。

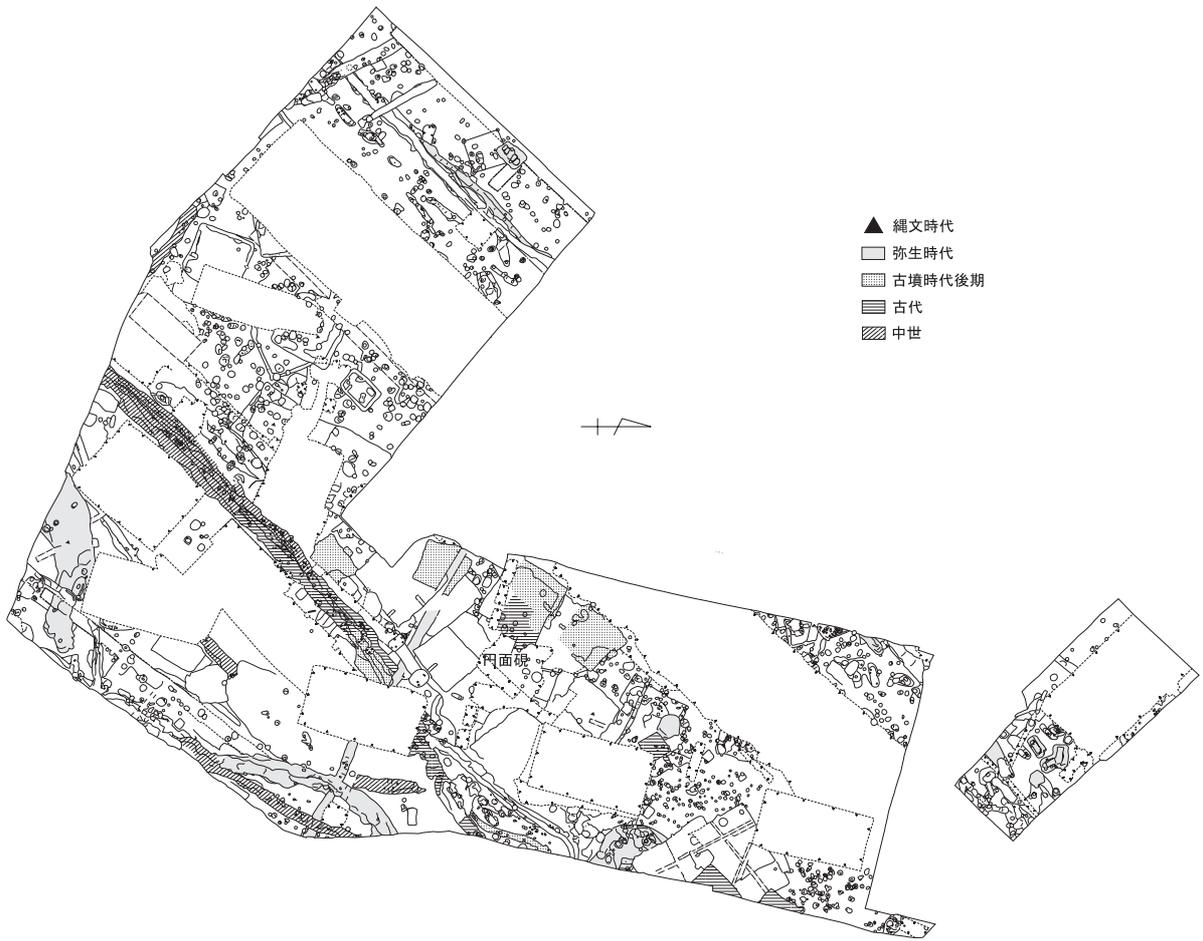
#### ○中世

遺構は土壙S K11・16、溝S D05・10・11・12・15・18、S X29が確認された。時期は11世紀後半から12世紀前半がS D05・15・18、S K16、S X29、13世紀中頃から14世紀中頃がS D10、S K11、11世紀後半から14世紀中頃までがS D11・12である。建物は確認されておらず、遺跡の性格は不明である。

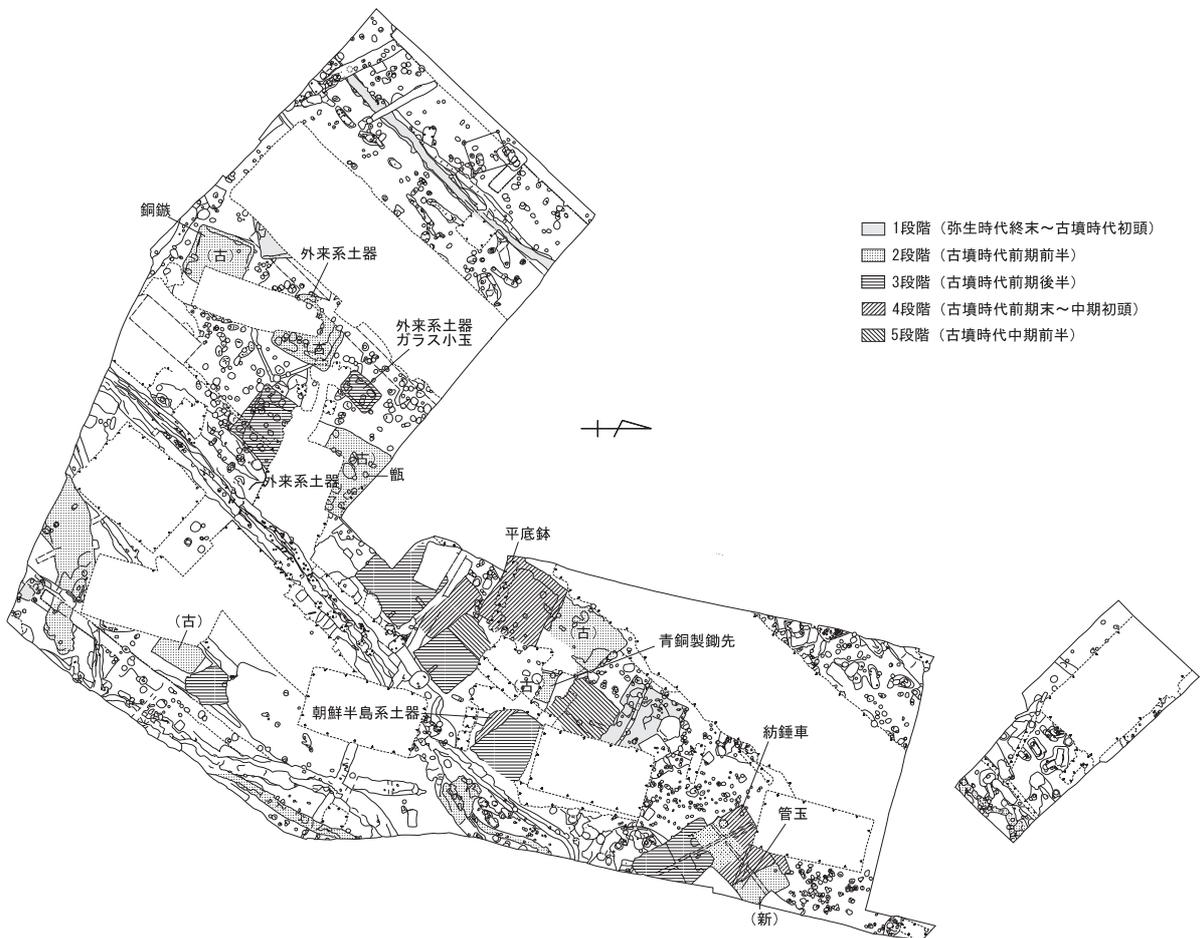
#### (2) 古墳時代前期から中期集落の様相

遺構・遺物ともにK地点調査の主体を占め、弥生時代後期終末から古墳時代中期前半までの集落と考えられる。遺構は掘立柱建物S B01、S C15・16・21を除く竪穴住居、溝S D03・10・23・24、土壙S K19、S X15・39・40・42・44・45が確認された。

**時期設定** 集落変遷を検討する前提となる土師器の編年については、在来系土器と外来系土器の共伴関係を基準とした編年や（武末純一1978、柳田1991など）、各型式の詳細な属性観察・検討によ



第77図 石勺遺跡K地点遺構変遷図



第78図 石勺遺跡K地点古墳時代遺構変遷図

る詳細な編年が提示されている（久住猛雄1999・2005）。本書では、武末編年・柳田編年を参考にして在来系と外来系土器の共存関係と、甕と高杯の形態変化を指標に、出土土師器を5段階に時期区分した。なお、1段階は柳田編年Ⅰb式併行、2段階はさらに細分して2（古）段階は同Ⅱa式、2（新）段階はⅡb式併行、3段階は同Ⅱc式併行、4段階は同Ⅲa式併行、5段階は同Ⅲb式併行に相当する。

**集落の変遷** 設定した時期区分に基づき時期比定した遺構の変遷を第78図に表示した。

1段階では、調査区北西部に溝が掘削され、南東側に竪穴住居が2棟、竪穴住居と考えられるSX15が点在する。また、調査区北東端に土壇が1基確認される。2（古）段階では、竪穴住居が7棟確認され、SD07検出面からまとまって遺物が出土しており遺構の存在が推測される。前段階の住居と重複せず周辺に住居が展開する様子が伺える。また、集落が展開する微高地東縁辺である調査区東端で溝が1条掘削され、住居群西側を画するように溝状のSX39・40が掘削される。2（新）段階では、竪穴住居SC18を比定した。次の3段階では、竪穴住居が7棟確認される。前段階の住居と重複せず南東側に展開する。4段階では、竪穴住居が4棟に減少し、前段階の住居に近接あるいは重複する。展開する範囲は北東側に集中する。住居のうち2棟でカマドと推定されるものが確認される。5段階では、竪穴住居が2棟北東側で確認され、うち1棟でカマドと推定されるものが確認される。

まとめると、2（古）段階に住居数が増加して集落が発展して3段階までその状況が継続する。住居等の配置は、住居群の北西・南東側を直線的に溝が区画する。住居は1段階のSC01周辺（以下A群）・SC22周辺（以下B群）・SX15周辺（以下C群）の3つの群として展開し、B群がもっとも軒数が多いように見受けられる。最終的には見かけ状2列の帯状をなす。4段階には住居は減少し、B群に集中する。また前段階の住居と重複して作られ、一部の住居にかまどの導入が推定される。画期は、配置の変化や住居数の増減から2（古）段階の前期前半と4段階の前期末から中期初頭と考えられる。

**特徴的な遺物の様相** 古墳時代前期から中期の集落では、威信財である銅鏃・青銅製鋤先・ガラス小玉・管玉や朝鮮半島との交流を示す軟質土器深鉢・甌が出土している。ここでは、これらの時期、出土位置について見ることにする。

まず威信財である銅鏃は、SC02の住居床面に突き刺さった状態で出土しており、特別な廃棄行為に伴うものと推測される。時期は2（古）段階である。青銅製鋤先はSC25で完形の甕などと共に床面からやや浮いた位置で出土しており、やはり廃棄行為に伴うものと推測される。時期は2（古）段階である。管玉はSC18からまとまって出土した。時期は2（新）段階と考えられる。

ガラス小玉はSC06とした小型の住居から出土した。時期は3段階の前期後半である。これら威信財は最初の画期である2（古）段階のものが多く、位置としてはA・B郡に集中する。また、鏃・鋤先・鉄鏃などの鉄製品の保有状況はB群を中心とした北東側2群に集中する。

次に朝鮮半島系土器について検討する。資料としては、SC27出土の軟質土器深鉢とSC03出土の多孔式の甌がある。深鉢は形状、製作技法から朝鮮半島系土器と考えられるが、半島産のものとの若干の違いが認められる。形状は口縁部が非常に短く、内面を強くナデることにより外反させてい

る。また底部付近外面のケズリは、半島産のものが短いピッチのケズリを連続し全周させているのに対し、本資料は1回のケズリを全周させている。このことは、日本において半島の技術のもった人（渡来人）によって製作された可能性が高いと推定される（註1）。また、格子目タタキであること、頸部がやや直立することから、朝鮮半島南西部（全羅南道地域）の特徴を示すものと推定される（註2）。

また、使用痕跡については、外面全面にススが付着し、一側面は赤変しスス酸化部となる。内面は全体に黒ずみ、外面スス酸化部側にパッチ状のコゲが付着する。古墳時代中期の小型平底深鉢の使用痕跡については、近畿地方の当該期煮沸具を対象とした研究が進められている。同様の使用痕跡については、直置きで部分的な加熱で頻繁にかき混ぜるシチュー状の煮込む調理の可能性が高いこと、朝鮮半島南部の深鉢形土器の使用痕跡と共通すること、カマドの側に置くなどカマド施設との相関関係を想定させることが明らかにされている（註3）。位置はB群、時期は4段階である。甌は底部破片のみであるが、小円孔が3個確認でき、丸底である。特徴から朝鮮半島南東部（慶尚南道地域）に由来するものである可能性がある（註4）。位置はA群、時期は2（古）段階である。

### 集落の様相

まとめると、古墳時代前期初頭に集落の形成が開始され、2段階に発展する。この段階に、竪穴住居A・B群では、銅鏃・青銅製鋤先などの威信財が廃棄され、鉄製品はB群に集中する。さらに朝鮮半島系土器の甌が出土する。C群ではこれらの特徴的な遺物は出土せず、遺物の上で格差が存在する。次の画期である4段階では、住居数が減少しB群に集中する。そして一部の住居ではカマド施設の導入が推定されるとともに朝鮮半島系土器が出土する。このことは、土器の製作手法だけでなく、使用方法や調理施設など朝鮮半島からの新たな調理様式を導入したことを示すものと考えられる。また集落内で前段階の中心的なB群に住居が限定され、そこに朝鮮半島南西部からの新たな技術が導入されること、前段階まで中心的であり伽耶地域との関連を示す遺物が出土したA群が4段階（中期初頭）に継続しないという調査結果は、朝鮮半島と倭の交流の変化や福岡平野における集落動態を考える上で非常に興味深い資料となる。以上、推論に推論を重ねた検討となったが、古墳時代集落の様相についてみてきた。時期設定については、遺物に混じりがあり誤認の可能性もある。諸氏のご教示をお願いしたい。今回は、限定された範囲の調査成果に基づく検討のみであるため、同様の調査事例や類例の分析については、今後の課題としたい。

註1 福岡大学武末純一氏、大阪歴史博物館寺井誠氏、岡山理科大学亀田修一氏のご教示による。

註2 福岡大学武末純一氏のご教示による。

註3 大庭重信・杉山拓己・中久保辰夫2006「スス・コゲからみた長原遺跡古墳時代中期の煮沸具の使用法—小型鍋（平底鉢）を中心に—」『大阪歴史博物館研究紀要』第5号

註4 武末純一2000「北部九州の百済土器—4・5世紀を中心に—」『福岡大学総合研究所報』第240号

表1 遺構一覧表

遺構	平面形	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	特 徴	切り合い
SK01	隅丸長方形	242	165	103.5	石蓋土墳墓。	
SK02	隅丸方形	74	63	41.5	二段掘り。	SD03より新
SK03	方形	108	115	14.5	底面が平坦。	
SK04	隅丸長方形	178	75	53	二段掘り。	SX01より新
SK05	長方形	290	150	?	底面が凹凸。	
SK07	不整形	170	127(残)	17	二段掘りか、底面がやや平坦。	
SK08	隅丸方形	142	100(残)	19.5	二段掘りか、底面が凹凸。	SC05より古
SK09	長方形	208(残)	154	24	壁が直立、底面が平坦、中心と東端にピットあり。	
SK10	方形	114	83(残)	25	壁が直立、底面が平坦。	
SK11	隅丸長方形	152	97	63	壁がなだらかに立ち上がる、底面が凹凸。	
SK12	楕円形	96	77	25.5	底面がやや平坦、南東に傾斜。	SC12の中
SK13	隅丸長方形	88	46(残)	23	壁がなだらかに立ち上がる。	
SK14	長方形か	123(残)	70(残)	21.5	底面が南に傾斜。	SD11,20より古
SK15	楕円形か	81(残)	62.5(残)	40	底断面が皿状、一部くぼみあり。	SD20,SK16より古
SK16	楕円形	167	136	62.5	壁がなだらかに立ち上がる、底断面が皿状。	
SK17	長方形	150	91	33	底面が平坦。	
SK18	楕円形	229(残)	202	94	底面はほぼ平坦、二段掘りか。	
SK19	円形	53	46	32	壁がなだらかに立ち上がる。	
SK20	隅丸長方形	216	129.5	73.5	二段掘り、底面がやや平坦。	SK21より新
SK21	隅丸方形か	142(残)	128	92	二段掘り、底面がやや平坦。ピットが南西と北東にあり。	SK21より古
SK23	隅丸方形か	65(残)	64(残)	18	底面が凹凸。	
SK24	隅丸方形	123	42	33	底面が凹凸。	
SK25	方形	90	86(残)	75	二段掘りか。	

SX01	楕円形	(293)	81	68	一部僅かに調査区外。	
SX02	楕円形	230	62	50	底面が階段状。	
SX03	楕円形	245	96	62	底面が階段状。	
SX04	楕円形	120	60	58	底面が凹凸。二段掘りか。	
SX05	不整形	412	86	32		
SX06	楕円形	(380)	58	64	溝状。底面が階段状。一部攪乱により削平される。	
SX07	楕円形	153	48	17	溝状。東端がくぼむ。	SX08より新
SX08	楕円形	129	58	45	二段掘りか。中心がくぼむ。	SX07より古
SX09	方形か	194	(158)	30	壁が直立。底面が凹凸。	
SX10	不整形	150	(120)	11	底面がやや平坦。	
SX12	楕円形か	(294)	82	47.5	溝状。	
SX13	不定形	(530)	(240)	58	攪乱により削平される。	SD07より古
SX14	楕円形?	(400)	(105)	30		SD07より新
SX15	長方形	(296)	222	27.5	壁が直立。底面が凹凸。	SX14,SD07より古
SX16	隅丸長方形か	150	46	39	底面が平坦。	SD08より古
SX17	不整形	118.5	(84)	43	底面が凹凸。	SD08より古
SX19	不整形	(810)	(140)	50	トレンチにより削平される。一部調査区外。	
SX20	不整形	408	(196)	61	底面が凹凸。	
SX21	不整形	174	84	40	底面が凹凸。	SD11より古
SX22	円形か	220	(157)	27	一部調査区外。	
SX23	隅丸方形か	(196)	(164)	30.5	底面が平坦、北へなだらかに傾斜。壁がやや直立。	
SX24	楕円形か	(92)	79	11.5	二段掘りか。底面がやや平坦。	
SX25	三角形か	75.5	(59)	29	底面が凹凸。	SD20より古
SX29	隅丸長方形か	289	(111)	37	二段掘りか。	
SX30	不整形	940	538	42	壁がなだらかに立ち上がる。底面が東側へ傾斜。	
SX31	不整形	(550)	(320)	48	攪乱により削平される。	SD22より古
SX32	不整形	410	330	18	壁がなだらかに立ち上がる。	
SX33	楕円形	(300)	(63)	15	攪乱により削平される。	
SX34	隅丸長方形	270	80	60.5	底面が凹凸。	
SX35	不整形	158	(132)	39	底面が中央から北西にかけて平坦、他は凹凸。	
SX36	円形	(164)	(122)	53	攪乱に削平される。二段掘り。	SX34,35より古
SX37	円形か	(210)	(140)	56		SX38より新
SX38	円形か	(123)	107	62		SX37より古
SX39	不整形	123	100	47	二段掘りか。	
SX41	不整形	187	83	19	底面が凹凸。	
SX42	不整形	380	250	47		
SX43	楕円形か	(182)	(88)	62	底断面が皿状。一部調査区外。	
SX44	不整形	(360)	(194)	19	攪乱に削平される。	
SX45	楕円形か	(158)	(132)	60	下面にSK19。一部調査区外。小ピット多数	
SX47	方形か	(225)	(150)	16	一部調査区外。ピット多数。周溝状のものあり。	
SX49	隅丸方形	146	114	83	二段掘り。底面が東側へ傾斜。	
SX50	隅丸長方形	189	68	41	底面が北西側へ傾斜。	

表2 石勺遺跡K地点調査遺物観察表①

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm/g)①口径 ②器高 ③底径 ④最大径(復元)	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備考
0001	土師器	二重口縁壺	SC-01 No.5	①(18.6) ②(4.5)	口縁部ヨコナデ。口縁部外面はヨコハケ後ヨコナデのヘラミガキ、下位はナメハケ後ヨコナデ、内面はヨコハケ後ヨコナデ後ヘラミガキ。	A密。0.5~4.0mm以下の長石・白色砂粒を少量含み、雲母をやや多く含む。B良好 C外:明赤褐2.5YR5/6、内:橙7.5YR6/6	
0002	土師器	二重口縁壺	SC-01	②(3.3)	内外面ともヨコナデ。	A良好。0.5~3.0mm以下の長石・白色砂粒を少量含み、雲母をやや多く含む。B良好 C橙2.5YR6/8	畿内系。ヘラ記号あり。
0003	弥生土器	壺	SC-01 東西土層ベルト内	②(4.25)	内外面ともヨコナデ。	A密。3.0mm以下の長石を少量含み、雲母を微量に含む。B良好 C外:明赤褐2.5YR5/6、内:明黄褐10YR7/6	外面、赤彩を施す。
0004	土師器	甕	SC-01 No.1	①13.0 ②(19.3)	口縁部内外面ともナメハケ後ヨコナデ。胴部外面はタテハケ後ヨコナデ、内面はヨコハケ後ヨコナデ。胴部内面はヨコハケ後ヨコナデ。底部はナメハケ後ヨコナデ。底部輪成形、内面に環状ハケ。	A密。0.5~3.0mmの長石を少量含み、雲母を少量含む。B良好 C橙2.5YR6/8	口縁部と体部にスス付着。
0005	土師器	甕	SC-01 No.4	①(14.2) ②(15.4)	口縁部内外面はナメハケ後ヨコナデ。胴部外面はナメハケ、内面はナデ、底部付近はハケ後ヨコナデ。	A良好。3.0mm以下の白色砂粒・長石をやや多く含む。雲母をやや多く含む。Bやや不良 C外:浅黄褐7.5YR8/6、体部一部灰白10YR8/2、体部から底部にかけて黒10YR2/1、内:灰白10YR8/2	口縁部から胴部にかけて、一部スス付着。
0006	土師器	甕	SC-01 1区	①(14.9) ②(11.9)	口縁部は内外面ともヨコナデ。胴部は内外面ヨコナデ、胴部内面ナデ、底部ハケ後ナデ。胴部外面摩滅し調整不明。	A良好。2.0mm以下の長石をやや多く含む。B良好 C外:浅黄褐10YR8/4、内:黒褐10YR3/1	口縁部・体部一部にススが付着。
0007	土師器	器台	SC-01	②(4.0)	内外面ともナデ。	A良好。0.5~4.0mm以下の長石をやや多く含む。雲母を多量に含む。B良好 C橙2.5YR6/8	
0008	土師器	深鉢	SC-01 東西土層ベルト内	①(12.2) ②(8.05)	口縁部は内外面ともヨコナデ。体部外面はタテハケ後ヨコナデ(指押さえ)。内面はヨコハケ後ヨコナデ。	A密。3.0mm以下の長石を少量含み、雲母を少量、角閃石を微量に含む。B良好 C明赤褐5YR5/6、外面一部明黄褐10YR6/6、黒2.5Y2/1	朝鮮半島系土器深鉢381に似る。
0009	土師器	鉢	SC-01 No.2	①10.7 ②7.1 ③2.4	口縁部は内外面ヨコナデ。体部外面はタテハケ後ナデ、下位から底部はタテハケナデ。内面上位はヘラケズリ、下位はハケ。	A密。0.5~3.0mm以下の長石をやや多く含む。雲母を少量含む。B良好 C明赤褐2.5YR5/6、内面一部赤10YR5/8、黒2.5Y2/1	内外面にヘラ工具の痕跡あり。
0010	土師器	鉢	SC-01 No.3	②(6.0) ③(3.2)	体部外面はタテハケ、下位はナデ。内面はナデ、底部は未調整。	A密。0.5~3.0mm以下の長石をやや多く含む。雲母を少量含む。B良好 C外:浅黄褐10YR7/4、内:灰白10YR8/2、内:ぶい黄褐10YR7/4、底部黒1.5Y8/3	
0011	土師器	鉢	SC-01 東西土層ベルト内	②(4.65) ③4.3	体部外面はナデ、下位はタテハケ、底部付近はヨコナデ。内面はナデ。底部はナデ。	A密。0.5~3.0mmの長石を少量含み、雲母を多量に含む。B良好 C浅黄2.5Y8/3、外面一部黒褐10YR3/1に变色。	器面全体磨耗している。
0012	石器	石包丁	SC-01	長3.25 幅(8.3)			輝緑凝灰岩。
0013	土師器	壺	SC-02 2区	②(2.4)	外面はナメハケ後タテハラミガキ。内面はヨコハケ後タテハラミガキ。	A密。0.5~3.0mm以下の長石を微量に含む。雲母をやや多く、角閃石を微量に含む。B良好 C浅黄褐10YR8/4、外面暗黒文10YR2/1	外面暗文に黒色塗料を施す。
0014	土師器	直口壺	SC-02 東西土層ベルト内	②(5.7)	口縁部はヨコナデ、口縁部外面はタテハラミガキ、内面はヨコハラミガキ。胴部外面はタテハケ後タテハラミガキ、内面はヨコハケ後ヨコナデ。	A密。0.5~3.0mm以下の長石を少量含み、雲母を微量含む。B良好 C外:ぶい黄褐10YR7/4、内:浅黄褐10YR8/3	
0015	土師器	小型丸底壺	SC-02 1区 貼床	①(10.1) ②(11.4)	口縁部は内外面ともヨコナデ。胴部外面はタテハケ後ヨコナデ、内面はヨコハケ後ヨコナデ。	A密。0.5~2.0mm以下の長石を少量含み、雲母をやや多く含む。B良好 Cぶい黄褐10YR7/4、外面一部黒褐10YR3/1に变色。	
0016	土師器	壺	SC-02 3区 貼床	②(8.4)	内外面ともヨコナデ。内面に指押さえあり。	A密。0.5mmの長石と雲母を微量に含む。B良好 C外:明赤褐2.5YR5/6、内:灰白10YR8/2	全体的に磨耗している。外面と内面両面に赤彩を施す。
0017	土師器	甕	SC-02 3区	②(3.05)	外面はナメハケ後ヨコナデ。内面はタテハケ。底部内面は環状ハケ。胴部輪弁充填	A密。0.5~2.0mmの長石を微量に含む。雲母を微量に含む。B良好 C外:ぶい黄褐10YR6/4、内:黒褐10YR3/1	全体的に磨耗している。内面にスス付着。V様式系か。
0018	土師器	壺	SC-02 3区	②(3.5)	口縁部内外面ともヨコナデ。肩部外面はナメハケ後ヨコナデ、内面はタテハラミガキ。	A密。0.5~1.0mm以下の長石・石英を少量含み、角閃石・雲母を少量含む。B良好 C橙5YR6/6、一部ぶい褐7.5YR5/4	口縁部一部にスス付着。
0019	土師器	壺	SC-02 1区 上層	②(5.1)	内外面ともハケ。胴部外面に突帯を貼り付け、斜格子刻みを施す。	A良。0.5~3.0mm以下の長石を少量含み、雲母を微量に含む。B良好 C外:灰黄褐10YR4/2、内:ぶい黄褐10YR4/3	外面一部にスス付着。
0020	土師器	高杯	SC-02 2区	②(5.5)	外面はヨコハラミガキ、内面はタテハラミガキ。	A密。0.5~1.0mmの長石を微量に含む。雲母をやや多く含む。B良好 C外:橙5YR6/8、内:黄褐7.5YR7/8	
0021	土師器	高杯	SC-02 1区 貼床	②(3.05)	口縁部はヨコナデ。内外面タテハケ後ハラミガキ。	A密。0.5~1.0mm以下の長石を少量含み、雲母をやや多く含む。B良好 C橙5YR6/8、外面一部灰白2.5Y8/2	全体的に磨耗している。
0022	土師器	高杯	SC-02 1区 貼床	②(9.85) 脚裾部(14.7)	外面はタテハケ後タテハラミガキ。内面上部はヨコナデ、上位はナデ、中位はヨコナデ、裾部はヨコハケ。裾部はヨコナデ。透かし孔密。	A密。0.5~2.0mm以下の長石を少量含み、雲母をやや多く含む。B良好 C橙5YR6/6	器面一部にススが付着。
0023	土師器	脚付鉢	SC-02 1区 貼床	②(5.05)	体部外面はタテハケ後ヨコナデ、内面はヨコハケ後ヨコナデ(指押さえあり)。胴部外面はタテハケ、内面はハケ後ヨコナデ(指押さえあり)。	A良。3.0mm以下の長石をやや多く含む。雲母を微量に含む。B良好 C外:浅黄褐7.5YR8/4、内:淡黄2.5Y8/3	
0024	土師器	鉢	SC-02 3区 壁溝内	②(3.4)	内外面ともヨコナデ。	A密。0.5~3.0mm以下の長石を少量含み、雲母をやや多く含む。B良好 C浅黄褐10YR8/3	
0025	土師器	小型丸底鉢	SC-02 2区 貼床	②(3.2)	口縁部はヨコナデ。口縁部外面はヨコハラミガキ、内面はヨコハケ後ヨコハラミガキ。体部は内外面ともヨコハラミガキ。	A密。0.5~1.0mm以下の長石を微量に含む。雲母を微量に含む。B良好 C橙5YR6/8	
0026	土師器	鉢	SC-02 1区	①(15.5) ②(4.1)	口縁部内外面ともヨコナデ。体部外面はヨコハケ後ハラミガキ。内面はタテハラミガキ。	A密。0.5~2.0mm以下の長石を少量含み、雲母を少量含む。B良好 C外:橙2.5YR8/8、内:橙5YR7/6	底脚高杯の可能性あり。
0027	弥生土器	甕	SC-02 1区 上層	②(3.0)	外面はヨコナデ。内面は器面磨滅のため調整不明。	A良好。3.0mm以下の長石を少量含み、雲母を微量に含む。B良好 C外:橙2.5YR6/8、内:浅黄褐10YR8/4	突帯文深鉢
0028	弥生土器	壺	火事被災SC-03 検出中	②(3.4) ③3.1	外面はナデ(指押さえあり)。内面はヨコハケ。	A密。0.5~2.0mm以下の長石を少量含み、雲母を多量に含む。B良好 C浅黄褐10YR8/4	
0029	弥生土器	甕	SC-03 南側検出中	②(6.25) ③(8.6)	外面調整不明、内面はナデ。外面底部との境界にタテハラミガキ。	A0.5~1.0mm以下の長石を少量、雲母をやや多く含む。B良好 C橙7.5YR7/6	
0030	土師器	長頸壺	SC-03 南側検出中	①(12.9) ②(12.3)	口縁部外面タテハケ後ヨコナデ後タテハラミガキ、内面ヨコハケ後ナデ。胴部外面タテハケ、内面ヨコナデ。胴部外面タテハケ後ハラミガキ、内面上位はナメハケ後ナデ、中位はナメハケ。	A密。0.5~2.0mmの長石を少量含み、雲母をやや多く、石英を微量に含む。B良好 C橙5YR6/6、外面体部一部、内面口縁一部灰黄褐10YR4/2、内面体部黒褐2.5YR2/1	
0031	弥生土器	甕	火事被災SC-03 検出中	①(30.4) ②(2.1)	口縁部内外面ともヨコナデ。胴部内面はヨコハケ。	A密。0.5~2.0mm以下の長石を少量含み、雲母を多量に含む。B良好 C外:ぶい赤褐5YR5/3、内:ぶい黄褐10YR3/3、一部明赤褐2.5YR5/6	
0032	土師器	甕	火事被災SC-03 検出中	②(3.4)	口縁部内外面とも丁寧なヨコナデ。胴部内外面ともヨコナデ。胴部内面ヘラケズリ。	A密。0.5~1.0mmの長石を微量に含む。雲母を少量含む。B良好 C浅黄褐10YR8/3	布留系。
0033	土師器	鉢	火事被災SC-03 検出中	②(5.35)	口縁部ヨコナデ。口縁部外面は右上がりナメハケ後ヨコナデ、下位は右上がりナメハケ後ヨコナデ。内面は左上がりナメハケ。	A密。0.5~1.0mmの長石を少量含み、雲母を多量に含む。B良好 Cぶい黄褐10YR6/4	
0034	土師器	鉢	SC-03 南側検出中	②(2.6)	内外面ともヨコナデ。	A密。0.5~1.0mmの長石や雲母を微量に含む。B良好 C橙5YR6/6	
0035	土師器	鉢	火事被災SC-03 検出中	①(8.9) ②(5.3)	内外面ともヨコナデ。口縁部底部状を呈す。	A0.5~1.0mmの長石を微量に含む。雲母を少量含む。B良好 Cぶい黄褐10YR7/4	
0036	土師器	鉢	SC-03 南側検出中	②(3.85) ③3.8	外面タテハラミガキ。内面はヨコハラミガキ。底部外面ハラミガキ。	A密。0.5~2.0mmの長石を少量含み、雲母をやや多く含む。B良好 C外:浅黄褐10YR8/4、一部熱を受け橙5YR7/6、黒10YR2/1に变色、内:黄褐10YR8/6、一部熱を受け橙5YR7/6、褐灰10YR4/1に变色。	
0037	土師器	小型丸底壺	SC-03 南側検出中	②(5.9)	口縁部外面ハラミガキ、内面ヨコナデ。体部外面はヨコハラミガキ、下位はヘラケズリ後ハラミガキ、内面はハラミガキ。	A密。0.5~1.0mm以下の長石を微量に含む。雲母をやや多く含む。B良好 C外:黄褐10YR8/6、一部熱を受け橙5YR6/6、ぶい黄2.5YR6/3に变色、内:橙5YR	外面体部内面口縁部・体部の一部にスス付着。
0038	土師器	高杯	火事被災SC-03 周辺検出中?	②(2.45) ③(14.3)	外面はタテハラミガキ。内面はナメハケ。裾部ヨコナデ。	A密。0.5~2.0mmの長石を少量含み、雲母を少量含む。B良好 C外:黄褐10YR8/6、内:橙7.5YR7/6	杯部に孔あり。復元すると7方向に傾いているが一列かどうかは不明。
0039	土師器	壺	SC-03 2区 No.6	①19.6 ②(9.3)	口縁部外面はヨコナデ、内面はヨコハケ後ヨコナデ。胴部外面はタテハケ後ヨコナデ、内面はヨコハケ。	A良好。0.5~2.0mm以下の長石を少量含み、雲母を少量、角閃石を微量に含む。B良好 C浅黄褐10YR8/4、一部橙2.5YR6/6、口縁部一部橙2.5YR6/8	一部、被熱により变色。
0040	土師器	壺	SC-03 2区 No.5	②(11.9) ③6.4	胴部外面中位はヨコハケ後ヨコハラミガキ、下位はヨコハケ。内面中位はヨコハケ後ヨコハラミガキ、下位はヨコハケ。底部外面はヨコナデ。	A良好。0.5~3.0mm以下の長石をやや多く含む。雲母を少量、角閃石を微量に含む。B良好 C外:明黄褐10YR7/6・一部黒10YR2/1、灰白10YR8/2	内面約1/2が剥離。
0041	土師器	甕	SC-03 2区 No.7	①(14.8) ②(18.3)	口縁部内外面ともヨコナデ。胴部から肩部はヨコハケ後ヨコナデ、肩部はハケによる波状文、中位以下はタテハケ。内面はヘラケズリ、底部はハケ後ナデ(指押さえあり)。	A良好。0.5~3.0mm以下の長石・雲母を多量に含む。角閃石を微量に含む。B良好 C外面上半浅黄褐10YR8/3、外面下半:黒10YR2/1、内面口縁部:浅黄褐10YR8/3、内面底部:黒褐10YR2/2、それ以外の内面:灰黄褐10YR6/2	布留系。
0042	土師器	甕	SC-03 南北土層ベルト中	①(13.0) ②(2.5)	内外面ともヨコナデ。	A密。0.5~3.0mmの長石を少量含み、雲母をやや多く含む。B良好 C外:橙5YR6/8、内:浅黄褐10YR8/4	庄内系か?口縁部一部にスス付着。

表2 石勺遺跡K地点調査遺物観察表②

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量 (cm/g) ①口径 ②器高 ③底径 ④最大径(復元)	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備考
0043	土師器	甕	SC-03 南北土層ベルト中	②(10.05)	頸部内外面ともナメハケ後ヨコナデ。胴部外面上位はヨコナデ、中位にハケ後ヨコナデ。内面上位はヘラケズリ後ヨコナデ、中位はヘラケズリ。	A良。0.5~2.0mmの長石をやや多く含む、雲母を少量含む。B良好 C外：浅黄橙10YR8/4、内：黒10YR2/1	外面体一部にスス付着。
0044	土師器	甕	SC-03 2区 No.12	①(34.2) ②(5.8)	口縁部外面はヨコナデ、内面はハケ後ヨコナデ。胴部外面ナデ。内面ヨコナデ。	A良。0.5~3.0mmの長石をやや多く、雲母を少量含む。B良好 C浅黄橙10YR8/4、内面下半にふい焼7.5YR5/4	
0045	土師器	高杯	SC-03 1区 No.13	①11.3 ②11.05 ③(13.0)	杯部内外面ともタテハラミガキ。脚部外面上位タテハラミガキ、中位ヨコナデ、下位はタテハラミガキ。内面上位は棒状工具によるナデ、下位はヨコナデ。	A良。0.5~3.0mmの長石をやや多く含む、雲母を微量に含む。B良好 C橙5YR6/6、杯部表面粘土付着部明黄橙10YR7/6	孔は2列、4方向にあいている。北隣系か？杯部内面はひび割れ状に剥離。
0046	土師器	高杯	SC-03 P-5	②(5.7)	外面はタテハラミガキ後ヨコナデ。内面はヨコハケ後タテハラミガキ。	A密。0.5~1.0mmの長石を少量含む、雲母をやや多く含む。B良好 C明赤褐5YK5/6	
0047	土師器	高杯	SC-03 1区 No.3	①(13.4) ②(8.75)	口縁部外面はヨコナデ。杯部外面はヨコハケ後タテハラミガキ、内面はタテハラミガキ。脚部外面はタテハラミガキ、内面はヨコハケ後タテハラミガキ。	A良好。0.5~2.0mm以下の長石を少量含む、雲母を少量含む。B良好 C外：明黄橙10YR6/6、一部橙5YR7/6、内：浅黄橙7.5YR8/6	北隣系か？
0048	土師器	高杯	SC-03 1区 No.4	②(6.3)	杯部内面ヘラミガキ、外面タテハラミガキ。脚部外面はタテハラミガキ、内面はタテ板ナデ。	A密。0.5~2.0mmの長石を微量に含む、雲母をやや多く含む。B良好 C杯部浅黄橙10YR8/4、外：脚部一部橙5YR6/8、内：脚部にふい焼橙10YR7/4	北隣系からの外来品か。
0049	土師器	高杯	SC-03 1区 No.1	②(6.7)	脚部外面はタテハラミガキ。内面上位はタテナデ(指押さえあり)、下位はヨコナデ。杯部内面ヘラミガキ。	A密。0.5~1.0mmの長石を微量に含む、雲母を多く含む。B良好 C外：明黄橙10YR7/6、一部黒10YR2/1、内：灰黄褐10YR4/2	
0050	縄文土器	鉢	SC-03 南北土層ベルト中	②(2.3)	内外面ともナデ。口縁部は縄文施文後沈線を施す。	A良好。0.5~1.0mmの長石と角閃石をやや多く、雲母を少量含む。B良好 C外：浅黄橙10YR8/4、内：明黄褐10YR6/6	
0051	土師器	鉢	SC-03 南北土層ベルト中	②(2.3)	口縁部はヨコナデ。口縁部外面タテ・ヨコハラミガキ、内面タテハラミガキ。	A密。0.5~1.0mm以下の長石を少量含む、雲母を少量含む。B良好 C明赤褐2.5YR5/8	
0052	土師器	器台	SC-03 1区 No.2	②(12.8) 脚部径14.55	外面上位はタテハラミガキ後ヨコナデ、下位はヨコナデ。内面上位はヘラケズリ後ナデ、ヨコナデ。下位はヨコハケ後ヨコナデ、裾部に指押さえ。裾部はヨコナデ後ヘラ状工具の刻み。	A密。0.5~3.0mmの長石をやや多く含む、雲母を少量含む。B良好 C橙5YR6/6	脚部胴体と脚部を接合後、タテハラミガキを施した後脚部中央を指で取っている。
0053	石器	砥石or台石	SC-03 1区 石器3	長16.85 幅29.4 厚5.6	表面下半は平滑である。		花崗岩製。表面下半が平滑だが、あまり使用されており、凹んでいない。この部分以外は粗いため、砥石以外に使用されていたか？
0054	土師器	甕	SC-04 P-6 No.1	①(11.2) ②(14.2)	口縁部外面はヨコナデ、内面はヨコハケ後ヨコナデ。頸部内外面ともナメ。胴部外面はナメハケ後タテハラミガキ。内面はヘラケズリ。	A良。0.5~3.0mmの長石をやや多く含む、雲母を少量含む。B良好 C浅黄橙10YR8/4	一部スス付着。
0055	土師器	鉢	SC-04 P-6 No.2	①11.8 ②7.1	口縁部はヨコナデ。体部外面は不定方向へのハケ、内面は左上がりのナデ。	A良好。0.5~3.0mmの長石をやや多く含む、雲母を少量含む。B良好 C橙2.5YR6/8	外面一部にスス付着、底部ヘラ記号あり。
0056	土師器	二重口縁蓋	SC-05 周辺検出中	②(4.75)	外面はヨコハラミガキ、内面は上位はナメ・タテハラミガキ。	A密。0.5~2.0mm以下の長石・雲母を微量に含む。B良好 C外：浅黄橙10YR8/3、内：ふい焼橙10YR7/3	
0057	土師器	壺	SC-05 周辺検出時	②(2.6)	内外面ともヨコナデ。外面に横位櫛歯直線文。	A密。0.5~1.0mmの長石を少量含む、雲母をやや多く、角閃石を微量に含む。B良好 C外：橙2.5YR6/8、内：灰黄褐10YR4/2	
0058	土師器	高杯	SC-05 周辺検出時	①(19.1) ②(3.9)	口縁部外面上位は丁寧なヨコナデ、下位はヨコハラミガキ。内面は丁寧なナデ後一部ヨコハラミガキ。	A密。0.5~1.0mmの長石を微量含む。B良好 C外：ふい焼橙10YR7/4、一部熱を受け橙5YR6/6、内：黒褐2.5YR3/1	内面全体と外面口縁部一部にスス付着。
0059	土師器	鉢	SC-05 周辺検出中	②(3.3)	口縁部はヨコナデ。口縁部内外面ともヨコハケ。	A密。0.5~1.0mmの長石・雲母を微量に含む。Bやや不良 C外：浅黄橙10YR8/3、一部熱により橙5YR7/6、黄灰内：灰2.5YR6/1、内：浅黄橙10YR8/4	全体的に磨耗している。
0060	縄文土器	浅鉢	SC-05 周辺検出中	②(3.5)	、外面は貝殻敷染。外面は上位に刺突文を施す。内面は磨耗のため調整不明。	A良好。0.5~1.0mmの長石をやや多く含む、角閃石・雲母を微量に含む。Bやや不良 C外：褐7.5YR4/4、内：明赤褐5YK5/6	三方田式か。
0061	土製品	土鍾	SC-05 周辺検出中	長(1.6) 幅0.9~1.2 孔径0.4~0.5		A良好。0.5~2.0mmの長石を少量含む、雲母を微量に含む。B良好 C明褐7.5YR5/6	
0062	土師器	甕	SC-05 P-5	②(3.1)	内外面ともタテハラミガキ後ヨコナデ。	A良好。0.5~2.0mmの石莖・長石・微細な雲母をやや多く含む角閃石を微量に含む。B不良 C外：ふい焼黄褐10YR5/3、内：ふい焼7.5YR5/4	
0063	土師器	高杯	SC-06 1区	①(11.7) ②(3.6)	内外面ともヨコナデ。	A良好。0.5~3.0mmの長石を少量含む、雲母をやや多く含む。B良好 C外：明赤褐5YR5/6、一部熱と磨耗により浅黄橙7.5YR8/6、内：ふい焼橙10YR7/4、熱により黒褐10YR3/1、内：橙5YR6/6、一部磨耗により浅黄橙10YR8/3、一部磨耗と熱により橙2.5YR6/8、橙7.5YR7/6、熱により黒褐10YR3/1	
0064	土師器	鉢	SC-05 P-8	①8.35②6.4 ③2.0④9.1	口縁部はヨコナデ。体部外面ヨコナデ、ナデ。内面はケズリ後丁寧なナデ。	A密。0.5~2.0mmの長石を少量含む、雲母を少量含む。B良好 Cにふい焼橙10YR6/3、外：底部一部熱により褐灰10YR4/1	
0065	土師器	鉢	SC-05 北側	①(13.3) ②5.8	口縁部はヨコナデ。体部外面上位は丁寧なヨコナデ、下位はタテハラミガキ後タテハラミガキ。内面はヨコハケ後ヨコナデ。底部外面タテハラミガキ。	A良好。0.5~2.0mmの長石・雲母を微量に含む。B良好 C外：浅黄橙10YR8/3、一部熱を受け淡赤褐2.5YR7/4、内：ふい焼7.5YR5/4、内：浅黄橙10YR8/4、口縁部一部熱を受け淡赤褐2.5YR7/4、橙5YR6/6	
0066	土師器	二重口縁蓋	SC-06 横ベルト	①(14.7) ②(6.0)	口縁部内外面ともヨコナデ、下位はヨコハラミガキ。口縁部外面下位はヨコハラミガキ。胴部外面はタテハラミガキ。	A密。0.5~2.0mm以下の長石・雲母を少量含む、雲母を少量含む。B良好 C外：浅黄橙10YR8/4、内：ふい焼橙10YR7/4	薬内系か。
0067	弥生土器	壺	SC-06 1区	②4.3	内外面ともヨコナデ。外面に櫛状工具による波状文・横位直線文を施す。	A密。0.5~1.0mm以下の長石を少量含む、雲母を多量、角閃石を微量に含む。B良好 C外：橙2.5YR6/8、内：褐灰10YR4/1	外来系。
0068	土師器	小型丸底壺	SC-06 横ベルト	①(9.6) ②8.8	口縁部外面ヨコハケ後ヨコナデ、内面ヨコナデ。胴部外面上位ヨコナデ、以下ハケ後ヨコナデ(ハケ細面)。内面はタテ・ヨコナデ、底部ヨコハラミガキ後ヨコナデ。	A密。0.5~2.0mmの長石・雲母を少量含む、雲母をやや多く含む。B良 Cにふい焼橙10YR7/4、内面一部熱により橙5YR7/6	
0069	土師器	小型丸底壺	SC-06 4区	②5.75	口縁部外面タテハラミガキ後ヨコナデ、内面ナデ。胴部外面ヨコナデ、内面ナメナデ。	A密。0.5~1.0mm以下の長石を少量含む、雲母を多量、石英を微量に含む。B良好、固く焼きしめる。C外：褐灰10YR4/1、内：灰黄褐10YR5/2	
0070	土師器	小型丸底壺	SC-06 横ベルト	②(5.8)	口縁部内外面ともヨコナデ、胴部外面上位はタテハラミガキ後ヨコナデ、下位はヨコナデ。内面はヨコナデ。	A密。0.5~3.0mm以下の長石を少量含む、雲母を多量に含む。B良好 C外：ふい焼橙10YR7/4、外面一部熱により橙2.5YR6/8、内：ふい焼橙10YR6/4	
0071	土師器	甕	SC-06 横ベルト	①(14.1) ②(5.4)	口縁部はヨコナデ。口縁部外面はナメハケ後ヨコナデ、内面はヨコハラミガキ後ヨコナデ。胴部外面はタテハラミガキ後ヨコナデ、内面はヨコハラミガキ。	A良好。0.5~5.0mmの長石をやや多く含む、0.5~3.0mmの石英を少量含む、雲母を多く含む。B良好 C外：ふい焼橙10YR6/4、一部熱によりふい焼7.5YR8/4、内：ふい焼7.5YR7/4、口縁部一部灰黄褐10YR5/2、肩部橙5YR6/6にふい焼7.5YR5/3	
0072	土師器	甕	SC-06 1区	①(17.0) ②(5.8)	口縁部はヨコナデ。口縁部内外面ともヨコハケ後ヨコナデ。胴部外面はタテハラミガキ、内面はヨコナデ。	A密。0.5~2.0mm以下の長石を少量含む、雲母を多量、石英を微量に含む。B良好 C橙5YR6/6	内面一部と外面に薄く、スス付着。
0073	土師器	甕	SC-06 横ベルト	①(21.2) ②(5.3)	口縁部内外面ともヨコナデ。胴部外面はタテハラミガキ、内面はヨコハラミガキ。	A良好。0.5~2.0mmの石英・長石を少量含む、雲母をやや多量に含む。B良好 C浅黄橙10YR8/4	
0074	土師器	二重口縁壺	SC-06 横ベルト	①(19.5) ②(8.3)	口縁部外面はヨコナデ、内面はヨコハケ後ヨコナデ。	A密。0.5~2.0mm以下の長石・石英を少量含む、雲母を少量含む。B良好 C外：浅黄橙10YR8/4、一部熱により灰黄褐10YR6/2、内：明黄褐10YR7/6、一部熱により黒褐10YR3/1	山陰系か。
0075	土師器	甕	SC-06 4区	①(17.3) ②10.35	口縁部ヨコナデ。口縁部外面ナメハケ後ヨコナデ、胴部ナメハケ、口縁部内面ヨコナデ、胴部ヨコハラミガキ。	A良好。0.5~3.0mmの長石・石英をやや多く含む、雲母をやや多く含む。B良好 C橙2.5YR6/8	胴部外面は器面剥離が激しい。スス付着。
0076	土師器	甕	SC-06 横ベルト	①(18.3) ②(11.6)	口縁部はヨコナデ。口縁部内外面ともナメハケ後ヨコナデ。胴部外面はタテハラミガキ後ヨコナデ、内面は右肩上がりのヘラケズリ。	A良好。0.5~3.0mm以下の長石をやや多く含む、雲母を多量、角閃石を微量に含む。B良好 C橙7.5YR7/6	口縁部の一部、胴部外面一部にスス付着。
0077	土師器	二重口縁壺	SC-06 1区	②4.4	口縁部ヨコナデ。口縁部外面タテハラミガキ後ヨコナデ、	A良好。0.5~2.0mmの長石を少量含む、雲母をやや多く、角閃石、石英を微量に含む。B良好、固く焼きしめる。Cにふい焼赤褐5YR5/4、全体ほとんどにふい焼橙10YR4/3	山陰系。
0078	土師器	高杯	SC-06 3区	②4.65+α	脚柱部外面タテハラミガキ後ヨコナデ、内面ヨコナデ。脚部内面ヨコハケ後ヨコナデ。	Aやや粗い。0.5~3.0mmの長石を少量含む、雲母を多く含む。B良好 C橙5YR6/6一部熱により、灰黄褐10YR5/2	
0079	土師器	高杯	SC-06 横ベルト	①脚部径(12.4) ②(5.45)	胴部外面上位はタテハラミガキ後丁寧なヨコナデ、下位は丁寧なヨコナデ。内面は丁寧なヨコナデ。胴部外面はタテハラミガキ後丁寧なヨコナデ。内面はヨコハラミガキ後丁寧なヨコナデ。	A密。0.5mmの長石を微量含む、雲母をやや多く含む。B良好 C外：粗部浅黄橙7.5YR8/4~淡褐5YR8/4、その他にふい焼橙10YR7/2~褐灰10YR4/1、内：粗部黄褐10YR8/6、その他にふい焼橙10YR7/3	
0080	土師器	器台	SC-06 1区	受部径(7.6) ②6.45	口縁部ヨコナデ。内外面ヨコナデ(指頭痕あり)、胴部器面剥離のため調整不明。	A密。0.5~1.0mmの長石を少量含む、雲母を多量に含む。B良好 C外：ふい焼橙10YR8/4、内：ふい焼7.5YR7/4	

表2 石勺遺跡K地点調査遺物観察表③

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm/g)①口径 ②器高 ③底径 ④最大径(復元)	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備考
0081	土師器	ミニチュア高杯	SC-06 横ベルト	②(3.75)	胴部外面は棒状工具ナデ、下位はナデ。内面は棒状工具ナデ。	A良好。0.5~3.0mmの長石・石英をやや多く含む。雲母を少量含む。B良好 C外：浅黄橙10YR8/3、内：にぶい黄10YR7/3、杯部灰黄2.5YR7/2	手捏ね土器。
0082	土師器	二重口縁蓋	SC-06 周辺検出時	胴部径(11.7) ②(5.05)	口縁部外面はハケ後ヨコナデ、内面はハケ後板ナデ。胴部外面はヨコナデ、内面はヘラケズリ後ヨコナデ。	A2.0mm以下の石英・長石・赤褐色粒、及び金雲母粒を少量含む。B良好 C暗灰N6/1黄2.5Y5/2~灰黄褐10YR4/2	
0083	土師器	小型丸底甕	SC-06 NO.1	①8.8 ②9.0 胴径9.0	口縁部外面はヨコナデ。口縁部外面は指押さえ後ヨコナデ、内面はナデ後ハケ。胴部外面はハケ後ナデ、内面は板ナデ、下位はナデ。	A1.0~5.0mm以下の石英・長石及び金雲母微粒をやや多く含む。B良好 C外：灰黄2.5YR6/2、褐灰10YR4/1、内：灰黄褐~黒褐10YR4/2~3/1	黒斑あり。
0084	土師器	甕	SC-06 No.6	①(18.9) ②(12.65)	口縁部外面はヨコナデ。口縁部内外面ともハケ後ヨコナデ、胴部外面はハケ後ヨコナデ、中位以下はヘラケズリ。	A0.5~3.0mmを中心に最大6.0mmの石英・長石及び金・白雲母粒をやや多く含む。B良好 C外：褐5YR7/6、褐灰7.5YR4/1、内：褐5YR6/6	在地系。口縁部外面にスス付着。
0085	土師器	甕	SC-06 No.6	①(16.3) ②22.6 胴径20.75	口縁部内外面ともヨコナデ。胴部外面はハケ(ヨコナデからタテ)、中位以下はハケ(右ナメ後左ナメ後タテ)、内面口縁部と胴部境界はナデ、上位はヨコナデ、中位ヘラケズリ、下位は指押さえ後ナデ。	A0.5~3.0mmの石英・長石少量含む。B良好 C外：浅黄橙10YR8/3~褐7.5YR7/6黒N1.5、内：灰白10YR8/2~黒褐2.5Y3/1	黒斑あり。スス付着。
0086	土師器	甕	SC-06 No.5	①19.0 ②(9.1)	口縁部内外面ともヨコナデ。外面口縁と胴部の境界にハケ後ヨコナデ、胴部外面はタタキ後ナデ。内面は口縁部との境界にナデ、上位にヘラケズリ後ナデ、中位以下はヘラケズリ。	A0.5~3.0mmの石英・長石及び金雲母粒を少量含む。B良好 C外：褐10YR6/6~灰黄褐10YR4/2、内：浅黄褐7.5YR8/6~褐5YR6/6、口縁の一部灰褐7.5YR4/2	
0087	土師器	高杯	SC-06 NO.2	①(18.2) ②(4.2)	口縁部内外面ともヨコナデ。外面口縁と体部の境界にハケ後ヨコナデ、体部外面はナデ。	A0.5~3.0mmの石英・長石及び金雲母微粒を少量含む。B良好 C外：褐5YR6/6~褐灰7.5YR5/1、内：にぶい黄橙10YR7/4~褐5YR7/8	
0088	弥生土器	高杯	SC-06 周辺検出時	②(4.95)	口縁部外面はヨコナデ後ナメナデ、内面はヨコナデ。体部外面はヨコナデ。	A2.0mm以下の石英・長石少量含む。B良好 C外：褐7.5YR7/6~にぶい褐7.5YR5/4、内：にぶい黄橙10YR8/4~黒褐10YR3/2(顔料?)	内面黒色顔料塗布。
0089	土師器	高杯	SC-06 No.7	軸部径3.4 ②(7.95)	杯部内外面はナデ後ヘラミガキ。胴部外面はハケ後ヨコナデ後ヘラミガキ、内面はヘラケズリ。	A0.5~3.0mmの石英・長石・花崗岩礫を少量白雲母微粒を僅かに含む。B良好 C外：にぶい黄橙10YR7/4~灰黄褐10YR5/2黒2.5Y2/1、内：にぶい黄2.5Y6/3~黒褐10YR3/1、内：褐5YR6/6	黒斑あり。
0090	土師器	高杯	SC-06 No.8	軸部径5.0 ②(9.25)	胴部外面はナデ後ヘラミガキ、下位はヨコナデ、内面はヘラケズリ。胴部内面はハケ後ヨコナデ。	A微細な砂粒・白雲母粒を僅かに含む。B良好 C外：にぶい赤褐5YR5/4~黒斑黒褐7.5YR3/1、内：明赤褐5YR5/6~褐7.5YR4/3	
0091	土師器	高杯	SC-06 縦ベルト面	②(1.75) ③0.9	胴部内面はヘラケズリ。裾部内外面ともヨコナデ。	A3.0mm以下の石英・長石及び金雲母微粒を僅かに含む。B良好 C明褐7.5YR5/6~明黄褐10YR7/6、黄灰2.5Y4/1	黒斑あり。
0092	弥生土器	器台	SC-06 周辺検出時	②(4.75) ③(9.2)	外面はハケ後ヨコナデ、内面はナデ。	A1.0~2.0mmの石英・長石を少量含む。B良好 C外：褐10YR6/6、内：黒褐2.5YR3/1	
0093	土師器	ミニチュア高杯	SC-06 縦ベルト面	①(5.3) ②(4.2)	外面上位から中位は指押さえ後ナデ、下位はヨコナデ。	A1.0mm以下の石英・長石及び金雲母微粒を僅かに含む。B良好 C黄褐10YR5/6、黒10YR2/1	手捏ね。器台の可能性あり。黒斑あり。
0094	石器	石鏃	SC-06 4区	長2.54 幅1.43			玄武岩製か。
0095	石器	砥石	SC-06 周辺検出時	長4.8 幅5.2 厚2.7	表面はよく使用されていて凹み、裏面には砥面が一部残る。下端には原材の一部を残す。砥面は二面。		
0096	弥生土器	甕	SC-06 縦ベルト面	①(33.7) ②(2.2)	口縁部内外面ともヨコナデ、胴部内面はナデ。	A1.0~5.0mmの石英・長石・花崗岩礫及び金雲母微粒をやや多く含む。B良好 C褐7.5YR6/6	
0097	弥生土器	甕	SC-07 周辺検出時	②(2.05)	口縁部ヨコナデ。口縁部内外面ともハケ。	A1.5~3.0mmの石英・長石をやや多く含む。B良好 Cにぶい黄橙10YR6/4~灰黄褐10YR5/2、内：褐7.5YR4/4	
0098	土師器	甕	SC-06 周辺検出時	①(13.9) ②(3.75)	口縁部外面はハケ後ヨコナデ、内面はヨコナデ。胴部内面ヘラケズリ。	A1.0~2.5mm以下の石英粒をやや多く含む。B良好 Cにぶい黄橙10YR7/4	
0099	弥生土器	甕	SC-07 周辺検出時	②(5.75) ③(10.0)	内外面とも下から上ヘナデ。底部内面指押さえ後ナデ。	A2.0mmの石英・長石及び金雲母粒を少量含む。B良好 C外：明黄褐10YR6/6、一部にぶい赤褐2.5YR4/4(丹)、内：褐5YR6/6	丹塗り。
0100	弥生土器	支脚	SC-07 周辺検出時	②(6.4) 脚径(13.3)	外面はタタキ後ナデ。裾部ナデ。	A0.5~5.0mmの石英・長石を多く、金雲母微粒を少量含む。Bやや不良 C外：にぶい黄橙10YR5/4、内：褐7.5YR4/4	
0101	土師器	丸底杯	SC-07 周辺検出時	①(15.6) ②3.85 ③(11.8)	口縁部内外面とも回転ナデ。体部内面回転ナデ後ナデ。底部外面は回転ヘラ切り、板状圧痕。	A0.5mm以下の石英・長石を僅かに含む。B良好 Cにぶい黄橙10YR7/3	
0102	土師器	丸底杯	SC-07 周辺検出時	①(15.3) ②3.5 ③(11.9)	口縁部内外面とも回転ナデ。体部外面下位はナデ。内面回転ナデ。底部外面は回転ヘラ切り、板状圧痕。	A1.0mm以下の石英・長石を僅かに含む。B良好 Cにぶい黄橙10YR7/3	
0103	弥生土器(土師器)	複合口縁蓋	SC-07 4区	①(17.7) ②(6.85) 口縁部最大径(20.6)	口縁部外面から頸部はハケ後ナデ。口縁部はハケ後ヨコナデ。口縁部内面指押さえ後ヨコナデ、胴部内面ハケ。	A1.0~3.0mmの石英・長石をやや多く、僅かに鉄電気石結晶を含む。B良好 C浅黄橙10YR8/3	
0104	弥生土器(土師器)	複合口縁蓋	SC-07 4区	①(21.8) ②(7.4) 口縁部最大径(24.0)	口縁部内外面ともハケ後ヨコナデ。頸部外面ハケ、内面ハケ。	A1.0~3.0mmの石英・長石を少量含む。B良好 C外：明褐7.5YR5/8、内：黄橙10YR7/4	
0105	弥生土器(土師器)	二重口縁蓋	SC-07 4区	①(27.8) ②(6.95) 口縁部最大径(30.1)	口縁部ヨコナデ。口縁部外面ハケ後ヨコナデ、内面指押さえ後ハケ後ヨコナデ。頸部内外面ともハケ。	A0.5~2.0mmの石英・長石を少量含む。2.0mm以下に角閃石結晶僅かに含む。B良好 C外：明黄褐10YR7/6~褐2.5YR6/8、にぶい黄橙10YR4/3~黒10YR2/2、内：にぶい黄橙10YR7/4	黒斑あり。
0106	弥生土器(土師器)	壺	SC-07 東西土層ベルト中	②(5.6) 胴部径(10.9)	頸部外面ハケ、内面上位ハケ、下位はナデ。胴部外面ハケ後粗いヘラミガキ。	A1.0~4.0mmの石英・長石をやや多く含む。B良好 Cにぶい黄橙10YR6/4	
0107	弥生土器	甕	SC-07 4区	①(21.6) ②(6.65)	外面タタキ後ハケ。内面ハケ。	A1.0mm以下の石英・長石を僅かに含む。B良好 C外：明赤褐2.5YR5/6~にぶい赤褐2.5YR4/4、内：明赤褐2.5YR3/4	内面赤色顔料塗布か。
0108	弥生土器	甕	SC-07 4区	①(19.2) ②(12.0)	口縁部外面ハケ後ヨコナデ、内面ハケ。胴部外面タタキ後ナデ、内面上位ナデ、中位ハケ。	A2.0mm以下の石英・長石をやや多く含む。B良好 C褐5YR6/6~にぶい褐7.5YR5/4、黒斑部2.5Y5/3~黒2.5Y2/1	
0109	土師器	甕	SC-07 東西土層ベルト中	②(3.3)	口縁部内外面ともヨコナデ。頸部内面ナデ。胴部内面ヘラケズリ。	A1.0mm以下の石英・長石及び白・金雲母・鉄電気石の微細粒を僅かに含む。B良好 C外：灰白2.5YR8/3、内：にぶい黄橙10YR7/4	
0110	弥生土器(土師器)	甕	SC-07 3区埋土下層	②(5.1)	外面上位ヨコナデ、下位ハケ。内面ハケ後ナデ。	A0.5~2.0mm以下の石英・長石及び白・金雲母・鉄電気石を僅かに含む。B良好 Cにぶい黄橙10YR7/3	
0111	土師器	甕	SC-07 4区	②(5.5)	外面上位はハケ後ナデ、下位ヨコナデ。内面上位はナデ、下位はヨコナデ。	A0.5~3.0mmの石英・長石を少量含む。B良好 C外：褐5YR6/6、内：明赤褐5YR5/6	底部に直径5mm程度の焼成前小穿孔2ヶ所あり。
0112	弥生土器(土師器)	高杯	SC-07 P-10	②(11.55) 軸部径6.3	外面ヘラミガキ。内面板ナデ。	A0.5mm以下の砂粒を僅かに含む。B良好 C外：にぶい黄橙10YR7/4、内：にぶい黄橙10YR6/4	
0113	弥生土器(土師器)	高杯	SC-07 4区	①(33.2) ②(5.3)	口縁部ヨコナデ。口縁部外面上位ヨコナデ後ヘラミガキ、中位ヨコナデ後ハケ後ヘラミガキ、下位ヨコナデ後ヨコナデ後ヘラミガキ後ヘラミガキ。内面ヨコナデ後ヘラミガキ。	A0.5mm以下の石英・長石を僅かに含む。B良好 C外：にぶい黄橙10YR7/4、黒10YR2/1、内：にぶい黄2.5YR6/3	黒斑あり。
0114	土師器	鉢	SC-07 4区	②(8.7)	口縁部内外面ともハケ後ヨコナデ。外面はハケ後ナデ。内面はハケ。	A0.5~2.0mmの石英・長石をやや多く含む。B良好 C外：褐7.5YR7/6、黄灰2.5YR4/1、内：にぶい黄橙10YR7/3	口縁部外面に黒斑あり。
0115	弥生土器(土師器)	鉢	SC-07 3区	②(2.9) ③7.0	外面ハケ後ナデ。内面はハケ?底部外面から体部最下位にかけタタキ後ナデ。	A1.0~3.0mmの石英・長石をやや多く含む。B良好 C外：にぶい褐7.5YR5/3、内：褐2.5YR6/8	底部孔あり。畿内第V様式系。
0116	弥生土器(土師器)	器台	SC-07 4区	②(7.9) 脚径(13.9)	外面中位はタタキ後ナデ、下位はタタキ。内面ハケ。裾部指押さえ後ナデ。	A0.5~3.0mmの石英・長石及び白雲母微粒を少量含む。B良好 Cにぶい褐7.5YR6/6褐2.5YR6/6、褐灰10YR5/1	黒斑あり。
0117	弥生土器	甕	SC-07 3区	②(3.0)	口縁部内外面ともヨコナデ。胴部外面ハケ後ヨコナデ。	A1.0~3.0mmの石英・長石をやや多く含む。B良好 C外：にぶい褐7.5YR6/4~褐7.5YR6/6、内：にぶい褐7.5YR6/4	
0118	弥生土器	甕	SC-07 P-5(土坑か?)	①(34.0) ②(5.75)	口縁部内外面ともヨコナデ。胴部内面ナデ。	A2.0mm以下の石英・長石、及び金雲母微粒を少量含む。B良好 C外：にぶい黄橙10YR7/4、灰5Y4/1、内：褐7.5YR7/6	黒斑あり。
0119	土師器	杯	SC-07 4区	①(14.0) ②3.1 ③(5.4)	口縁部内外面とも回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ、外面板状圧痕。	A0.5~5.0mmの石英粒を僅かに含む。B良好 C浅黄橙10YR8/3	
0120	須恵器	杯蓋	SC-08 NO.1	①(7.0) ②(4.7)	天井外面回転ヘラケズリ、内面回転ナデ。口縁部内外面とも回転ナデ。	A密。細砂粒を多く含む。B良好 C灰~暗灰N4/~N3、断面灰褐7.5YR4/2	内面にシタ痕あり。
0121	須恵器	杯身	SC-08 カマド南No.4 C-C北ベルト	①12.7 ②4.3	外面口縁部回転ナデ、体部から底部回転ヘラケズリ。内面回転ナデ。	A密。1.5mm以下の砂粒を僅かに含む。B堅微 C灰~灰5Y6/1~5/1	
0122	須恵器	杯身	SC-08 カマド南 NO.6 SC-08 カマド2区構築土 SC-08 カマド東床面	①(10.9) ②3.4	外面口縁部から体部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ。内面回転ナデ。	A密。3.0mm以下の砂粒を僅かに含む。B堅微 C灰~黒N4/~N2、断面暗灰5RP4/1	
0123	須恵器	杯身	SC-08 カマド東床面 A上レンチ包含層 SC-08 NO.3	①(14.6) ②(3.4)	内外面共に回転ナデ。	A密 B堅微 C褐灰10YR5/1	
0124	須恵器	大甕	SC-08 カマド機土面NO.8 SC-08 カマド2区構築土 SC-08 カマドC-C南ベルト	①(36.8) ②(8.7)	口縁部外面上位回転ナデ中位波状文と沈線、下位は回転ナデ。内面回転ナデ。	A密。4.0mm以下の石英を含む。B堅微 C灰~暗灰N6/~N3	
0125	須恵器	焼き台	SC-08 カマド東床面	最大長19.5 最大幅11.5 厚(1.8)	胴部外面は平行叩き、内面は同心円の当具痕あり。	A密 B堅微 C灰~黒N6/~2	杯身片が融着。

表2 石勺遺跡K地点調査遺物観察表④

品番	種類	器種	出土地点	法量 (cm/g) ①口径 ②器高 ③底径 ④最大径(復元)	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備考
0126	土師器	甕	SC-8 カマド南No.5	①(16.4) ②(10.3)	口縁部内外面ともヨコナデ。胴部外面はタテハケ。内面へラケズリ。口縁部と体部の境界に指押さえあり。	Aやや不良。3.0mm以下の石英、1.0mm以下の長石・雲母を僅かに含む。 B良好 C橙～赭7.5YR6/6～7.5YR4/6	
0127	土師器	二重口縁蓋	SC-08 3区 5E区Aトレンチ西包含層	①(19.0) ②(5.5) くびれ部径(13.5)	口縁部内外面とも強いヨコナデ。口縁部外面上位はナナメハケ後ナデ。	Aやや粗い。 B良好 C外: 橙5YR7/6～7、内: にぶい黄緑10YR7/4～6/4	
0128	土師器	小型丸底蓋	SC-08 3区	①(8.2) ②(4.0) くびれ部径(7.4)	外面ナデ。内面粗いナナメ板ナデ。	A密 B良好 C橙7.5YR6/6	
0129	土師器	小型丸底蓋	SC-08 3・4区 下層包含層 SC-09 2・3区(SC-08下面)	②(8.3)くびれ部径5.8	口縁部外面ヨコナデ、内面ナデ。胴部外面ナデ後ヨコハラミガキ、内面ナデ。	A密。3.0mm以下の石英を多く含む、1.0mm以下の長石を僅かに含む、1.0mm以下の赤色粒子を含む。 B良好 C浅黄緑～にぶい黄緑10YR8/3～6/3	
0130	土師器	直口壺	SC-08 3・4区下層包含層 3区	①(13.4) ②(6.5)	口縁部内外面ともヨコナデ。胴部外面上位ヨコナデ、中位タテハケ。内面へラケズリ。	Aやや粗い。2.0mm以下の石英、1.5mm以下の長石を含む。 B良好 C外: 橙5YR7/8～6/8、内: 浅黄緑～にぶい黄緑10YR8/4～7/4	外面の一部にスス付着。
0131	土師器	高杯	SC-08 1区	①(15.4) ②(6.1)	口縁部内外面ともヨコナデ。体部外面上位ヨコハケ、下位タテハケ。内面上位にヨコハケ、ナナメハケ後ナデ。	A密。2.0mm以下の石英を僅かに含む、1.0mm以下の長石・黒雲母を含む。 B良好 C～橙7.5YR7/6～7.5YR6/8	
0132	土師器	高杯	SC-08 3区	①(26.8) ②(8.1)	口縁部外面上位はヨコナデ上位から下位はナナメハケ後ナデ。内面上位はヨコナデ、上位から中位はヨコハケ後ナナメハケ、下位ヨコミガキ。杯部内面タテハラミガキ。	A密 B良好 C明黄緑10YR7/6	
0133	土師器	ミニチュア壺	SC-08 3・4区 下層包含層	①(4.4) ②(4.6)	口縁部外面強いヨコナデ。胴部外面ユビナデ、内面ユビナデ後ヨコナデ。	A密 B良好 Cにぶい黄緑～にぶい黄緑10YR7/3～5/3	
0134	土師器	ミニチュア壺	SC-08 1区	②(3.1) くびれ部径(2.7)	内外面ともユビナデ。	Aやや不良。1.5mm以下の石英を多く含む、1.0mm以下の長石・黒雲母を僅かに含む。 B良好 C橙～赭7.5YR7/6～7.5YR6/8	
0135	土師器	ミニチュア鉢	SC-08 3区	①推定4.1 ②推定3.5(3.4)	内外面ともユビナデ。内面に指押さえあり。	A密 B良好 C褐灰10YR5/1～4/1	
0136	土師器	ミニチュア鉢	SC-08 3区	①(6.2) ②(3.1)	内外面ともナデ。底部外面は剥離又は摩滅。	A良好。6.0mm以下の石英を僅かに含む、極微細な雲母を多く含む。 Bやや不良 C黄褐10YR8/6	
0137	土製品	土製勾玉	SC-08 2区	長(8.0) 厚1.0	ユビナデ。	A密。1.0mm以下の長石・雲母を含む。 B良好 C灰黄褐～にぶい黄緑10YR6/2～6/4	
0138	土製品	粘土塊	SC-08 3・4区下層包含層	長3.3 幅2.4 厚2.2	指押さえあり。	A密。1.5mm以下の石英、1.0mm以下の長石、微細な雲母を含む。 B良好 C明赤褐5YR5/6	
0139	土師器	大型甕	SC-08 3区	①(42.4) ②(6.5)	口縁端部に刻み目。口縁部外面上位はヨコナデ、下位はハケ後ヨコナデ、内面上位はヨコハケ後ナデ、下位はヨコハケ。刻み目を口縁端部に施す。	A密。3.0mm以下の石英を多く含む。 B良好 C橙5YR7/8～6/8 在来系。	
0140	土師器	壺	SC-09 2区	②(2.45)	口縁部ヨコナデ。口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデ後ハラミガキ。	A1.0mm以下の石英・長石及び金雲母粒を僅かに含む、B良好 Cにぶい黄緑10YR7/3	
0141	土師器	壺	SC-09 西側(SX-29 1区) 壁溝	①(13.5) ③(5.4)	内外面ともヨコナデ。	A2.5mm以下の石英・長石を少量含む。 B良好 C褐灰10YR4/1～にぶい黄2.5Y8/3	
0142	土師器	直口壺	SC-09 5区	①(10.9) 胴径(12.3) ②12.1	口縁部内外面ともヨコナデ。胴部外面上位タキ後ヨコナデ、上位から下位タキ後ナデ。内面上位ナデ、上位から中位へラケズリ、下位ナデ。底部外面板ナデ。	A0.5～2.0mm以下の石英・長石及び金雲母微粒を少量含む。 B良好 C外: にぶい黄緑10YR5/4、黒褐2.5Y3/1、内: 橙7.5YR7/6	黒斑あり。
0143	土師器	小型丸底蓋	SC-09 検出地	①(10.5) 胴径9.2 ②(7.55)	口縁部ナデ後ヨコナデ。口縁部外面ナナメハケ、内面ヨコハケ。胴部外面ナナメハケ後ナデ、内面上位ナデ。上位から下位板ナデ。	A1.0mm以下の石英・長石及び金雲母微粒を僅かに含む。 B良好 C外: 橙5YR7/8～灰黄褐10YR4/2、内: 橙5YR6/8～黒褐10YR3/2	
0144	土師器	小型丸底蓋	SC-09 2・3区	①(7.8) 胴径(8.1) ②(7.4)	口縁部ヨコナデ。口縁部外面ハケ後ヨコナデ、内面ヨコナデ後ナデ。胴部外面上位ハケ後ナデ後一部ハラミガキ、中位ハケ、下位ナデ。内面上位ナデ、中位以下ハラミガキ後ナデ。	A1.0mm以下の石英・長石及び白・金雲母粒を僅かに含む。 B良好 C外: 黒10YR2/1、内: 黄灰2.5YR4/1～黒褐2.5YR3/1	
0145	土師器	小型丸底蓋	SC-09 検出時	①9.45 胴径10.4 ②(8.4)	口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデ後ナデ。胴部外面上位ハケ後ヨコナデ、ハケ、中位から下位ハケ後一部板ナデ。内面上位ナデ、中位板ナデ、下位ハラケズリ後ナデ。	A1.0mm以下の石英粒及び金雲母微粒を僅かに含む。 B良好 C外: 灰白2.5Y8/1～黒褐10YR3/1 (黒色顔料か)、内: 灰白10YR8/2～黒褐10YR3/1	黒色顔料塗布か、
0146	土師器	小型丸底蓋	SC-09 東西ベルト	①8.0 ②(7.4)	口縁部内外面ともヨコナデ。胴部外面板ナデ?内面ナデ後タテ板ナデ。	A密。0.5～1.0mmの長石を少量、石英を微量に含む、雲母をやや多く含む。 B良好 C外: にぶい黄緑10YR7/4、熱により一部橙2.5YR6/6、内: 橙2.5YR6/8、口縁部一部明黄緑10YR7/6	外面全体に黒斑あり。
0147	土師器	甕	SC-09 5区	①(10.1) 胴径(14.2) ②(11.75)	口縁部内外面ともヨコナデ。胴部外面上位タテハケ後ヨコナデ、上位から下位タテハケ後部分的ナデ。中位はヨコハケ、内面上位ナデ、中位から下位へラケズリ後ナデ。	A最大3.0mm以下の石英粒及び金雲母微粒を僅かに含む。 B良好 Cにぶい黄緑10YR7/4	外面全体に黒斑あり。胴部外面にスス付着。
0148	土師器	甕	SC-09 1区(SC-08下面) SC-08	①(12.2) ②(5.8)	口縁部内外面ともナナメハケ後ナデ。胴部外面タテハケ、内面へラケズリ。内面口縁部と胴部の境界に指押さえあり。	A密。2.5mm以下の石英、1.5mm以下の長石を多く含む、1.5mm以下のチャートを僅かに含む。 B良好 C外: にぶい黄緑～にぶい黄緑10YR7/4～5/4	
0149	土師器	甕	SC-09 1区	①17.6×18.2(楕円形) ②(5.8)	口縁部ヨコナデ。口縁部外面タキ後ヨコナデ、指押さえあり。内面タキ後ヨコナデ。胴部内面へラケズリ後一部ナデ。	A1.0～3.0mm以下の石英・長石をやや多く含む。 B良好 Cにぶい黄7.5YR7/4	布留系。
0150	土師器	甕	SC-09 3区	①(16.7) ②(4.8)	口縁部内面から端部回転ナデ。口縁部外面タキ後ヨコナデ。胴部内面へラケズリ。内: にぶい黄緑10YR7/3	A1.5mm以下の石英・長石を僅かに含む。 B良好 C外: 灰白2.5Y8/2、内: にぶい黄緑10YR7/3	
0151	土師器	二重口縁甕	SC-09 1区 SC-09 1区	①(11.6) ②(3.6)	口縁部内外面とも強いヨコナデ。	A密 B良好 C橙～赭7.5YR6/6～4/6	
0152	土師器	二重口縁甕	SC-08 2・3区(SC-08下面) SC-08 3・4区下層包含層 SC-09 1区	①(15.4) ②(3.4)	口縁部内外面とも強いナデ。	A密 B良好 Cにぶい黄緑～にぶい黄緑10YR6/4～4/4	一部に黒斑あり。
0153	土師器	二重口縁甕	SC-09 1区	①(22.3) ②(6.95)	口縁部内外面ともヨコナデ。頸部外面ハケ後ヨコナデ、内面ナデ。	A1.0～3.0mm以下の石英・長石・長石少量含む。 B良好 Cにぶい黄緑10YR6/4	
0154	土師器	高杯	SC-09 1区 5E区Aトレンチ西包含層	①(13.2) ②(5.3)	口縁部内外面とも強いヨコナデ。体部外面タテハケ、内面ハケ状の板ナデ。	A密。 B良好 C橙5YR7/6	
0155	土師器	高杯	SC-09 1区(SC-08下面) SC-09 1区	①(17.6) ②(4.4)	口縁部内外面ともヨコナデ。体部外面ヨコナデ、内面ヨコハケ後ナデ。底部外面タテハケ後ナデ。	A密。 B良好 C明黄褐5YR5/8	
0156	土師器	高杯	SC-09 1区(SC-08下面)	①(20.8) ②(4.8)	口縁部内外面ともヨコナデ。体部外面ヨコナデ後ナデ、内面上位ナナメハケ後ナデ、下位ヨコハケ後ナデ。	A密。3.0mm以下の石英を多く含む、1.0mm以下の長石を僅かに含む。 B良好 C浅黄緑～黄褐7.5YR6/6～6/8	
0157	土師器	高杯	SC-09 P-10	①(16.6) ②(5.1)	口縁部ヨコナデ。口縁部外面タテハケ後ヨコナデ後ヨコハラミガキ。内面ヨコハラミガキ。底部外面タテハケ後タテハラケズリ。	A密。0.5mm以下の微細な長石を少量含む、0.5mm以下の石英を微量、雲母を微量に含む。 B良好 C浅黄緑1.5YR6/8～橙5YR7/6	
0158	土師器	高杯	SC-09 周辺上層包含層	①18.75 ②(5.3)	口縁部内外面ともヨコナデ。底部外面ヨコハラミガキ、内面タテハケ後ヨコナデ。	A良好。0.5～2.0mm以下の長石少量含む、0.5mmの石英を微量、雲母を少量含む。 B良好 C外: にぶい黄緑10YR7/4～橙7.5YR7/6、内: 黄褐10YR8/6～黄褐7.5YR7/8、一部熱により橙5YR6/6	口縁部、杯部内面に黒斑あり。
0159	土師器	高杯	SC-09 1区(SC-08下面)	②(3.9) ③(12.6)	内外面ともナデ。杯部内面不定方向のハケ。	A密 B良好 C浅黄褐7.5YR5/4	一部に黒斑あり。
142	土師器	鉢	SC-09 2区	①(9.5) ②(5.25)	口縁部内外面ともナデ。体部内外面とも板ナデ。	A0.5～3.0mmの石英・長石、及び金雲母微粒を僅かに含む。 B良好 C外: 明赤褐5YR5/6～黄褐10YR5/6、内: 灰褐7.5YR4/2～にぶい赤褐5YR5/4	
0161	土師器	鉢	SC-09 3区	②(3.7) ③(3.7)	体部外面ナデ後板ナデ、内面ナデ。底部内外面とも板ナデ。	A2.0mm以下の石英・長石を僅かに含む。 B良好 C明赤褐5YR5/6～赭7.5YR4/3	
0162	土師器	鉢	SC-09 西側(SX-29 1区)壁溝	②(3.45)	口縁端部ヨコナデ。口縁部内外面ともナデ(指押さえあり)。	A密。0.5～2.0mm以下の長石を少量含む、0.5～1.0mmの石英を微量、雲母を多量に含む。 B良好 C外: 橙2.5YR6/8～にぶい黄7.5YR5/8、内: にぶい赤褐5YR5/4	
0163	土師器	器台	SC-09 東側 トレンチのベルト	②(4.2) 脚部径(8.7)	内外面ともヨコナデ。裾部板ナデ?	A密。0.5～1.0mmの長石・石英を微量に含む、雲母をやや多く含む。 B良好 C外: 明黄褐10YR7/6、内: 橙5YR7/6、底ににぶい黄緑10YR7/4	
0164	弥生土器	き	器台	②(5.35) ③脚部径(9.4)	内外面ともナデ。	A3.0mm以下の石英・長石及び赤褐色粒を僅かに含む。 B良好 C明赤褐5YR5/6～赭7.5YR4/3	
0165	弥生土器	器台	SC-09 1区	②(4.85) 脚部径(16.4)	内面上位ハケ後ナデ、下位ハケ後ヨコナデ、内面ハケ、一部ナデ。裾部ヨコナデ。	A2.0mm以下の石英・長石を多く含む。 B良好 C外: にぶい黄緑10YR5/4、内: 橙5YR6/6	
0166	土師器	ミニチュア鉢	SC-09 3区	①4.1 ②2.0	内外面とも指押さえ後ナデ。	A0.5mm以下の石英・長石を僅かに含む。 B良好 C明赤褐5YR5/6～にぶい黄緑10YR5/3	
0167	土師器	ミニチュア鉢	SC-09 1区	①5.4 ②4.9	内外面ともユビナデ。	A密 B良好 Cにぶい黄緑～にぶい黄緑10YR6/3～4/3	
0168	土製品	粘土塊	SC-09 1区(SC-08下面)	最大径2.8 最大幅1.3 最大厚1.1	ナデ。	A密 B良好 C浅黄緑～にぶい黄緑10YR8/3～7/3	
0169	土製品	土錘	SC-09 5区	長4.3 幅1.25 径1.05～1.1	ナデ。	A精良 B良好 Cにぶい黄緑10YR6/4	
0170	須臾器	杯蓋	SC-09 1区	天井部径9.7 ②(3.25)	天井部外面回転へラケズリ、内面回転ナデ後ナデ。体部内外面とも回転ナデ。	A1.0～3.0mm以下の石英・長石を少量含む。 B良好 C外: 灰5Y1/1～灰黄2.5Y7/2、内: 黄灰2.5Y6/1	内面に当具痕。
0171	弥生土器	甕	SC-09 南北ベルト	②(7.05)	口縁部内外面ともヨコナデ。胴部内外面ともナデ。	A0.5～3.0mmの石英・長石をやや多く含む。 Bやや不良 C外: 橙2.5YR6/6、内: 橙5YR7/6	
0172	土師器	壺	SC-09 周辺上層包含層	長(5.2) 幅(4.6)	外面上位施文後ナデ、内面上位ナデ、下位へラケズリ。外面に竹管スタンプ文、沈線2条。	Aやや粗い。4.0mm以下の石英を多く含む、2.0mm以下の長石・チャート、微細な雲母を含む。 B良好 C浅黄緑～赭7.5YR8/6～7/6	

表2 石勺遺跡K地点調査遺物観察表⑤

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量 (cm/g) ①口径 ②器高 ③底径 ④最大径(復元)	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備考
0173	土師器	小型丸底蓋	SC-09 周辺上層包含層 SC-09 検出面 SC-09 3区	①くびれ部径(8.0) ②(5.6)	外面上位相かいミガキ、中位以下ミガキ状のナデ、内面ユビナデ。	A密。5.0mm以下の石英、1.5mm以下の長石を多く含む、2.0mm以下のチャート、0.5mm以下の雲母を僅かに含む。B良好 C灰白～にぶい黄緑10YR8/2～7/2	
0174	土師器	小型丸底蓋	SC-09 周辺上層包含層	①(6.8) ②6.7	口縁部内外面ともヨコナデ。胴部外面上位ヨコナデ、中位ナデ、内面板ナデ。	A密 B良好 C橙5YR6/8	内面の全体、外面の一部に黒斑あり。
0175	土師器	小型丸底蓋	SC-09 周辺上層包含層	①(8.6) ②(8.1)	口縁部は強いヨコナデ。口縁部外面タテナデ、内面ヨコナデ。胴部外面上位ナデ、下位ケズリ後ナデ、内面上位ヨコナデ、下位不定方向ナデ。	A密 B良好 Cにぶい黄緑～にぶい黄褐10YR7/3～5/3	一部黒斑あり。
0176	土師器	二重口縁甕	SC-09 周辺上層包含層	①(12.2) ②(5.1)	内外面ともヨコナデ。	Aやや粗い。4.0mm以下の石英を多く含む、1.5mm以下の長石、微細な雲母を僅かに含む。B良好 C橙5YR7/6～6/8	
0177	土師器	甕	SC-09 周辺上層包含層	①(31.2) ②(3.4)	口縁部に刻み目。口縁部内外面ともヨコハケ。	A密 B良好 Cにぶい黄緑10YR7/3～7/4	外面の摩滅が激しい。
0178	土師器	二重口縁甕	SC-09 周辺上層包含層	①(18.6) ②(4.3)	口縁部はヨコナデ。口縁部内外面とも強いヨコナデ。	A密。3.0mm以下の石英、1.0mm以下の長石、0.5mm以下の雲母を多く含む。B良好 C橙5YR6/6～6/8、にぶい黄緑～にぶい黄褐10YR6/3～5/3	
0179	土師器	甕	SC-09 周辺上層包含層	①(17.0) ②(9.3)	口縁部外面ヨコナデ、内面ナメハケ後ナデ。胴部外面ハケ後ナデ、内面口縁部との境界にナデ、上位以下ヘラケズリ。	A密。3.0mm以下の石英、1.5mm以下の長石、ごく微細な雲母を僅かに含む。B良好 C黄緑～明褐7.5YR7/8～5/8	体部に黒斑あり。
0180	土師器	甕	SC-09 周辺上層包含層	①(18.6) ②5.7	口縁部内外面ともヨコナデ。胴部外面上位タテハケ？内面口縁部との境界にナデ、上位以下ヘラケズリ。	Aやや粗い。4.0mm以下の石英を多く含む、1.0mm以下の長石、3.0mm以下の角閃石、微細な雲母を含む。Bやや不良 C外：灰白～浅黄緑10YR8/2～8/4、内：浅黄緑～黄褐7.5YR8/6～8/8	外面全体に摩滅が激しい。
0181	土師器	甕	SC-09 周辺上層包含層	①(18.8) ②(4.7)	口縁部に沈線状凹み2条。口縁部外面ヨコナデ、内面ハケ後ナデ。	Aやや粗い。4.0mm以下の石英、2.0mm以下の長石を多く含む。B良好 C橙5YR7/8～6/8	
0182	土師器	二重口縁甕	SC-09 周辺上層包含層	①(29.5) ②(7.8)	口縁部は強いヨコナデ。口縁部内外面ともナメハケ後強いヨコナデ、下位にナデ。	A密 B良好 Cにぶい黄緑～黄褐7.5YR7/4～7/8	
0183	土師器	高杯	SC-09 周辺上層包含層	①(21.4) くびれ部径(3.0) ②(17.2) ③(13.8)	口縁部はナデ。口縁部内外面ともヨコ、ナメミガキ。杯部内面底部不定方向ミガキ。胴部外面ヨコ、ナメミガキ、内面ヘラケズリ。裾部外面ヨコヘラミガキ、内面丁寧なナデ。	A密 B良好 C橙～赤褐2.5YR6/8～4/8	口縁部に一部黒斑あり。
0184	土師器	高杯	SC-09 周辺上層包含層	①(17.2) ②(5.3)	口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコハケ後ナデ？体部外面ヨコハケ。刻み目あり。	A密。2.5mm以下の石英、1.5mm以下の長石、ごく微細な雲母を含む。Bやや不良 C黄緑～橙7.5YR8/8～6/8	全体に摩滅が激しい。
0185	土師器	高杯	SC-09 周辺上層包含層	くびれ部径3.9	杯部内面ミガキ。胴部外面上位タテハケ後ヨコナデ、中位タテハケ、下位ミガキ、内面タテナデ、シボりあり。	A密 B良好 Cにぶい黄緑7/4～6/4、橙5YR6/5～6/8	山陰系か。
0186	土師器	高杯	SC-09 周辺上層包含層	②(7.6) ③(10.0)	外面上位ヨコナデ、中位タテナデ、下位ヨコナデ、内面ケズリ後ナデ。胴部外面タテナデ、内面ナデ。端部ヨコナデ。	A密 B良好 C浅黄緑7.5YR8/3～8/6	
0187	土師器	高杯	SC-09 周辺上層包含層	②(6.5) ③8.7	内外面ともナデ。裾部外面ヨコハケ、ナメハケ、内面ヨコハケ後ナデ。裾部ヨコナデ。	A密 B良好 Cにぶい橙～橙7.5YR6/4～6/6	一部に黒斑あり。
0188	土師器	鉢	SC-09 周辺上層包含層	①(8.4) ②7.0	口縁部はヨコナデ。体部外面上位ヨコハケ後ナデ、中位以下ナメハケ後ナデ。内面ナデ、底部内面指押さえ後ナデ。	A密 B良好 Cにぶい橙7.5YR6/4、にぶい黄緑10YR7/4	
0189	土師器	ミニチュア鉢	SC-09 周辺上層包含層	①5.85 ②3.9	内外面ともナデ。	A密 B良好 Cにぶい黄緑～明黄褐10YR6/3～6/8	一部黒斑あり。
0190	土師器	ミニチュア鉢	SC-09 周辺上層包含層	①(1.9) ②3.3	内外面ともユビナデ。	A密 B良好 C橙～明赤褐5YR6/8～5/8	手捏ね。
0191	土師器	台付鉢	SC-09 周辺上層包含層	①(9.6) ②4.2	外面上位タテハケ、下位ヨコナデ、内面ヨコハケ後粗いナデ。	Aやや粗い。1.5mm～6.0mmの石英、1.5mm以下の長石を多く含む。Bやや不良 C浅黄緑～橙7.5YR8/6～7/6	全体に歪みが激しい。
0192	土師器	ミニチュア高杯	SC-09 周辺上層包含層	②(3.6) ③4.4	内外面ともユビナデ。	A密 B良好 Cにぶい黄緑～にぶい黄褐10YR4/4～5/4	
0193	土師器	小型丸底蓋	SC-10 3区床面直上No.3	②(6.05)	口縁部外面はタテハケ後ヨコナデ後ヘラミガキ、内面は右上がりナメハケ後ヨコナデ後タテヘラミガキ、胴部外面上位はタテヘラミガキ、中位はヨコハケ後ヨコナデ後ヘラミガキ、内面上位はヨコナデ、中位から下位は右上がりナデ。	A密。0.5～1.0mmの長石を少量、0.5～1.0mmの石英を微量、雲母をやや多く含む。B良好 C明赤褐2.5YR5/6、外：面胴部一部橙5YR6/6	
0194	土師器	高杯	SC-10 No.2	②(9.0)	杯部外面ヨコナデ、内面ヨコハケ。胴部外面タテハケ後ヨコナデ後タテヘラミガキ、内面ヨコハケナデ。裾部外面ヨコハケ後ヨコナデ、内面ヨコナデ。	A密。0.5～2.0mmの長石を少量含む、雲母少量、0.5mmの石英・角閃石を微量を含む。B良好 C外：橙7.5YR7/6、一部橙5YR7/8、杯部内面5YR7/6	摩耗しているため調整不明瞭。
0195	土師器	高杯	SC-10 3区床面直上No.5	②(6.5) ③脚幅部(11.0)	胴部外面はヨコヘラミガキ、内面はヨコナデ。裾部内面はヨコハケ後ヨコナデ、裾部は外面ヨコナデ、内面ヨコヘラミガキ。	A密。0.5～1.0mmの長石・石英を微量に含む、雲母を多量に含む。B良好 C外：橙7.5YR7/6～橙2.5YR6/8、内：明赤褐2.5YR5/6	外面～内面の脚部にかけて一部黒斑あり。
0196	土師器	高杯	SC-10 4区	②(8.75) ③脚幅部(13.0)	杯部外面はタテハケ後ヨコナデ、内面はヨコハケ後ヨコナデ。胴部外面はタテハケ後ヨコナデ後タテヘラミガキ、内面上位は棒状工具のナデ後ヨコナデ、下位はヨコハケ後ヨコナデ。裾部はヨコナデ。	A密。0.5～2.0mmの長石を少量、0.5mm以下の石英を微量、雲母をやや多く含む。B良好 Cにぶい橙10YR7/4、杯部外面一部熱により橙2.5YR7/8～赤褐10Y5/4	
0197	土師器	甕	SC-10 3区床面直上No.1	①(26.6) ②(10.3)	口縁部は内外面ともヨコナデ。胴部外面はタテハケ後ヨコナデ、内面はタテハケ後ヨコナデ板ナデ、タテ板ナデ、中位は右上がりナメハケナデ。	A密。0.5～2.0mmの長石・石英を少量、雲母をやや多く含む。B良好 C外：浅黄緑10YR8/4、一部熱により灰黄褐10YR5/2橙7.5YR7/6、内：にぶい黄褐10YR7/4一部熱によりにぶい黄7.5YR7/4(灰黄褐10YR5/2	外面にス付着。
0198	土師器	鉢	SC-10 No.1	①8.8 ②6.75 ③10.1	外面ナデ？内面タテ板ナデ。	A良好。0.5～3.0mmの長石をやや多く含む、0.5mmの石英を少量、雲母を微量に含む。B良好 C外：暗黄2.5Y5/2、内：にぶい黄褐10YR6/4一部熱によりにぶい黄褐10YR3/5、褐灰10YR4/1	焼け歪んでいる。外面胴部一部黒斑あり。
0199	土師器	鉢	SC-10 2区	①(7.6) ②2.65	外面はナデ？内面はヨコナデ(指押さえあり)。	A良好。0.5～2.0mm以下の長石を少量、0.5mmの石英・雲母を少量含む。B良好 C外：灰黄褐10YR5/2、内：にぶい橙7.5YR6/4	焼け歪みのため調整不明。小型の鉢。
0200	須恵器	杯蓋	SC-12 3区	①(12.8) ②4.4	口縁部内外面とも同ナデ。天井部外面回転ヘラケズリ。内面不定方向ナデ。	A密。5.0mm以下の石英、2.0mm以下の長石を多く含む。B良好 C橙～赤褐5YR7/6～4/6	焼き歪みが激しい、口縁部内面非常に浅い状態になる。
0201	須恵器	杯身	SC-12 4区	①(13.2) ②4.6	内面と外面口縁部同ナデ、底部外面回転ヘラケズリ。	A密 B堅成 C橙～赤褐5YR7/6～4/6	シツタ感あり。
0202	土師器	甕	SC-12 4区	①(12.9) ②11.0	口縁部外面ヨコハケ？内面ナデ。外面接合部ヨコナデ。胴部外面タテハケ、内面ナデ。	A粗い。1.0mm以下の石英などを多く含む。B良好 C橙～赤褐5YR7/6～4/6	内面にス付着。
0203	石器	磁石	SC-12 4区	長17.2 幅4.6 厚3.7	砥面は面である。断面はよくみえない。	C浅黄緑～にぶい黄褐10YR6/8～4/8	流紋岩系か。
0204	土師器	小型丸底蓋	SC-13 2区No.1	①(10.7) ②7.6	口縁部内外面ともヨコナデ。胴部外面上位はタテハケ後細いヘラミガキ、中位以下はヘラケズリ後ナデ後ヘラミガキ、内面上位はヨコナデ後ヘラミガキ、下位はハケ後ナデ。	A密(特に精良である) B堅成 C内：外：橙5YR7/8～6/8、にぶい黄緑～明黄褐10YR7/3～7/6	
0205	土師器	甕	SC-13 1区	①(13.4) くびれ部径(10.8) ②(15.6)	口縁部内外面ともナデ？胴部外面上位はヨコハケ？中位以下はハケ？内面はヘラケズリ。	A粗い。3.0mm以下の石英・チャート、1.5mm以下の長石を多く含む。Bやや不良 C灰白～灰黄褐10YR8/2～4/2	全体的に摩滅が激しい。
0206	土師器	二重口縁蓋	SC-14 2区	①(13.5) ②(5.75)	口縁部はヨコナデ。口縁部外面はヨコナデ後方形工具による削突、内面は指押さえ後ヨコナデ。胴部外面はハケ、内面はヨコナデ後ヘラミガキ。頸部と胴部の境界はナデ。胴部内面はヘラケズリ。	A0.5～3.0mm以下の石英・長石少量含む。B良好 C橙5YR6/8	山陰系？模倣。
0207	土師器	甕	SC-14 2区	②(8.4)	口縁部はヨコナデ。口縁部外面上位はハケ後ヨコナデ、下位はハケ、内面はハケ後ヨコナデ。胴部内面はハケ後ナデ。	A2.0mm以下の石英・長石及び雲母微粒をやや多く含む。B良好 C外：橙7.5YR7/6、内：橙7.5YR7/6～灰褐7.5YR4/2	
0208	土師器	甕	SC-14 1区埋土	①(26.2) ②(12.9)	口縁部はヨコナデ。口縁部外面はナメハケ、内面上位はハケ後ナデ、下位はヨコハケ。胴部外面上位はタテハケ後ナデ、タテハケ、中位はタテハケ後タテハケ、内面はタテハケ、ナメハケ。	A密。B良好 Cにぶい黄緑10YR7/4～6/4	内外面ともに黒斑あり。
0209	土師器	鉢	SC-14 1区埋土 SC-15 1区下層 SC-14 1区埋土 SC-14 1区床面直上 SC-14 2区 SC-14 #跡	①(12.7) ②4.8	口縁部はヨコナデ。体部内外面ともナデ。	Aやや粗い。3.0mm以下の石英、1.5mm以下の長石を多く含む。B良好 C橙～明赤褐2.5YR6/8～5/8	
0210	弥生土器	鉢	SC-14 2区	①(17.9) ②(10.05)	口縁部はヨコナデ後刻み目。口縁部外面はタテハケ後ナメハケ後ヨコナデ、内面はヨコナデ。体部外面はタテハケ、内面は粗いハケ(タテからヨコ)。	A密 B良好 C橙7.5YR6/8	刻み目は2箇所でほぼ等間隔で施されるが、中央部分は連続するが深いものは上記に対応する。
0211	土師器	蓋	SC-11 1区2区B(反転後)	①(17.0) ②1.8	口縁部ヨコナデ後刻み目。口縁部外面ヨコナデ、体部タテ方向のミガキ。口縁～体部内面ミガキ。	A密 B良好 C灰黄褐10YR5/2～4/2	
0212	土師器	二重口縁蓋	SC-11 2区Aトレンチ包含層	②3.5 くびれ部径(16.0)	口縁部外面ナデ、有軸羽状文。口縁部内面割線、ナデ。	A密 B良好 C外：黄緑～明黄褐10YR8/6～7/6 内：橙5YR7/6	山陰系か。
0213	土師器	蓋	SC-11 1区北 SC-11 2区北 SC-11 3区南北-ベルト SC-11 4区南北-ベルト	②(9.1) くびれ部径(10.0)	口縁部外面ヨコナデ。胴部外面上位ヨコナデ、中位ストロークの長いヨコ、ナメ方向のハケ後タテハケ、下位ストロークの長いナメ・タテハケ。口縁部内面ナデ。胴部内面ヘラ削り。	A密 B良好 C浅黄緑～明褐10YR8/4～4/4	くびれ部内面に黒斑あり。

表2 石勺遺跡K地点調査遺物観察表⑥

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量 (cm/g) ①口径 ②器高 ③底径 ④最大径(復元)	形態・技法の特徴	A胎土 B施成 C色調	備考
0214	土師器	小型丸底蓋	SC-11 No.9	①(7.6) ②10.7	口縁部内外面ともヨコナデ。胴部外面上位はヨコナデ、中位以下は不定方向のハケ、内面上位は板ナデ、中位以下はヘラケズリ。	A密 B良好 Cにぶい黄～橙7.5YR7.3～7.8	
0215	土師器	小型丸底蓋	SC-11 No.2 Aチレンチ包含層 SC-11 3区 SC-11 4区	くびれ部径(4.3) ②(7.1)	胴部外面上位はヨコナデ、中位ナデ後ヘラミガキ、下位ヘラケズリ後ヘラミガキ、内面上位はヨコナデ、中位から下位はコビナデ。	A密 B良好 C明赤褐5YR5.6～5.8	底部内面に作成時の粘土集約箇所あり。
0216	土師器	小型丸底蓋	SC-11 No.12 SC-11 1区 6F区包含層(検出中)	①(7.1) ②9.6	口縁部内外面ともヨコナデ。胴部外面上位はナメハケ後ナデ、中位以下はナデ、内面はコビナデ。	A密 B良好 C橙5YR7.8～6.8	
0217	土師器	小型丸底蓋	SC-11 No.5	①8.9 ②8.5	口縁部内外面ともヨコナデ。胴部外面はナデ、内面はヘラケズリ後コビナデ。	A密。B良好 C明褐7.5YR5.6～5.8	胴部全体にスス付着。
0218	土師器	小型丸底蓋	SC-11 No.3	くびれ部径6.0 ②(6.1)	胴部外面上位はヨコナデ後ヨコナデ、タテハケ後ナデ、中位から下位不定方向の粗いハケ、内面上位はナデ、中位から下位は粗いコビナデ。	A密 Bやや不良 Cにぶい黄橙～にぶい黄褐10YR6.4～5.4	底部～肩部にかけて一部黒斑あり。底部内面に粘土集約箇所あり。
0219	土師器	小型丸底蓋	SC-11 1区	②6.9	口縁部ヨコナデ、胴部ナデ、口縁内面ヨコナデ、体部内面コビナデ。	A密 B良好 C明赤褐5YR5.6～5.8	底部に黒斑あり。
0220	土師器	小型丸底蓋	SC-11 1区埋土下層上面	①(7.7) ②9.1	体部外面上位はヨコナデ後ヨコナデ、体部外面下位不定方向のハケ、体部内面上位ナデ、中位以下コビナデ。	Aやや粗い。5.0mm以下の石英、2.0mm以下の長石を多く含む。B良好 C黄橙～橙7.5YR8.8～6.8	底部内面に粘土集約あり。
0221	土師器	小型丸底蓋	SC-11 No.11	①(9.7) ②(9.4)	口縁部内外面ともハケ後ナデ。胴部外面上位ハケ後ナデ、下位ナデ。内面上位に指押さえ、中位以下は板ナデ。概然により底部2ヶ所が剥離している。	A密。1.0mm以下の雲母を比較的多く含む。B良好 Cにぶい黄～橙7.5YR7.4～7.6	つくりがやや粗い。外面の全体、内面の一部に黒斑あり。外面にスス付着。
0222	土師器	小型丸底蓋	SC-11 No.18 6F区包含層(検出中)	①(7.8) ②8.0	口縁部内外面ともヨコナデ。胴部外面は不定方向ハケ、内面上位はコビナデ後ヨコナデ、下位は指押さえ。全体に剥離が見られる。	A密。雲母を多く含む。B良好 Cにぶい黄～にぶい赤褐5YR7.4～5.4。概然により変色。	全体に黒斑あり。
0223	土師器	小型丸底蓋	SC-11 2区 SC-11 2区ベルト SC-11 3区 SC-11 3区南北ベルト SC-11 4区ベルト SC-11 4区南北ベルト SC-11 6F区包含層(検出中)	①(9.4) ②9.0	口縁部はヨコナデ。口縁部内外面ヨコナデ後ナデ。胴部内外面ともナデ。	A密 B良好 Cにぶい黄～にぶい褐7.5YR6.4～5.4	
0224	土師器	小型丸底蓋	SC-11 No.10	①(7.6) ②8.7	口縁部内外面ともヨコナデ。胴部外面ハケ後ナデ、内面上位はヨコナデ後ナデ、中位以下はタテ指押さえ。底部内面に粘土集約あり。	A密 B良好 C橙～明褐7.5YR7.6～5.6	底部外面の一部に黒斑あり。
0225	土師器	甕	SC-11 1区2区北(反転後)	①(12.6) くびれ部径(11.0) ②7.8	口縁部タテハケ、胴部外面タテハケ後ナデ、胴部外面下位不定方向のハケ、口縁内面ヨコナデ後ナデ、胴部内面ヘラ削り。口縁部上半、黒色塗部が剥離している。	A密 B良好 C灰黄褐～黒褐10YR4.2～2.2	黒色顔料の塗布あり。
0226	土師器	甕	SC-11 1区床面直上	①(16.2) ②7.9	口縁内外面ヨコナデ、外面ナメハケ後ナデ、胴部上位ヨコナデ、下位指押さえ、胴部内面ヘラ削り。	A密 B良好 C外：橙～明褐7.5YR7.6～5.6、内：橙5YR7.8～6.8	
0227	土師器	甕	SC-11 1区 SC-11 1・3区ベルト 3区	①(12.0) ②17.2	口縁外ヨコナデ、胴部外面上位ヨコナデ、胴部外面ハケナメ方向のハケ、胴部内面ヨコナデ後ナデ、胴部内面ヘラ削り。	A密。5.0mm以下の石英を含む。B良好 C浅黄褐～黄褐10YR8.3～5.3	肩部～胴部外面に厚くススが付着、一部黒斑あり。
0228	土師器	高杯	SC-11 No.17	くびれ部径3.3 ②(6.1)	杯部外面上位はヨコナデ、中位はナメハケ後粗いナデ、下位はナメハケ後ナデ、内面はヨコナデ後板ナデ。胴部外面上位はタテハケ。	A密 B良好 C橙～明赤褐5YR7.6～5.6	杯折部分の一部に黒斑あり。
0229	土師器	高杯	SC-11 No.16	①(16.8) ②5.8	口縁部ヨコナデ、口縁部外面ハケ後ヨコナデ、体部ハケ後ナデ、内面コビナデ。	A密 B良好 Cにぶい黄～明褐7.5YR5.4～5.8	黒斑あり。
0230	土師器	高杯	SC-11 No.6	①(18.1) ②(7.2)	口縁部外面上位はヨコナデ、下位はナデ、内面はヨコナデ。体部外面はタテハケ後ナデ、内面はハケ後ナデ。胴部外面はタテハケ後ナデ。	A密 B良好 C橙～赤褐2.5YR6.8～4.8	
0231	土師器	高杯	SC-11 No.7	①(18.4) ②(6.0)	口縁部内外面ともヨコナデ。体部外面はナメハケ後ナデ(左から右)。脚接合部ヨコナデ。	A密 B良好 C橙7.5YR6.8～4.8	
0232	土師器	高杯	SC-11 No.14	①(15.7) ②4.7	口縁部ヨコナデ、口縁部外面ヨコナデ、体部外面ハケ後ナデ、体部内面上位ハケ後ナデ、体部内面下位ナデ。	A密 Bやや不良 C明赤褐5YR5.6～5.8	
0233	土師器	高杯	SC-11 2区No.22	②7.2 ③(9.6)	杯部外面ヨコナデ、内面はナデ。胴部外面はナデ、内面はヘラケズリ。胴部内面ともヨコナデ。	A密 B良好 C橙～明赤褐5YR6.8～5.8	
0234	土師器	高杯	SC-11 2区No.21	②7.3 ③(11.7)	外面はナデ、内面はコビナデ。内面はヘラケズリ。裾部外面はタテハケ後ナデ、内面と端部はヨコナデ。外面はヘラミガキ、内面はハケ後ナデ、下位はナデ。裾部はヨコナデ。	A密 B良好 C地：黄褐7.5YR8.8～7.8、赤彩：橙～明赤褐5YR6.8～5.8	底部内面に黒斑あり。
0235	土師器	高杯	SC-11 2区No.20	②6.6 ③(11.8)	外面はタテハケ後ヨコナデ、内面はヘラケズリ。裾部外面はヨコナデ、内面はヨコナデ後ナデ。	A密 B良好 C黄褐7.5YR8.8～7.8	
0236	土師器	高杯	SC-11 2区No.23	②8.4 くびれ部径(2.6)	口縁部内外面ともヨコナデ。胴部外面上位ナメハケ後ヨコナデ、体部外面ヨコナデ、体部内面コビナデ。	A密 B良好 C橙～明赤褐5YR6.8～5.8	
0237	土師器	鉢	SC-11 No.15	①7.1 ②5.6	体部外面タテ方向のミガキ、脚部外面タテ方向のミガキ。脚部増部ヨコナデ。胴部内面ナデ。体部内面ヨコナデ後ミガキ(ミガキ面はほぼ磨耗)。	A密 B良好 C橙7.5YR7.6～6.6	一部黒斑あり。
0238	土師器	小型器台	SC-11 2区	②5.4 ③(10.2)	口縁部はヨコナデ。口縁部内外面ともハケ後ヨコナデ。胴部外面上位はナデ、内面はナメハケ、タテハケ、内面上位はヨコナデ後ナデ、中位以下はナデ後ヘラミガキ。	A密 B良好 Cにぶい黄7.5YR7.4～6.4	胴部内面に黒斑あり。
0239	土師器	器台	SC-11 No.4	①(15.1) ③(3.4)	体部外面コビナデ、底部外面ナデ、体部～底部内面コビナデ。	A密 B良好 C灰黄褐～黒褐10YR4.2～3.2	
0240	土師器	ミニチュア鉢	SC-11 2区	②2.4 ③3.0	口縁～体部内外面共にナデ。	A密 B良好 Cにぶい黄橙～にぶい黄褐10YR6.3～4.3	
0241	土師器	ミニチュア鉢	SC-11 1区	①(5.4) ②4.4	口縁部内外面ともナデ。胴部外面はナデ、内面はコビナデ。	A密 B良好 C明褐～灰褐7.5YR7.2～6.2	
0242	土師器	ミニチュア鉢	SC-11 No.13	①(3.5) ②3.8	口縁部内外面ともナデ。胴部外面はナデ、内面はコビナデ。	Aやや粗い。1.0～3.0mm程の石英・長石を多く含む。B良好 C外：橙7.5YR6.6～明褐7.5YR5.6、内：明褐7.5YR5.6	口縁部にΦ2.0mmの孔があけられている。
0243	土師器	ミニチュア蓋	SC-11 No.8	①(2.4) ②4.9	口縁部内外面ともナデ。胴部外面はナデ、内面はコビナデ。	A密 B良好 C暗灰～黒N3.0～1.5.0	付着物あり。
0244	土師器	高杯	SC-11 1・2区ベルト	①(9.1) ②2.7	ナデ	A密 Bやや不良 Cにぶい黄～褐7.5YR5.4～4.4 A3.0mm以下の石英・長石及び雲母微粒をやや多く含む。B良好 C外：橙7.5YR7.6～黄褐10YR8.6、内：橙7.5YR6.6～にぶい黄褐10YR5.3	外面に黒斑あり。
0245	石器	石鏃	SC-11 1区	長2.3 幅1.85 厚0.35	口縁部から体部の内外面とも回転ナデ。底部は内外面不定方向ナデ。高台部は回転ナデ。	A良。0.5～1.0mmの長石を少量含む。石英・雲母を微量に含む。B不良 C灰黄2.5Y7.2、外面底部灰白2.5Y8.1	
0246	土製品	土製勾玉	SC-11 2区	長3.6 幅1.9 厚1.5	口縁部内外面とも回転ナデ。底部内面は回転ナデ、外面はナメハケ、タテハケ、内面上位はヨコナデ後ナデ、中位以下はナデ後ヘラミガキ。	A密。0.5mmの長石を少量含む。雲母・石英を微量に含む。B不良 C外：灰白N8、内：灰白2.5Y8.2	外面に黒斑あり。
0247	弥生土器	甕	SC-14 1区・2区	①(35.2) ②(40.5) 胴径(35.7)	口縁部内外面とも回転ナデ。底部内面は回転ナデ、外面は不定方向ナデ。	A密。0.5mmの長石を多量に含む。石英・雲母を微量に含む。B良 C灰黄2.5Y6.1	
0248	須臾器	杯身	SC-15 No.3	①(13.8) ②4.4 高台径8.2	口縁部内外面とも回転ナデ。底部内面は回転ナデ、外面は不定方向ナデ。	A密。0.5mmの長石や石英・雲母を微量に含む。B不良 C灰白5Y8.1	
0249	須臾器	杯身	SC-15 No.1	②5.1 高台径(10.6)	口縁部内外面とも回転ナデ。底部内面は回転ナデ、外面は不定方向ナデ。	A密。0.5mmの長石や石英・雲母を微量に含む。B不良 C外：灰白N8、内：灰白2.5Y8.2	外面の一部に黒斑あり。磨耗のため、回転方向不明。
0250	須臾器	皿	SC-15	①(24.6) ②1.75 ③(19.5)	口縁部内外面とも回転ナデ。底部内面は回転ナデ、外面は不定方向ナデ。	A密。0.5mmの長石や石英・雲母を微量に含む。B不良 C灰黄2.5Y6.1	
0251	須臾器	高杯	SC-15 No.2	②(9.2) 脚部径12.15	口縁部内外面とも回転ナデ。底部内面は回転ナデ、外面は不定方向ナデ。	A密。0.5mmの長石や石英・雲母を微量に含む。B不良 C灰白5Y8.1	
0252	須臾器	短頸壺	SC-15	①(18.8) ②(4.85)	口縁部内外面とも回転ナデ。底部内面は回転ナデ、外面は不定方向ナデ。	A密。0.5mmの長石や石英・雲母を微量に含む。B不良 C灰黄2.5Y6.1	
0253	石器	石鏃	SC-15	長2.1 幅1.75 厚0.45	口縁部内外面とも回転ナデ。底部内面は回転ナデ、外面は不定方向ナデ。	A密。0.5mmの長石・石英・雲母を微量に含む。B不良 C凸面：灰N4、凹面：灰白2.5Y8.1、一部灰白N7	
0254	瓦	平瓦	SC-15	厚1.6 幅(4.2)	口縁部内外面とも回転ナデ。底部内面は回転ナデ、外面は不定方向ナデ。	A密。0.5mmの長石をやや多く含む。石英・雲母を微量に含む。B良好 C外：暗灰黄2.5Y5.2、明青灰5B7.1混じる。内：灰N6	内外面の一部に黒斑あり。
0255	須臾器	杯身	SC-16 西側	①(13.4) ②(3.65) ③高台(8.6)	口縁部内外面とも回転ナデ。体部外面に回転ヘラケズリ。	A良好。0.5～3.0mmの長石を少量や多く含む。石英・雲母を少量含む。B良好 C外：天井部灰5Y4.1、側面灰N6、N1.5(自然釉)、内：天井部暗灰N3、口縁部灰N6、黒2.6GY2.1(自然釉)	
0256	須臾器	杯蓋	SC-16	②(1.2) ③(24.4)	口縁部内外面とも回転ナデ。底部外面不定方向ナデ、内面回転ナデ後ヨコナデ。外面体部と底部との境界回転ナデ後板ナデ。	A密。0.5～2.0mmの長石を少量含む。石英・雲母を微量に含む。B良好 C灰10Y6.1、口縁部：橙7.5YR7.4、一部熱により橙7.5YR7.6、褐灰10YR4.1、内：橙7.5YR7.6	内外面の一部にスス付着。
0257	須臾器	皿	SC-16	①(19.2) ②2.6 ③(15.0)	口縁部内外面ともヨコナデ。胴部外面ヨコナデ、内面タテヘラケズリ後タテナデ。	A密。0.5mm以下の石英・長石を多く含む。B良好 C黄橙～橙7.5YR8.8～6.8	
0258	土師器	甕	SC-16 東側	①(34.3) ②(11.5)	口縁部内外面ともヨコナデ。胴部外面ヨコナデ、内面タテヘラケズリ後タテナデ。	A密。0.5mm以下の石英・長石を多く含む。B良好 C黄橙～橙7.5YR8.8～6.8	

表2 石勺遺跡K地点調査遺物観察表⑦

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量 (cm/g) ①口径 ②器高 ③底径 ④最大径 (復元)	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備考
0259	土製品	不明土製品	SC-16~18 周辺検出中	長(5.65) 厚(2.9)	ナデ。一部指押さえ。	A良好。0.5~1.0mmの長石・石英を少量、雲母や多量含む。B良好 C浅黄緑10YR8/3	頭・手・足欠損、故意に折ったかは不明。
0260	土師器	甕	SC-17 2区 粘土の周辺	②残存 (4.9)	胴部外面ヨコハケ。内面上位にヨコハケ後ナデ。中位はヘラケズリ。	A少し粗い。3.0mm以下の石英、1.5mm以下の長石を多く含む。雲母、チャート、角閃石を含む。B良好 C浅黄緑へにぶい黄緑10YR8/3~4/3	胴部に線刻画あり(家か)。
0261	土師器	小型丸底蓋	SC-17 No.1 SC-17 4区	①推定10.1 ②&2	口縁端部はヨコナデ。口縁部外面タテハケ後ナデ。内面ナメハケ後ナデ。胴部外面ハケ後ナデ。内面上位ナデ。中位以下ヘラケズリ。	A密 B良好 Cにぶい浅黄緑へ黄緑7.5YR8/3~8/8	
0262	土師器	甕	SC-17 P-3	①(17.4) ②(11.2)	口縁端部はヨコナデ。口縁部外面はナメハケ後ヨコナデ。内面はナメハケ。頸部外面ヨコナデ。内面ナデ。胴部外面上位タテハケ。中位ナメハケ後タテハケ。内面はヘラケズリ。	A密 B良好 C浅黄緑へ褐7.5YR8/4~4/4。浅黄緑へ褐8/6~6/6。内面口縁上部、外面口縁端部の一部に煮沸による変色あり。	口縁部下半へ胴部にかけてスス付着。
0263	土師器	甕	SC-17 No.2	①(13.4) ②21.2	口縁部外面上位ヨコナデ。下位ヨコハケ後ナデ。内面ヨコナデ。胴部外面タテ、ナメハケ。内面上位指押さえ後ナデ。中位以下ケズリ後ナデ。	A密 B良好 C7.6YR5/4~5/8にぶい褐へ明褐。被熱による変色あり。	外面肩帯、内面口縁部、胴中位に黒斑あり。胴部外面にスス付着。
0264	土師器	甕	SC-17 No.02 SC-17 2区	①推定14.5 ②23.3	口縁部外面ヨコナデ。内面ナメハケ後ナデ。胴部外面上位右上がりハケ。中位から下位左上がりハケ。下位から底部ナデ。内面上位ナデ。中位以下ヘラケズリ。底部内面ナデ。	A密 B良好 C浅黄緑へにぶい黄緑10YR8/8~4/3	全体的にススが付着。
0265	土師器	高杯	SC-17 No.1	②(7.4) ③(11.8)	外面化粧土を塗り丁寧ナデ?内面上位ヨコナデ。中位ヘラケズリ。下位ナデ。胴部内外面ともヨコナデ。	A密 B良好 Cにぶい褐へ暗褐7.5YR7/3~2/3	黒斑あり。
0265	土師器	高杯	SC-17 No.1	①(19.4) ②(4.10)	口縁部外面上位ヨコナデ。中位ハケ後ヨコナデ。下位ヨコナデ。内面ヨコナデ。体部外面ヨコハケ後ナデ。内面ナデ。	A密 B良好 C褐へ明褐7.5YR7/6~5/6	屈曲部に黒斑あり。
0265	土師器	鉢	SC-17 2・3区	①(9.8) ②6.2 ③(4.4)	口縁端部は積みあがっている。体部内外面ともナデ。	A密 B良好 C浅黄緑へ暗褐10YR8/4~3/4	
0267	土師器	ミニチュア鉢	SC-17 2区	①(3.4) ②3.1	内外面ともナデ。	A密 Bやや不良 C浅黄緑へにぶい黄緑10YR8/3~6/3	
0268	土師器	ミニチュア脚付鉢	SC-17 4区	①推定(5.3) ②5.6 ③4.25	内外面ともナデ。	A密 B良好 C浅黄緑7.5YR8/6	杯部の一部に黒斑あり。
0269	土製品	跡継車	SC-17	直径3.4~3.7 最大厚1.1		A密 B良好 Cにぶい黄緑へ暗褐7.5YR7/4~5/4	表裏面に赤色顔料の付着あり。
0270	石器	石鏝	SC-17 2区 粘土の周辺	最大長2.7 最大幅2.4 最大厚0.6		C灰~黒5YR4/1~2/1	
0271	土師器	小型丸底蓋	SC-18 2区 SC-16~18 検出中 SC-17*18 切り合い確認トレンチ	①(8.2) ②(7.9)	口縁端部はヨコナデ。口縁部内外面ナメハケ後ナデ。胴部外面上位ナメハケ。下位ナデ。内面ナデ。	A密 B良好 C灰褐色へにぶい黄緑10YR6/2~6/4	
0272	土師器	小型丸底蓋	SC-18 No.2	①推定(8.8) ②9.2	口縁部から外面ヨコナデ。内面ナメハケ後ヨコナデ。胴部外面ナメハケ後ヨコナデ。体部外面上位ナデ。下位ヨコハケ。内面ケズリ?ミガキのようなナデ?	A密 B良好 C灰白へ黄緑10YR8/1~8/8	黒斑あり。
0273	土師器	甕	SC-18 2区 SC-18 東壁 SC-18(SC-16間ベルト)	②(14.5) <びれ部径(17.4)	口縁部内外面ともヨコナデ。胴部外面上位タテハケ。中位以下ナメハケ。頸部内面ナデ。胴部内面ケズリ的なナデ。	A密 B良好 Cにぶい黄緑へにぶい黄緑10YR3/3~4/3	
0274	弥生土器	甕	SC-18	②(19.7) <びれ部径(30.0)	頸部内外面ともヨコナデ。胴部外面上位ナデ。下位タテハケ。内面はヘラケズリ。	A粗。5.0mm以下の石英を多く含む。B良好 Cにぶい黄緑へにぶい褐7.5YR7/4~5/4	黒斑あり。
0275	土師器	高杯	SC-18	②(4.5)	体部内外面ともヨコハケ後ナデ。底部外面ヨコハケ後ナデ。内面ナデ。	A密 B良好 C褐へ明赤褐5YR7/8~5/8	
0276	土師器	脚付鉢	SC-18 No.1	①(10.1) ②&8	口縁端部から外面ヨコナデ。内面ナメハケ後ナデ。胴部外面タテハケ。体部外面上位ナデ。下位タテナデ。内面ナデ。底部外面ナデ。	A密 B良好 C灰褐へ黄緑7.5YR6/2~6/8	胴の一部に朱塗痕存。黒斑あり。
0277	土師器	鉢	SC-19 No.1	②(5.1) ③3.6	体部外面ナデ。内面上位ケズリ。下位ナデ。	A密 B良好 Cにぶい黄緑へ明黄緑10YR7/4~7/6	底面に朱塗の痕か。
0278	土師器	甕	SC-19 4区埋土	①(16.0) ②(9.1)	口縁部内外面ともヨコナデ。胴部外面上位タテハケ。中位ヨコハケ。内面上位ヨコナデ。ナメハケ。中位ヨコハケ後ナデ。以下ヘラケズリ。	A密 B不良 C浅黄緑へにぶい黄緑10YR8/4~6/4	器面全体にスス付着。
0279	土師器	甕	SC-19 南検出中	①(24.8) ②(2.3)	口縁部内外面ともヨコナデ。胴部外面ナデ。	A密 B良好 C褐灰へ黒7.5YR6/1~2/1。一部褐へ明赤褐2.5YR6/8~5/8	胎土は異なるが、形状は近江へ山城系か。
0280	土師器	支脚?	SC-19 4区陸床	②(3.7) ③(11.9)	外面はナデ。	A密 B不良 C褐へ明褐7.5YR7/6~5/6	
0281	須恵器	杯蓋	SC-21 4区	①(18.0) ②2.1(つまみ部除く)	口縁部外面回転ナデ後工員ナデ。天井部外面は回転ヘラケズリ。内面は回転ナデ。粘土接合痕あり(ヨコナデ)。	A1.0mm以下の石英・長石を僅かに含む。Bやや不良 C灰黄へ灰2.5Y7/2~5Y6/1	
0282	須恵器	杯蓋	SC-21 4区	①(21.3) 2.05	口縁部内外面とも回転ナデ。天井部外面は回転ヘラケズリ。内面は回転ナデ後ナデ。	A1.0mm以下の石英・長石を僅かに含む。やや砂っぽい。Bやや不良 C灰ナリゾへ灰白5Y6/2~5Y7/2	
0283	須恵器	杯身	SC-21 3区	①(13.2) ②4.05 高台径(10.0)	口縁部内外面とも回転ナデ。体部外面下位は回転ヘラケズリ。底部外面回転ヘラケズリ後ナデ。内面回転ナデ後ナデ。高台接合はヨコナデ。	A1.0mm以下の石英・長石を僅かに含む。やや砂っぽい。B不良 C外・灰へ灰白5Y7/1~2.5Y8/1。内：浅黄へ灰黄2.5Y7/3~2.5Y7/2	
0284	須恵器	皿	SC-21 4区	①(20.3) ②(2.25)	口縁部内外面とも回転ナデ。底部外面回転ヘラケズリ後ナデ。	A蒸細な砂粒を少量含む。砂っぽい。B良好 C灰白2.5Y8/1	
0285	土師器	片口鉢	SC-21 4区テラス部	②(3.9)	口縁端部はヨコナデ。口縁部内外面ともナデ。	A1.0mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 C外：灰白2.5Y8/1。内：褐灰10YR6/1	
0286	土師器	甕	SC-21 かまど?道部 No.2	①(23.8) ②23.95 ③17.9 胴径(31.3)	口縁部内外面ともヨコナデ。体部外面ナデ。内面上位はナデ。中位ヘラケズリ。下位ナデ。全体に腐蝕。	A1.5mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 C浅黄緑10YR8/3	外面胴中位へ底部スス付着。
0287	土師器	甕	SC-21 かまど?道部 No.1	②29.3 ③30.1~30.5 ④19.1	口縁部内外面ともヨコナデ。体部外面上位はヘラケ後ナデ。中位以下はハケ。内面ヘラケズリ。底部はヨコナデ。	A1.0~3.0mmの石英・長石を少量含む。B良好 C外：黄緑10YR8/6へ明赤褐2.5YR5/8。内：にぶい黄緑10YR5/4	
0288	弥生土器(土師器)	複合口縁蓋	SC-21 2区テラス部 SC-22 5区	①(15.4) ②(9.3) ③(18.2)	口縁部内外面ともヨコナデ。頸部外面はハケ後ヨコナデ。内面上位ハケ後ヨコナデ。中位以下ハケ。	A1.0~3.0mmの石英・長石を多く含む。B良好 C褐へ暗5YR6/6~5YR6/8	
0289	弥生土器(土師器)	複合口縁蓋	SC-22 5区	①(20.9) ②(5.5)	口縁部内外面ともヨコナデ。頸部外面はハケ。内面上位ハケ。中位にヨコナデ。中位以下はナデ。	A2.0mm以下の石英・長石及び金雲母微粒を僅かに含む。B良好 Cにぶい黄緑10YR7/4	
0290	弥生土器(土師器)	複合口縁蓋	SC-22 5区	②(2.05) 屈曲部径(10.5)	外面ヨコナデ後円形刃貼り付け。竹管押圧。内面は摩蝕。	A1.0mm以下の石英・長石を少量含む。Bやや不良 Cにぶい黄緑10YR6/4	
0291	土師器	壺	SC-21 4区周辺 検出中	②(6.05) ③(20.4)	胴部外面ナデ。内面ヘラケズリ。	A2.0mm以下の石英・長石及び金雲母微粒・鉄電気石微結晶を少量含む。B良好 C外：褐7.5YR6/6。内：にぶい黄緑10YR7/4	
0292	土師器	小型丸型蓋	SC-21 4区テラス部	②(7.2) 胴径8.7	口縁内外面ともヨコナデ。胴部外面上位ハケ後ナデ。下位ハケ。内面上位にナデ。以下はヘラケズリ。	A1.0~3.0mmの石英・長石をやや多く含む。B良好 C外：にぶい黄緑へ暗10YR6/3~5YR6/6。一部黒7.5YR2/1(顔料か)。内：浅黄褐7.5YR8/6	
0293	土師器	鉢	SC-21 2区テラス部 SC-22 5区	①(20.5) ②(6.1)	口縁端部はヨコナデ。体部外面ハケ後ナデ。内面ハケ。	A1.0~3.0mmの石英・長石を僅かに含む。B良好 C褐へにぶい黄緑7.5YR7/6~10YR7/4。外面ややくすむ。	
0294	土師器	小型器台	SC-21 4区周辺 検出中	②(5.85) 脚部径9.2	外面はナメハケ後ヨコナデ。内面上位はナデ。下位はハケ。裾端部はヨコナデ。	A1.0mm以下の石英・長石。金雲母微粒及び3.0mm以下の赤褐色土粒を僅かに含む。B良好 Cにぶい黄緑10YR5/2~10YR7/3	
0295	土師器	小型器台	SC-22 1区	②(1.6)	口縁部から体部外面はヨコナデ後ヘラミガキ。内面ヨコナデ。	A精良 B良好 C褐5YR6/8	
0296	土師器	蓋	SC-23 2~5区検出中	③5.15 ④(6.0)	体部外面下位ハケ後ナデ。底部との境界はヘラケズリ。内面タテハケ。底部内面ヘラケズリ。外面ナデ。	A密 B良好 C明褐へ褐7.5YR5/6~4/6	外面にスス付着。
0297	土師器	直口蓋	SC-23 4区	①(11.2) ②(10.45) ③(11.9)	口縁部内外面ともヨコナデ。胴部外面上位はハケ後ヨコナデ。以下はハケ後一部ナデ。内面上位はヘラケズリ後ナデ。中位以下はヘラケズリ。	A0.5~3.0mmの石英・長石をやや多く。金・白雲母微粒を僅かに含む。B良好 C外：(スス)10YR6/2~7.5YR2/1。内：浅黄へにぶい黄2.5Y7/3~2.5Y6/3	外面にスス付着。
0298	土師器	小型丸底蓋	SC-23 2区	①(8.1) ②7.65 ③(8.5)	口縁端部はヨコナデ。口縁部外面ヨコナデ。内面ヨコハケ後ナデ。胴部外面上位ヘラミガキ。下位は板ナデ。内面口縁部と胴部の境界は指押さえ後ハケ後ヨコナデ。胴部内面ナデ。	A精良。微細な石英・長石及び金雲母を少かに含む。B良好 C外：黄緑へ黄緑10YR8/6~2.5YR5/3。黒斑黒褐2.5Y3/1。内：にぶい黄緑10YR7/4	黒斑あり。
0299	土師器	小型丸底蓋	SC-23 No.2	①(10.0) ②10.1	口縁部外面ヨコナデ。内面ハケ後ナデ。胴部外面タテハケ。内面ヘラケズリ。	A密 B良好 Cにぶい黄緑へ明黄緑10YR7/2~7/6	胴部から下の半分、胴部内面にスス付着。
0300	土師器	小型丸底蓋	SC-23 No.1 SC-23 1区 SC-23 検出中 SC-23 東端1段上(2区) SC-23 2区埋土上層	①(8.1) ②9.3	口縁部外面ヨコナデ。内面ハケ後ナデ。胴部外面ケズリ的ナデ。内面ホビナデ。	A密 B良好 Cにぶい黄緑へ暗5YR7/3~7/8。一部変色し。褐灰・灰褐5YR4/1~4/2	胴部の一部赤色塗彩の痕跡か。
0301	土師器	甕	SC-23 2~5区検出中	①(12.0) ②(7.3)	口縁部内面から端部にかけてナデ。口縁部外面から胴部外面はタテハケ。胴部内面ハケ。	Aやや粗い。2.5mm以下の砂粒を多く含む。B良好 C灰白へ浅黄緑7.5YR8/2~8/4	
0302	土師器	甕	SC-23 東端1段上(2区) SC-23 4区埋土上層 SC-23 検出時	①(13.5) ②(8.3)	口縁端部はナデ。口縁部から体部への字文様。口縁部内面への字文様。体部内面上位ナメハケ後ナデ?中位ヨコハケ後ナデ?下位ナデ。	A密 B良好 C10YR5/2~5/6	一部黒斑。スス付着。
0303	土師器	甕	SC-23 2~5区検出中	①(14.9) ②(10.8)	口縁端部はナデ。口縁部外面ナメハケ後ヨコナデ。内面ヨコハケ後ヨコナデ。外面口縁部と胴部との境界ヨコハケ後ナデ。胴部外面ヨコナメハケ。内面口縁部と胴部の境界ヨコハケ後ナデ。胴部内面ヘラケズリ。	A密 B良好 C灰白へ黄緑10YR8/1~8/6	口縁へ胴部の広い範囲で黒斑がみられる。
0304	弥生土器	甕	SC-23 No.7	②(8.1) <びれ部径(16.0)	口縁部外面中位ナメハケ。下位ナデ。内面ヨコナデ。胴部外面上位タテハケ後ヨコハケ。ナデ。中位以下タテハケ。一部ヨコタテキ後タテハケ。内面ヘラケズリ。	A粗い。4.0mm以下の石英を多く含む。B良好 Cにぶい黄緑へ明黄緑10YR6/3~6/6	胎土が粗いためか内面の器壁が荒れている。一部黒斑あり。

表2 石勺遺跡K地点調査遺物観察表⑧

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量 (cm/g) ①口径 ②器高 ③底径 ④最大径(復元)	形態・技法の特徴	A胎土 B施成 C色調	備考
0305	土師器	甕	SC-23 検出時	①(14.6) ②(14.5)	口縁部はナダ。口縁部から胴部外面ナメ・ヨコハケ、口縁部内面ヨコハケ、胴部内面ヘラケズリ。	A密 B良好 Cにぶい黄～明褐7.5YR5.3～5.6	全体にスス付着。
0306	土師器	甕	SC-23 No.3	①(13.7) ②16.7	口縁部内外ともヨコナダ。胴部外面ハケ、内面口縁部と胴部境界はナダ、以下はヘラケズリ。	A粗い、5.0mm以下の石英を多く含む。B良好 C浅黄緑～にぶい黄緑10YR8.3～6.3、一部にぶい黄～にぶい赤褐5YR6.4～5.4、被熱による変色あり。	胴下半外面黒斑、上半に内外面ともスス付着。
0307	土師器	二重口縁甕	SC-23 2～5区検出中	②(11.2)	口縁部はヨコナダ。口縁部外面上位ハケ後一部ヨコナダ、下位ハケ後ヨコナダ、内面はハケ、下位にヨコナダ。	A2.0mm以下の石英・長石を僅かに含む。B良好 Cにぶい黄緑10YR7.4	山陰系大型甕か。
0308	弥生土器	高杯	SC-23 No.5	①12.6 ②8.7 ③9.5	口縁部はヨコナダ。口縁部外面タテハケ後ヨコナダ、内面ヨコハケ後ヨコナダ、体部外面上位はヨコナダ、下位ナダ、内面ヨコナダ。胴部内面ナダ。脚部外面ヨコハケ後ナダ、内面上位ヘラケズリ、中位ハケ後ナダ。裾部ヨコナダ。	A密 B良好 C浅黄緑～にぶい黄緑10YR8.3～4.3	口縁部内面に黒斑あり。
0309	土師器	高杯	SC-23 検出時 SC-21 4区検出中 SC-23 1区 SC-23 2～5区検出中 SC-23 東端一段上(2区)	①16.7 ②杯部(6.0)・脚部(3.5) ③9.2	口縁部上位内外面ともヨコナダ、口縁部外面下位ナメハケ後ヨコナダ、内面は底部までハケ後ナダ。体部外面上位タテハケ後ナダ、下位タテハケ。脚部外面下位ヨコハケ後ナダ、内面ナダ。裾部外面ナダ、内面上位にヨコナダ、一部タテビナダ、下位はナダ。	A密 B良好 C赤黄緑～橙2.5YR7.4～7.8	
0310	土師器	高杯	SC-23 2区トレンチ内	①(14.9) ②(4.9)	口縁部はナダ。口縁部から体部内外面ともハケ後ナダ、一部ミガキ。外面体部下位タテハケ後ナダ一部ミガキ。	A密 B良好 Cにぶい黄～橙7.5YR6.4～6.8	口縁部の一部に黒斑あり。
0311	土師器	高杯	SC-23 No.6	①18.8 ②(6.9)	口縁部はナダ。口縁部外面から体部外面ナメハケ、ヨコハケ後ヨコナダ、内面ヨコハケ後ヨコナダ。体部内面ナダ。	A密 B良好 Cにぶい黄緑10YR7.4～6.4	黒斑あり。
0312	土師器	高杯	SC-23 No.4 SC-23 検出時 SC-23 1区 SC-23 東端一段(2区)	①17.4 ②(5.2)	口縁部はヨコナダ。口縁部から体部外面はハケ後ナダ、口縁部内面ハケ後ナダ、体部内面ナダ。	A密 B良好 C灰白～黄緑7.5YR2.8～2.8。外面被熱による変色あり。	口縁部内外面に一部黒斑あり。
0313	土師器	高杯	SC-23 No.4	①(16.2) ②(4.55)	口縁部外面上位ヨコナダ、中位ナメハケ後ナダ、体部外面タテハケ後ヨコナダ、口縁部から体部内面はヨコナダ。	A密だが、4.0mm以下の石英を含む。Bやや不良 C灰白～浅黄緑10YR8.2～8.4 赤色部分：明赤灰～橙2.5YR7.2～7.8。	全体的に磨耗激しい。
0314	土師器	高杯	SC-23(2～5区内トレンチ)埋土層	②(9.1) ③(11.0)	胴部外面上位ナダ、下位ヨコナダ。内面上位から中位ヘラケズリ、下位ハケ後ナダ。裾部ナダ。内面上位シボ。	A密 Bやや不良 C灰白～浅黄緑7.5YR8.3～8.4	
0315	土師器	高杯	SC-23 2区	②(6.65) 軸径3.3 脚部径(11.2)	外面上位ヨコナダ、中位板ナダ、下位ヨコナダ、内面上位ナダ、中位は板ナダ、下位ヨコナダ。	A0.5～2.0mmの石英・長石を少量含む。B良好 C外：にぶい赤褐5YR5.4、内：明赤褐5YR5.6	透孔4孔あり。
0316	土師器	脚付鉢?	SC-23 4区	①(10.5) ②(4.55)	口縁部から体部外面指押さえ、ナダ、内面上位はハケ後ナダ、下位は板ナダ。	A2.0mm以下の石英・長石及び金雲母微粒を僅かに含む。B良好 C橙～黄褐7.5YR7.6～10YR5.3	
0317	土師器	ミニチュア脚付鉢	SC-23 (2～5区間トレンチ)埋土層	①(5.6) ②4.7 ③3.9	内外面ともミニビナダ。	A密 B良好 Cにぶい黄緑～灰黄褐10YR7.2～5.2	
0318	縄文土器	鉢	SC-23 北側土周	②28.3 ③(12.3)	口縁部はナダ。口縁部外面ヨコナダ、内面ヨコハケ後ナダ。胴部外面細かタテハケ、内面ヘラケズリ。	A密 B良好 C灰褐～橙7.5YR6.6～6.8	
0319	土師器	小型丸底壺	SC-23内 SX36 No.1	①8.4 ②8.7	口縁部内外ともヨコナダ。胴部外面ナダ、内面口縁部と胴部境界はナダ、以下はナダ。	A密 B良好 C浅黄緑～黄褐7.5YR8.4～8.8	内面に赤色顔料残存。
0320	土師器	高杯	SC-23内 SX36 No.2	①15.6 ②(5.7)	口縁部はナダ。口縁部外面ナメハケ後ヨコナダ、内面ヨコハケ後ヨコナダ。体部外面上位はタテハケ後ヨコナダ、下位はタテハケ、内面底部ハケ後ナダ。	A密 B良好 C灰褐～黄緑7.5YR2.8～6.8	内外面ともに口縁部に黒斑あり。
0321	石器	砥石	SC-23内 SX36	残長(24.5) 残幅(5.5) 残高(1.9)			粘板岩か、被熱で割れたか。SI.32.54.55.SC-23 2～5区検出時3点で接合。
0322	石器	砥石	SC-23	長27.25 幅10.1 高8.2			砂岩か。
0323	土師器	甕	SC-24	残長(2.9) 残幅(3.5) 残厚0.4	胴部外面に横位羽状タキ、内面ヘラケズリ。	A密 B良好 C外：灰褐～にぶい黄7.5YR5.2～5.4、一部橙2.5YR6.8、内灰黄褐10YR5.2～4.2	
0324	土師器	二重口縁壺	SC-25・28南北ベルト1-2層	②(4.7)	口縁部外面上位タテハケ後ナダ、下位ヨコナダ、内面ヨコナダ。	A密 B良好 C橙5YR7.8～6.8	
0325	土師器	甕	SC-25 3区 No.1	①17.3 ②20.1	口縁部はヨコナダ。口縁部外面上位タテハケ後ヨコナダ、下位タテハケ、内面ヨコハケ。胴部外面タテハケ、内面ナメハケ。底部内面は指押さえ後ナダ。	A密 B良好 C浅黄緑～にぶい黄7.5YR8.4～5.4、一部明赤褐5YR5.8	スス、黒斑あり(内面底部に集中)内面底部に炭化米の付着あり。
0326	土師器	甕	SC-25・28南北ベルト2層	②(4.55) 口径は口縁部が歪んでいるため復元不可能	口縁部はナダ。口縁部内外面ともヨコナダ。外面口縁部と胴部との境界はナメハケ後ヨコナダ、胴部外面ナメハケ後ナダ。内面ヨコハケ後ナダ。	A密 B良好 C橙5YR6.6～6.8	口縁部に歪みがある。
0327	土師器	高杯	SC-25 1区一段下付	②(2.1)	杯体外面ミガキ、内面ハケ後ナダ後ミガキ?体部と底部境界ハケ後ミガキ、底部外面タテハケ、内面ヨコハケ後ミガキ。	A密 B良好 C明黄褐5YR5.6～5.8	
0328	土師器	器台	SC-25・28 南北ベルト5層	①(14.7) ②(1.4)	口縁部はナダ。口縁部内外面ともミガキ。	A密 B良好 C橙5YR6.6～6.8	
0329	土師器	器台	SC-25 3区	②(3.9) ③(13.6)	胴部内外面ともミニビナダ。	A密。雲母を多く含む。 B不良 Cにぶい黄～橙7.5YR6.4～6.6	
0330	土師器	二重口縁壺	SC-26 3区	①(15.9) ②(5.1)	口縁部内外面ともヨコナダ。	A1.0mm以下の石英・長石・金雲母をやや多く含む。 B良好 C浅黄緑10YR8.4	畿内・山陰折衷型か。
0331	土師器	小型丸底壺	SC-26 1区	①(7.9) ②(4.6) 脚径(8.7)	口縁部外面ヨコナダ、内面上位はヨコナダ後ナダ、下位はヨコナダ。胴部外面ハケ、内面口縁部と胴部境界以下はナダ。	A2.0mm以下の石英・長石・赤褐色粒及び金雲母微粒を少量含む。 B良好 C灰黄褐10YR4.2	
0332	土師器	小型丸型壺	SC-26	②(6.4) <くびれ部径(6.2)	外面口縁部と胴部との境界はヨコナダ。胴部外面上位タテに歪いナメハケ、中位以下不定方向のハケ。内面口縁部と胴部との境界はナダ。胴部内面ミニビナダ。	A密 B良好 C灰褐～明褐7.5YR5.2～5.6	ほぼ全体に黒斑あり。
0333	土師器	小型丸型壺	SC-26 2区	②(8.9) <くびれ部径(6.5)	口縁部外面ヨコハケ後ヨコナダ?内面ヨコハケ後ナダ?胴部外面上位ヨコナダ、中位以下ハケ、内面上位ヨコハケ後ナダ?中位以下ミニビナダ。一部磨滅している。	A密 B良好 C橙～赤褐5YR6.8～4.8	一部に黒斑あり。
0334	土師器	甕	SC-26・27 南北ベルト南半5層	①(10.8) ②(3.45)	口縁部内外面ともヨコナダ。胴部外面ハケ、内面ヘラケズリ。	A精良。1.0mm以下の石英・長石を僅かに含む。 B良好 C明黄褐2.5YR5.8	布留系。
0335	土師器	甕	SC-26・27 南北ベルト北半3層	①13.4 ②(9.1)	口縁部はヨコナダ。口縁部外面粗いハケ後ヨコナダ、内面タテキ後ヨコナダ。胴部外面上位粗いハケ後ナダ、中位タテキ後ナダ、内面ナダ。	A1.0mm以下の石英・長石を少量含む。 B良好 Cにぶい黄緑～浅黄緑10YR7.4～7.5YR8.6	内外面スス付着。
0336	土師器	甕	SC-26 1区	①(17.3) ②(9.45)	口縁部内外面ともヨコナダ。胴部外面ハケ、内面口縁部と胴部境界はハケ後ヨコナダ。胴部内面上位はヘラケズリ後ナダ、中位以下ヘラケズリ。	A0.5～3.0mmの石英・長石及び金雲母微粒をやや多く含む。 B良好 C外：浅赤褐10YR8.4、内：にぶい黄緑～灰黄褐10YR7.4～10YR4.1	外面に種子片痕あり。
0337	土師器	甕	SC-26 2区	②(4.3)	胴部外面ハケ後ナダ、内面ヘラケズリ。	A3.0mm以下の石英・長石及び白雲母微粒を少量含む。 B良好 C外：にぶい黄褐10YR5.9～黒褐7.5YR2.2 内：にぶい黄緑10YR7.4～黒褐10YR3.2	
0338	弥生土器(土師器)	甕	SC-26・27 東西ベルト西半3層	②(6.45)	胴部内外面ハケ。胴部外面突帯が貼りつく(ハケ工具で削)。内面ハケ。	A1.0～3.0mmの石英・長石をやや多く含む。 B良好 C橙7.5YR7.6	
0339	土師器	高杯	SC-26・27 南北ベルト南半5層	①(18.2) ②(5.6)	口縁部外面ヨコナダ。内面は口縁部から底部までヨコナダ。体部外面ナダ。脚部との接合部はヨコナダ。	A1.5mm以下の石英・長石及び金雲母微粒を少量含む。 B良好 C橙5YR7.8	
0340	土師器	高杯	SC-26 P-3	①(18.0) ②(5.4)	口縁部内外面ともヨコナダ。体部外面上位ナダ、中位タテハケ後ヨコナダ、下位タテハケ、内面ナダ後ミガキ。表面が磨耗し、ミガキ単位はほとんど不明。	A密 B良好 C橙～赤褐5YR6.6～4.6	口縁部に一部黒斑あり(内面とも同一箇所)。
0341	土師器	鉢	SC-26 3区	①(11.4) ②(8.1)	口縁部外面から体部上位は指押さえ後ナダ、内面は口縁部に粗いハケ、体部上位ナダ、中位以下板ナダ。	A4.0mm以下の石英・長石少量、金雲母微粒をやや多く含む。 B良好 Cにぶい黄緑10YR7.4～黒褐10YR3.1	
0342	土師器	鉢	SC-26 2区	①(8.3) ②4.15	口縁部内外面ともヨコナダ。体部内外面ともナダ。	A1.0mm以下の石英・長石及び金雲母微粒を少量含む。 B良好 C外：にぶい黄緑～黒褐(黒斑)10YR4.3～10YR3.1、内：にぶい赤褐10YR5.3	黒斑あり。
0343	弥生土器	甕蓋	SC-26 2区	つまみ径4.6 ②(2.6)	口縁部内面から端部までナダ、外面は板ナダ。体部外面ヘラミガキ、内面ナダ。	A2.0mm以下の石英・長石を僅かに含む。 B良好 C橙5YR8.8	
0344	弥生土器	甕	SC-26 2区	②(2.55)	口縁部内外面ともヨコナダ。	A2.0mm以下の石英・長石を僅かに含む。 B良好 Cにぶい黄緑10YR7.4	
0345	土師器	ミニチュア鉢	SC-26・27下層	①4.95(測定箇所によりばらつき) ②3.6	内外面とも指押さえ。	A密 B良好 Cにぶい黄緑～にぶい黄褐10YR7.4～5.4	底部外面に棒状のひっかき痕。底部内面に2ヶ所の棒状押痕。
0346	土師器	二重口縁壺	SC-27 2区	①(19.9) ②(4.4)	口縁部外面上位ハケ後ヨコナダ、内面ヨコナダ。頸部外面ヨコナダ。	A0.5～3.0mm以下の石英・長石をやや多く含む。 B良好 C外：橙7.5YR4.3～黒褐7.5YR3.1、内：にぶい黄褐10YR5.3～灰黄褐10YR4.2	畿内系か。
0347	土師器	小型丸底壺	SC-26 1区	①(8.4) ②(3.05)	口縁部はヨコナダ。口縁部内外面ともタテキ後ヨコナダ。胴部外面ハケ後ナダ。	A0.5mm以下の石英・長石及び金雲母微粒を僅かに含む。 B良好 Cにぶい黄緑10YR7.4	
0348	土師器	小型丸底壺	SC-26・27 No.16	①(7.0) ②(7.0)	口縁部はナダ。口縁部外面ハケ後ヨコナダ、内面ハケ後ナダ。胴部外面上位にハケ後一部ヨコナダ、下位ナダ、内面ミニビナダ。	A密 B良好 C橙5YR6.6～6.8	外面の一部に黒斑あり。
0349	土師器	小型丸底壺	SC-26・27 4区土坑周辺	②(5.95) ③3.6 脚径7.15	口縁部外面粗いハケ後ヨコナダ、内面ハケ後ヨコナダ。胴部外面上位粗いハケ後ナダ、中位以下ナダ、内面ナダ。	A4.0mm以下の石英・長石(主体は1mm以下)・赤褐色粒子及び金雲母の微粒を僅かに含む。 B良好 Cにぶい黄緑～橙10YR7.4～7.5YR7.6	黒斑あり(黒褐2.5Y3.1)。

表2 石勺遺跡K地点調査遺物観察表⑨

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量 (cm/g) ①口径 ②器高 ③底径 ④最大径 (復元)	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備考
0350	土師器	小型丸底壺	SC-27 1区	①(7.8) 胴径(9.2) ②(7.15)	口縁部内外面ともヨコナデ。外面口縁部と胴部境界はハケ後ヨコナデ、体内内外面ともナデ	A精良。白・金雲母微粒を少量含む。 B良好 Cにぶい橙7.5YR7/4~橙7.5YR7/6	
0351	土師器	小型丸底壺	SC-26・27 No.21	①(8.15) ②8.3	口縁部はナデ。口縁部外面タテハケ後ヨコナデ、内面ハケ後ナデ。胴部外面上位タテハケ、中位以下ハケ後ナデ、内面上位ナデ、下位ユビナデ。	A密 B良好 C橙7.5YR7/8~6/8	底部外面に黒斑あり。
0352	土師器	小型丸底壺	SC-26・27 No.22 SC-27 2区 SC-26・27 4区土坑周辺	①(7.4) ②9.1	口縁部はナデ。口縁部外面ハケ後ヨコナデ、内面ハケ後ナデ。胴部外面ハケ、内面上位ナデ、下位ユビナデ。	A密 B良好 C橙~明赤褐2.5YR7/8~5/8	
0353	土師器	小型丸底壺	SC-26・27 No.17	①8.8 ②9.2	口縁部はナデ。口縁部内外面ともハケ後ナデ。胴部外面ハケ後ナデ、内面ユビナデ。	A密 B良好 Cにぶい黄橙~にぶい黄褐10YR6/4~4/4	口縁部の一部、外面肩~底部に黒斑あり、内面底部にスス、有機物の繊維が付着。
0354	土師器	小型丸底壺	SC-26・27 No.8	①7.9 ②11.0	口縁部はナデ。口縁部内外面ともハケ後ナデ。胴部外面上位から下位まで不定方向ハケ後ナデ、内面は上位から中位ナデ下位はヘラケズリ。	A密 B良好 Cにぶい黄橙~黄褐7.5YR7/3~7/8	
0355	土師器	小型丸底壺	SC-26・27 南北ベルト北半2層	①(10.2) ②10.05 ③4.35 胴径9.5	外面口縁部から底部までナデ。内面口縁部ハケ、口縁部と胴部との境界にナデ、胴部内面ナデ。	A1.0~3.0mmの石英・長石を多く含む。 Bやや不良 C橙~黄褐5YR6/6~10YR8/8	黒斑あり(灰黄褐10YR4/2)。
0356	土師器	小型丸底壺	SC-26・27 No.2 SC-26・27 4区 土坑周辺 SC-26・27 No.5	くびれ部径(7.8) ②(8.2)	口縁部外面ヨコナデ。胴部外面ナデ、内面口縁部と胴部境界はナデ、胴部内面ユビナデ。	A密 B良好 C橙~明赤褐2.5YR7/8~5/8	一部に黒斑あり。
0357	土師器	小型丸底壺	SC-26・27 No.30	②(9.1) くびれ部径(6.7)	口縁部外面ヨコナデ、内面ナデ。胴部外面ハケ後ナデ、内面ユビナデ。	Aやや粗い。3.0mm以下の石英を含む。 B良好 Cにぶい黄橙~明黄褐10YR7/3~7/8、一部7.5YR6/6~5/6	
0358	土師器	小型丸底壺	SC-26・27 No.9	①8.2 ②8.9	口縁部内外面ともナデ。胴部外面ナデ、内面ユビナデ。	A粗い。3.0mm以下の石英、1.5mm以下の長石を多く含む。 B良好 C浅黄褐~にぶい黄褐10YR8/3~5/3	胎土が粗く底部外面が凸凹している。
0359	土師器	直口壺	SC-26・27 No.18 SC-26・27 No.19 SC-26 3層 SC-26・27 南北ベルト南半 3層	①(14.0) ②(9.2)	口縁部はナデ。口縁部外面ハケ後ヨコナデ、内面ヨコナデ。胴部外面上位にハケ、下位ナデ、内面ヘラケズリ。	A密 B良好 C灰黄褐~にぶい黄褐10YR6/2~6/4	内面の一部、外面の肩~底部のほとんどに黒斑あり。
0360	土師器	直口壺	SC-26・27 No.10	①11.9 ②13.2	口縁部はナデ。外面は口縁部から胴部まで粗いハケ、内面は口縁部に粗いハケ、胴部はナデ。	A密 B良好 C明黄褐~橙7.5YR7/2~7/6	底部外面の一部に黒斑あり。
0361	土師器	壺	SC-26・27 No.19 SC-26 3区 SC-26・27 東西ベルト東半3層 SC-26・27 南北ベルト南半5層	①(11.5) ②(6.9)	口縁部外面ヨコナデ、内面ナデ。胴部外面上位ハケ後ヨコナデ、中位ヨコハケ、内面ナデ。	A密 B良好 C灰黄褐~にぶい黄褐10YR6/2~6/4	
0362	土師器	壺	SC-26・27 4区土坑周辺	①(14.7) ②(6.6)	口縁部内外面ともヨコナデ。胴部外面タタキ、内面口縁部と胴部境界ナデ、以下ヘラケズリ後ナデ。	A0.5mm以下の石英・長石及び鉄燧石・角閃石・黒雲母・褐色透明の結晶鉱物(板状クワン石)等を少量含む。 B良好 C灰白10YR8/2、体内内面面灰(焼け)10YR5/1	庄内系。外面僅かにススが付着。
0363	土師器	壺	SC-26・27南北ベルト北半2層	①(17.8) 頸部径より復元 ②(4.15)	口縁部はヨコナデ。口縁部内外面ともハケ工具によるヨコナデ。胴部外面ヨコナデ、内面口縁部と胴部との境界にナデ、以下ヘラケズリ。	A2.0mm以下の石英・長石及び金雲母微粒をやや多く含む。 B良好 Cにぶい黄褐10YR7/4	口縁部外面にスス付着。
0364	土師器	壺	SC-26・27 4区土坑周辺	①(14.4) ②(5.9)	口縁部から口縁部外面はヨコナデ、内面ナデ。胴部外面ハケ後ヨコナデ、内面口縁部と胴部境界はナデ、胴部内面ユビナデ、以下ヘラケズリ後ナデ。	A精良。0.5mm以下の石英・長石及び金雲母微粒・鉄燧石・赤褐色粒子を僅かに含む。 B良好 C明赤褐~灰褐(焼け)5YR5/6~7.5YR4/2	外面にスス付着。
0365	土師器	壺	SC-26・27 No.23 SC-26・27 4区土坑周辺 SC-27 2区床面 SC-27 2区	①(16.7) ②(10.2)	口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコハケ後ナデ。胴部外面不定方向ハケ、内面ヘラケズリ。	A密 B良好 C浅黄褐~明褐7.5YR8/6~5/6、一部橙~明赤褐5YR7/8~5/8	内面、外面ともに黒斑多く、一部外面にススが付着。
0366	土師器	壺	SC-26・27 No.5	くびれ部径(15.5) ②(19.7)	口縁部内外面ともヨコハケ後ナデ。胴部外面上位はヨコハケ、以下は不定方向ハケ、内面ヘラケズリ。	A密 B良好 Cにぶい黄橙~橙7.5YR6/4~6/8	外面の一部に黒斑・ススの付着あり。
0367	土師器	壺	SC-26・27 4区土坑周辺 SC-26 4区 SC-26・27 No.27	①13.9 ②(17.8) 胴径24.05	口縁部はヨコナデ。口縁部内外面ともハケ後ヨコナデ。外面口縁部と胴部境界から胴部にかけてハケ後ナデ。内面口縁部と胴部境界はナデ、以下ヘラケズリ。	A2.0mm以下の石英・長石をやや多く含む。 B良好 Cにぶい黄褐10YR7/3	外面スス付着。
0368	土師器	高杯	SC-26・27 No.25	①16.9 ②(8.2)	口縁部はナデ。口縁部外面ヨコナデ、内面上位ヨコナデ、中位以下ヨコハケ後ナデ、体内外面ナデ、内面底部ナデ。胴部外面杯部との境界にタテハケ後ナデ、胴部外面上位はナデ、中位以下はミガキ内面ヘラケズリ。	A密 B良好 C橙~赤褐2.5YR6/6~4/6	杯部外面、胴部内外面に黒斑・黒色の変色あり。特に胴部外面には鈍い黒色のものが付着。
0369	土師器	高杯	SC-26・27 No.24	①17.2 ②12.1 ③11.0	杯口縁部外面丁寧なヨコナデ、内面は口縁部から底部までナデ。杯部外面タテハケ後丁寧なヨコナデ。胴部外面上位ナデ、下位ヨコナデ、内面はヘラケズリ。杯部内面丁寧なヨコナデ、端部はナデ。	A密 B良好 Cにぶい黄橙~明黄褐10YR7/3~7/8、一部7.5YR6/6~5/6	
0370	土師器	高杯	SC-26・27 No.15	①(8.0) ②(6.6)	口縁部はナデ。口縁部内外面ともヨコナデ。杯部外面はナデ。	A密 Bやや不良 Cにぶい黄橙~黄褐7.5YR6/4~6/8	
0371	土師器	高杯	SC-26・27 No.20 SC-26・27 4区土坑周辺	①(16.9) ②(6.3)	口縁部はナデ。口縁部外面ヨコハケ後ナデ、内面上位ミガキ後ヨコナデ、中位以下ミガキ。杯部外面ヨコハケ後ナデ、内面ハケ後ナデ。	A密 B良好 Cにぶい赤褐~明赤褐5YR5/4~5/8、一部にぶい黄橙~橙7.5YR7/3~7/6	
0372	土師器	高杯	SC-26・27 No.13 SC-26・27 No.14 SC-27 2区 SC-26・27 4区	②(3.7) 幅部径13.2	口縁部内外面ハケ。杯部外面上位ヨコナデ、下位タテハケ、内面はナデ。底部内面ハケ(ヨコ・ナメ)。	A密 B良好 C橙~明赤褐5YR6/6~5/6	
0373	土師器	高杯	SC-26・27 No.28	①(19.3) ②(5.7)	口縁部はナデ。口縁部外面上位ヨコナデ、中位ナメハケ後ヨコナデ、下位ナメハケ、内面ヨコハケ。杯部外面ハケ、内面底部ヨコハケ後ナデ。	A密 B良好 Cにぶい赤褐~赤褐2.5YR4/4~4/6、5YR4/4~4/8	口縁部内側上位、外面の口縁部~胴部周辺(特に幅部)にスス付着。
0374	土師器	鉢	SC-26・27 No.29 SC-26・27 4区土坑周辺	①(13.7) ②9.3	外面は口縁部から杯部下位までナデ。口縁部内面ナメハケ。体内内面から底部はナデ。底部外面ユビナデ。	Aやや粗い。2.5mm以下の石英を多く含む。 B良好 C橙~明赤褐2.5YR7.5YR7/8~5/8	底部内側が凸凹し、黒斑がある。底部に内外ともに主形成後粘りつけたか。
0375	土師器	脚付鉢	SC-26・27 No.3 SC-26・27 No.4	くびれ部径4.4 ②(8.9)	脚部外面上位ハケ、中位以下ナデ、内面ハケ後ナデ。	A密 B良好 C橙~赤褐5YR6/6~4/6	高杯の可能性あり
0376	土師器	鉢	SC-26・27 No.6	①(8.2) ②9.5	口縁部外面から胴部はナデ、口縁部内面ユビナデ、胴部内面ナデ。	A密 B良好 C浅黄褐~にぶい黄褐10YR8/4~7/4	外面のほとんどにススの付着・黒斑あり。
0377	土師器?	鉢	SC-26・27 No.26	①(11.7) ②9.8	口縁部はナデ。口縁部外面指擦さへ、内面はナデ。杯部外面ナデ、内面ケズリナデ。底部外面ケズリ後ナデ。	A密 B良好 C外:浅黄褐~橙7.5YR8/6~6/6、内:灰白~灰褐7.5YR8/2~6/2	内面の一部、外面の肩~底部のほとんどに黒斑あり。ほぼ全体に黒斑あり、内外面の肩部にスス付着。
0378	土師器	鉢	SC-26・27 No.7	①8.75 ②7.6	口縁部外面から胴部はナデ、内面ユビナデ。	A密 B良好 C浅黄褐~にぶい黄褐10YR8/4~7/4	外面に黒斑あり。
0379	土師器	鉢	SC-26・27 No.1	①(7.2) ②6.7	口縁部内外面ともヨコナデ。杯部外面ユビナデ、内面ヨコナデ。底部内面ユビナデ。	A密 B良好 C浅黄褐~にぶい黄褐10YR8/3~4/3	底部外面に黒斑あり。
0380	土師器	鉢	SC-26・27 南北ベルト北半2層	①(13.0) ②5.45	口縁部はヨコナデ。口縁部内外面ハケ後ナデ、内面底部まで板ナデ。外面底部ヘラケズリ。	A2.0mm以下の石英・長石をやや多く含む。 B良好 C明褐7.5YR5/6	口縁付定スス付着か(にぶい黄褐10YR4/3)。
0381	朝鮮半島系土器	軟質土器 深鉢	SC-26・27 NO.12	①9.1 ②9.0 ③7.5	口縁部は粗いヨコナデ。杯部外面上位から中位は格子明き後、回轉的なヨコナデ、下位はヘラケズリ、内面は丁寧なヨコナデ、上位に指擦さへあり。底部内面は不定方向ナデ。外面は表面刷毛。	A微塵。1.0mm以下の雲母片、長石をごく僅かに含む。 B良好 Cにぶい黄褐10YR7/3、6/3	内外面にスス付着。平面形は楕円形。軟質土器。
0382	須恵器	杯身	SC-27 1区	①(13.7) ②(4.25) ③10.6	口縁部内外面とも回轉ナデ。底部内面回轉ナデ後ナデ、外面回轉~タテ切り後ナデ。	A精良 Bやや不良 C外:灰白2.5YR8/1~浅黄2.5Y7/3、内:浅黄2.5Y8/3	杯A
0383	須恵器	杯身	SC-27 1区	①13.5~14.1 ②3.3~3.9 高台径10.1	内面から外面口縁部にかけて回轉ナデ。底部外面は回轉ヘラ切り後ナデ。高台部ヨコナデ。	A3.0mm以下の石英・長石を僅かに含む。 B良好 C外:灰10Y6/1、内:灰7.5Y5/1	杯B
0384	須恵器	杯蓋	SC-25・28 南側から内壁面清掃中	①(13.2) ②4.8	外面天井部ヘラケズリ。外面口縁部・内面回轉ナデ。	A密 B微塵 C灰色~暗灰4~3	杯H。口縁部がかなり歪んでいる。
0385	須恵器	杯蓋	SC-28 2区	①(13.6) ②4.1	外面上位1/3回轉ヘラケズリ。以外は内外面共に回轉ナデ。微塵による破損あり。	A密 B不良 C明黄褐~黄褐7.5YR7/1~7/8	杯H。
0386	須恵器	杯蓋	SC-28 カマド 3区 焼土	②9	外面天井部ヘラケズリ。内面・外面残存部約1/5回轉ナデ。	A密 B不良 C明黄褐~黄褐7.5YR7/1~7/8	杯H。
0387	須恵器	杯蓋	SC-25・28 南北ベルト 6層	①(12.4) ②2.2	外面天井部ヘラケズリ。外面口縁部・内面回轉ナデ。	A密 B微塵 C灰白~黄褐2.5YR7/1~6/1	杯B。
0388	土師器	壺	SC-28 2区	①(13.4) ②22.1	口縁部上位1/2内外面共にヨコナデ。外面頭部はハケ後ナデ。外面胴部はハケ。口縁部内面下位1/2はヨコハケ後ナデ。胴部内面はヘラケズリ。	A密だが内面に4.0mm以下の石英が立浮く。 B良好 C外:黄橙~明黄褐10YR8/6~6/6 内:灰褐~黒褐10YR4/1~3/1	外面口縁部~胴部1/2に黒斑あり、胴部外面1/2スス付着。
0389	土師器	壺	SC-28 3区	①(14.0) ②5.6	口縁部内面ヨコハケ後ナデ。口縁部はナデ。口縁部外面上位1/2ハケ後ヨコナデ。口縁部外面中位ナデ、下位ヨコナデ。外面頭部タテハケ。胴部外面タテハケ後ナデ。胴部内面ナデ。	A密 B良好 C外:にぶい黄~明褐7.5YR5/3~5/6、内:褐灰7.5YR5/1~4/1。口縁の一部微塵により変色。	
0390	土師器	小型丸底壺	SC-28 3区	①(8.0) ②7.6	底部内面のユビナデ。以外はナデ。	A密 B良好 Cにぶい黄橙~にぶい黄褐10YR7/3~4/3	底部外面に黒斑あり。
0391	弥生土器	壺	SC-28 No.3	①(32.3) ②(33.75)	体内内面ハケ。一部ハケ後ナデ。脚部天井部ナデ。脚部内面ナデ。杯部外面は磨滅している。	A1.0~3.0mmの石英・長石粒を少量含む。 B良好 C橙7.5YR7/6	
0392	弥生土器	壺	SC-28 3区	②5.0 ③(8.6)	残存部上位ハケ後ナデ。以外はナデ。	A密 B良好 Cにぶい黄橙~にぶい黄褐10YR6/3~4/3	
0393	土師器	壺	SC-28 周辺検出中	①(28.2) ②11.8	口縁部・頸部内面ナデ。口縁部内面ヨコハケ。胴部内面ヘラケズリ。口縁部外面上位1/2タテハケ後ナデ、下位~胴部タテハケ。一部ヨコハケ。	Aやや粗い 1.0~3.0mmの砂粒を多く含む。 B良好 C橙~赤褐5YR6/6~4/6	口縁部内面に黒斑、口縁部~肩上位にかけて僅かにススが残存。

表2 石勺遺跡K地点調査遺物観察表⑩

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量 (cm/g) ①口径 ②器高 ③底径 ④最大径(復元)	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備考
0394	弥生土器	甕	SC-28 3区	②4.0	内面不定方向のハケ。外面上位1.3、突帯部・胴部との境界はヨコナデ。突帯部は刻み。残存部下位1.3はナメハケ。	A密 B良好 C外: 褐5YR7/6~7/8 内: 褐~明赤褐2.5YR6/8~5/8	
0395	土師器	二重口縁甕	SC-28 4区	①(16.9) ②10.45	口縁部・口縁部外面ヨコナデ。口縁部内面ヨコハケ後ヨコナデ。頸部内面ナメ。胴部内面ヘラケズリ。外面頸部~肩部ハケ後ヨコナデ。外面残存部下位約1.3はナメハケ。	A密だが内: 面に4.0mm以下の石英が目立つ。B良好 C明緑灰~褐7.5YR7/2~7/6	残存しているほぼ全てにススが付着。
0396	土師器	甕	SC-28 カマド 3区 焼土	①(24.4) ②17.2	口縁部ナメ。口縁部ヨコナデ。胴部内面ナメハケ後ヘラケズリ。一部はヘラケズリを全く施されない箇所があり、胴部下位で一部ナデで調整している。外面タテハケ後ナデ。外面磨耗のためほとんど調整が確認できないが、胴部外面に一部焼成前に回んだ箇所があり、調整の残りが良い。	A密 B良好 Cにぶい黄橙~黄橙10YR7/4~7/8 褐~赤褐5YR7/8~4/8。内外面共に肩部より下位が被熱により変色。	口縁部内面、口縁部~肩部外面内外面とも同一箇所ススが付着。
0397	土師器	高杯	SC-28 4区	①(35.0) ②6.7	口縁部ヨコナデ。内面ヨコハケ後ミガキ。唇部ミガキ。内面外面ナメハケ後ミガキ。	A密 B良好 C灰褐~褐7.5YR6/2~6/8	口縁部の一部に黒斑あり。
0398	土師器	高杯	SC-28 4区	①(19.6) ②5.9	内面ヨコハケ後ヨコナデ。口縁部ナメ。杯部外面上位1.3ハケ後ヨコナデ。中位ナメハケ。下位ハケ後ヨコナデ。外面杯部曲面上からヨコハケ後ヨコナデ、タテハケ後ナデ、タテハケ。器面が磨耗しているため調整判別困難。	Aやや粗 5.0mm大の石英を多く含む。Bやや軟 C灰白~黄橙10YR8/2~8/6	
0399	弥生土器	高杯	SC-28 No.1	①(35.8) ②(12.35) ④4.3	内面・外面杯部上位1.2はヨコナデ後ヘラミガキ。外面杯部下位1.2ハケ後ヘラミガキ。外面頸部ナデ。脚部外面ナデ後ヘラミガキ。脚部内面天井部指押さえ、脚部ナデ。	A最大4mmの石英、長石粒を多少含む。Bやや不 Cにぶい黄橙10YR7/4~灰白8/2	
0400	土師器	高杯	SC-28 4区	①(18.6) ②3.75	口縁部ヨコナデ。内面ヨコハケ後ナデ。外面ナデ。	A密 B良好 Cにぶい黄橙~黄橙7.5YR7/4~7/8	
0401	土師器	高杯	SC-28 3区 南半 SC-28 3区 SC-28 2区	①(26.5) ②6.2	口縁部・杯部屈曲部ナデ。内面3/4ヨコハケ後ナデ。残り1/4はヨコハケ。杯部外面底部ヨコハケ後ナデ。	A密 B良好 Cにぶい黄橙~明黄褐10YR7/4~7/6	口縁部外面に黒斑あり。
0402	土師器	高杯	SC-28 3区 南半	②9.9	杯部内面ミガキ。杯残存部外面ナデ。脚部上位1.2タテハケ後ナデ。下位1.2はタテハケ。脚部内面シボリ。脚部内面はシボリ後ナデ。外面は全体的に胎土が粗く、調整の判別が困難。	Aやや粗 2.0mm以下の石英が目立つ。ごく微細な雲母、長石を含む。B良好 Cにぶい褐~褐7.5YR7/3~7/6、焼成不良部分: 褐灰7.5YR8/1~5/1	
0403	土師器	高杯	SC-28 3区	②3.6	内面ミガキ。内面はヨコハケ後ナデ。穿孔あり。	A密 B良好 C褐~赤褐2.5YR7/6~4/6	
0404	土師器	器台	SC-25 28 南北ベルト 6層	②9.1 ③(8.5)	内面シボリ。外面ニビナデ。外面底部ナデ。	A密 Bやや軟 Cにぶい褐~褐7.5YR6/3~6/8	
0405	土師器	脚付鉢	SC-28 No.4	②7.55 脚接合部径6.3	内面ハケ後一部ナデ。接合部外面ヨコナデ。外面摩滅。脚部天井部ナデ。脚部内面ナメナデ。外面磨滅はけしい。	A1~3mmの石英、長石粒を多く含む。B良好 C褐5YR7/8	
0406	土師器	鉢	SC-25 28 南北ベルト 2層	①14.0 ②6.3	口縁部ナデ。内面上位1.2ハケ後まばらなナデ。内面底部ニビナデ(ラセン状)。外面上位1.2タテハケ後ナデ。外面下位1.2ヘラケズリ。外面中位一部ヨコハケ、タテハケ。	A密だが細かい砂粒を多く含む。B良好 C灰褐~褐7.5YR6/2~6/8 赤褐~暗赤褐2.5YR4/6~3/6 口縁部の一部にやや変色した箇所あり。褐5YR7/6~7/8	
0407	土師器	鉢	SC-28 2区	①(7.7) ②(3.7)	口縁部・外面はニビナデ。内面はハケ後ニビナデ。	A密だが2.0mm以下の石英、1.0mm大の長石を多く含む。1.5mm大の雲母を含む。B良好 C褐5YR6/0~6/8	
0408	土師器	鉢	SC-28 3区 南半	②5.0 ③(3.0)	外面ナデ。内面上位1.2タテハケ、下位1.2はナデ。	A密 B良好 C灰褐~明赤褐5YR5/2~5/8	外面全体にスス付着、黒斑あり。
0409	土師器	鉢	SC-28 No.2	①(14.5) ②7.7 ③6.0	底部・外面中位ナデ。内面板なで。口縁部内外面共にヨコナデ。外面頸部下位タテハケ後ナデ。	A2mm以下の石英、長石粒をやや多く含む。B良好 C浅黄橙7.5YR8/6	
0410	土師器	鉢	SC-28 4区	①(14.0) ②6.0	口縁部・底部ナデ。内面ハケ後ナデ。外面上位1.3ナメハケ。中位1.3ハケ後ナデ。	A密だが3.0mm以下の石英、1.0mm以下の長石の細かい砂粒を多く含む。B良好 C外: 明赤褐5YR6/3~5/8 内: 浅黄橙~明褐7.5YR8/6~5/6	内面の一部、外面の肩~底部にかけて黒斑あり。
0411	土師器	鉢	SC-28 4区	①(11.9) ②4.0	内外面共にナデ。外面の一部に指押さえ。口縁部内	A密 B良好 C外: 浅黄橙7.5YR8/4~8/6 内: 浅黄橙~明褐7.5YR8/6~5/6	外面同一箇所に黒斑あり。
0412	土師器	ミニチュア鉢	SC-28 3区 上層	①(5.0) ②4.2	内面ニビナデ。外面ナデ。一部指押さえ。外面底部の一部にヘラ状工具の痕跡あり。	A密。0.5mm以下の雲母を多く含む。B良好 C灰褐~褐7.5YR6/2~6/8	
0413	土師器	ミニチュア鉢	SC-28 3区	①3.5 ②2.5	内外面共にニビナデ。	A密 B良好 Cにぶい黄橙10YR7/4~6/4	
0414	土師器	ミニチュア鉢	SC-28 焼土2区	①(4.0) ②2.8 ③3.6	内外面共にナデ。外面の一部に指押さえ。	A密 Bやや軟 C褐5YR7/6~7/8	
0415	土師器	ミニチュア鉢	SC-28 上層カマド左袖構築土中 2区	①(4.15) ②2.9 ③4.2	内外面共にナデ。	A密 Bやや軟 C褐5YR7/8~6/8 一部灰白~浅黄橙7.5YR8/2~8/6	
0416	土師器	ミニチュア脚付鉢	SC-28 1区	①4.9 ②3.9 ③3.2	底部端以外内外面ともにニビナデ。底部端ナデ。	A密 B良好 C浅黄橙~にぶい黄橙10YR8/4~5/4	
0417	石器	砥石	SC-28 3区 上層	①5.05 ②2.9 ③2.1	砥石面。そのうち3面は使用度が高く中央の減りが激しい。	C灰黄褐10YR6/2~4/2	
0418	石器	石包丁	SC-28 石4	①2.0 ②3.15 ③0.3	片刃か。穿孔は主に一方から開け、その後もう一方を修正している。	C明緑灰~緑黒7.5Y5/1~2/1 灰白N8/0	
0419	石製品	玉未成品?	SC-28 3区	①1.75 ②1.0 ③0.45		C緑灰~暗緑灰7.5Y5/1~3/1 オリーブ灰10Y6/2~5/2	
0420	土師器	小型丸底壺	SC-11 4区 No.1 SC-29	①8.1 ②8.7	口縁部はヨコナデ。口縁部外面ヨコナデ後ヘラミガキ。内面ヨコハケ後ナデ。脚部外面ナデ。内面はニビナデ。	A密 Bやや不調 C褐5YR7/6~7/8	全体に歪みがある。
0421	土師器	小型丸底壺	SC-11 3区南北ベルト SC-11 4区 SC-11 4区南北ベルト SC-11 5E区Aトレンチ包含層 SC-11 5E区Aトレンチ東包含層 SC-29	①6.7 ②7.5	口縁部はナデ。口縁部外面はタテハケ。内面はヨコハケ後ナデ。脚部外面上位はタテハケ。中位以下は不定方向ハケ後ナデ。内面上位はナデ。下位はニビナデ。	A密 B良好 C浅黄橙~にぶい黄橙10YR8/4~6/4	底部外面に黒斑あり。
0422	土師器	直口壺	SC-11 4区 No.2 SC-29	①(12.8) ②15.15	口縁部はヨコナデ。口縁部外面ヨコナデ。内面ナデ。脚部外面不定方向の細かいハケ。内面上位ヨコナデ。中位タテナデ。下位はヘラケズリ。全体のつくりが粗い。	A密 B良好 C褐~赤褐5YR7/6~4/6	肩~口縁部スス付着
0423	土師器	直口壺	SC-11 4区 SC-29	①10.0 ②14.9	口縁部はヨコナデ。口縁部外面タテハケ後ヨコナデ。内面はヨコナデ。外面接合部はヨコナデ。脚部外面上位不定方向のハケ。内面上位は板ナデ。中位以下はヘラケズリ。	A密 Bやや不 C灰白~にぶい黄橙10YR7/1~7/4	胴部~一部黒斑あり。
0424	土師器	小型丸底壺	SC-11 3区	①(9.4) ②(8.6) 脚径8.9	口縁部はヨコナデ。口縁部外面はハケ後ヨコナデ。内面はナデ後ハケ後ヨコナデ。体部上位はハケ後ヨコナデ。下位はハケ。内面上位はナデ。下位はヘラケズリ後板ナデ。	A2.0~4.0mmの石英・長石及び雲母微粒を少量含む。B良好 C外: 褐7.5YR6/6~浅黄褐10YR8/4、黒褐10YR3/1後板ナデ。	
0425	土師器	壺鉢	SC-11 3区 SC-29	①8.6 ②(9.35) 脚径9.10	口縁部内外面とも指押さえ。体部外面はナデ後板ナデ。内面上位はナデ。下位は指押さえ。	A0.5~3.0mmの石英・長石及び雲母微粒を少量含む。B良好 C外: にぶい黄橙10YR5/3~褐灰10YR4/1、内: 褐灰10YR4/1	
0426	土師器	高杯	SC-11 4区 SC-11 6F区包含層(検出中) SC-29	①(18.6) ②(14.0)、杯部(6.1)、脚部(8.3)	口縁部外面はヨコナデ。内面はヨコハケ後ナデ。体部内面はナデ。脚部外面接合部から上位はヨコナデ。下位はタテナデ。内面上位はヘラケズリ後ナデ。下位はヨコハケ後ナデ。胴部内外面ともヨコナデ。	A密 Bやや不 C 浅黄橙~黄橙10YR8/4~8/6	
0427	石器	石包丁	SC-11 4区 SC-29	長7.8 幅3.5 厚0.7	Cオリーブ褐~暖オリーブ褐2.5YR4/3~3/3	粘板岩。刃部は磨り減っている。	
0428	須臾器	杯蓋	SC-29 4区 上層	①(16.2) ②2.1	口縁部~内面回転ナデ。外面天井部回転ヘラケズリ。天井部が大きくひしゃげている。天井部内面にハケ状圧痕あり。	A密 B堅微 C褐灰~黒褐10YR4/1~3/1	杯H。
0429	須臾器	杯蓋	SC-29 4区 上層	①(13.2) ②1.45	天井部外面静止ナデ。回転ヘラケズリ。外面1/2~内面回転ヘラケズリ。口縁部に自然付着。	A密 B堅微 C内: 黄灰~灰黄2.5Y6/1~6/2 外: 黄灰2.5Y6/1~4/1	杯B。
0430	須臾器	杯蓋	SC-29 4区 上層	①(14.1) ②3.8	口縁部~内面回転ナデ。外面天井部回転ヘラケズリ。天井部が大きくひしゃげている。	A密 B堅微 C褐灰10YR5/1~4/1	杯H。
0431	須臾器	杯蓋	SC-29 4区 上層	①(13.4) ②3.0	内外面共に回転ナデ。	Aやや粗。0.5~5.0mm大の砂粒を多く含む。B良好 C灰~暗灰N4~2/2	杯H。
0432	須臾器	杯身	SC-29 4区 上層	①(13.0) ②3.25	内外面共に回転ナデ。	A密 B堅微 C黄灰2.5Y5/1~4/1 一部暗灰黄4/2	杯H。
0433	須臾器	杯	SC-29 4区 上層	②10.4 ③(10.4)	底部内面一定方向のナデ。腰部内外面、底部外面回転ナデ。高台ヨコナデ。	Aやや粗。2.5mm以下の石英をわずかに含む。1.0mm以下の長石を多く含む。B不良 C外: 灰白~灰5YR7/1~4/1 内: 褐灰~灰黄褐10YR4/1~4/2	杯B。
0434	土師器	甕	SC-29 4区 上層	①(16.5) ②4.6	口縁部・口縁部内面ヨコナデ。体部内面ヘラケズリ。口縁部外面タテハケ後ヨコナデ。頸部外面ヨコナデ。肩部外面ヨコタキカ。	A密 B良好 C灰白~浅黄褐10YR8/2~8/4	口縁部を除く内面全てに黒斑あり。
0435	土師器	小型丸底壺	SC-29 1区 下層	①12.5 ②9.3	口縁部外面・口縁部~肩部内面ヨコナデ。体部内面ヘラケズリ後ヨコナデ。体部外面上位1.2タテハケ後ヨコナデ。下位1.2不定方向ナデ。	A良。0.5~1.0mmの長石・雲母をやや多く含む。石英を少量含む。B良 C外: 褐2.5YR6/6~にぶい褐7.5YR6/4 器面7割。被熱により灰黄褐10YR5/2~褐10YR4/1 内: 褐5YR6/6 器面ほぼ全体被熱により灰黄褐10YR5/2	
0436	土師器	小型丸底壺	SC-29 ビックアップ⑧ No.8	①8.7 ②9.0	口縁部内面上位1.2ヨコナデ。口縁部内面下位1.2ハケ後ヨコナデ。胴部内面ヘラケズリ後板ナデ。口縁部外面ハケ後ヨコナデ。胴部外面ハケ後ナデ。腰部外面指押さえ後ナデ。底部外面不定方向ナデ。	A2.0~5.0mmの白色砂粒を含む。B良好 C外: にぶい褐7.5YR7/4 黒7.5YR2/1 内: にぶい褐7.5YR7/3。外面底部は被熱により変色。	口縁部内面と外面の底部を除く全てにスス付着。

表2 石勺遺跡K地点調査遺物観察表①

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量 (cm/g) ①口径 ②器高 ③底径 ④最大径 (復元)	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備考
0437	土師器	小型丸底壺	SC-29 No.9	①7.8 ②7.8	口縁部内面・外面口縁部～肩部ヨコナデ。胴部内面タテナデ後ヨコナデ。外面胴部タテハ後一部ナデ。外面底部付近タテハ後ヨコナデ。頸部内面にシボリあり。	A良。0.5～1.0mmの長石や石英を少量含む。雲母をやや多く含む。B良 C外：にぶい黄緑10YR7/4 ほぼ全体が被熱により、橙5YR6/6～焼灰10YR5/1 内：橙5YR6/6 一部被熱により黄緑7.5YR5/2	
0438	土師器	壺鉢	SC-29 4区	①(5.85) ②7.8	外面口縁部～肩部・内面口縁ハケ後ナデ。体部内面ヘラケズリ。体部外面ナデ。指押さえあり。やや平底気味。	A密 B良好 Cにぶい黄緑10YR7/3～6/3。被熱による変色あり。	外面にスス付着。
0439	土師器	甕	SC-29 4区 上層	②3.3	内面ナデ。外面頸部ヨコナデ。外面体部ヨコナデ後口縁部ナデ。	A密 B良好 C浅黄緑～黄緑10YR8/3～8/6 一部にぶい黄～黄緑に変色7.5YR7/4～7/8	頸部に黒斑あり。
0440	土師器	高杯	SC-29 2区	②3.15	口縁部・屈曲部外面ヨコナデ。内面ヨコハケ後ヨコナデ。外面ナメハケ後ヨコナデ。	A精良。0.5～1.0mmの長石、雲母を少量含む。石英を微量含む。B良 C橙5YR7/6	
0441	土師器	高杯		①(17.0) ②4.4	口縁部ヨコナデ。内面上位ヨコハケ。内面中位～下位ハケ後ナデ。外面上位1/4ヨコハケ。外面中位ナメハケ後ナデ。外面下位ヨコナデ。杯上部を貼り付ける際に施された刻みが確認できる。	A密 Bやや軟 C橙5YR7/6～7/8	
0442	土師器	高杯	SC-29 4区	①(10.2) ②4.8	内面ナメ・ナメハケ後ヨコナデ。口縁部ヨコナデ。屈曲部より上位外面タテハ後ヨコナデ。屈曲部タテハケ。杯部外面底面ナデ。内面杯底ヨコハケ。	A密 B良好 C橙5YR7/6～7/8	
0443	土師器	高杯	SC-29 3区	①(11.1) ②(4.0)	内外面共に底面を除きヨコナデ。底部内外面ともにナデ。	A密 Bやや軟 C灰白～浅黄緑10YR8/2～8/3 明黄緑10YR6/6～6/8	外面は底部を中心に黒斑あり。内外面共に一部ススが残存。
0444	土師器	高杯	SC-29 ビックアップ⑩	①12.7 ②7.1	内面ヘラケズリ。シボリあり。内面底部上からハケ後ナデ。ヨコナデ。外面ナデ。外面上部上からハケ後ヨコナデ。裾端ハケ。	A0.5～1.0mmの白色砂粒を含む。B良好 C外：黄緑10YR8/6 内：黄緑7.5YR8/8	
0445	土師器	鉢	SC-29 ビックアップ⑩	①14.5 ②6.6	内面底部以外ナデ。内面底部は不定方向ナデ。内外面共に口縁部は指押さえ後ナデ。外面は口縁部に向かうほど凸凹になる。	A1.0～4.0mmの白色砂粒を含む。B良好 C外：橙5YR7/6 内：橙5YR6/6	
0446	土師器	鉢	SC-29 3区	①(10.05) ②4.4	口縁部・体部外面ナデ。体部内面下から上方向のナデ(ユビナデか)。	A密。特に1.0mm以下の長石が多い。B良好 C灰黄緑～明黄緑10YR6/2～6/6	
0447	土師器	鉢	SC-29 No.7	②5.3	内面ヘラケズリ 後ナメハケミガキ。外面ヘラケズリ後ヨコナデ。指頭あり。	A良。0.5～3.0mmの長石をやや多く含む。雲母、石英をやや多く含む。角閃石を微量含む。B良 C外：浅黄緑10YR4/4 ほぼ全体が被熱しており、にぶい赤褐5YR5/4 焼灰10YR5/1 内：橙5YR7/8	外面の底部以外にススが付着。
0448	土師器	器台	SC-29 4区	①(9.8) ②(14.0) ③(7.6)	上下とも端部はナデ。内面ヘラケズリ。外面タテハケ。内外面共に中間位で調整の方向を変える外面底端部に棒状工具痕。	Aやや粗 3.0mm以下の石英が目立つ B良好 Cにぶい黄～橙7.5YR6/3～6/8	内外面にスス・黒斑あり。
0449	土師器	ミニチュア鉢	SC-29 No.10	①5.3 ②5.4	口縁部指押さえ。口縁部のみヨコナデ。体部内外面ともにヨコナデ。外面下半部にひびあり(やや乾燥の後さらにナデたか)。	A良。0.5mmの長石や石英を少量含む。雲母を多量に含む。B良 C外：灰黄緑10YR5/2 一部黄緑7.5YR8/8 内：にぶい黄7.5YR6/3 内：灰黄緑10YR5/2 一部にぶい黄7.5YR5/4。全体的に被熱による変色。	体部外面の一部にススが付着。
0450	土師器	ミニチュア鉢	SC-29 4区 上層	①(3.1) ②3.8	底部外面を除きユビナデ。底部外面ナデ。	A密 B良好 C内：浅黄緑～橙7.5YR8/6～7/6 外：浅黄緑～にぶい黄緑10YR5/1～6/4	
0451	石器	砥石	SC-29 3区	①最大長5.4 ②最大幅5.1 ③最大厚2.7	砥面4面。そのうち3面は使用度が高く中央の縁りが激しい。4面とも磨耗し、擦痕は見られない。	Cにぶい黄～にぶい赤褐5YR6/4～4/4 一部灰黄緑10YR6/2	
0452	土師器	二重口縁壺	SC-30 5区	①(18.6) ②3.4	口縁部から内面ナデ。口縁部外面ヨコナデ。体部外面タテハ。内面ヘラケズリ。	A密 Bやや軟 C灰白～浅黄緑10YR8/2～8/4	
0453	土師器	甕	SC-30 5区	①(12.3) ②3.4	口縁部・口縁部外面上ヨコナデ。口縁部内面ナメハケ後ヨコナデ。口縁部内面ヘラケズリ。口縁部外面ヘラケズリ。口縁部内面中位～外面頸部タテハ後ヨコナデ。肩部外面タテハ。タテハ後ヨコナデ。	A密 Bやや軟 Cにぶい黄緑～灰黄緑10YR7/2～6/2	
0454	土師器	壺	SC-30 ⑤	①(14.4) ②9.2	口縁部ヨコナデ。口縁部内面ヨコハケ後ナデ。体部内面ヘラケズリ。口縁部内面ナメハケ後ヨコナデ。肩部外面ヨコナデ。体部外面ナメハケ。	Aやや粗 6.0mm～1.0mm大の石英を多く含む B良好 C内：にぶい黄緑～明黄緑10YR7/4～7/6 外：灰白～灰黄緑10YR8/2～6/2 口縁部内面の一部に変色あり。明褐7.5YR6/8～6/8。口縁部内面の一部に変色あり。	
0455	土師器	壺	SC-30 ⑤	①(11.2) ②9.0	口縁部ヨコナデ。口縁部内面ヨコハケ後ナデ。体部内面ヘラケズリ。口縁部内面ナメハケ後ヨコナデ。肩部外面ヨコナデ。体部外面ナメハケ。	A密 B良好 C内：黄緑～明赤褐5YR7/8～5/8 外：浅黄緑～にぶい黄緑10YR8/4～7/4 変色焼灰～にぶい黄褐10YR5/1～5/4。	口縁部、肩部黒斑あり。口縁部～肩部上位にスス付着。
0457	土師器	壺	SC-30 4・5区 床面直上	①(17.0) ②8.65	口縁部ヨコナデ。口縁部外面～体部上位タテハナメハケ後ヨコナデ。体部外面ヨコハケ。口縁部内面ヨコナデ。体部内面ヘラケズリ。	A密 B良好 C内：黄緑～明赤褐5YR7/8～5/8 外：浅黄緑～にぶい黄緑10YR8/4～7/4 変色焼灰～にぶい黄褐10YR5/1～5/4。	内外面ともに黒褐色の変色あり。
0458	土師器	壺	SC-30 5区	①(19.3) ②8.9	口縁部ヨコナデ。口縁部外面～体部上位タテハナメハケ後ヨコナデ。体部外面ヨコハケ。口縁部内面ヨコナデ。体部内面ヘラケズリ。	A密 B良好 C浅黄緑～にぶい黄褐10YR8/3～5/3 一部橙7.5YR6/5	
0459	土師器	壺	SC-30 P-9	①(23.2) ②6.6	口縁部ヨコナデ面取り。口縁部外面タテハケ。内面タテハ後ヨコハケ。体部外面タテハ後ナメハケ。内面ナメハケ。	A3.0mm程度の白色粒を多く含む B酸化炭素成 C外：黒10Y2/1 内：黒褐10YR3/2 口縁～頸部淡黄2.5YR3/3	
0460	土師器	甕	SC-30 ⑤	①(11.8) ②(13.8)	口縁部～口縁部内面ヨコナデ。頸部内面ヨコナデからナデ。ナデ。体部内面ヘラケズリ。口縁部外面中位～頸部ヘラケ後ヨコナデ。肩部外面タテハ後ハケ。胴部外面中位からハケ後ナデ。ハケ。	A2.0mm以下の石英、長石粒及び雲母微粒を少量含む B良好 C外：にぶい黄緑～にぶい黄10YR6/4～7.5YR7/4 内：にぶい黄～橙7.5YR6/4～7.5YR7/6	外面の一部にスス付着。
0461	土師器	甕	SC-30 ④	①12.2 ②19.3	口縁部内面・外面口縁部～肩部ヨコナデ。肩部内面ナデ後指押さえ。体部内面ナデ。肩部外面ハケ。体部内面(細かい) ナメハケ後(はっきりとした) ヨコハケ。体部外面下ハケ。全体的に歪んでいる。	A1.0～2.0mmの白色砂粒をやや含む B良好 C外：にぶい黄褐10YR7/4 内：にぶい黄褐10YR7/2。一部被熱による変色あり。	M字形のヘラ記号あり。外面にスス付着。
0462	土師器	壺	SC-30 5区	①(14.4) ②11.4	口縁部ヨコナデ。口縁部内面ヨコハケ後ナデ。口縁部外面ヨコハケ・タテハ後ヨコナデ。体部外面タテハケ一部ヨコハケ。体部内面ヘラケズリ。	A密 B良好 Cにぶい黄緑～にぶい黄褐10YR6/3～4/3	
0463	土師器	甕	SC-30 ビックアップ21	①(18.9) ②8.45	口縁部ヨコナデ。口縁部内面ナメハケ後ヨコナデ。口縁部外面タテハ後ヨコナデ。体部外面タテハ後板ナデ。体部内面指押さえ後ナデ。	A0.5～2.0mmの白色砂粒を含む B良好 C外：にぶい黄緑10YR7/3 内：灰黄緑10YR5/2	
0464	土師器	壺	SC-30 ⑤	①(14.2) ②6.7	口縁部強いヨコナデ。頸部内面ナデ。体部内面ヘラケズリ。肩部外面上位1/3ヨコハケ後ナデ。肩部外面2/3ヨコハケ。以下外面タテハケ、タテハ後ヨコナ・ナメハケ。	A密 B良好 C褐灰～にぶい黄褐10YR6/1～6/4	
0465	土師器	直口壺	SC-30 4・5区 床面直上	①(12.3) ②12.35	口縁部ヨコナデ。口縁部内面ヨコハケ後ナデ。体部内面ヘラケズリ。口縁部外面タテハ後ヨコナデ。頸部外面ヨコナデ。体部外面不定方向のハケ。	A密 B良好 C黄緑～橙7.5YR8/8～9/8 一部変色橙2.5YR7/8	
0466	土師器	直口壺	SC-30 4・5区 床面直上	①12.3 ②9.05	口縁部・口縁部内面ナデ。体部内面ヘラケズリ。口縁部外面タテハ後ヨコナデ。体部外面ナメハケ後ナデ。外面肩部の一部に黒斑、外面口縁～肩部にかけてススが付き着。	A密 B良好 C浅黄緑～にぶい黄褐7.5YR8/4～5/4	
0467	土師器	直口壺	SC-30 ⑤	②10.4	内面ユビナデ。頸部外面ヨコハケ後ナデ。肩部～胴部内面細かいハケ後ナデ。胴下半部ナメハケ。	A密 B良好 Cにぶい黄～橙7.5YR6/3～6/6	肩～底部にかけて黒斑・ススの付着あり。
0468	弥生土器(土師器)	複合口縁壺	SC-30 ⑤	②5.4	頸部内面ナメハケ後ナデ。肩部内面粗いナメハケヨコハケ。頸部突部帯刻み、周辺ヨコナデ。肩部外面タテハ後ナデ。	A密 B良好 C赤褐5YR4/6～4/8	
0469	土師器	直口壺	SC-30 4区 壁溝	①10.5 ②15.7	口縁部内面上部～外面頸部ヨコナデ。口縁部内面ハケ後ヨコナデ。体部内面不定方向のハケ後ナデ。肩部外面細かいタテハケ。外面肩部以下不定方向の細かいハケ。	A密 B良好 C灰黄緑～にぶい黄褐10YR5/2～5/4	外面の頸部以外のほぼ全面に黒斑・スス付着。特に口縁部にススが濃く付着している。
0470	土師器	直口壺	SC-30 No.1	①(8.2) ②10.05	口縁部ナデ。口縁部内面細かいナメハケ。体部内面ユビナデ。口縁部～頸部外面タテハケ。体部外面タテハケ。底部外面不定方向ナデ。	Aやや粗 3.0mm大の石英が目立つ B良好。Cにぶい黄褐10YR7/2～7/4 肩～縁の内外面ともに一部黄褐10YR5/1～灰黄緑5/2 肩部の一部に橙7.5YR6/6～焼灰4/6の変色が見られる。	
0471	土師器	小型丸底壺	SC-30 5区	①8.95 ②10.4	口縁部外面～頸部ヨコナデ。体部外面不定方向のハケ。口縁部内面ナメハケ後ヨコナデ。体部内面ヘラケズリナデ。	A密 B良好 C浅黄緑～にぶい黄褐7.5YR8/4～6/4	
0472	土師器	小型丸底壺	SC-30 1区 P-1	①10.5 ②7.9	口縁上部内外面共にユビナデ。口縁下部内面ヨコハケ。肩部内面ユビナデ。体部内面ナデ。口縁部外面ナデ。外面頸部～肩部タテハケ。胴部外面ハケ後ナデ。	A密 B良好 C褐灰～にぶい黄褐10YR5/1～5/3 一部明黄緑10YR6/8 変色にぶい黄～橙2.5YR6/4～6/6	胴部に黒斑、一部にススの付着あり。
0472	土師器	小型丸底壺	SC-30 ⑤	①12.6 ②(8.6)	口縁部ナデヨコナデ。	A2mm以下の石英、長石粒及び雲母微粒をわずかに含む B良好 C橙7.5YR6/6～2.5YR6/8	内面の一部にススが僅かに付着。
0473	土師器	小型丸底壺	SC-30 ②	①(7.6) ②(9.7)	口縁部ナデ。口縁部内面ヨコハケ後ナデ。体部内面ナデ。ユビナデ。口縁部外面タテハケ。頸部外面ナデ。肩部～胴部外面タテハケ後ナデ。底部タテナデ。	A密 B良好 Cにぶい黄～褐7.5YR6/3～4/3	内面のほとんどもに黒斑、胴部の一部にスス付着。
0474	土師器	小型丸底壺	SC-30 ⑤	①8.6 ②8.25	口縁部ヨコナデ。口縁部内面ハケ後ヨコナデ後ナデ。頸部～肩部内面ナデ。体部内面内面ヨコナデ。底部内面ナデ。口縁部～頸部外面ハケ後ヨコナデ。胴部外面ハケ後ナデ。底部外面ハケ。	A2mm以下の石英、長石粒及び雲母微粒をわずかに含む B良好 C橙～にぶい黄褐7.5YR7/6～10YR7/4	
0475	土師器	小型丸底壺	SC-30 ⑤	②6.7	頸部～体部内面ヨコナデ。底部内面不定方向のユビナデ。頸部外面ヨコナデ。肩部外面ナデ。以下外面不定方向のハケ。	A密 B良好 C肩～胴上位橙5YR6/6～6/8 胴下部～底部(外：面) 灰黄褐～黄褐10YR5/2～5/6。胴下半部被熱による変色。	

表2 石勺遺跡K地点調査遺物観察表⑫

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量 (cm/g) ①口径 ②器高 ③底径 ④最大径 (復元)	形態・技法の特徴	A胎土 B施成 C色調	備考
0476	土師器	小型丸底甕	SC-30 5区	①(7.8) ②6.7	口縁部ヨコナデ。口縁部内面ヨコハケ後ナデ。外部外 面ハケ後ナデ、一部ヘラミガキ。内部内面ケズリに近い ナデ。	A密。1mm以下の石英・金雲母片多く含む。B良好 C にぶい黄橙～明黄橙10YR6.3～6.8	
0477	土師器	小型丸底甕	SC-30 5区	①(6.2) ②(8.1)	内外面ナデ。内底部ヘラケズリ・ナデ。	A密 B良好 Cにぶい黄橙～明黄橙10YR7.4～7.6	
0478	土師器	高杯	SC-30 5区	①(24.9) ②8.95	口縁部ヨコナデ。内部ヨコナメハケ後ヨコナデ。 底部ナメハケ後一部ナデ。内部内面ヨコハケ後ヨコ ナデ、一部ヘラミガキ。内底部ナデ後ヘラミガキ。	A密 B良好 Cにぶい黄橙～橙7.5YR6.4～6.8	
0479	土師器	高杯	SC-30 ③	①(18.3) ②6.8	口縁部上位内外面ともにヨコナデ。口縁部内面ヨコハ ケ後ナデ。以下内面ヨコハケ、ナデ。口縁部外面ナメ ハケ後ヨコナデ。屈曲部ナメハケ、ヨコナデ。杯底 部外面タテハケ後ナデ。	Aやや粗1.5～4.0mm大の石英が目立つ Bやや軟 C明 褐灰～黄橙7.5YR7.2～7.8	
0480	土師器	高杯	SC-30 5区	①(17.5) ②5.7	杯部外面底部タテハケ後ナデ。杯部ナメハケ後ヨコ ナデ。杯部内面ヨコナメハケ後ナデ。	A密 Bやや軟 C橙7.5YR9.8～6.8	
0481	土師器	高杯	SC-30 ④	①17.4 ②6.3	口縁部～杯部内面の全てヨコハケ後ナデ。口縁部外 面ナメハケ後ヨコナデ。杯底部外面タテハケ後一部 ヨコハケ。	A密 B良好 C橙～赤褐5YR6.6～4.6	底部外面を中心に一部スス付着。 棒状の支え等があったのか、棒状 に3本ススが付着していない箇所 あり。
0482	土師器	高杯	SC-30 ④	①19.8 ②6.9	口縁部内外面にヨコナデ。杯部内面口縁を除く部分 が磨滅。握持縁の用途に使用か、被熱。外面屈曲部周 辺粘土貼り付けによる補修か。屈曲下位ハケ。杯底部 外面ハケ後ヨコナデ。頸部外面ヨコナデ。	A3.0mm以下の石英、長石粒及び金雲母微粒をやや多 く含む B良好 C橙7.5YR7.6～にぶい黄橙10YR7.4	外面の口縁部近くに黒斑あり。
0483	土師器	高杯	SC-30 ④	①14.7 ②(4.8)	口縁部ヨコナデ。杯部上位内面ハケ後ナデ。杯底 部内面ナデ。杯上位外面ハケ後ヨコナデ (回転)。杯 底部ハケ後ヨコナデ。	A2.0mm以下の石英、長石粒及び、白、金雲母微粒を かきかき含む B良好 C橙～にぶい黄橙7.5YR6.6～10 YR6.4	
0484	土師器	高杯	SC-30 ビックアップ⑧	①(17.45) ②6.15～6.4 ③11.7	杯部内面上位・杯口縁部～脚部内外面ヨコナデ。杯 底部内面ヨコナデ後ナデ。脚内面ヘラケズリ。	A1.0mm以下の石英・長石粒を少量含む B良好 C橙5 YR7.8～黄橙7.5YR8.8	
0485	土師器	高杯	SC-30 ④	①15.0 ②6.0	口縁部ヨコナデ。口縁部内面ヨコハケ後ヨコナデ。 杯底部内面ナデ。杯口縁部外面タテハケ後ヨコナデ。 杯底部外面強いヨコナデ。口縁部に歪みあり。	A密 B良好 C橙5YR7.8～6.8	
0486	土師器	高杯	SC-30 ⑥	①20.45 ②13.8 ③12.9	口縁部～口縁部内面ヨコナデ。以下杯部内面ハケ 後ナデ。杯部外面ハケ後ナデ。外面屈曲部以下脚部ヨ コナデ。脚部外面ハケ後ナデ。脚部内面ケズリ。脚部 内面ヨコナデ。	A0.5～4.0mmの石英、長石粒を少量含む B良好 C橙 ～淡橙2.5YR6.6～5YR8.4	
0487	土師器	高杯	SC-30 5区	①(17.2) ②6.2	杯部口縁ヨコナデ。杯部内面後ヨコナデ。杯部内 面ヨコハケ後ナデ。杯部底部タテハケ後ヨコナデ。内 底部ナデ。	A密 Bやや軟 C橙5YR7.8～6.8	
0488	土師器	高杯	SC-30 ⑥	②6.5	杯部内面ハケ後ミガキ。外面杯～脚部ハケ後ミガキ。 脚部内面ヨコナデ。脚部内面は下から上へナデ、その 粘土が上部に溜まっている。	A密 B良好 Cにぶい黄橙～明黄橙10YR7.3～7.6	内面・杯底部の一部、外面杯部～ 脚部内面に黒斑、外面杯部下にス ス付着。
0489	土師器	高杯	SC-30 ⑥	②7.0 ③10.9	頸部外面ヨコナデ。脚部外面下窄みミガキ。脚部外 面タテハケ後ナデ、タテハケ後ヨコナデ。脚部内面 ・底部ヨコナデ。脚部内面ヘラケズリ。脚部内面ナ メハケ後ナデ。	A密 B良好 C橙～明赤褐5YR6.6～5.6	
0490	土師器	高杯	SC-30 5区	②7.9 ③(10.7)	杯部口縁ヨコハケ後ヨコナデ。脚部外面ヨコハケ後 ナデ。脚部内面ヨコハケズリ。	A密 B良好 Cにぶい黄橙～橙7.5YR6.4～6.8 変色部分 赤褐～赤10R6.6～4.6	
0491	土師器	高杯	SC-30 ③	②7.3 ③12.25	頸部外面ヨコナデ。脚部内面ヘラケズリ。脚部外 面ナデ。一部タテハケ後杯部ナデ。脚部外面タテ・ナ メハケ後ナデ。脚部外面内面ヨコハケ後ナデ。	A密 B良好 C浅黄橙～明褐7.5YR8.6～5.6	脚部内面の約2/3にスス・黒斑 あり。
0492	土師器	高杯	SC-30 5区	②9.4 ③(12.4)	脚部外面ヨコハケ後ナデ。脚部外面タテナデ。脚部内 面ヘラケズリ。杯部外面ヨコハケ後ナデ。杯部内面ナ メハケ後ナデ。口縁部内面ヨコハケ後ヨコナデ	A密 B軟 C黄褐～赤褐7.5YR7.8～5.8	
0493	土師器	高杯	SC-30 ②	①(16.4) ②5.3	口縁部底面以外はヨコハケ後ナデ。底部ナデ。杯 口縁部外面ナメハケ後ナデ。屈曲部ナメハケ 後ナデ。底部外面ナメハケ	A密 Bやや軟 C黄褐～にぶい黄橙10YR8.3～7.3	外面口縁部に黒斑あり。
0494	土師器	高杯	SC-30 ①	②6.4 ③5.6	杯部内面ハケ後ミガキ。杯部外面ヨコナデ。脚部内 面シボリあり。ナデ。脚部内外面ともにナデ。脚部外 面タテハケ後ナデ。ミニチュア足が作りは丁寧。	A密 B良好 Cにぶい黄橙～明黄橙10YR7.2～7.6	脚部外面のほぼ全てと杯部屈曲部 に黒斑が見られる。
0495	土師器	鉢	SC-30 5区	①(18.6) ②6.4	口縁部ヨコナデ。杯部内面ヘラケ後ナデ。底部ナ デ。内部内面ヨコハケ。内底部ナデ。	A密 B良好 C明褐灰～黄橙7.5YR7.2～7.8 にぶい黄 橙～赤褐10YR7.2～7.6	
0495	土師器	鉢	SC-30 5区	②2.75 ③2.8	内外面ナデ。	A密 B良好 Cにぶい黄橙～明黄橙10YR7.3～7.6	手ねね。
0497	土師器	鉢	SC-30 5区	①5.5 ②6.0	外面タテ～ナメナデ。内面ヨコナデ。	A密 B良好 C黄橙～橙7.5YR8.8～6.8	エビナ成形。
0498	弥生土器	鉢	SC-30 ⑤	①(13.0) ②6.4 ③(7.2)	口縁部内面ハケ後ミガキ。杯部外面ヨコナデ。脚部内 面シボリあり。ナデ。脚部内外面ともにナデ。脚部外 面タテハケ後ナデ。ミニチュア足が作りは丁寧。	A3mm以下の石英、長石粒及び金雲母微粒を少量含む B良好 Cにぶい黄橙～にぶい黄橙10YR6.3～7.5YR6.4	
0499	土師器	鉢	SC-30 No.2	①10.5 ②6.2	内外面ともにナデ。底部内面微かに割傷。底部外面は やや台状になっている。外面はひび割れが目立つ。	A密 Bやや軟 C灰白～灰黄褐10YR8.2～4.2	手ねね。
0500	土師器	ミニチュア 鉢	SC-30 ②	①(6.4) ②3.2	内外面ともにナデ。ひび割れが目立つ。	A密 Bやや軟 C灰白～灰黄褐10YR8.2～4.2	手ねね。
0501	土師器	ミニチュア 鉢	SC-30 ②	①5.6 ②3.7	内外面ともにナデ。歪みあり。	A密 Bやや軟 C灰白～浅黄褐7.5YR8.2～8.4	手ねね。
0502	土師器	ミニチュア 鉢	SC-30 ⑤	①3.9 ②3.4～4.1 ③2.8～3.0	内外面共にねじり上げるようなナデ。底部外面ナデ。	A0.5mm以下の石英、長石粒及び金雲母微粒をわずかに 含む B良好 C浅黄橙～にぶい黄橙10YR8.4～10Y R7.4	手ねね。
0503	土師器	ミニチュア 蓋	SC-30 ①	②3.1	頸部外面指押さえ。頸部内面、外部外面ナデ。内部内 面ヨコナデ。口縁～肩部の一部に被熱による破綻あり。	A密 Bやや軟 C浅黄橙～橙7.5YR8.6～6.6	手ねね。
0504	土師器	ミニチュア 高杯	SC-30	②6.8 ③(9.6)	脚部ヨコナデ。脚部内面指押さえ後ヨコナデ。脚部内 面ヨコハケズリ。	A1～3mmの白色砂粒を含む B良好 C外：橙5YR6.8 内：橙5YR6.6	
0505	須恵器	杯蓋	SC-30 P-6	①(14.7) ②3.15	内外面回転ナデ。	A密 B良好 C黄灰～暗灰黄2.5Y5.1～5.2	杯口。
0506	須恵器	杯身	SC-30 P-3	②2.6 ③(8.2)	内外面回転ナデ。高台貼り付け後ナデ。底部外面回転 ナデ。	A密 B不良 C外：灰白～灰黄2.5Y7.1～7.2 内：に ぶい黄橙10YR7.2～7.3	杯口。
0507	土師器	甕	SC-30 5区	①(12.0) ②2.05	口縁部内面指押さえ、口縁外面タテハケ後ヨコナデ。 内面ナメ後ヨコナデ。	A密 B良好 C褐灰～にぶい黄橙10YR6.1～6.4	
0508	土師器	杯蓋	SC-30 6区	① (15.7) ②2.85	口縁部～外部外面ナデ。内部内面ヨコナデ。内底部ナ デ。	A密 B良好 C外：橙5YR7.8～6.8 内：浅黄橙～黄橙 7.5YR8.4～8.8	杯口。
0509	須恵器	円面視	SC-30 6区	②3.1	外面回転ナデ。内面回転ナデ。脚部周囲。	A密 B堅微 C黄灰～暗灰黄2.5YR6.1～6.2	
0510	土製品	粘土塊	SC-30 ①	①最大長4.5 ②最大幅3.95 ③最大厚1.5		A密 B良好 C橙～明赤褐5YR6.6～5.6	凸面の3/4に黒斑あり。
0511	石器	砥石	SC-30 5区 床面直上	①最大長13.0 ②最大幅4.75 ③最大厚2.2	C砥面 (1面をのぞく) 褐灰～灰黄褐10YR5.1～5.2 1 面。割れ面：にぶい黄～橙7.5YR6.3～6.8		
0512	土師器	甕	SC-31	①(14.0) ②3.2	内外面ヨコナデ。	A密 B良好 Cにぶい黄橙10YR7.3～6.3	
0513	土師器	甕	SC-31	②10.9	頸部外面強いヨコナデ。肩部外面タテハケ後ナデ後ナ メハケ。内部内面ナメハケ。内部内面ヨコハケ後 ナデ。肩部内面ヨコハケズリ。内部内面タテハケ ズリ。	A密 Bやや軟 C橙～明赤褐5YR6.8～5.8	
0514	土師器	甕	SC-31 No.1	①(16.8) ②(27.1)	口縁部ヨコナデ。口縁部外面タテハケ後ヨコナデ。体 部外面タテ～ナメハケ後ナデ。口縁部内面ヨコハケ 後ヨコナデ。頸部内面ナデ。内部内面ヨコナメハ ケズリ。	A1.0～4.0mmの石英、長石粒をやや多く含む B良好 C外：灰白～褐 (焼け) 10YR8.2～7.5YR4.3 内：淡 黄～にぶい黄褐 (焼け) 2.5Y8.3～10YR5.3	
0515	土師器	甕	SC-31 No.1	①17.8 ②(18.4)	口縁部ヨコナデ。杯部外面タテ～ナメハケ。頸部内 面ヨコハケズリ。内部内面ヨコハケズリ後タテハ ケズリ。	A1.0～3.0mmの石英、長石粒及び金雲母微粒を少量 含む B良好 C外：にぶい黄橙10YR6.4 内：にぶい黄 橙(口縁)～にぶい黄褐(被熱変色) 10YR6.4～5.3	
0516	土師器	鉢?	SC-31	①(10.7) ②(7.25)	口縁部内面ヨコハケ後ヨコナデ。杯部外面ナデ。杯 部内面板ナデ。上部は後ヘラケズリ。	A3.0mm以下の石英、長石粒及び金雲母微粒を少量 含む B良好 C外：鉄電気微結晶をわずかに含む 2.5Y11黄 灰 C外：にぶい黄橙～灰黄褐10YR6.4～4.2 内：に ぶい黄橙10YR6.3	
0517	土師器	ミニチュア 鉢	SC-31	①4.8 ②5.9～6.4 ③2.4～2.8	口縁部外面～内部内面ナデ。外部外面指押さえ後ナ デ。	A0.5mm以下の石英、長石粒をごくわずかに含む B良 好 Cにぶい黄褐10YR7.4	
0518	土師器	ミニチュア 脚付鉢	SC-31	②2.0 ③(3.2)	内外面ナデ。	A密 B良好 C褐灰～にぶい黄褐10YR5.1～5.3	手ねね。
0519	土師器	ミニチュア 高杯	SC-31	①4.3 ②(3.05)	内外面ナデ。脚部内面指押さえ。	A1.5mm以下の石英、長石粒及び金雲母微粒をわずかに 含む B良好 Cにぶい黄橙10YR7.3 脚内：褐灰10Y RX1	黒斑あり (褐灰10YRX1)。
0520	弥生土器	無頸甕	SC-32 2区 壁溝	①(14.6) ②(3.45)	口縁部ヨコナデ。外部外面ナデ後ヨコハケミガキ。杯 部内面ナデ。	A1.0mm以下の石英、長石粒をわずかに含む B良好 C浅黄褐 (地)～明赤褐 (顔料) 7.5YR8.6～2.5YR5.6	丹塗り。
0521	弥生土器	甕	SC-32 2区 北側	①(26.0) ②(2.1)	内外面ヨコナデ。	A1.0mm前後の石英、長石粒及び金雲母微粒、角閃石 片をやや多く含む B良好 Cにぶい黄橙10YR7.4	
0522	弥生土器	甕	SC-32 4区	②(4.1)	口縁部内外面ヨコナデ。外部外面タテハケ後ナデ。体 部内面ナデ。	A0.5～3.0mmの石英、長石粒をやや多く含む B良好 C外：明赤褐5YR5.6 内：明赤褐～にぶい赤褐5YR5.6 ～5YR5.4	
0523	弥生土器	甕	SC-32 2区	①(14.6) ②(5.2)	口縁部内外面ヨコナデ。外部外面タテ～ナメハケ。 内部内面ヨコハケ。	A0.5mm以下の石英、長石粒及び金雲母微粒を少量 含む B良好 C外：にぶい黄橙10YR6.4 内：橙7.5YR7.6	

表2 石勺遺跡K地点調査遺物観察表⑬

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量 (cm/g) ①口径 ②器高 ③底径 ④最大径(復元)	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備考
0524	弥生土器	甕	SC-32 1区	②(7.95) ③9.2	体部外面タテハケ。底部ナデ。体部内面ナデ後板ナデ。底部内面ナデ。	A0.5~3.0mmの石英、長石粒及び白雲母、銅色の雲母微粒を少量含む。B良好 C外：にぶい黄緑~にぶい黄褐色7.5YR6/4~10YR4/3(被熱による変色) 内：にぶい黄褐色7.5YR5/3~10YR3/1(被熱による変色)	
0525	弥生土器	壺	SC-32 4区	②3.6 ④残存部(19.2)	体部外面ヨコナデ。突帯貼り付け後ヨコナデ。体部内面指押さえ後ヨコナデ。	A1.0~2.0mmの石英、長石粒を少量含む。B良好 C橙7.5YR7/6	
0526	弥生土器	壺	SC-32 4区	②(8.95)	体部外面ヨコナデ。突帯貼り付け後ヨコナデ。体部内面、上部ヨコナデ、下部指押さえ後板ナデ。	A3.0mm以下の石英、長石粒及び金雲母微粒を少量含む。B良好 C外：浅黄緑~にぶい黄褐色10YR8/4~7.5YR5/4 内：にぶい黄緑~橙10YR7/4~7.5YR7/6	
0527	弥生土器	壺	SC-32 1区	②(4.55)	体部外面ヨコナデ、下部板ナデ。突帯貼り付け後ヨコナデ。体部内面ヨコナデ。	A0.5~2.0mmの石英、長石粒及び金雲母微粒を少量含む。B良好 C外：にぶい黄~にぶい黄褐色10YR7/4~7.5YR5/4 内：橙7.5YR7/6	
0528	土師器	甕	SC-32 2区	①(13.7) ②(3.95)	口縁端部ヨコナデ。内外面貝殻敷痕或いはヨコハケ。	A0.5~2.0mmの石英、長石粒及び金雲母微粒を少量含む。B良好 C浅灰2.5Y7.3	夜白式。
0529	弥生土器	鉢	SC-32 2区	②(6.85)	口縁端部ヨコナデ。体部内外面ナデ後板ナデ。	A1.0~3.0mmの石英、長石粒を多く含む。B良好 C橙~黒褐色5YR6/6~10YR3/2	
0530	弥生土器	深鉢	SC-32 東西ベルト	②(2.75)	口縁部突帯貼り付け後ヨコナデ後ヘラによる刻み。体部外面タテハケ。体部内面ヨコナデ。	A1.0mm以下の石英、長石粒を少量含む。B良好 C外：にぶい黄7.5YR5/4 内：橙~褐灰7.5YR6/6~10YR3/1	刻目突帯文土器
0531	土師器	脚付小型丸底壺	SC-33 P-4	①(12.4) ②(9.1) ③胴部径9.65	口縁部外面はヘラミガキ、内面はハケ後ヘラミガキ(暗文)。体部外面上位はハケ、中位ヘラミガキ、下位ヘラミガキ後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ。脚部外面ヘラミガキ、内面ハケ。	A密。2.0mm以下の石英・長石を少量含む。微細な雲母をやや多めに含む。Bやや良好 C橙5YR7/8	
0532	土師器	甕	SC-33 5区	②(3.8)	口縁部外面ヨコナデ、内面ハケ後ヨコナデ。胴部外面タタキ後ハケ、内面ヘラケズリ。	A密。1.0mm以下の白色粒をやや多めに含む。1.0mm以下の角閃石、雲母を少量含む。B良好 C外：灰白10YR8/2、灰N5、内：灰白2.5Y8.2	口縁部外面にスス付着。
0533	土師器	甕	SC-33 1区	②(2.0)	胴部外面上位ヨコナデ、以下タタキ、内面ヨコナデ。	Aやや粗い。0.5mm以下の白色粒、0.3mm以下の雲母を少量含む。B良好 C灰黄褐色10YR5/2	社内系。
0534	土師器	甕	SC-33 4区	②(2.75)	胴部外面上位はヨコナデ、中位以下はタタキ、内面上位はヨコナデ、以下ヘラケズリ。	Aやや粗い。1.0mm以下の白色砂粒、1.0mm以下の赤褐色砂粒、0.5mm以下の雲母をやや多く含む。B良好 C外：灰黄2.5Y7.2、内：浅黄褐色10YR8/3	
0535	土師器	甕	SC-33 3区	①(15.1) ②(2.8)	口縁部内外面ともヨコナデ。	Aやや粗い。0.5mm以下の白色砂粒を少量含む。Bやや良好 Cにぶい黄褐色10YR7/4	
0536	縄文土器	浅鉢?	SC-33 3区	②(1.45)	口縁部内外面ともヨコナデ。	Aやや粗い。1.0mm以下の白色砂粒、0.5mm以下の雲母をやや多く含む。B良好 C外：褐灰10YR4/1、内：灰黄褐色10YR5/2	
0537	土師器	高杯	SC-33 4区	②(3.8)	杯口縁部外面上位ハケ後ナデ、下位はハケ、内面はハケ後ナデ。底部外面はヘラミガキ、内面はナデ。	Aやや粗い。1.5mm以下の白色砂粒、0.3mm以下の雲母をやや多く含む。Bやや良好 C外：にぶい黄褐色10YR6/4、内：にぶい黄褐色10YR7/4	
0538	土師器	高杯	SC-33 4区	②(3.3)	杯体部外面ヨコナデ。底部内面ナデ、外面ハケ後ナデ。	Aやや粗い。3.0mm以下の白色砂粒、0.5mm以下の雲母を多く含む。B良好 C外：灰黄褐色10YR5/2、内：浅黄褐色7.5YR8/4	
0539	土師器	高杯	SC-33 No.1	①19.4 ②(6.8)	口縁部内外面ともヨコナデ。杯底部内外面ともナデ。	A密。1.0mm以下の石英・長石を少量含む。Bやや良好 C外：黄褐色7.5YR7/8、橙5YR6/8、灰黄褐色10YR8/2、黒10YR2/1、内：黄褐色7.5YR7/8、橙5YR6/8	外面にスス付着。
0540	土師器	高杯	SC-33 No.3	①21.2 ②(6.8)	口縁部外面ヨコナデ。口縁部外面ヘラミガキ、内面ハケ後ヘラミガキ(暗文)。	A密。1.0mm以下の白色粒を少量含む。微細な雲母をやや多めに含む。B良好 C外：灰5YR6/6、内：にぶい黄7.5YR5/3、黒N2、内：橙5YR6/6	外面にスス付着。
0541	土師器	高杯	SC-33 6区	②(2.8) 胴部径(20.2)	外面はハケ後ヘラミガキ、内面ハケ。	A密。1.0mm以下の白色粒を少量含む。微細な雲母をやや多く含む。B良好 C橙5YR6/8、にぶい黄7.5YR6/4	焼成前穿孔あり、3ヶ所か?
0542	土師器	鉢	SC-33 No.2	①(12.4) ②(6.1)	口縁部外面ハケ後ヨコナデ後ヘラミガキ、内面上位ヨコナデ下位ハケ後ヨコナデ。胴部外面上位はハケ、中位以下ヘラケズリ後まばらなヘラミガキ、内面コデ状工具によるミガキ。	A密。2.0mm以下の石英・長石をやや多めに含む。2mm以下の赤褐色粒、微細な雲母を少量含む。B良好 C外：橙5YR7/8、橙2.5YR6/8、内：橙5YR7/8	
0543	土師器	鉢	SC-33 P-4	①(13.4) ②(4.15)	口縁部外面ハケ後ミガキ、内面上位ヨコナデ。体部外面ミガキ、内面は口縁部下位から体部にミガキ(暗文)。	A密。1.5mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 C橙5YR7/8	
0544	土師器	鉢	SC-33 2区	①(12.5) ②(2.7)	口縁部内外面ともヨコナデ。体部内外面ともハケ。	Aやや粗い。1.0mm以下の赤褐色粒を少し含む。0.5mm以下の雲母をやや多く含む。B良好 C外：にぶい黄褐色5YR7/4、内：にぶい黄褐色10YR7/4	
0545	土師器	鉢	SC-33 5区	②(3.6) ③(5.4)	体部外面中位まで摩耗のため調整不明。下位はナデ、内面ナデ。底部外面ナデ。	A密。3.0mm以下の石英・長石、微細な雲母をやや多く含む。B不良 C外：浅黄褐色10YR8/4、橙5YR7/6、内：浅黄褐色10YR8/4	
0546	土師器	鉢	SC-33 2区	②(4.8) ③4.95	体部内外面とも中位までハケ、下位ナデ。	Aやや粗い。1.5mm以下の白色砂粒、0.5mm以下の雲母をやや多く含む。B良好 C外：にぶい黄褐色10YR6/3、内：灰黄褐色10YR5/2	
0547	土師器	ミニチュア鉢	SC-33 4区	①5.7 ②(4.8)	内外面ともナデ。	A密。3.0mm以下の石英・長石を少量含む。1.0mm以下の雲母を多く含む。B良好 C灰黄褐色10YR6/2、褐灰10YR5/1	
0548	土師器	ミニチュア脚付鉢	SC-33 2区	②(2.85)	内外面ともナデ。	Aやや粗い。2.5mm以下の白色砂粒、0.3mm以下の雲母をやや多く含む。B良好 C橙5YR6/6	
0549	弥生土器	深鉢	SC-33 5区	②(3.4)	口縁部部に刻み突帯、口縁部内外面ともナデ。	A密。3.0mm以下の石英・長石、微細な雲母をやや多く含む。1.0mm以下の角閃石を少量含む。B良好 C外：にぶい黄褐色10YR6/3、黒N2、内：灰黄褐色10YR4/2	刻目突帯文土器
0550	弥生土器	壺	SC-33 2区	②(6.1)	胴部外面突帯部はヨコナデ、他はハケ、内面ハケ。	Aやや粗い。2.5mm以下の白色砂粒、0.3mm以下の雲母をやや多く含む。B良好 C外：灰黄褐色10YR5/2~6/2、内：灰黄褐色10YR5/3	
0551	土師器	小型丸底壺	SC-34 1区	①(8.8) ②(7.0)	口縁部はナデ。口縁部内外面ともハケ後ナデ。胴部外面はハケ、内面口縁部と胴部との境界に工具ナデ。胴部内面はケズリ。	A密。1.5mm以下の石英・長石をやや多めに含む。B良好 C外：橙7.5YR6/6、灰褐7.5YR4/2、黒7.5YR2/1、内：橙7.5YR6/6	外面にスス付着。
0552	土師器	小型丸底壺	SC-34 1区	①(9.8) ②(6.3)	口縁部はナデ。口縁部内外面ともハケ後ナデ。胴部外面上位はナデ、以下はハケ、内面ナデ。	A密。微細な白色粒を微量含む。B良好 Cにぶい黄2.5Y6.3	
0553	土師器	高杯	SC-34 1区	②(7.2)	胴部外面タテハケ後ナデ。内面はケズリ。胴部内外面ともヨコナデ。	A密。2.0mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 C橙5YR6/8	
0554	土師器	小型丸底壺	SC-34 1区	①(9.8) ②(7.6)	口縁部内外面ともヨコナデ。胴部内外面ともナデ。	A密。1.5mm以下の石英・長石を少量含む。Bやや良好 C橙5YR6/6	
0555	土師器	ミニチュア壺	SC-34	①(6.8) ②(2.85)	内外面ともナデ。	A密。2.0mm以下の石英・長石を少量含む。Bやや良好 Cにぶい黄褐色10YR7/4、褐灰10YR4/1	
0556	土師器	ミニチュア鉢	SC-34 1区	①(3.7) ②3.85	内外面ともナデ。	A密。1.0mm以下の石英・長石を少量含む。Bやや良好 C黒褐7.5YR2/1	
0557	土師器	複合口縁壺	SC-34 1区	②(3.0)	口縁部内外面下位にハケ。胴部外面に突帯(刻み目)、他はヨコナデ、内面上位はナデ、以下はハケ。	A密。1.5mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 C外：浅黄褐色10YR8/4、赤褐色5YR4/8、内：浅黄褐色10YR8/4	外面に丹塗り。
0558	弥生土器(土師器)	複合口縁壺	SD-3 3区	②(4.0)	口縁部外面上位にハケ、下位はナデ、内面ナデ。	A粗い。2.5mm以下の石英・長石を多量に含む。Bやや不良 C外：灰白2.5Y8.2、黄灰2.5Y6/1~4/1、内：灰白2.5Y8.2	
0559	弥生土器(土師器)	複合口縁壺	SD-03 4区	②(3.1)	胴部外面上位は刻書文、中位はヨコナデ、下位ナデ、内面上位はハケ、下位はナデ。	A密。1.0mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 Cにぶい黄褐色10YR7/4	
0560	土師器	小型丸底壺	SD-03 0区	②(7.3) ④10.0	胴部外面ハケ、内面ナデ。	A密。3.0mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 C外：にぶい黄褐色10YR7/3~6/3、橙5YR7/6、黒5YR1/7.1、内：にぶい黄褐色10YR7/3~6/3、黒褐10YR3/1	スス付着。
0561	土師器	甕	SD-03 2・3区ベルト1・2冊	②(4.6)	口縁部外面ヨコナデ、内面は摩耗のため調整不明。胴部外面平行タタキ、内面ヘラケズリ。	Aやや粗い。1.0mm以下の石英・長石を少量含む。Bやや不良 C外：浅黄褐色10YR8/4、灰黄褐色10YR5/2、内：浅黄褐色10YR8/4	社内系。
0562	土師器	甕	SD-03 4区	②(3.0)	胴部外面ハケ後ヘラ描き文、内面ヘラケズリ。	Aやや粗い。2.0mm以下の石英・長石をやや多めに含む。B良好 C外：にぶい黄2.5Y6/3、内：にぶい黄褐色10YR6/4	
0563	土師器	甕	SD-03 4区	①(15.9) ②(4.8)	口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコハケ。胴部外面ハケ、内面上位ハケ、以下ヘラケズリ。	Aやや粗い。1.5mm以下の白色粒、角閃石を少量含む。B良好 C外：にぶい黄褐色10YR7/4、内：浅黄褐色10YR8/4	布留系。
0564	土師器	甕	SD-3 3区	②(12.5) ③4.1	胴部外面ハケ、中位にタタキ、内面中位はハケ、下位はナデ。底部内面指押さえ。	A粗い。1.5mm以下の石英・長石を多めに含む。B良好 C外：にぶい黄褐色10YR7/4、灰黄褐色10YR5/2、橙7.5YR6/6、黒7.5YR1/7.1、内：にぶい黄褐色10YR7/4、10YR6/3	外面下位から底部にかけて黒斑あり。
0565	土師器	高杯	SD-3 3区	①(20.6) ②(6.2)	口縁部から体部外面ヨコナデ、内面はハケ。	A密。1.0mm以下の石英・長石を少量含む。Bやや不良 C外：にぶい黄褐色10YR7/4、内：にぶい黄褐色10YR7/3	
0566	土師器	高杯	SD-3 3区	①(17.6) ②(5.0)	口縁から体部内外面ともヨコナデ(外面は体部の一部ハケ)。杯底部内面不定方向のナデ。	A密。2.5mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 C外：橙7.5YR6/6、内：橙7.5YR7/6、7.5YR6/6	

表2 石勺遺跡K地点調査遺物観察表(14)

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量 (cm/g) ①口径 ②器高 ③底径 ④最大径(復元)	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備考
0567	土師器	鉢	SD-3 3区	②(2.65) ③3.2~3.4	体部外面平行タキ、内面ハケ。	Aやや粗い。1.5mm以下の石英・長石を少量含む。Bやや良好 C外：浅黄褐色10YR6.4、褐灰10YR6.1、内：浅黄2.5Y7.3	底部外面中央に1.0×0.9cmの隅丸方形の凹みあり。
0568	土師器	ミニチュア鉢	SD-3 3区	①(4.0) ②3.2 ③2.5~3.1	口縁から体部内外面ともユビナデ。	A密。1.0mm以下の白色粒を少量含む。Bやや良好 C外：にぶい黄褐色10YR7.3、褐灰N3.1、内：にぶい黄褐色10YR7.3	外面下に黒斑あり。
0569	土師器	ミニチュア鉢	SD-3 3区	④4.45 ③2.2 ②2.8	口縁から体部内外面ともユビナデ。	A密。1.5mm以下の白色粒を少量含む。Bやや良好 Cにぶい黄褐色7.5YR7.4	
0570	土師器	ミニチュア鉢	SD-3 3区	④4.1 ③3.8	口縁から体部内外面ともユビナデ。	A密。微細な白色粒を少量含む。B良好 C外：にぶい黄褐色10YR7.3、黒褐10YR3.1、内：にぶい黄褐色10YR7.3	
0571	土師器	ミニチュア鉢	SD-3 3区	①(4.2) ②4.0 ③2.75	口縁から体部内外面ともユビナデ。底部外面ナデ。	A密。2.5mm以下の長石を少量含む。B良好 Cにぶい黄褐色10YR7.3	
0572	土師器	ミニチュア鉢	SD-3 3区	①(4.3) ②3.7 ③3.0	口縁から体部内外面ともユビナデ。	A密。1.0mm以下の白色粒を微量含む。Bやや良好 Cにぶい黄褐色10YR7.3	
0573	土師器	ミニチュア鉢	SD-3 3区	①(5.7) ②4.0	口縁から体部内外面ともユビナデ。	A密。1.5mm以下の石英・長石を少量含む。Bやや良好 C外：灰黄褐色10YR6.2、褐灰10YR5.1、黒10YR2.1、内：灰黄褐色10YR6.2	
0574	土師器	ミニチュア脚付鉢	SD-3 3区	④4.3 ②4.75 脚部径3.4	口縁から体部内外面ともユビナデ。	A密。微細な白色粒を微量含む。B良好 Cにぶい黄褐色10YR6.4	
0575	土師器	ミニチュア脚付鉢	SD-3 3区	①(4.0) ②4.15 脚部径3.8	口縁から体部内外面ともユビナデ。	A密。微細な白色粒を微量含む。B良好 Cにぶい黄褐色10YR7.3	
0576	土師器	ミニチュア鉢	SD-3 3区	②(4.2) ③3.1	体部外面工具使用のナデ、内面ユビナデ。底部外面ナデ。	A密。1.0mm以下の石英・長石を少量含む。Bやや良好 Cにぶい黄褐色10YR7.4	
0577	土師器	ミニチュア鉢	SD-3・4(火事被災)	⑦7.5 ②4.05 ③3.6	口縁端部はナデ。口縁から体部内外面ともミガキ。底部外面ナデ。	A密。1.0mm以下の白色粒を微量に含む。B良好 C外：にぶい黄褐色10YR6.4、黒褐10YR2.2、内：にぶい黄褐色10YR6.3、黒褐10YR2.2	
0578	弥生土器	甕	SD-03 0区	②(6.8) ③(8.4)	胴部下位外面ハケ、内面摩耗のため調整不明。底部外面ナデ。	A密。2.0mm以下の石英・長石をやや多めに含む。Bやや不良 C外：にぶい黄褐色10YR7.3、明黄褐色10YR7.6、内：灰3.5Y6.1~5.1	
0579	弥生土器	深鉢	SD-03 6区 SD-04 4区	②(3.6)	外面突帯部に刻み目、他は条痕か？内面は摩耗のため調整不明。	Aやや粗い。1.5mm以下の石英・長石を多めに含む。Bやや不良 C外：にぶい黄褐色7.5YR6.4 内：にぶい黄2.5Y6.3	
0580	土製品	土製勾玉	SD-3 3区	長3.5 幅2.2 厚1.7	内外面ともユビナデ。	A密。2.0mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 C黒色10YR2.1、にぶい黄褐色10YR6.4	
0581	弥生土器	甕	SD-4 1・2区ベルト3層 火事被災(SD-3, 4)	②(4.8) ③8.1	胴部外面ハケ、内面ナデ。底部外面ナデ。	A粗い。4.0mm以下の石英・長石を多量に含む。B良好 C外：明赤褐色5YR5.6、黒褐7.5YR3.2、内：褐7.5YR6.8、黒褐7.5YR3.2	底部内外面にタール状の物質付着、底部外面ス付着。
0582	弥生土器	甕	SD-4 2、3区ベルト2層	②(3.1) ③(8.4)	胴部外面ハケ、内面ナデ。底部外面ナデ。	Aやや粗い。2.0mm以下の石英・長石を多めに含む。B良好 C外：褐7.5YR7.6、にぶい黄褐色10YR7.4、褐灰7.5YR5.1 内：褐7.5YR7.6	
0583	土師器	器台	SD-4 4区下層	②(6.3) ③(10.1)	体部外面工具使用のナデ、内面ユビナデ。底部端部ナデ。	A密。1.0mm以下の白色粒を少量含む。B良好 Cにぶい黄褐色7.5YR6.4	
0584	土師器	杯	SD-5 1区	②(1.1) ③(10.0)	体部内外面ともヨコナデ。底部外面は回転糸切り、板状圧痕あり、内面不定方向のナデ。	A密。3.0mm以下の石英・長石を微量含む。B良好 Cにぶい黄褐色10YR7.4	
0585	石器	剥片	SD-5	長3.2 幅1.5 厚0.35 重2.1			黒曜石
0586	縄文土器	浅鉢	SD-7 1区	②(3.2)	口縁端部はナデ？口縁から体部内外面ともミガキ。	Aやや粗い。1.5mm以下の石英・長石を多量に含む。Bやや良好 C外：にぶい黄褐色7.5YR6.3、黒灰N3.1、内：明赤褐色5YR5.6、褐灰7.5YR4.1、黒7.5YR7.1	広田式
0587	縄文土器	浅鉢	SD-7 1区	②(5.3)	口縁端部はナデ？口縁から体部内外面ともミガキ。	Aやや粗い。1.0mm以下の石英・長石を多量に含む。B良好 Cにぶい黄褐色7.5YR6.3、褐灰7.5YR4.1、黒褐10YR3.2	広田式
0588	縄文土器	浅鉢	SD-7 1区	②(10.1)	口縁から体部内外面とも摩耗気味内外面ともミガキが残る。	A密。微細な白色粒を少量含む。Bやや良好 C外：褐7.5YR7.6、にぶい黄褐色10YR7.3、褐灰7.5YR4.1、内：黒褐10YR3.1、にぶい黄褐色10YR7.2	広田式
0589	縄文土器	深鉢	SD-7 1区	②(2.3)	口縁部外面は沈線文、内面はミガキ。	Aやや粗い。1.0mm以下の白色粒、角閃石を微量に含む。B良好 C明赤褐色5YR5.6、灰褐色5YR4.2	広田式
0590	縄文土器	浅鉢	SD-7 1区	②(2.5)	口縁部内外面ともミガキ。	A密。微細な白色粒を少量含む。B良好 C外：灰黄2.5Y6.2、黄灰2.5Y4.1、内：灰黄2.5Y6.2、明灰N3.1	端部にハケ工具の痕跡あり。広田式。
0591	弥生土器	深鉢	SD-7 1区	②(4.2)	口縁端部は刻み目突帯、口縁部内外面ともナデ。	Aやや粗い。1.5mm以下の石英・長石を多量に含む。角閃石あり。Bやや良好 C外：にぶい赤褐色5YR4.3、黒褐5YR3.1、内：褐灰N3.1	刻目突帯文土器
0592	弥生土器	深鉢	SD-7 1区周辺検出時	②(2.95)	口縁端部は外面に刻み目、内面はナデ。口縁部外面はナデ、内面は条痕？	Aやや粗い。1.5mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 Cにぶい黄褐色10YR7.3、黒褐10YR1.7	刻目突帯文土器
0593	弥生土器	深鉢	SD-7 1区	②(3.5)	口縁端部は外面に刻み目、内面はナデ。口縁部内外面とも条痕。	A密。1.5mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 C外：にぶい黄褐色10YR7.3、黒褐10YR3.1、内：にぶい黄褐色10YR7.3、褐灰10YR4.1	刻目突帯文土器
0594	弥生土器	深鉢	SD-7 1区周辺検出時	②(3.95)	口縁端部は外面に刻み目。口縁部内外面とも条痕。	A密。1.5mm以下の石英・長石を多めに含む。B良好 C外：赤褐色5YR4.6、内：明赤褐色5YR5.6	刻目突帯文土器
0595	石器	石鏝	SD-7 1区周辺検出時	長2.35 幅1.4 厚0.4 重1.4			安山岩
0596	弥生土器	袋状口縁蓋	SD-7 1区周辺検出時	②(4.8)	外面はミガキ、内面はナデ。	A粗い。2.0mm以下の石英・長石を多めに含む。Bやや良好 C外：灰白10YR8.2、にぶい黄褐色10YR7.4、内：灰白10YR7.1、灰黄褐色10YR5.2	
0597	弥生土器	甕先口縁蓋	SD-7 1区	②(3.0)	口縁部内外面ともヨコナデ？	A密。1.5mm以下の石英・長石を少量含む。Bやや不良 C明赤褐色5YR5.6、褐7.5YR6.6	外面に赤色顔料か？
0598	土師器	甕	SD-7 1区周辺検出時	①(15.6) ②(20.5)	口縁部内外面ともヨコナデ。胴部外面上位ヨコハケ中位以下タテ・ナメハケ、内面上位はヨコハケズリ、中位以下タテ・ナメハケズリ。	A密。2.5mm以下の石英・長石を多めに含む。Bやや不良 C外：にぶい黄褐色10YR7.4、褐7.5YR7.6、にぶい黄7.5YR5.3、内：にぶい黄褐色10YR7.4、灰黄褐色10YR5.2	
0599	土師器	甕	SD-7 2区	②(4.4)	口縁部外面ヨコナデ後ハケ、内面ハケ。胴部外面ヨコナデ後ハケ。内面口縁部と胴部との境界はナデ、以下はハラケズリ。	A密。1.5mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 C外：にぶい黄褐色10YR7.4~10YR6.4、内：褐7.5YR7.6、浅黄褐色10YR8.3	
0600	土師器	甕	SD-7 1区周辺検出時	②(7.7)	口縁部外面ナデ、内面ハケ。胴部外面ハケ、内面ハラケズリ。	A密。2.5mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 Cにぶい黄褐色10YR7.1、褐灰10YR4.1	
0601	土師器	脚付小型丸底蓋	SD-7 1区周辺検出時	①10.1 ②(7.8)	口縁から体部内外面ともヨコナデ後ミガキ、外面口縁部と体部との境界にハケが残る。脚部外面ハケ後ヨコナデ、内面はナデ。	A密。1.0mm以下の石英・長石を少量含む。Bやや良好 C外：にぶい黄褐色10YR7.3、黒褐10YR2.2、褐7.5YR6.6、内：にぶい黄褐色10YR7.3、黒褐10YR2.2	
0602	土師器	鉢	SD-7 1区	①(12.9) ②11.05	口縁部外面ナデ、内面ハケ。体部外面は粗いハケ、内面ユビナデ。底部外面はナデ。	A粗い。2.5mm以下の石英・長石を多量に含む。Bやや不良 C外：にぶい黄褐色10YR7.4、灰黄褐色10YR4.2、褐5YR6.6、内：灰黄褐色10YR6.2~5.2	底部外面に黒斑あり。
0603	弥生土器	甕	SD-07 2区	①(32.0) ②口径~体部上位(6.3) ③体部中位~底部(17.5)	口縁部外面はヨコナデ、内面は摩耗しているがハケか？胴部外面ハケ、内面は摩耗のため調整不明。内面底部付近はナデ。	A密。3.0mm以下の石英・長石を多量に含む。Bやや不良 Cにぶい黄褐色7.5YR7.4	
0604	土師器	器台	SD-8 西側検出時	②(8.7) 脚部径(18.0)	体部外面ハケ、内面ハケ後ユビナデ。最下位ヨコナデ。底部端部ケズリ。	Aやや粗い。1.5mm以下の石英・長石を多めに含む。B良好 C外：にぶい黄褐色10YR6.3、にぶい黄褐色10YR5.3、内：にぶい黄褐色7.5YR6.4	
0605	縄文土器	深鉢	SD-10 1区周辺検出時	②(6.2)	口縁端部はナデ。口縁部外面は条痕、内面はナデ。	A粗い。4.0mm以下の石英・長石を多量に含む。B良好 C外：灰黄褐色10YR6.2、褐灰10YR5.1、内：にぶい黄褐色10YR7.2、灰黄褐色10YR6.2	
0606	縄文土器	深鉢	SD-10 1区周辺検出時	②(5.45)	口縁部内外面ともナデ。	A粗い。3.0mm以下の石英・長石を多量に含む。B良好 C外：灰黄褐色10YR5.2、黒褐10YR3.1、内：灰黄褐色10YR5.2	
0607	縄文土器	鉢	SD-10 1区周辺検出時	②(2.65)	口縁端部に浅く幅広い沈線。口縁部内外面ともナデ。	Aやや粗い。1.5mm以下の白色粒を多量に含む。Bやや不良 C外：にぶい黄褐色10YR7.4、灰黄褐色10YR5.2、内：にぶい黄褐色10YR7.4	
0608	陶磁器	青磁鉢	SD-10 3区周辺検出時	②(3.6)	内外面とも施釉。外面に銘連弁を施文。	A密 B良好 Cオリーブ灰5GY6.1、光沢のある透明釉。外：面に貫入あり。	龍泉窯系。
0609	石器	磁石	SD-10 3区周辺検出時	長(8.45) 幅(2.8) 厚1.1 重32.9			表面に黒褐色の炭化物付着。
0610	土師器	小型丸底蓋	SD-10 1区	①(3.0) ②(8.0)	口縁部内外面ともハケ。胴部外面ハケ、内面ナデ。	A密。微細な白色粒を微量含む。B良好 C外：灰黄2.5Y7.2、にぶい黄褐色10YR7.4、内：灰黄2.5Y7.2、にぶい黄褐色10YR6.4	
0611	土師器	甕	SD-10 3区周辺検出時	①(15.0) ②(8.6)	口縁部内外面ともヨコナデ。胴部外面上位はヨコナデ、中位以下ヨコハケ、内面上位はハラケズリ、中位以下はナデ？	Aやや粗い。2.0mm以下の石英・長石を多めに含む。B不良 C浅黄褐色10YR8.4	
0612	土師器	高杯	SD-10 1区周辺検出時	①22.1 ②(7.8)	口縁部上位は内外面ともヨコナデ。中位以下は内外面ともミガキ。外面口縁部と体部との境界はヨコナデ。	A密。1.0mm以下の石英・長石を多めに含む。Bやや不良 C外：褐7.5YR6.6~7.6、内：にぶい黄7.5YR6.4、にぶい黄7.5YR5.3	外面に放射状に黒色の文様あり。
0613	土師器	小型丸底鉢	SD-10 3区周辺検出時	①11.4 ②7.7	口縁部内外面ともヨコナデ。胴部内外面ともミガキ。	A密。1.0mm以下の白色粒を微量含む。B良好 C外：褐7.5YR6.6、黒7.5YR1.7.1、内：褐7.5YR6.6、褐灰7.5YR4.1	胴部外面に黒斑あり。

表2 石勺遺跡K地点調査遺物観察表⑮

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量 (cm/g) ①口径 ②器高 ③底径 ④最大径(復元)	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備考
0614	土師器	鉢	SD-10 3区周辺検出時	②(3.5)	口縁部外面は工具使用のナデ、内面は条痕?	Aやや粗い。2.0mm以下の石英・長石を多めに含む。Bやや良好 C外: 赤い赤褐色5YR4/4、暗褐色10YR3/4、内: 灰褐色5YR4/2、赤い黄褐色10YR7/4	
0615	土師器	鉢	SD-10 3区	①(13.0) ②3.9	口縁部外面はナデ? 内面ミガキ。体部外面は粗いミガキ。	A密。3.0mm以下の石英・長石を少量含む。Bやや不良 C外: 褐色5YR6/8、赤い黄褐色10YR7/4、内: 赤い黄褐色10YR7/3、褐色5YR6/8、灰N4	
0616	土師器	鉢	SD-10 1区周辺検出時	①(14.8) ②(4.9)	口縁から体部内外面ともミガキ。	A密。2.5mm以下の石英・長石を多めに含む。Bやや不良 C外: 褐色5YR6/8、黄褐色10YR8/4、内: 褐色5YR6/8	
0617	弥生土器	甕棺	SD-10 3区北側甕棺	②(40.1) 胴部径(58.0)	胴部外面中位はハケ、下位はハケ後ミガキ、中位と下位に突帯を貼りつける(突帯部に刻み目)、内面はハケ後一部ナデ。	A密。8.0mm以下の石英・2.0mm以下の長石をやや多めに含む。1.0mm以下の角閃石、微細な雲母を含む。B良好 C外: 褐色2.5YR6/8、明黄褐色10YR7/6、黒N2、内: 褐色2.5YR6/8	外面に黒染あり。
0618	須恵器	杯身	SD-11 3区黄褐色土	②(2.4) 高台径(12.4)	体部内外面とも回転ナデ。底部内面は不定方向のナデ、外面は回転ヘラ切り後ナデ。高台は回転ナデ。	A密。2.0mm以下の白色粒を少量含む。B良好 C外: 暗灰N3、内: 青灰5B5/1	底部外面に降灰による自然軸。杯B。
0619	須恵器	杯身	SD-11 6区下層	②(2.9) 高台径11.6	体部内外面とも回転ナデ。底部外面回転ナデ。高台は回転ナデ。	A密。1.0mm以下の白色粒を微量含む。B良好 C外: 灰白10YR7/1、灰黄褐色10YR6/2、褐色10YR5/1、内: 灰白10YR7/1、灰黄褐色10YR6/2	杯B。
0620	須恵器	杯身	SD-11 7区上層	②(2.4)	体部外面下位に回転ヘラケズリ、底部内外面とも回転ナデ。高台回転ナデ。	A密。微細な白色粒を微量含む。B良好 C外: 灰N5、N4、内: 灰N5	杯B
0621	須恵器	高杯	SD-11 7区上層	②(6.1) 裾部径9.8	杯底部内面ナデ、体部付近に回転ナデ。脚部内外面に回転ナデ。	A密。1.5mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 C外: 灰N6、N4	
0622	陶磁器	青磁碗	SD-11 6区下層	②(2.7) 高台径5.6	底部内面、高台の外周まで施釉。底部外面は回転ヘラケズリ。見込みに草花文のスタンプ、外面に精進弁を施文。	A素地精良。灰白N8/ B良好 C輪調明オリブ5GY7/1、半透明、光沢あり。外面にピンホール。	龍泉窯系。
0623	陶磁器	白磁碗	SD-11 1区上層	②(2.5)	内外面とも施釉。	A素地精良 B良好 C輪調灰白7.5Y7/1、光沢あり。半透明釉。ピンホールあり。	
0624	陶磁器	白磁碗	SD-11 3区最下層	②(1.55) 高台径5.0	底部内面、高台の外周まで施釉。底部外面は回転ヘラケズリ。見込みに段あり。	A素地精良。灰白7.5Y8/1 B良好 C輪調明オリブ灰2.5GY7/1、光沢あり。透明釉。	灰類。
0625	陶磁器	白磁碗	SD-11 3区黄褐色土	②(2.3) 高台径(5.8)	底部内面、高台の外周まで施釉。底部外面は回転ヘラケズリ。見込みに段あり。底部外面から高台部まで回転ヘラケズリで露胎。	A素地精良。灰白N8/ B良好 C輪調灰白5GY8/1、透明釉、光沢あり。	
0626	陶磁器	白磁碗	SD-11 1区下層	②(1.85)	内面底部、外面高台まで施釉。底部外面は回転ヘラケズリ。	A素地精良。灰白2.5Y8/1 B良好 C輪調灰白7.5Y7/1、柔らかい光沢あり。貫入が入る。ピンホールあり。	
0627	陶磁器	白磁碗	SD-11 3区黄褐色土	②(1.3) 高台径6.6	底部内面は施釉。外面は体部下位から底部を回転ヘラケズリし露胎。見込みに段あり。	A素地精良。灰白10Y8/1 B良好 C輪調灰白2.5Y8/2、半透明。貫入あり。部分的に光沢あり。	
0628	陶磁器	白磁碗	SD-11 1区上層	②(2.4)	底部内面は施釉。見込みに段あり。外面は底部まで回転ヘラケズリ、露胎。	A素地精良。灰白2.5Y8/1 B良好 C輪調灰白2.5Y8/2、光沢あり。半透明釉。ピンホールあり。	
0629	陶磁器	白磁皿	SD-11 3区最下層	②(1.0) ③5.6	底部内面、体部外面は施釉。底部外面は回転ヘラケズリを露胎。	A素地精良。灰白N8/ B良好 C輪調オリブ灰2.5GY6/1、光沢あり。透明釉。	灰類。
0630	陶磁器	白磁皿	SD-11 4区最下層	②(1.9) 高台径(6.0)	底部内面、高台の外周まで施釉。底部外面は回転ヘラケズリ。	A素地精良。灰白N8/ B良好 C輪調灰白5GY8/1、透明釉、光沢あり。	
0631	土師器	碗	SD-11 7区下層	①(16.2) ②6.0 高台径6.65	口縁部外面ヨコナデ、内面上位ヨコナデ。体部外面ナデ、内面はミガキ。底部外面から高台部までヨコナデ。	A密。2.0mm以下の石英・長石をやや多めに含む。Bやや良好 C外: 赤い赤褐色5YR4/4、暗褐色10YR3/4、内: 赤い黄褐色10YR7/3、灰黄褐色10YR5/2、黒褐色10YR3/1	
0632	土師器	小皿	SD-11 7区下層	①(9.4) ②1.5 ③(6.4)	口縁部内外面ともヨコナデ。底部内面は不定方向のナデ、外面は回転ヘラ切り後ナデ。板状圧痕あり。	A密。微細な白色粒を微量含む。B良好 C外: 赤い黄褐色10YR7/3	
0633	土師器	小皿	SD-11 7区下層	①(9.4) ②1.4 ③(6.8)	口縁部内外面ともヨコナデ。底部内面は不定方向のナデ、外面は回転ヘラ切り後ナデ。板状圧痕あり。	A密。1.0mm以下の石英・長石を少量含む。Bやや良好 C外: 灰黄2.5Y7/3、灰N4、内: 灰黄2.5Y7/1	
0634	弥生土器	甕	SD-11 6区下層	②(4.5) ③(7.6)	胴部外面下位は工具使用のナデ、底部外面ナデ。他は摩耗のため調整不明。	A密。3.0mm以下の石英・長石を少量含む。Bやや良好 C外: 褐色2.5Y7/3~7/4、内: 浅黄褐色10YR8/3	
0635	土師器	高杯	SD-11 3区黒褐色土	②(7.5)	口縁部外面はヨコナデ、内面はヨコナデ後一部ハケ。	A粗い。2.0mm以下の石英・長石を多量に含む。B良好 C外: 赤い黄褐色10YR7/3	
0636	土師器	甕	SD-11 4区最下層	②(9.7)	口縁部外面はヨコナデ、内面はヨコナデ後一部ハケ。胴部外面上位に突帯(刻み目)、工具使用のナデ、内面はハケ。	A密。1.0mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 C外: 灰黄2.5Y7/2、赤い赤褐色5YR4/4、内: 褐色5YR6/8、明黄褐色10YR7/6	
0637	土師器	鉢	SD-11 4区最下層	①9.55 ②4.0	内外面ともナデ。	A密。1.5mm以下の白色粒を微量含む。B良好 C外: 黒N2、灰N6、浅黄2.5Y7/3、内: 黒N2、黄灰2.5Y5/1	
0638	土師器	鉢	SD-11 4区最下層	①8.0 ②6.1	内外面ともヨコナデ。	A密。2.0mm以下の石英・長石を多めに含む。Bやや不良 C外: 赤い黄褐色10YR7/4、暗灰N3、褐色5YR6/8、内: 褐色5YR6/6	
0639	土師器	甕	SD-11 6区上層	②(7.0)	ナデ。	A密。2.0mm以下の石英・長石を少量含む。Bやや良好 C外: 赤い黄褐色10YR7/3	
0640	瓦質土器	搦鉢	SD-11 7区下層	②(10.05)	口縁部は磨耗と器面剥離のため調整不明。体部外面ハケ、内面ハケ後摺り目。	A密。2.0mm以下の石英・長石をやや多めに含む。Bやや不良 C浅黄褐色10YR8/3	
0641	瓦質土器	搦鉢	SD-11 5・6区ベルト下層	②(5.25)	口縁部外面はヨコナデ。口縁部外面上位にハケ、下位はナデ、内面はハケ後ミガキ。	Aやや粗い。2.5mm以下の白色粒・黒色粒を少量含む。B良好 C外: 灰白5Y8/1、灰N4、内: 灰白5Y8/1	
0642	瓦質土器	搦鉢	SD-11 6区下層	②(4.65)	体部外面ハケ、内面ハケ後摺り目。	A密。2.0mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 C外: 灰白N8	
0643	土製品	棒状土製品	SD-11 1区上層	長7.5 幅5.15 厚4.15	ナデ。	A密。3.0mm以下の石英・長石を多めに含む。Bやや不良 C浅黄褐色10YR8/4~灰黄褐色10YR6/2	
0644	石製品	石錘	SD-11 7区上層	②(7.1)	内外面とも面ヘラケズリ。		滑石製。
0645	石器	凹石	SD-11 5区最下層	長10.05 幅7.7 厚3.5 重460.2			
0646	須恵器	杯蓋	SD-12 6区最下層	②(3.5)	内外面とも回転ナデ、口縁部内面端部付近に沈線が運る。	A密。微細な白色粒を微量含む。B良好 C外: 灰N6	杯B。
0647	須恵器	皿	SD-12 4区底面ピット	①(17.0) ②1.9	口縁部内外面とも回転ナデ。底部外面は回転ヘラ切り後ナデ、内面は不定方向のナデ。	A密。1.5mm以下の白色粒を少量含む。Bやや良好 C外: 灰白5Y7/1、灰N5、内: 灰白5Y7/1、黄灰2.5Y5/1	
0648	須恵器	皿	SD-12 5区最下層	①(20.0) ②3.1	口縁部内外面とも回転ナデ。底部外面は中央は回転ヘラケズリ、周縁は回転ヘラ切り後ナデ、内面は不定方向のナデ。	A密。微細な白色粒を少量含む。B良好 C外: 灰N5	
0649	陶磁器	青磁碗	SD-12 4区最下層	②(5.0)	内外面とも施釉。体部内面片切り彫りの文様。	A素地精良。灰白N7/ B良好 C輪調オリブ灰2GY6/1、透明釉、光沢あり。	龍泉窯系。
0650	陶磁器	白磁碗	SD-12 5区最下層	②(2.0)	内外面とも施釉。	A素地精良。灰白N8/ B良好 C輪調灰白7.5Y7/2、透明釉、光沢あり。	
0651	陶磁器	緑釉陶器碗	SD-12 4区底面溝	②(1.2)	内外面とも施釉。	A素地悪。微細な白色粒を微量含む。灰白5Y8/2、5Y7/1 Bやや良好(軟質) C輪調明黄緑色を呈す。光沢あり。細か、貫入あり。	
0652	土師器	碗	SD-12 4区最下層	②(3.3) 高台径6.3	外面は摩耗のため調整不明、内面はミガキ?	A密。2.0mm以下の石英・長石を少量含む。B不良 C浅黄褐色10YR8/4	
0653	土師器	碗	SD-12 6区上層	②(2.0) 高台径6.4	底部内面はミガキ、外面は高台部までヨコナデ。	A密。微細な白色粒を微量含む。Bやや良好 C外: 灰7.5Y5/1~6/1、内: 灰7.5Y5/1	
0654	土師器	丸底杯	SD-12 6区最下層	①(15.4) ②3.7	口縁部外面から口縁部外面上位までヨコナデ。内面は口縁部から底部までミガキ。体部外面から底部は回転ヘラ切り後ナデ。	A密。1.0mm以下の石英・長石を微量含む。Bやや良好 C浅黄褐色10YR8/4	
0655	土師器	高杯	SD-12 1区	②(7.2) 裾部径(10.0)	胴部外面上位はヨコナデ、中位以下はナデ、内面ヘラケズリ。裾部は内外面ともヨコナデ。	A密。2.0mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 C明赤褐色5YR5/6	
0656	土師器	鉢	SD-12 4区	①(6.5) ②5.2~5.7 ③(3.8)	内外面ともナデ。	A密。1.5mm以下の石英・長石を少量含む。Bやや良好 C外: 赤い黄褐色10YR7/4、10YR6/3、内: 赤い黄褐色10YR7/4	
0657	弥生土器	甕棺	SD-12 4区最下層	②(7.4)	内外面とも摩耗のため調整不明。	A密。3.0mm以下の石英・長石を多量に含む。Bやや不良 C外: 赤い黄褐色10YR7/4	
0658	土師器	甕	SD-12 5区	②(7.1)	体部外面下位ハケ、内面ヘラケズリ。	A密。2.5mm以下の石英・長石を多量に含む。Bやや良好 C外: 赤い黄褐色10YR6/3、赤い褐色7.5YR6/4、内: 赤い褐色7.5YR5/4	
0659	土師器	甕	SD-17 1区上層	②(20.1)	体部内外面とも工具を使用したナデ。	Aやや粗い。3.0mm以下の石英・長石・角閃石・赤褐色粒を少量含む。Bやや良好 C外: 浅黄褐色10YR8/3、褐色7.5YR7/6、内: 浅黄褐色10YR8/3	
0660	土師器	甕	SD-12 6区上層	②(5.0)	ナデ。	A密。微細な白色粒を微量含む。Bやや良好 C灰7.5Y6/1~暗灰N3	
0661	土製品	棒状土製品	SD-12 3・4区ベルト最下層	長15.3 幅5.2 厚2.9 重226.6	ナデ。	A密。3.0mm以下の石英・長石をやや多めに含む。Bやや不良 C灰白10YR8/2、赤い黄褐色10YR7/4、黄灰2.5Y7/2	
0662	石器	磨石	SD-12 6区	長8.9 幅6.3 厚3.85 重328.0			
0663	土師器	甕	SD-13 2区	②(5.5)	ナデ。	Aやや粗い。2.5mm以下の石英・長石をやや多めに含む。Bやや不良 C浅黄褐色10YR8/4、褐色7.5YR6/6、褐色7.5YR4/1	
0664	土製品	不明土製品	SD-13 2区	長4.2 幅2.0 厚1.5 重12.1	ナデ。	A密。微細な白色粒を微量含む。Bやや不良 C灰7.5YR6/6、浅黄褐色10YR8/3	

表2 石勺遺跡K地点調査遺物観察表⑬

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量 (cm/g) ①口径 ②器高 ③底径 ④最大径(復元)	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備考
0665	土師器	杯	SD-15 1区下層	②(1.0) ③(7.8)	体部内外面ともヨコナデ。底部外面は回転糸切り、内面はナデ。	A密。微細な白色粒を微量含む。B良好 C外：灰黄2.5Y7.2、灰黄2.5Y6.2	
0666	弥生土器	甕	SD-17 1区	②(6.2)	口縁部は内外面とも摩耗のため調整不明。外面口縁部と胴部との境界にヨコナデ、以下は摩耗のため調整不明、胴部内面はヨコナデ。	Aやや粗い。1.5mm以下の石英・長石・赤褐色粒を多めに含む。B不良 Cにぶい黄褐色10YR7.3	
0667	弥生土器	器台	SD-17 1区	②16.15 受部径8.4 胴部径11.0	口縁部はナデ。体部外面は工具使用のナデ。底部内面下位から端部までナデ。	A密。1.0mm以下の白色粒を微量含む。B良好 Cにぶい黄褐色10YR6.4、にぶい黄褐色10YR5.3	
0668	弥生土器	蓋	SD-17 1区	①15.7 ②3.2	外面は天井部から口縁までナデ、内面もナデ?	Aやや粗い。1.5mm以下の石英・長石を少量含む。Bやや不良 C外：にぶい黄褐色10YR7.4、明赤褐2.5YR5.6、内：浅黄褐7.5YR6.6、にぶい黄褐色10YR6.4	口縁部に対称位置に穿孔あり。外面は丹塗り。
0669	土師器	丸底杯	SD-18 2区	①(14.8) ②(3.0)	口縁部外面ヨコナデ、内面はミガキ。体部外面は回転ヘラ切り後ナデ。	A密。3.0mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 C外：灰黄2.5Y7.3、内：浅黄褐10YR8.3	
0670	弥生土器	甕	SD-19 2区	②(2.8) ③9.0	体部下位から底部外面はナデ、底部内面ナデ。	Aやや粗い。4.0mm以下の石英・長石を多めに含む。Bやや良好 C外：にぶい黄褐色10YR6.4、明黄褐10YR7.6	
0671	弥生土器	甕	SD-19 2区 ②(4.5) ③(10.0)	体部内外面とも摩耗のため調整不明。底部外面はナデ?	Aやや粗い。2.0mm以下の石英・長石を多量に含む。B不良 C外：黄褐色10YR8.4		
0672	土師器	小型丸底蓋	SD-20 4区下層確認トレンチ	②(8.3) ④(9.0)	口縁部外面上位はハケ、下位はヨコナデ、内面はハケ。胴部外面上位にハケ、下位はナデ、内面ナデ。	A密。3.0mm以下の石英・長石を少量含む。Bやや不良 C外：灰黄2.5Y4.1、2.5Y6.1、内：灰黄2.5Y4.1	
0673	土師器	甕	SD-20 4区上層	①(14.0) ②(4.3)	口縁部内外面ともヨコナデ。外面口縁部と胴部との境界にハケ、胴部外面上位はヨコナデ、以下ハケ、内面ハケ。	A密。1.5mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 C灰黄褐10YR4.2	
0674	弥生土器	甕	SD-20 1区下層	②(5.8) ③(9.0)	体部外面は工具使用のナデ、内面は摩耗のため調整不明。底部外面はナデ。	A密。3.0mm以下の石英・長石をやや多めに含む。Bやや不良 C外：黄褐色10YR6.6、内：黄褐色10YR6.1、にぶい黄褐色10YR7.3	
0675	縄文土器	浅鉢	SD-20 4区上層	②(3.0)	口縁から体部内外面とも糸状後丁寧なナデ。	A密。1.0mm以下の白色粒を多めに含む。Bやや良好 C灰黄2.5Y7.2	広田式。
0676	須恵器	杯身	SD-21 4区検出中 SD-23 2区検出中	②(1.55) 高台径(8.9)	体部内外面とも回転ナデ。底部外面回転ヘラ切り後粗いナデ、内面不定方向のナデ。高台部は回転ナデ。	A密。1.0mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 C灰N5	杯B。
0677	須恵器	短頸壺	SD-21 1区	②(5.4)	ナデ。	A密。微細な白色粒を少量含む。B良好 C外：灰7.5Y6.1~4.1、内：灰7.5Y5.1	
0678	須恵器	鉢	SD-21 1区	②(3.95)	口縁部から体部内外面とも回転ナデ。	A密。1.0mm以下の白色粒を微量含む。B良好 C外：灰N4~5、内：灰3Y6.1	
0679	黒色土器	椀	SD-21 1区	①(15.6) ②(2.6)	口縁部内外面ともヘラミガキ。	A密。微細な白色粒を微量含む。B良好 C黒N1.5	杯B。
0680	黒色土器	椀	SD-21 1区	②(1.4) 高台径(6.2)	底部内面は摩耗のため調整不明、外面はヨコナデ。高台部はヨコナデ。	A密。1.5mm以下の石英・長石を少量含む。Bやや不良 C外：浅黄褐10YR8.4、灰黄2.5Y7.2、内：黒N1.5	
0681	土師器	鉢	SD-21 4区検出中 SD-23 2区検出中	①(11.0) ②(7.8)	内外面とも工具使用のナデ。	A密。2.5mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 C外：にぶい黄褐色10YR6.3、にぶい黄褐色10YR5.3、褐灰10YR4.1、内：にぶい黄褐色10YR6.3、にぶい黄褐色10YR5.3	
0682	弥生土器	甕	SD-21 1区	②(3.0)	口縁部内外面ともナデ。	A粗い。1.5mm以下の石英・長石を多量に含む。Bやや良好 C7.5YR6.6	
0683	弥生土器	甕	SD-21 4区上層	①(28.0) ②(11.5)	口縁部内外面ともヨコナデ。胴部外面ハケ、内面摩耗のため調整不明。	A密。2.0mm以下の石英・長石を少量含む。Bやや良好 C外：明赤褐2.5YR5.6、黄褐色7.5YR7.6、内：黄褐色7.5YR6.6、黄灰2.5Y4.1	
0684	弥生土器	甕	SD-21 4区上層	①(28.0) ②(5.8)	口縁部内外面ともヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ナデ。	Aやや粗い。2.0mm以下の石英・長石をやや多めに含む。Bやや良好 C黄褐色7.5YR6.6、暗灰N3	
0685	土師器	大形鉢	SD-21 5区	①(32.2) ②(9.6)	口縁部から体部外面ナデ、内面はハケ。外面口縁部と体部との境界に指押さえが顯著。	Aやや粗い。1.5mm以下の石英・長石を含む。B良好 C黄褐色10YR6.6	
0686	瓦	平瓦	SD-21 1区	厚1.7	凸面：網目タタキ、凹面：布目痕。	A密。1.5mm以下の白色粒を少量含む。B良好 C凸面：浅黄褐10YR8.4、灰N5、凹面：浅黄褐10YR8.4、灰7.5Y6.1	
0687	土師器	小型丸底蓋	SD-22 北側カクラン	①(9.2) ②7.55	口縁部外面上位ヨコナデ、下位はハケ後ナデ、内面はハケ。胴部外面上位はハケ後ナデ中位以下はナデ、内面はナデ。	A密。2.0mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 C外：にぶい黄褐色10YR7.4、灰黄褐10YR4.2、黒10YR2.1、内：にぶい黄褐色10YR6.4	
0688	弥生土器 土師器	複合口縁蓋	SD-22 北側カクラン	②(2.7)	口縁部外面屈曲部上位に簡文、下位はヨコナデ、内面上位にハケ、下位はヨコナデ。	A密。1.0mm以下の石英・長石を多量に含む。B良好 C外：灰黄2.5Y7.2、黄灰2.5Y5.1、灰黄2.5Y7.2	
0689	土師器	鉢	SD-22 北側カクラン	①(8.2) ②6.7	内外面ともナデ。	A密。1.0mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 C外：黄褐色10YR6.6、灰黄褐10YR5.2、黒褐10YR3.2、内：黄褐色10YR6.6	口縁に歪みあり。
0690	縄文土器	鉢	SD-22 北側カクラン	②残存(2.3)	外面は押型文、内面ナデ。	A密。1.5mm以下の石英・長石を多量に含む。B良好 C外：にぶい黄褐色10YR5.4、内：灰黄褐10YR4.2	
0691	土製品	土製勾玉	SD-22 鉄掘トレンチ	長5.6 幅3.95 厚1.3 重19.1	ナデ?	A密。1.0mm以下の白色粒を少量含む。Bやや不良 C浅黄2.5Y7.4、浅黄褐10YR8.4	
0692	弥生土器 土師器	複合口縁蓋	SD-23 3区	②残存(3.7)	口縁部内外面とも摩耗のため調整不明、外面下位ヨコナデ。	A粗い。2.0mm以下の石英・長石を多量に含む。Bやや不良 C浅黄褐10YR8.3	
0693	土師器	甕	SD-23 3区	①(12.8) ②(8.0)	口縁部内外面ともハケ。胴部外面ハケ、内面ヘラズリ。	A密。3.5mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 C外：にぶい黄褐色10YR7.4、黒褐10YR2.2、内：にぶい黄褐色10YR7.4、褐灰10YR4.1	
0694	須恵器	杯身	SD-23 1・2区ベルト	①(12.9) ②4.0 受部径(15.1)	口縁部内外面とも回転ナデ。体部外面回転ヘラズリ、内面回転ナデ、中央ナデ。	A密。3.5mm以下の石英・長石をやや多めに含む。B良好 C灰N5	杯H。
0695	須恵器	杯身	SD-23 1・2区ベルト	②(2.8) 高台径(10.2)	体部内外面とも回転ナデ。底部は内外面ともナデ。高台は回転ナデ。	A密。1.5mm以下の白色粒を少量含む。B良好 C外：灰3Y5.1、内：灰7.5Y6.1	杯B。
0696	石器	石包丁	SD-23 2区下層の遺構	内孔径0.4~0.5 長さ1.25 幅(7.25) 厚0.75		C暗褐~極暗赤褐5YR2.1~2/3	孔周辺がやや磨滅か、表面ともわずかにススが附着している。
0697	弥生土器	甕	SD-24 2区	②(3.1)	口縁部から外面は摩耗のため調整不明、内面はナデ。	Aやや粗い。1.0mm以下の石英・長石を多めに含む。Bやや不良 C外：にぶい黄褐色10YR5.4、赤褐2.5YR4.6、にぶい黄褐色10YR4.2	口縁部から外面に丹塗り。
0698	須恵器	杯身	SD-24 2区	②(1.7) 高台径(11.8)	外面回転ナデ、内面ナデ。	A密。1.0mm以下の白色粒を少量含む。B良好 C灰黄褐10YR6.2	杯B。
0699	須恵器	杯	SD-25	②1.95 ③(12.0)	内外面回転ナデ?	A密 B不良 C灰白~灰黄2.5Y8.2~7/2	杯A?
0700	土師器	甕	SD-27	①(12.6) ②5.65	口縁部内外面ともナデ。頸部内面ナデ。体部内面ヘラズリ。	A密 B良好 C浅黄褐~黄7.5YR8.3~8/8	
0701	土師器	甕	SD-27	②3.95	頸部外面タタキ後ナデ。体部外面タタキ。頸部内面ナデ。体部内面ヘラズリ。	A密 細い長石が目立つ B良好 C外：灰白~黄褐10YR2.1~8/6 内：灰褐7.5YR5.2~4/2	黒曜石製
0702	石器	石鏃	SK-5 南北ベルト1層	長(2.25) 幅1.75 厚0.3 重0.9			
0703	土師器	鉢	SK-10	②(4.1)	内外面ともタタキ後ハケ。	Aやや粗い。2.0mm以下の石英・長石を多量に含む。B良好 C外：黄褐色10YR6.5、にぶい黄褐色10YR7.4、内：にぶい黄褐色10YR6.4、灰褐7.5YR4.2	
0704	土師器	杯	SK-11	②(0.95) ③(9.1)	体部内外面ともヨコナデ。底部外面は回転糸切り、内面中心付近はナデ周縁はヨコナデ。	A密。1.5mm以下の石英・長石を少量含む。Bやや良好 Cにぶい黄褐色10YR6.3	
0705	弥生土器	甕	SK-11	②(3.4) ③(8.6)	外面は摩耗のため調整不明。	A密。1.5mm以下の石英・長石を多量に含む。B不良 C外：にぶい黄褐色10YR6.3、内：黒褐10YR3.2	
0706	土師器	鉢	SK-11 SK-16 1・2区ベルト	②(8.0)	口縁部外面ヨコナデ、内面はハケ後ナデ。体部外面上位にハケ、中位以下平行タタキ、内面ナデ。	A密。2.0mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 C外：にぶい黄褐色10YR7.3、10YR6.3、内：にぶい黄褐色10YR7.3	
0707	須恵器	杯身	SK-13	①(11.2) ②(3.65) 受部径(14.3)	内外面とも回転ナデ。	A密。1.5mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 C灰N4	杯H。
0708	土師器	鉢	SK-14	②(6.2)	口縁部から口縁部外面ナデ、内面はハケ。体部外面ナデ後一部ハケ、内面ナデ。	A粗い。1.5mm以下の石英・長石をやや多めに含む。Bやや良好 C外：にぶい黄褐色10YR7.3、内：暗灰N3	
0709	土師器	椀	SK-16 周辺包含層	②2.6 高台径(7.6)	体部外面から高台部までヨコナデ、内面ヨコナデ。底部外面ナデ(板状圧痕あり)、内面不定方向のナデ。	A密。1.0mm以下の白色粒を微量含む。B良好 Cにぶい黄褐色10YR7.3	
0710	土師器	小型甕	SK-16 周辺包含層	①(11.0) ②(7.75)	口縁部はヨコナデ。口縁部内外面ハケ。体部外面ハケ、内面ヘラズリ。	A密。2.0mm以下の石英・長石を少量含む。Bやや良好 Cにぶい黄褐色10YR5.3、内：灰黄褐10YR4.2	
0711	弥生土器	甕	SK-18 下層	②&4 ③7.1	体部外面タテハケ、底部付近ヘラミガキ。底部ナデ。体部内面ナデ。	Aやや粗い B良好 C黄褐~明褐7.5YR7.8~5/8	
0712	弥生土器	甕	SK-18 下層	②12.05 ③7.4	体部外面ナデ後タテヘラミガキ。底部ナデ。体部内面ナデ。	A粗くもろい Bやや粗い C外：黄褐色7.5YR6.6~6/6 内：明褐灰~灰褐5YR7.2~6/2	
0713	弥生土器	甕	SK-18	②13.3	体部外面タテハケ、内面ナデ。	A粗 B粗 Cにぶい黄褐色7.5YR5.3~5/8	
0714	土師器	甕	SK-19	①14.2 ②12.4 ③4.1	口縁部内外面ヨコナデ体部外面タタキ後一部ナデ、下底面はタタキ後ナデ。底部ナデ。体部内面ナデ?	A密 B良好 C明黄褐~黄褐10YR7.6~7/6	
0715	土師器	高杯	SK-19	①23.6 ②7.4	口縁部ヨコナデ。口縁部内外面ハケ。体部外面ハケ、内面ヘラズリ。	A密 B良好 C黄褐~黄褐10YR7.8~5/8	
0716	弥生土器	高杯	SK-19	②3.85	脚接合部タテハケ後ヘラミガキ。脚上部タテハケ。脚底面内面ヘラミガキ。脚内面ハケ後ナデ。	A密 B良好 C橙~明赤褐5YR6.8~5/8	
0717	石器	砥石	SK-19	①最大長8.8 ②最大幅3.2 ③最大厚2.2			
0718	弥生土器	甕	SK-20 北区	①(17.0) ②2.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面タテハケ後ナデ。体部内面ヨコナデ後ナデ。	A密 B良好 C黄褐10YR6.6~8/8	

表2 石勺遺跡K地点調査遺物観察表⑱

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm/g)①口径 ②器高 ③底径 ④最大径(復元)	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備考
0719	弥生土器	壺	SK-21 東区	②6.5	頸部外面タテヘラミガキ。体部外面ヨコヘラミガキ。内面ナデ。	A密 B良好 C地黄緑黄～黄緑5YR8/3～8.8 赤褐2.5YR4.8	
0720	弥生土器	甕	SK-21 東区	①(20.2) ②9.6	口縁部内外面強いヨコナデ。体部外面タテヘラミガキ後ナデ。体部内面ハケ後ナデ。	A密 B良好 Cにぶい黄～橙5YR6/4～6.8	
0721	縄文土器	浅鉢	SK-21 下段	①(26.6) ②3.0	内外面ヘラミガキ。	A密。微細な石英・長石が自立つ。B良好 C橙～明褐7.5YR6/6～5.6 断面黒褐～黒10YR3/1～2.1	
0722	弥生土器	壺?	SK-22 上段 SK-23	①(61.7) ②16.4	口縁部内外面共に強いヨコナデ。体部外面タテヘラミガキ。体部内面ナデ。頸部内面ナデ。体部外面ナデ。頸部の端部はやや摩滅している。	A密 B良好 C地外: 浅黄緑～黄緑10YR8/4～8.6 内: 浅黄緑～にぶい黄7.5YR8/4～7.4 赤褐2.5YR4/6～4.8	丹塗り。
0723	弥生土器	甕	SK-23 北区 検出中	②1.85 ③(5.2)	体部外面ヘラミガキ。底部ヘラミガキ?一部指押さえ痕。内面ナデ。	A密 B良好 C内: 褐灰～灰黄褐10YR5/1～5.2 外: 地浅黄緑7.5YR8/4～8.6 外: 赤褐～暗赤褐5YR4/6～3.6	
0724	弥生土器	甕	SX-15	①(16.0) ②18.5	口縁部から体部外面中位まで平行タタキ。下位はケズリ後工具使用のナデ。内面は口縁部から底部までハケ。	A粗い。2.0mm以下の石英・長石を多量に含む。B良好 Cにぶい黄緑10YR7/3	
0725	弥生土器	甕	SX-15	①(14.4) ②18.8 ③5.6	口縁部はナデ。口縁部外面は平行タタキ。内面ハケ。体部外面中位まで平行タタキ後ハケ。下位はケズリ後ハケ。内面は底部までナデ。	A密。2.0mm以下の石英・長石。微細な雲母やや多く含む。B良好 C外: 灰黄2.5Y7/2、黒2.5Y2/1、内: 黄灰2.5Y6/1、灰黄2.5Y7/2	
0726	弥生土器	甕	SX-15	①(15.0) ②(14.9)	口縁部はナデ。口縁部内外面はハケ。一部ナデ。体部内外面ハケ。	A密。2.5mm以下の石英・長石を多量に含む。Bや不良 C外: にぶい黄緑10YR7/3、灰黄褐10YR6/2	
0727	弥生土器	鉢	SX-15 床面直上土器 No.1	①13.4 ②6.55	口縁部外面から体部中位までハケ後ナデ。下位はナデ。内面は底部までナデ。	A密。1.5mm以下の石英・長石を少量含む。Bや不良 C外: 浅黄緑10YR8/4、7.5YR8/6、灰5、黒N2、内: 橙7.5YR6/6	外面の体部から底部にかけて下位に黒斑あり。
0728	土器	ミニチュア高杯	SX-15	①4.6 ②3.4 ③(4.2)	内外面ともナデ。	A密。2.0mm以下の石英・長石を少量含む。Bや不良 C外: にぶい黄7.5YR6/4、灰黄褐10YR5/2、内: にぶい黄7.5YR6/4	
0729	縄文土器	深鉢	SX-19 2区	②(5.6)	口縁部はヨコナデ。一部ミガキ。口縁部外面から体部はミガキ。口縁部内面ミガキ。体部内面ナデ。	Aやや粗い。1.0mm以下の石英・長石を多量に含む。B良好 C外: にぶい黄7.5YR6/4、灰褐7.5YR4/2、内: 灰黄褐10YR5/2、にぶい黄緑10YR7/2	
0730	縄文土器	深鉢	SX-19 1区	②(18.5)	口縁部外面から体部中位まで条痕。下位はナデ。内面は口縁部から底部までナデ。	A密。2.5mm以下の石英・長石を多量に含む。Bや不良 Cにぶい黄緑10YR7/4、明赤褐5YR5/6、褐灰5YR4/1	
0731	弥生土器	複合口縁蓋	SX-28 2区	②(3.3)	屈曲部外面上位はヨコナデ。下位はハケ。内面はナデ。	Aやや粗い。2.0mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 Cにぶい黄緑10YR7/3	
0732	土器	小皿	SX-29 1区	①(9.0) ②1.3 ③(6.6)	口縁部内外面ともヨコナデ。底部外面は回転ヘラ切り(仮圧痕あり)。内面不定方向のナデ。	A密。微細な白色粒を微量含む。Bや不良 C灰黄2.5YR7/2	
0733	土器	小皿	SX-29 1区	①(9.8) ②1.3 ③(7.6)	口縁部内外面ともヨコナデ。底部外面は回転ヘラ切り(仮圧痕あり)。内面不定方向のナデ。	A密。微細な白色粒を微量含む。Bや不良 C浅黄緑10YR8/4	
0734	土器	小皿	SX-29 1区	①9.0 ②1.3 ③6.45	口縁部内外面ともヨコナデ。底部外面は回転ヘラ切り(仮圧痕あり)。内面不定方向のナデ。	A密。1.5mm以下の白色粒を少量含む。Bや不良 C灰黄2.5YR8/3	
0735	土器	小皿	SX-29 1区	①(9.8) ②0.9 ③(7.0)	口縁部内外面ともヨコナデ。底部外面は回転ヘラ切り(仮圧痕あり)。内面不定方向のナデ。	A密。1.0mm以下の石英・長石を微量含む。B良好 C外: 浅黄2.5YR7/3、灰黄2.5YR6/2、内: 浅黄2.5YR7/3	
0736	土器	丸底杯	SX-29 No.4	①(14.4) ②3.4	口縁部外面ヨコナデ。内面は口縁部から底部までミガキ。体部外面から底部は回転ヘラ切り後ナデ(仮圧痕あり)。	A密。微細な白色粒を微量含む。Bや不良 C浅黄緑10YR8/3	
0737	土器	丸底杯	SX-29 No.5	①(14.6) ②3.5	口縁部外面ヨコナデ。内面は口縁部から底部までミガキ。体部外面から底部は回転ヘラ切り後ナデ(仮圧痕あり)。	A密。微細な白色粒を微量含む。Bや不良 C外: 浅黄緑10YR8/4、橙7.5YR6/6、内: 浅黄緑10YR8/4	
0738	土器	丸底杯	SX-29 No.2	①15.0 ②3.2	口縁部外面ヨコナデ。内面は口縁部から底部までミガキ。体部外面から底部は回転ヘラ切り後ナデ(仮圧痕あり)。	A密。微細な白色粒を微量含む。B良好 C外: 浅黄緑10YR8/4、にぶい黄緑10YR7/4、内: 浅黄緑10YR8/4	
0739	土器	丸底杯	SX-29 2区	①(16.0) ②3.1	口縁部外面ヨコナデ。内面は口縁部から底部までミガキ。体部外面から底部は回転ヘラ切り後ナデ(仮圧痕あり)。	A密。微細な白色粒を微量含む。Bや不良 C浅黄緑10YR8/4	
0740	土器	丸底杯	SX-29 2区	①15.4 ②3.35	口縁部外面ヨコナデ。内面は口縁部から底部までミガキ。体部外面から底部は回転ヘラ切り後ナデ(仮圧痕あり)。	A密。微細な白色粒を微量含む。B良好 C浅黄緑10YR8/4	
0741	土器	丸底杯	SX-29 No.1	①15.8 ②3.45	口縁部外面ヨコナデ。内面は口縁部から底部までミガキ。体部外面から底部は回転ヘラ切り後ナデ(仮圧痕あり)。	A密。1.0mm以下の白色粒を微量含む。Bや不良 C外: 浅黄緑10YR8/3、内: 灰白10YR8/2	
0742	土器	椀	SX-29 No.4	①(15.4) ②(4.5)	口縁部はヨコナデ。口縁部から体部内外面ともヘラミガキ。	A密。微細な白色粒を微量含む。B良好 C浅黄2.5Y7/3、灰黄2.5Y8/2、黄灰2.5Y5/1	
0743	土器	椀	SX-29 1区(トレンチより南)	②(3.5) 高台径(6.0)	体部内外面ともヘラミガキ。体部外面下位はナデ。高台部はヨコナデ。	A密。微細な白色粒を微量含む。Bや不良 C外: 黄灰2.5Y6/1～5.1、内: 灰10Y5/1	
0744	土器	椀	SX-29 1区	②(1.55) 高台径6.4	高台部ヨコナデ。底部内面はヘラミガキ。外面ナデ。	A密。1.0mm以下の白色粒を少量含む。Bや不良 C外: 灰N4、灰白2.5Y7/1、内: 暗灰N3	
0745	瓦質土器	大形鉢	SX-29 2区	②(6.5) 高台径(20.1)	体部外面は摩耗のため調整不明。内面は底部までナデ。高台部はヨコナデ。底部外面はナデ?	Aやや粗い。3.0mm以下の石英・長石を多量に含む。Bや不良 C外: にぶい黄緑10YR7/4、褐灰10YR4/1、内: 灰黄褐10YR4/2、にぶい黄緑10YR6/3、黒褐10YR2/2	内面に焦げつきあり。
0746	土器	ミニチュア鉢	SX-29 No.3	①3.7 ②3.3	外面ナデ。内面工具使用のナデ。	A密。微細な白色粒を微量含む。Bや不良 Cにぶい黄緑10YR7/2	
0747	土製品	粘土塊	SX-29 2区	長41 幅27 厚1.85 重15.9			
0748	土製品	棒状土製品	SX-29 1区	長15.8 幅4.4 厚3.1 重227.8		A密。2.5mm以下の石英・長石を多めに含む。Bや不良 C浅黄緑10YR8/4	
0749	土器	直口壺	SX-27 No.4	①(12.0) ②10.5 ③11.8	口縁部内外面ともヨコナデ。口縁部外面下位から胴部中位までミガキ。胴部下位はハケ後ミガキ。内面はヘラケズリ。	A密。2.5mm以下の石英・長石を多めに含む。B良好 C外: にぶい黄緑10YR7/4、灰黄褐10YR5/2、内: にぶい黄緑10YR6/6	
0750	土器	小型丸底壺	SX-27 No.6	①(9.9) ②10.6 ③10.4	口縁部内外面ともヨコナデ。胴部外面上位はナデ。中位はハケ。下位ナデ。内面ナデ。	A密。2.0mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 C外: 橙5YR6/6、灰7.5Y5/1、内: 橙5YR6/6、にぶい黄緑10YR7/4、灰7.5Y5/1	口縁部外面から胴部にかけてスプ付着。胴部中に焼成穿孔あり。
0751	土器	小型丸底壺	SX-27 No.1	①(8.4) ②8.5 ③8.4	口縁部外面ハケ後ナデ。内面ハケ。胴部外面上位ハケ後ナデ。中位以下ナデ。内面ナデ。	Aやや粗い。2.5mm以下の石英・長石を多めに含む。B良好 C外: 明赤褐5YR4.8、内: 橙5YR6/6	胴部外面に凹形の剥離2ヶ所あり。
0752	土器	小型丸底壺	SX-27 2区北	①6.7 ②7.8 ③8.2	口縁部外面上位はヨコナデ。下位から胴部上位までヘラミガキ。内面はヨコナデ。胴部外面中位以下はケズリ後工具使用によるナデ後ミガキ。内面はナデ。	A密。1.0mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 C外: 暗褐10YR3/4、にぶい赤褐5YR4/3、内: 暗褐10YR3/4	精製品。撤入か?
0753	土器	甕	SX-27	①(20.4) ②(10.9)	口縁部外面は指押さえ後ナデ。内面はハケ。胴部外面ハケ。内面口縁部と胴部との境界はナデ。以下ケズリ後ナデ。	Aやや粗い。3.0mm以下の石英・長石を多めに含む。B良好 C外: にぶい黄緑10YR5/2、灰黄褐10YR4/2、内: 黒褐7.5YR3/1	
0754	土器	甕	SX-27	①(16.0) ②(8.9)	口縁部はナデ。口縁部外面は粗いタテハケ。内面上位に指押さえ。下位までタタキ後ナデ。胴部外面粗いヨコハケ。内面上位粗いナデ。中位ケズリ後粗いナデ。	A密。2.5mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 C外: 黒褐7.5YR3/1、にぶい黄緑10YR7/3、内: 黒褐7.5YR3/1、橙7.5YR7/6	
0755	土器	甕	SX-27 No.6	①(16.6) ②(8.5)	口縁部内外面ともヨコナデ。胴部外面ハケ。内面ヘラケズリ。	A密。3.0mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 C外: にぶい黄緑10YR7/4、橙7.5YR6/6、内: にぶい黄緑10YR7/4	
0756	土器	甕	SX-27	②(3.8)	口縁部内外面ともヨコナデ。内面口縁部と胴部との境界ナデ。	Aやや粗い。1.0mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 C外: 浅黄緑10YR8/4、内: 橙7.5YR6/6	
0757	土器	高杯	SX-27 2区	①(23.4) ②(6.0)	口縁部内外面ともアバタ状器面剥離。体部外面はヨコナデ?内面はナデ後ミガキ。	A密。微細な白色粒を微量含む。Bや不良 C橙5YR6/6	
0758	土器	高杯	SX-27 No.3	①(18.0) ②(11.3)	口縁部外面ヨコナデ。内面上位ハケ後ヨコナデ。杯底外面ナデヘラミガキ。内面ヨコナデ。胴部外面上位はナデ後ヘラミガキ。中位以下はナデ。内面はケズリ。	A密。1.0mm以下の白色粒を微量含む。B良好 C橙5YR6/6	
0759	土器	高杯	SX-27 2区	①(17.6) ②13.25 裾径(11.5)	口縁部内外面ともヨコナデ。杯底外面ナデ後ハケ。内面ナデ。胴部外面ナデ後ヨコナデ。内面ケズリ。裾部内外面ともハケ。	A密。2.5mm以下の石英・長石を少量含む。Bや不良 C外: 明赤褐10YR7/5、橙7.5YR6/6、浅黄2.5Y7/3、内: にぶい黄緑10YR7/4	
0760	土器	高杯	SX-27	①(18.0) ②(4.8)	内外面ともヨコナデ。	A密。1.5mm以下の石英・長石を少量含む。Bや不良 C橙2.5YR8.8、灰黄褐10YR5/2	
0761	土器	高杯	SX-27 No.5	①16.6 ②(6.0)	口縁部外面ハケ後ヨコナデ。内面ヨコナデ。杯底外面上位に一部ハケ。下位はヨコナデ。内面ナデ。	A密。3.5mm以下の石英・長石を多めに含む。Bや不良 C外: 明赤褐10YR7/4、褐灰10YR4/1、内: 明赤褐10YR7/4、灰黄褐10YR5/2	
0762	土器	高杯	SX-27 2区南	①(17.4) ②(4.6)	口縁部内外面ともヨコナデ。杯底外面上位はケズリ後ナデ。下位はハケ。内面ナデ後ハケ。	A密。1.0mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 Cにぶい黄緑10YR6/4、灰黄褐10YR4/2	
0763	土器	高杯	SX-27 No.2	②(7.9) 裾径(11.8)	胴部外面タテハケ後ナデ。内面ナデ後絞る。裾部内外面ともナデ。	A密。1.5mm以下の石英・長石を少量含む。Bや不良 C外: 橙7.5YR7/6、内: 橙7.5YR6/6	
0764	土器	鉢	SX-27 2区	①(13.4) ②(5.5)	口縁部外面から体部へ指押さえ後一部ハケ後ナデ。口縁部内面はハケ。体部はナデ。	A密。2.0mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 C外: 灰黄褐10YR6/2、黒褐10YR3/2、内: 灰黄褐10YR5/2、黒褐10YR3/2	
0765	土製品	勾玉	SX-27	長4.55 幅2.5 厚1.6 重11.8	ナデ。	A密。微細な白色粒を少量含む。Bや不良 C褐灰10YR4/1～灰黄褐10YR4/2	

表2 石勺遺跡K地点調査遺物観察表(18)

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm/g)①口径 ②器高 ③底径 ④最大径(復元)	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備考
0765	土師器	甕	SX-34 2区	①(16.2) ②24.7	口縁部内面ヨコナデ。口縁部外面ヨコナデ。口縁部内面ナメハケ後ナデ。体部外面タテナメハケ。体部内面、上部ヨコナデ、下部タテナメハケナリ。	A密 Bやや軟 C灰白～黄緑10YR8/2～8/6 口縁、肩部に被熱による変色あり。楕7.5YR6/6～6/8	
0767	弥生土器	甕	SX-34 土器 2群	①(22.0) ②5.1	口縁部ヨコナデ。体部外面ヨコナデ。突帯貼り付け後ヨコナデ。体部内面ナデ。口縁部端削み。	A密 B良好 C赤褐5YR4/6～4/8	
0768	弥生土器	甕	SX-34 土器 2群	①12.2 ②17.0 ③(14.1)	口縁部内外面・底部外面強いヨコナデ。体部外面粗いタテナゲ。体部内面ナデ。	Aやや粗。1.0mm～5.0mm大の石英を多く含む。Bやや軟 C浅黄緑～楕7.5YR8/6～7/6	
0769	弥生土器	鉢	SX-34 No.2	①17.7 ②10.55 ③6.35	口縁～体部上位内外面ヨコナデ。体部外面タテナゲ。底部ナデ。体部内面タテナゲ。底部内面ナデ。	A密 B良好 C楕～明赤褐5YR6/8～5/8 一部黒斑の周辺 浅黄緑～にぶい黄緑10YR8/3～6/3	
0770	弥生土器	鉢	SX-34 No.1	①16.6 ②9.9 ③5.8	口縁部ヨコナデ。体部外面、上部ナメハケ後ヨコナデ。下部タテナゲ。体部内面ヨコナデ、下部ナデ。	A密 B良好 C楕～明赤褐5YR6/8～5/8	
0771	弥生土器	鉢	SX-34 No.3	①16.0 ②7.6 ③5.7	口縁～体部上位内外面ヨコナデ。体部外面タテナゲ。底部ナデ。体部内面タテナゲ。底部内面ナデ。	A密 B良好 C楕～明赤褐5YR6/8～5/8	
0772	弥生土器	甕	SX-34	①(72.4) ②60.7	口縁部～体部内面ナデ。肩部外面ヨコナデ。体部外面丁寧なタテナゲ。体部突帯・突帯周辺部外面ヨコナデ。	A密 B良好 C灰白～明黄褐10YR7/1～7/4	
0773	弥生土器	甕	SX-34 1群	①(90.5) ②15.0	口縁部内外面・肩部突帯周辺外面ヨコナデ。肩部内外面ナデ。	A密 B良好 C明黄褐10YR7/6～6/6	
0774	土師器	高杯	SX-36①	②(3.05) ③(11.2)	脚部外面ヨコナデ。脚上部タテナゲ後ヨコナデ。脚部内面ヨコナゲ後ヨコナデ。脚上部内面ヘラケナリ。	A0.5mm以下の石英、長石粒及び金雲母微粒をわずかに含む B良好 Cにぶい黄緑10YR7/4	
0775	土師器	小型丸底甕	SX-37 横のカクラン	①(8.8) ②(6.2)	口縁部外面ヨコナデ。体部外面ナデ。口縁部内面ヨコナゲ後ヨコナデ。体部内面上部板ナゲ、下部ナデ。	A0.5～3.0mmの石英、長石粒をわずかに含む B良好 C楕5YR6/6	
0776	土師器	鉢	SX-37 横のカクラン	②1.8 ③(3.4)	外面細かいヘラケナリ?底部内面ナデ。内面ナデ。	A密 B良好 C内：灰白～浅黄緑10YR8/2～8/3 外：灰白～浅黄緑7.5YR8/2～8/3	
0777	土製品	土錐	SX-37 底面ビット	①最大長4.1 ②最大幅1.5 ③最大厚1.3	全体ナデ。	A密 Bやや軟 Cにぶい黄緑～黄緑10YR7/3～7/8	
0778	弥生土器	壺	SX-38	①(8.4) ②(3.1)	口縁部外面ヨコナゲ後ヨコナゲミガキ。頸部外面タテナゲミガキ。口縁部内面ヨコナゲ。頸部内面ナデ。袋状口縁。	A1.5mm以下の石英、長石粒を少量含む B良好 C外：楕7.5YR7/6(地)～赤褐5YR4/6(顔料) 内：にぶい黄緑10YR7/4	丹塗り。
0779	土師器	高杯	SX-39 2区	②(6.9) ③(10.2)	脚上部外面～脚部内面ヨコナゲ。脚上部内面ヘラケナリ。	A2.0mm以下の石英、長石粒及び金雲母微粒をわずかに含む B良好 C楕～黄緑5YR6/8～7.5YR7/8	
0780	土師器	高杯	SX-40 床面	①(29.6) ②(9.05)	口縁部外面ヨコナゲ後ヨコナゲミガキ。杯部内面ナメハケ後ヨコナゲ後タテナゲミガキ。	A1.0mm以下の石英、長石粒及び金雲母微粒をわずかに含む B良好 C浅黄緑10YR8/3～7.5YR8/6 黒斑部黒褐2.5Y3/1	
0781	土師器	小型丸底甕	SX-41	①(5.1) ②6.25 ③2.7	口縁部内外面ヨコナゲ。体部内外面ナデ。	A1.0mm以下の石英、長石粒及び金雲母微粒を少量含む B良好 Cにぶい黄緑～黒褐(黒斑)10YR7/4～2.5Y3/1	手捏ね。
0782	土師器	壺	SX-42 埋土 上層	①(10.2) ②(4.55)	口縁部ヨコナゲ。口縁部外面ヨコナゲ後左上がりのヨコナゲ。内面右しがりのヨコナゲ。体部外面ヨコナゲ。体部内面ナデ。	A1.0mm以下の石英、長石粒をきわめてわずかに含む B良好 C外：楕5YR6/6 内：明赤褐～褐5YR6/6～7.5YR4/4	
0783	土師器	壺	SX-42 埋土 下層	②(5.85)	口縁部～外面ヨコナゲ。口縁部内面ヨコナゲ後ナデ。体部内面ナデ。	A0.5～3.0mmの石英、長石粒及び金雲母微粒をわずかに含む B良好 C褐灰～灰黄褐10YR5/1～5/3	
0784	土師器	甕	SX-42 埋土 上層	①(13.7) ②(1.95)	口縁部内外面ヨコナゲ。口縁部端削み上げる。	A0.5mm前後の石英・長石粒及び、金雲母微粒を少量含む。B良好 C外：にぶい黄緑～黒褐10YR6/3～3/1 内：にぶい黄緑10YR7/4	布留糸。
0785	土師器	高杯	SX-42 埋土 上層	②(3.7) ③(10.3)	脚部内外面ヨコナゲ。脚上部外面板ナゲ後ナデ。脚上部内面ヘラケナリ後ナデ。	A黄緑～灰黄褐5YR5/6 B良好。明赤褐5YR5/6	
0786	土師器	ミニチュア 脚付鉢	SX-42 埋土 下層	①3.8～4.3 ②(4.55)	内外面ナデ	A0.5mm以下の石英、長石粒及び金雲母微粒・赤褐色粒子をわずかに含む B良好 Cにぶい黄緑10YR7/3	
0787	弥生土器	複合口縁甕	SX-43 周辺検出時	②1.2	内外面ヨコナゲ。一次口縁部端削み。	A密 B良好 C楕5YR7/6～7/8	
0788	弥生土器	甕	SX-43	①(37.1) ②(6.4)	内外面ヨコナゲ。突帯貼り付け後ヨコナゲ。	A1.0～最大3.0mmの石英、長石及び金雲母微粒を少量含む 他にごくわずかに黄玉の微結晶を含む B良好 C明黄緑10YR6/6	
0789	弥生土器	甕	SX-43	①(33.4) ②35.5 ③8.2	口縁部内外面ともヨコナゲ。頸部～肩の一部タテナゲ後ヨコナゲ。体部外面タテナゲ。体部内面ナデ。底部外面ナデ。	A1.0～4.0mmの砂粒が目立つ B良好 Cにぶい黄緑～楕5YR6/4～6/8	
0790	土師器	鉢	SX-44 検出時	①(22.2) ②7.1	口縁部ナデ。口縁部内外面ヨコナゲ後ナデ。体部外面ヘラミガキ或いはタタキ。体部内面ヨコナゲ。	Aやや粗 4.0mm大の石英を含む B良好 Cにぶい黄緑～黄緑10YR7/4～7/8	
0791	土師器	甕	SX-44 検出時	②1.6	口縁部～外面ヨコナゲ。口縁部内面ヨコナゲ後ヨコナゲ。	A密 B良好 Cにぶい黄緑～黄緑10YR7/4～7/8	
0792	土師器	甕	SX-45	①(13.3) ②2.3	口縁部ヨコナゲ。口縁部外面ヨコナゲ後ヨコナゲ。口縁部内面ヨコナゲ後ヨコナゲ。	A密 B良好 Cにぶい赤褐5YR5/4～4/4	
0793	土師器	甕	SX-45	①(15.4) ②1.6	口縁部内外面ヨコナゲ。頸部外面タテナゲ後ヨコナゲ。	A密 B良好	
0794	土師器	高杯	SX-45	①(12.7) ②4.3	口縁部ヨコナゲ。体部外面タテナゲミガキ。体部内面ヨコナゲ後タテナゲミガキ。	A密 B良好 C外：明赤褐5YR7/8～5/8 赤褐2.5YR4/6～4/8	
0795	弥生土器	高杯	SX-45	①(10.8) ②8.45 ③14.6	口縁部ナデ。杯部内外面ナゲ後タテナゲミガキ。脚部外面ナゲ後タテナゲミガキ脚部ナデ。脚部内面ナデ。	A密 B良好 C楕5YR7/8 浅黄緑～黄緑7.5YR8/4～8/8 黄緑～明褐7.5YR8/8～5/8	
0796	石器	砥石	SX-45	①最大長10.0 ②最大幅3.3 ③最大厚2.9	C灰白～褐灰7.5YR8/1～4/1		
0797	石器	砥石	SX-45	①最大長10.05 ②最大幅4.5 ③最大厚3.0	C黄灰～黄褐2.5YR5/1～5/3		
0798	土師器	甕	①(11.0) ②2.6	内外面ヨコナゲ。	A密 B良好 C浅黄緑～にぶい楕7.5YR8/3～7/3		
0799	土師器	ミニチュア 脚付鉢	SX-46	②3.3	全体をナゲで成形。	A密 B良好 C外：褐灰～灰褐7.5YR4/1～4/2 断縁～明赤褐5YR6/6～5/6	手捏ね。
0800	須臾器	杯身	SX-47	②2.2	内外面回転ナデ。高台貼り付け後ヨコナゲ。	A密 B良好 C外：褐灰～灰褐7.5YR4/1～7/4 黄灰2.5Y5/1～4/1	杯B。
0801	陶磁器	白磁碗	SX-47	②2.15	外面回転ヘラケナリ。高台ナゲ出し。内面回転ナデ。	A精磨 B堅緻 C地灰白N80 釉灰白2.5G/Y8/1	
0802	陶磁器	中国陶器?	SX-47	②3.05 ③(11.0)	内外面回転ナデ。底部ナデ。	A密 B良好 C地灰黄褐10YR6/2 輪オリーブ葉5Y6/3	
0803	弥生土器	甕	S J 01 上壁	①29.2 ②32.1 ③5.4	口縁部内面ヨコナゲ後ナデ。またはヨコナゲ。口縁部ナデ。体部外面タテナゲ(ほぼ確)。体部内面タテナゲ後ナデ。体部内面ナデ。器面の磨耗甚しい。	A密 Bやや軟 C楕～明赤褐5YR7/8～4/8	外面の極わずかに、内面底部に薄くスス残存。
0804	弥生土器	甕	S J 01 下壁	①32.7 ②34.5 ③5.6	口縁部内面ヨコナゲ後ナデ。またはヨコナゲ。口縁部ナデ。体部外面タテナゲ(ほぼ確)。体部内面タテナゲ後ナデ。底部底部付近内面ナデ。底部内外面ナデ。	A密 Bやや軟 C浅黄緑～楕7.5YR8/6～6/6、口縁部タテナゲ後ナデ。底部底部付近に被熱による変色が見られる。	内面底部外口縁～胴部にスス付着。
0805	弥生土器	甕	S J 02 上壁	①29.3 ②30.6 ③(7.7) 胴部最大径(30.0)	口縁部内外面ともヨコナゲ。胴部外面ハケ。内面ナデ。底部外面ナデ。	A密。3.0mm以下の石英・長石をやや多めに含む。微細な雲母を少量含む。B良好 C外：楕2.5YR6/8、にぶい黄緑10YR7/4、灰N3、内：楕2.5YR6/8、にぶい黄緑10YR7/4、灰N6	胴部外面下に黒斑あり。
0806	弥生土器	甕	S J 02 下壁	②(41.3) ③ 胴部最大径36.9	胴部外面はナデ。内面はハケ後ナデ。底部外面ナデ。口縁部は打ち欠き。	A密。3.0mm以下の石英・長石をやや多めに含む。微細な雲母を少量含む。B良好 C外：楕2.5YR6/8、微黄2.5Y8/4、黒N2、黒N5、内：楕2.5YR6/6	石勺H地点遺物3部下壁に似る。(最大径中位)下がり、胴部しまる形状)外面下に黒斑あり。下に工具があたった痕跡あり。
0807	鉄器	鉄線	SC-09 検出面	長(3.8) 幅(1.4)			
0808	鉄器	刀子	SC-09 1区	最大長8.6 最大幅1.2 最大厚1.0			
0809	鉄器	不明鉄製品	SC-09 5区	最大長2.4 最大幅2.7 最大厚0.15			全面にサビ付着。
0810	鉄器	紡錘車	SC-16	②(2.0) ④4.1 軸推定最大径0.5			紡錘車の部分はほぼ完成。
0811	鉄器	刀子	SC-33 1区土器周辺	長4.3 幅1.5 厚0.3			
0812	鉄器	鉄線	S D04	長(3.4) 幅(3.15) 厚(0.15) 重(6.3)			
0813	鉄器	鉄鋤先	SX-26 検出面	長4.35 幅2.4 厚1.4 重7.8			
0814	鉄製品	不明鉄製品	SC13 2区 鉄器①	①残長4.3 ②幅2.0 ③厚0.3			
0815	鉄器	刀子	SC15 鉄器1	①残長6.0 ②幅1.4 ③刃背厚0.4			
0816	鉄器	鉄線	SC18	①残長5.3 ②刃部幅2.3 ③刃部厚0.5			曲刃鎌
0817	鉄器	刀子	SC27 2区 鉄器①	①残長6.6 ②幅1.05 ③刃部厚0.35			
0818	鉄器	鉄線	SC21 4区 鉄器①	①残長4.6 ②幅1.4 ③厚0.2			
0819	鉄器	鉄線	SC24 1区床面 鉄器①	①残長4.7 ②残幅1.3 ③厚 上0.7 中0.7 下0.4			
0820	鉄器	刀子	SC27 鉄器	①残長6.85 ②幅1.6 ③厚0.35			
0821	鉄器	鋤先	SC27 2区 鉄器①	①残長4.4 ②残幅6.3 ③厚0.6			
0822	鉄器	鋤先	SC27 2区 鉄器②	①残長6.0 ②幅2.15 ③厚1.0			
0823	鉄器	鉄線	SC32 2区 検出面	①残長18.8 ②幅3.35 ③刃部厚0.6			曲刃鎌
0824	鉄器	刀子	SC29 4区	①残長2.7 ②残幅1.55 ③厚0.4			
0825	鉄器	鉄線	SC30 ②	①長(7.7) ②最大幅(0.7) ③厚0.4			
0826	鉄器	鉄釘	SD21 4区上層(2009.11.05)	①残長4.85 ②上部径0.5 ③輪部径0.3			
0827	鉄器	不明鉄製品	SD23 3区上層	①残長1.6 ②幅2.1 ③厚0.2			
0828	鉄器	鉄線	SC-28 3区上層	①2.1 ②7.9 ③2.5			曲刃鎌。折り返し鍛造。
0829	鉄滓	鉄	SC-30 5区	①最大長2.2 ②最大幅2.2 ③最大厚0.9			

表2 石勺遺跡K地点調査遺物観察表⑬

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量 (cm/g) ①口径 ②器高 ③底径 ④最大径 (復元)	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備考
0830	鉄器	刀子	SX27 2区	①残長9.7 ②幅1.3 ③柄部幅1.0 ④刃部厚0.5			
0831	青銅製品	銅鏃	SC02 1区	①残長3.35 ②残幅1.35 ③厚0.6 ④基部径0.45	柳葉形		
0832	青銅製品	銅先	SC25 3区	①残長5.75 ②残幅5.8 ③高1.4			
0833	ガラス製品	小玉	SC18 南西門・南東角?埋土	①長0.55 ②径0.5 ③孔径0.2			
0834	石製品	管玉	SC18南東角	①長2.3 ②径0.5 孔径0.2			玉質の粒状岩製か?
0835	石製品	管玉	SC18南東角	①長1.54 ②径0.48~0.5 孔径0.2			玉質の粒状岩製か?
0836	石製品	管玉	SC18南東角	①長1.46 ②径0.47~0.5 孔径0.2			玉質の粒状岩製か?
0837	石製品	管玉	SC18南東角	①長1.81 ②径0.47~0.5 孔径0.2			玉質の粒状岩製か?
0838	石製品	管玉	SC18南東角	①長2.25 ②径0.47~0.5 孔径0.2			玉質の粒状岩製か?
0839	土製品	勾玉	SC09 1区床面	①長5.4 ②幅3.8 ③厚2.1	全体をナゲで成形(腹部強いナゲ)。		
0840	土製品	勾玉	SC11 土製品①	①長4.25 ②幅3.1 ③厚1.7	全体をナゲで成形		
0841	土器器	二重口縁壺	5E区 Aトレンチ東包含層	②(5.75)	口縁部外面はハケ後ナゲ、内面ハケ。頸部内外面ヨコナゲ、内面屈曲部と頸部下位にハケ。	A密。1.0mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 C外：にぶい黄緑10YR7/4	山陰系
0842	土器器	壺	5E区 包含層	①(16.8) ②(7.1)	口縁部内外面ともヨコナゲ。胴部外面ハケ、内面ヘラケズリ。	Aやや粗い。1.5mm以下の白色粒・雲母をやや多く含む。B良好 C外：にぶい黄緑10YR7/3、内：にぶい黄緑10YR7/3~灰黄緑10YR6/2	
0843	土器器	二重口縁壺	5E区 Aトレンチ東包含層	①(17.6) ②(6.4)	口縁部外面ヨコナゲ、内面はヨコナゲ後一部ハケ。	Aやや粗い。1.0mm以下の白色粒を少量含む。B良好 C外：にぶい黄緑10YR6/4、明黄緑10YR7/6、内：にぶい黄緑10YR6/4、にぶい黄緑10YR5/3	
0844	土器器	二重口縁壺	5E区 包含層	①(11.5) ②(8.25)	口縁部内外面ともヨコナゲ。胴部外面上位はハケ後ヨコナゲ、中位以下ハケ、内面ヘラケズリ。	Aやや粗い。2.0mm以下の白色砂粒、0.5mm以下の雲母をやや多く含む。B良好 C外：にぶい黄緑10YR7/3、内：にぶい黄緑10YR7/3~灰黄緑10YR5/2	
0845	土器器	直口壺	3H区 表土剥ぎ	①(11.8) ②(12.85) ③(13.5)	口縁部外面摩擦のため調整不明、内面はハケ。胴部外面ハケ、内面ナゲ。	A密。2.0mm以下の石英・長石を少量含む。Bやや不良 C外：明黄緑10YR7/6、赭7.5YR6/6、褐灰7.5YR4/1、内：明黄緑10YR7/6	
0846	土器器	直口壺	Aトレンチ包含層	①(13.4) ②(6.6)	口縁部外面ヨコナゲ、内面上位はナゲ、中位以下はハケ後ナゲ。胴部外面ヨコナゲ、内面ヘラケズリ。	A密。微細な白色粒を微量含む。Bやや良好 C外：明黄7.5YR5/6、暗褐7.5YR3/3、内：明褐7.5YR5/6	
0847	土器器	壺	6F区 包含層(検出中)	②(12.2)	外面口縁部と胴部の境界にヨコナゲ、胴部内外面は工具使用によるナゲ。	A密。1.0mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 C外：にぶい黄緑10YR7/4、灰N6、黒10YR1.7/1、内：にぶい黄緑10YR7/4	
0848	土器器	直口壺	6F区 包含層	①(8.0) ②(10.55) ③11.5	口縁部内外面ともナゲ。胴部外面上位はナゲ、中位はヘラケズリ後ナゲ、下位はハケ、内面ナゲ。	A密。1.5mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 C外：にぶい黄緑10YR6/4、灰黄緑10YR5/2、内：にぶい黄緑10YR6/4、胴部は被熱により赤変。	口縁部外面はスス付着。
0849	土器器	小型丸底壺	5E区 Aトレンチ東包含層 6F区 包含層	①(8.2) ②(7.5) ③10.3	内外面ともナゲ。	A密。1.5mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 C外：赭7.5YR6/6、褐灰7.5YR4/1、黒褐7.5YR3/1、内：褐灰10YR4/1、赭7.5YR7/6	
0850	土器器	小型丸底壺	1C区 検出中	①(10.3) 胴部最大径11.0 ②9.7	口縁部外面から胴部外面上位までヨコナゲ、内面ハケ後ヨコナゲ。胴部外面ハケ、内面ナゲ。	A密。4.0mm以下の石英・2.0mm以下の長石、微細な雲母を少量含む。B良好 C外：にぶい黄緑10YR7/4、淡赤褐2.5YR7/4、内：にぶい黄緑10YR7/4、褐灰10YR5/1、暗灰N3	
0851	土器器	小型丸底壺	6F区 包含層	①(12.4) ②(8.8)	口縁部外面はナゲ?内面はハケ。胴部外面はハケ後ヘラ描き文、内面ナゲ。	A密。2.5mm以下の石英・長石を少量含む。Bやや良好 C外：灰黄緑10YR6/2、にぶい赭7.5YR7/4、内：にぶい黄緑10YR7/3~6/3	
0852	土器器	小型丸底壺	6F区 包含層(検出中)	①(7.4) ②9.3 ③(9.4)	口縁部外面から胴部外面上位までヨコナゲ、内面上位はヨコナゲ、中位以下ハケ後ヨコナゲ。胴部外面上位はハケ後ナゲ、中位以下ハケ後ヨコナゲ、内面ナゲ。	Aやや粗い。2.0mm以下の白色砂粒、0.5mm以下の雲母をやや多く含む。B良好 C外：にぶい黄緑10YR7/4、褐灰5YR4/1、内：にぶい赭7.5YR6/4、にぶい黄緑10YR6/3	
0853	土器器	小型丸底壺	6F区 包含層(検出中)	①7.6 ②(7.55) ③8.5	口縁部は打ち欠き。口縁部外面ヨコナゲ、内面上位ヨコナゲ、下位ハケ。胴部内外面ともナゲ。	A密。1.0mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 C外：褐灰10YR4/1、にぶい黄緑10YR7/4、内：灰黄褐10YR5/2	
0854	土器器	小型丸底壺	西トレンチ	②(9.3) ③9.1	口縁部内外面ともナゲ、内面の一部にハケ。胴部外面ハケ、内面ナゲ。	A密。2.0mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 C外：明赤褐5YR5/6、にぶい黄緑10YR7/4、黒10YR2.1/1、内：明赤褐5YR5/6	
0855	土器器	小型丸底壺	3H区 包含層	①(8.2) ②7.7 ③(8.0)	口縁部内外面ともナゲ。胴部外面は摩擦のため調整不明、内面はナゲ。底部外面は強いナゲ。	Aやや粗い。2.0mm以下の石英・長石をやや多めに含む。Bやや不良 C赭7.5YR6/6	
0856	土器器	小型丸底壺	5E区 Aトレンチ包含層	①(8.0) ②(5.6)	口縁部内外面ともヨコナゲ。胴部内外面ともナゲ。	A密。微細な白色粒を微量含む。B良好 C外：浅黄2.5Y7/3、灰黄褐10YR4/2、内：浅黄2.5Y7/3、灰黄褐10YR6/2	
0857	土器器	壺	6F区 包含層(検出中)	③(3.8)	胴部外面上位ヨコナゲ、以下ハケ、内面ナゲ。	A密。1.0mm以下の白色粒を微量含む。B良好 C外：にぶい黄緑10YR7/4	外面にヘラ記号あり。
0858	土器器	壺	Aトレンチ包含層	②(2.2)	外面ヨコナゲ、内面ナゲ。	A密。1.5mm以下の白色粒を少量含む。B良好 C外：にぶい赭7.5YR5/4、内：赭7.5YR4/3、黒褐7.5YR3/1	外面にヘラ描き文あり。
0859	土器器	壺	5E区 包含層	②(5.2)	外面ナゲ、内面ヘラケズリ。	Aやや粗い。3.0mm以下の白色粒、0.5mm以下の雲母をやや多く含む。B良好 C外：褐灰10YR4/1、内：灰黄褐10YR5/2	外面にヘラ描き文あり。
0860	土器器	甕	6F区 包含層(検出中)	②(3.0)	胴部外面ハケ、内面ナゲ。底部外面ナゲ。	Aやや粗い。2.0mm以下の白色砂粒、0.5mm以下の雲母をやや多く含む。B良好 C灰黄2.5Y7/2	穿孔あり。
0861	土器器	大型甕	6F区 包含層	②(3.7)	胴部外面突部に刻み目、他は摩擦のため調整不明、内面は上位ナゲ、中位ハケ。	Aやや粗い。1.5mm以下の白色砂粒、0.3mm以下の雲母をやや多く含む。B良好 C灰白10YR8/2	
0862	土器器	壺	6F区 包含層(検出中)	①(15.0) ②(5.7)	口縁部外面ヨコナゲ、内面中位までナゲ、下位にハケ。胴部外面ハケ、内面ナゲ。	A密。1.0mm以下の白色粒を少量含む。B良好 C外：にぶい黄緑10YR7/4、黒10YR2/1、内：にぶい黄緑10YR7/4、黒褐10YR3/1	胴部外面に縦方向のヘラ描き文あり。スス付着。
0863	土器器	甕	5E区 Aトレンチ包含層	①(16.8) ②(12.9)	口縁部はヨコナゲ。口縁部外面ハケ後ナゲ、内面上位はハケ、下位はヨコナゲ。胴部外面ハケ、内面ヘラケズリ。	Aやや粗い。2.0mm以下の石英・長石を多めに含む。B良好 C外：赭5YR6/6、7/6、黒5YR1.7/1、内：赭7.5YR6/6、5YR6/6	胴部外面にスス付着。
0864	土器器	広口壺	3H区 包含層	①(14.1) ②(8.7)	口縁部上位は内外面とも摩擦のため調整不明、外面下位はヨコナゲ、内面中位以下は一部ハケ。胴部外面ハケ、内面ナゲ。	A密。4.0mm以下の石英・長石を少量含む。Bやや不良 C外：赭7.5YR6/6、褐灰10YR5/1、内：赭7.5YR6/6	
0865	土器器	甕	6F区 包含層(検出中)	①(15.8) ②(9.2)	口縁部外面ヨコナゲ、内面ハケ後ヨコナゲ。胴部外面上位はハケ後ナゲ、以下ハケ、内面ヘラケズリ。	A密。1.5mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 C明赤褐5YR5/6	スス付着。
0866	土器器	甕	6F区 包含層	①(13.8) ②(10.2) ③胴部17.3	口縁部内外面ともヨコナゲ。胴部外面ハケ、内面ヘラケズリ。	A密。2.0mm以下の石英・長石を少量含む。微細な雲母をやや多めに含む。B良好 C外：にぶい黄緑10YR6/2、褐灰10YR5/1、内：褐灰10YR5/1、灰黄褐10YR6/2	山陰系二重口縁壺。
0867	土器器	二重口縁壺	5E区 Aトレンチ西包含層	①(14.0) ②(9.9)	口縁部内外面ともヨコナゲ。胴部外面上位は細いハケ中位にかけて太いハケ、内面口縁部と胴部の境界にナゲ、以下はヘラケズリ。	Aやや粗い。2.5mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 C外：にぶい黄緑10YR6/4、黒褐10YR3/1、明黄褐10YR7/6、内：にぶい黄緑10YR6/4	
0868	土器器	甕	6F区 包含層	②(14.3) ③胴部23.3	胴部外面ハケ後部分的にナゲ、内面はヘラケズリ。	A密。4.0mm以下の石英・長石をやや多めに含む。微細な雲母を少量含む。B良好 C外：灰白10YR7/3、赭7.5YR6/6、褐灰10YR4/1、内：にぶい黄緑10YR7/3	
0869	弥生土器	甕	1C区 検出中	③6.5	胴部外面下位はハケ。底部外面ナゲ、内面ナゲ(指押さえあり)。	A密 B良好 C外：にぶい赭7.5YR6/4、内：黒N2	
0870	土器器	鉢	7F・GIS 包含層	①(9.2) ②(11.2)	口縁部内外面ともヨコナゲ。体部内外面ともナゲ。	A粗い。3.5mm以下の石英・長石を多めに含む。Bやや不良 C外：にぶい黄緑10YR6/4、黒褐10YR3/2、内：浅黄2.5Y7/3	
0871	土器器	甕	5E区 包含層	①(33.6) ②(11.35)	口縁部内外面ともヨコナゲ。胴部外面ナゲ、内面ヘラケズリ。	A粗い。3.0mm以下の白色砂粒、2.0mm以下の赤褐色砂粒、0.5mm以下の雲母を多く含む。B良好 C外：にぶい赭7.5YR7/3~褐灰7.5YR4/1、内：にぶい赭7.5YR7/3	
0872	土器器	高杯	6F区 包含層	①(15.0) ②(5.3)	口縁部はヨコナゲ。口縁部内外面ともハケ後ナゲ。杯底部外面はヨコナゲ、内面はハケ後ナゲ。	A密。4.0mm以下の石英・2.0mm以下の長石、微細な雲母をやや多めに含む。B良好 C外：浅黄褐10YR8/4、暗灰N3、内：赭7.5YR6/6、褐灰10YR5/1	
0873	土器器	高杯	6F区 包含層	①(16.9) ②(5.25)	口縁部内外面ともヨコナゲ。杯底部外面ヨコナゲ後ナゲ、内面ハケ後工具使用によるナゲ。	Aやや粗い。2.0mm以下の白色砂粒、0.3mm以下の雲母をやや多く含む。B良好 C外：にぶい黄緑10YR7/4、内：にぶい赭7.5YR7/4	
0874	土器器	高杯	西側トレンチ	①(17.2) ②(5.3)	口縁部内外面ともヨコナゲ。杯底部外面ナゲ、内面ヘラミガキ。	A密。2.0mm以下の石英・長石を少量含む。Bやや不良 C外：明黄褐10YR7/6、赭7.5YR6/6、にぶい黄2.5Y6/4、内：赭7.5YR6/6	
0875	土器器	高杯	西側トレンチ3	①18.4 ②(7.5)	口縁部はヨコナゲ。口縁部内外面ハケ後ヨコナゲ。杯底部外面上位ハケ、下位ナゲ。内面は器面剥離。胴部外面ナゲ、内面ナゲ。	Aやや粗い。2.0mm以下の石英・長石を少量含む。Bやや良好 C明赤褐5YR5/8、明黄褐10YR7/6	杯底見込みの器面剥離は使用によるものか。
0876	土器器	高杯	6F区 包含層	②(7.2) 胴部径10.5	胴部外面ヨコナゲ、内面ヘラケズリ。胴部外面ハケ後ヨコナゲ、内面ヨコナゲ。	A密。3.0mm以下の白色粒、微細な雲母を少量含む。B良好 C赭5YR6/6	
0877	土器器	高杯	5E区 Aトレンチ東包含層	②(7.6) 胴部径10.0	胴部外面は工具使用によるナゲ、内面上位はナゲ、中位以下はナゲ。胴部は内外面ともヨコナゲ。	A密。1.5mm以下の石英・長石を少量含む。Bやや良好 C赭5YR6/6	
0878	土器器	高杯	5E区 包含層	②(8.7) 脚部径(12.8)		Aやや粗い。3.5mm以下の石英・長石、0.5mm以下の雲母をやや多く含む。B良好 C外：浅黄褐7.5YR3/4~灰褐7.5YR5/2、内：浅黄褐7.5YR8/4	

表2 石勺遺跡K地点調査遺物観察表②

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量 (cm/g) ①口径 ②器高 ③底径 ④最大径(復元)	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備考
0879	土師器	高杯	西側トレンチ	②(6.7) 裾部径(10.5)	脚部外面ヨコナデ、内面ケズリ。裾部内面ハケ。	A密。2.0mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 C外：明褐7.5YR5/6、灰褐7.5YR4/2、黒7.5YR2/1、内：明褐7.5YR5/6	
0880	土師器	高杯	西側トレンチ	②(7.5) 裾部径(11.4)	脚部内面上位から中位ナデ、下位ヨコナデ、内面上位ナデ、中位ハケ、下位ヨコナデ。	A密。微細な白色粒を少量含む。B良好 Cにぶい黄褐10YR7/3	
0881	土師器	鉢	5E区 Aトレンチ東包含層	①(14.0) ②6.3	口縁部はナデ。口縁部外面から体部下位までケズリ後ナデ、内面口縁部から体部中位までハケ後ナデ。底部は内外面ともナデ。	Aやや粗い。2.5mm以下の石英・長石をやや多めに含む。Bやや良好 C外：橙7.5YR6/6、黒7.5YR1/1、にぶい黄褐10YR7/4、内：橙7.5YR6/6	
0882	土師器	鉢	6F区 包含層(検出中)	①(10.0) ②(6.2)	口縁部内外面ともヨコナデ。体部内外面ともナデ。	Aやや粗い。2.0mm以下の赤褐色砂粒を少量、0.3mm以下の雲母を多く含む。B良好 Cにぶい橙7.5YR7/4	
0883	土師器	鉢	5E区 Aトレンチ東包含層	①(12.0) ②(6.0)	口縁部外面から体部下位までナデ、内面は口縁部から体部下位までケズリ。	Aやや粗い。3.0mm以下の石英・長石を多量に含む。B良好 C外：明赤褐5YR5/6、内：橙7.5YR6/6	
0884	弥生土器	甕台	6F区 包含層	②(11.9)	外面ハケ、内面上位ハケ、中位ナデ、下位ナデ後ハケ。	Aやや粗い。2.5mm以下の石英・長石を多量に含む。B良好 C外：にぶい橙7.5YR6/4、内：明赤褐5YR5/6	
0885	土師器	丸底杯	7F・G区 検出中	①(15.4) ②3.5	口縁部内外面ともヨコナデ。体部から底部の外面は回転ヘラ切り後ナデ(板状圧痕あり)、内面はミガキ。	A密。1.5mm以下の石英・長石を少量含む。Bやや良好 C浅黄褐2.5Y7/3	
0886	土師器	丸底杯	7F・G区 検出中	①15.0 ②3.1	口縁部内外面ともヨコナデ。体部から底部の外面は回転ヘラ切り後ナデ(板状圧痕あり)、内面はミガキ。	A密。1.0mm以下の石英・長石を微量に含む。B良好 C浅黄2.5Y7/3	
0887	土師器	杯	5G区 包含層(灰褐色土)	②(1.7) ③7.0	体部内外面ともヨコナデ。底部外面は回転糸切り(指押しえあり)、内面ナデ。	A密。1.5mm以下石英・長石を少量含む。B良好 Cにぶい黄褐10YR7/3	
0888	土師器	椀	7F・G区 包含層	①15.4 ②5.8 高台径6.6	外面は摩耗のため調整不明、内面はミガキ。底部外面ナデ?高台部ヨコナデ。	A密。1.5mm以下の石英・長石を少量含む。Bやや不良 C浅黄2.5Y7/4、灰7.5Y6/1、黒7.5Y2/1	
0889	黒色土器	椀	7F・G区 包含層	①(15.0) ②口縁部(2.75) 高台部(1.7) 高台径(6.4)	口縁部内外面ともヨコナデ。体部残存部はナデ。内面はミガキ。高台部はヨコナデ。	A密。微細な白色粒を微量含む。Bやや良好 C外：黒褐2.5Y3/1、浅黄2.5Y7/3、内：黒褐2.5Y3/1	
0890	弥生土器	ミニチュア鉢	6F区 包含層	①5.0 ②4.5 ③3.4	内外面ともナデ。	A密。2.0mm以下の白色粒を少量、微細な白色粒をやや多めに含む。B良好 C外：にぶい橙7.5YR7/4、内：橙7.5YR7/6	外面にスス?付着。
0891	土師器	ミニチュア鉢	5E区 Aトレンチ西包含層	①(5.0) ②3.2 ③2.6	内外面ともナデ。	A密。1.5mm以下の石英・長石を少量含む。Bやや良好 C明黄褐10YR7/6、褐灰10YR5/1	
0892	土師器	ミニチュア鉢	5E区 包含層	①(6.6) ②(3.8)	内外面ともナデ。	Aやや粗い。4.0mm以下の石英、0.5mm以下の雲母を少量含む。B良好 C外：橙5YR6/6、内：橙5YR6/6	
0893	土師器	鉢	5F区 検出中	①(7.0) ②(4.5)	内外面ともナデ。	A密。微細な白色粒を微量含む。Bやや不良 C外：にぶい黄褐10YR7/3、褐灰10YR6/1、内：にぶい黄褐10YR7/3	
0894	土師器	ミニチュア鉢	5E区 検出中	①(7.0) ②(4.2)	内外面ともナデ。	A密。微細な白色粒を微量含む。B良好 C外：にぶい黄褐10YR7/4、灰黄褐10YR4/2、黒10YR2/1、内：にぶい黄褐10YR6/6、灰黄褐10YR5/2	
0895	土師器	ミニチュア鉢	6F区 包含層(検出中)	①(5.4) ②4.1	内外面ともナデ。	Aやや粗い。1.5mm以下の白色砂粒、0.3mm以下の雲母をやや多く含む。B良好 C外：灰黄褐10YR5/2~褐灰10YR5/1、内：灰黄褐10YR5/2	
0896	土師器	ミニチュア脚付鉢	6F区 包含層	①(4.8) ②(5.8)	内外面ともナデ。	Aやや粗い。2.0mm以下の白色砂粒、0.3mm以下の雲母をやや多く含む。B良好 Cにぶい橙7.5YR6/4	
0897	須恵器	杯蓋	5E区 Aトレンチ西包含層	①(15.0) ②4.0	口縁部は内外面とも回転ナデ。天井部外面回転ヘラケズリ、内面は当て具痕。	A密。1.5mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 C青灰5B5/1	
0898	須恵器	杯身	5E区 Aトレンチ包含層	①(12.8) ②4.3 受部径(15.4)	口縁部内外面とも回転ナデ。底部外面は回転ヘラケズリ、内面は不定方向のナデ。	A密。2.5mm以下の石英・長石、黒色粒をやや多めに含む。B良好 C青灰5B5/1	
0899	須恵器	杯身	5E区 Aトレンチ包含層	①(12.5) ②(3.0) 受部径(15.0)	内外面とも回転ナデ。	A密。1.5mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 C灰N6	
0900	須恵器	杯身	6F区 包含層(検出中)	①(10.0) 受部径12.4 ②(3.05)	内外面とも回転ナデ。	A密。微細な白色粒を微量含む。B良好 C灰10Y5/1	
0901	須恵器	杯身	1D区 表土剥ぎ時	②(3.05) 高台径(9.4)	体部内外面とも回転ナデ。底部外面は降灰のため調整不明、内面は不定方向のナデ。高台部は回転ナデ。	A密。微細な白色粒を微量含む。Bやや不良 C外：灰白N7、暗灰N3、内：灰N4	外面に降灰。
0902	須恵器	高杯	5E区 Aトレンチ包含層	①(17.7) ②(1.8)	口縁部から体部にかけて内外面とも回転ナデ。杯底部内面は不定方向のナデ、外面ナデ。	A密。3.0mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 C外：灰N5~N6、内：灰白1.5Y7/1、灰7.5Y6/1	
0903	須恵器	有蓋高杯蓋	5E区 包含層	①(13.7) ②5.0 つまみ径3.1	口縁部内外面とも回転ナデ。体部外面回転ヘラケズリ、内面不定方向のナデ。つまみ部は回転ナデ。	A密。1.5mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 C暗青灰5B4/1	
0904	須恵器	壺	5E区 包含層	①(21.0) ②(6.5)	口縁部内外面とも回転ナデ。	A密。1.0mm以下の石英・長石、黒色粒を少量含む。B良好 C外：青灰5PB6/1、黒N2、内：灰白N7、黒N2	内外面に降灰あり。
0905	土師器	ミニチュア甕	6F区 包含層	②(1.5)	ナデ。	Aやや粗い。1.0mm以下の白色砂粒、0.3mm以下の雲母をやや多く含む。B良好 C灰黄褐10YR4/2	
0906	土師器	小型精製器種	5F区 包含層	縦4.3 横1.1	内外面ともナデ。	A密。1.0mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 C外：灰黄褐10YR6/2、褐灰10YR4/1、内：にぶい黄褐10YR5/3	体部に穿孔。
0907	瓦	平瓦	8F区 検出中	長6.9 幅6.1 厚2.3	両面平目取、凸面格子タタキ。	Aやや粗い。2.0mm以下の石英・長石を少量含む。B良好 C灰白2.5Y8/1、暗灰黄2.5Y5/2	
0908	石器	砥石	包含層 SC-08 1区周辺	長(4.2) 幅(2.5) 厚(2.6) 重32.4			砂岩

# 圖 版



(1)調査区西区全景（北西より）



(2)調査区東区全景（南西より）



(1) S B01全景（北東より）



(2) S C01~07全景（西より）



(1) S C01全景 (北東より)



(2) S C02全景



(1) S C03全景 (南西より)



(2) S C05全景 (北東より)



(1) S C06全景 (東より)



(2) S C07全景 (西より)



(1) S C08全景  
(南より)



(2) S C08カマド検出  
状況 (西より)



(3) S C08カマド土層  
(西より)



(1) S C09~11・29周辺全景（北西より）



(2) S C09全景（西より）



(1) S C 10・11・29全景（西より）



(2) S C 13全景（北西より）



(1) S C 14 全景 (北より)



(2) S C 11 遺物出土状況① (北東より)



(3) S C 11 遺物出土状況 (東より)



(4) S C 29 遺物出土状況 (北より)



(5) S C 13 遺物出土状況 (北より)



(1) S C 15~19・31全景（西より）



(2) S C 15遺物出土状況（北より）



(3) S C 16遺物出土状況（北より）



(1) S C 17全景 (西より)



(2) S C 17カマド、粘土・焼土全景 (北西より)



(1) S C21・22・29全景 (西より)



(2) S C21カマド全景 (南西より)



(3) S C21カマド土層断面① (南より)



(4) S C21カマド土層断面② (南西より)



(5) S C21カマド煙道全景 (南西より)



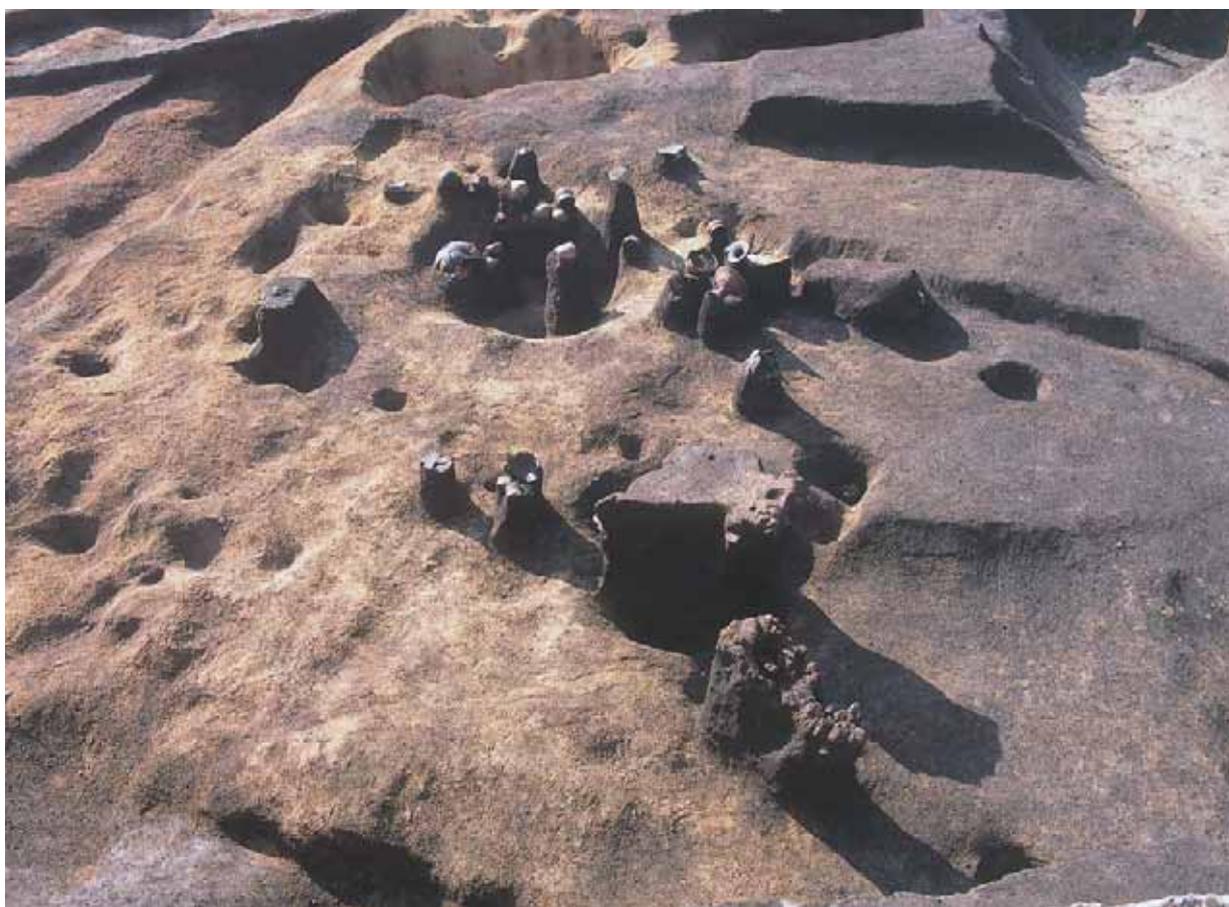
(1) S C23全景 (北より)



(2) S C23カマド全景 (東より)



(1) S C25全景 (南より)



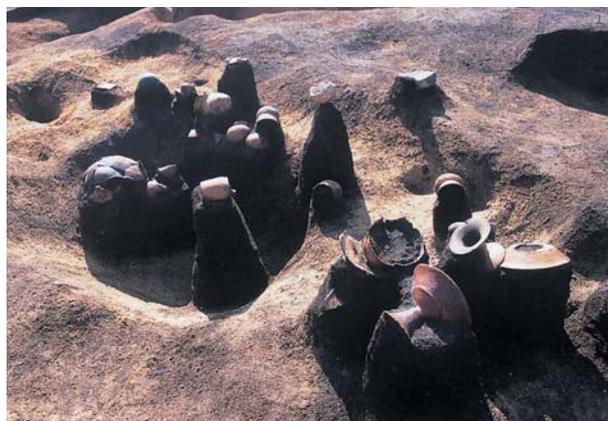
(2) S C26・27全景 (北より)



(1) S C28全景 (西より)



(2) S C25青銅製鋤先出土状況 (南西より)



(3) S C26・27遺物出土状況 (北東より)



(4) S C28カマド全景 (南西より)



(5) S C28遺物出土状況 (南より)



(1) S C 30全景 (西より)



(2) S C 30粘土・焼土全景 (南より)



(1) S C33全景 (北西より)



(2) S D01・S K04全景 (南西より)



(1) S D03・04全景  
(北西より)



(2) S D07・S X18  
全景 (西より)



(3) S D06・11~13  
全景 (北東より)



(1) S D 10・15-19  
全景（北東より）



(2) S D 15全景  
（北東より）



(3) S D 22~24全景  
（北西より）



(1) S D03・04  
C-C' 土層断面  
(南西より)



(2) S D04  
D-D' 土層断面  
(南西より)



(3) S D11・12  
B-B' 土層断面  
(南西より)



(1) S K 18全景 (北西より)



(2) S K 19全景 (東より)



(3) S X 01全景 (北東より)



(4) S X 02全景 (北東より)



(5) S X 03全景 (北東より)



(6) S X 07・08・12全景 (北東より)



(7) S X 14・15全景 (北東より)



(8) S X 29遺物・粘土出土状況 (東より)



(1) S X 34遺物出土状況① (北より)



(2) S X 34遺物出土状況② (北より)



(3) S X 34~40全景 (南西より)



(4) S X 42全景 (東より)



(5) S X 43全景 (西より)



(6) S X 46・47全景 (北より)



(7) 職場体験発掘風景



(1) 甕棺墓・土壙墓群全景（北西より）



(2) 甕棺墓1 検出状況（東より）



(3) 甕棺墓1 全景（東より）



(4) 甕棺墓2 全景（西より）



(5) 土壙墓（SK22）全景（西より）



(1)石蓋土壙墓蓋石検出状況（北西より）



(2)石蓋土壙墓全景（北東より）









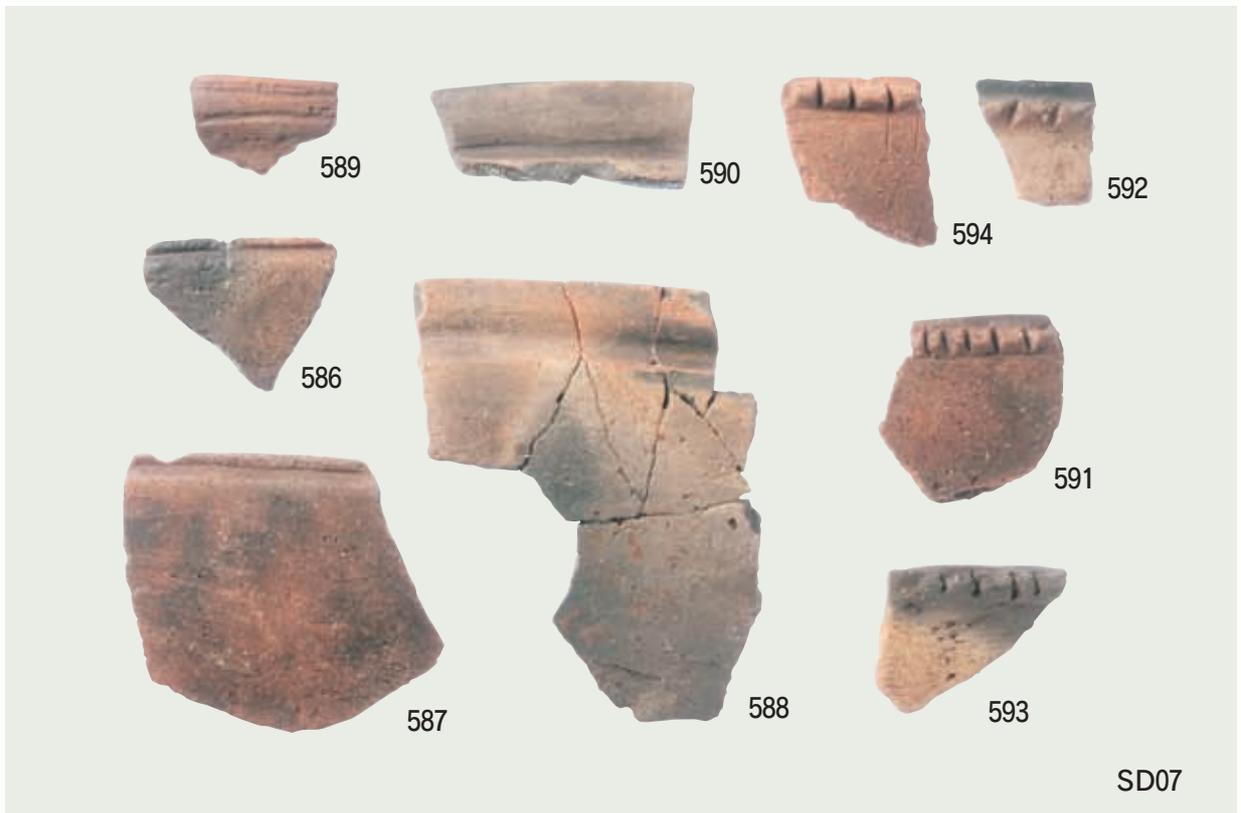








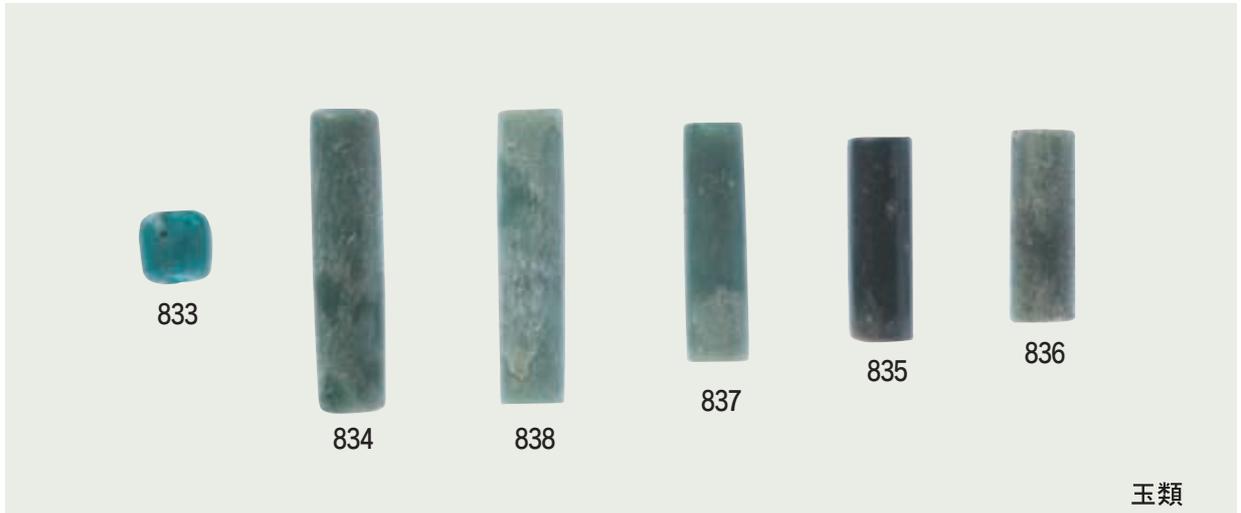


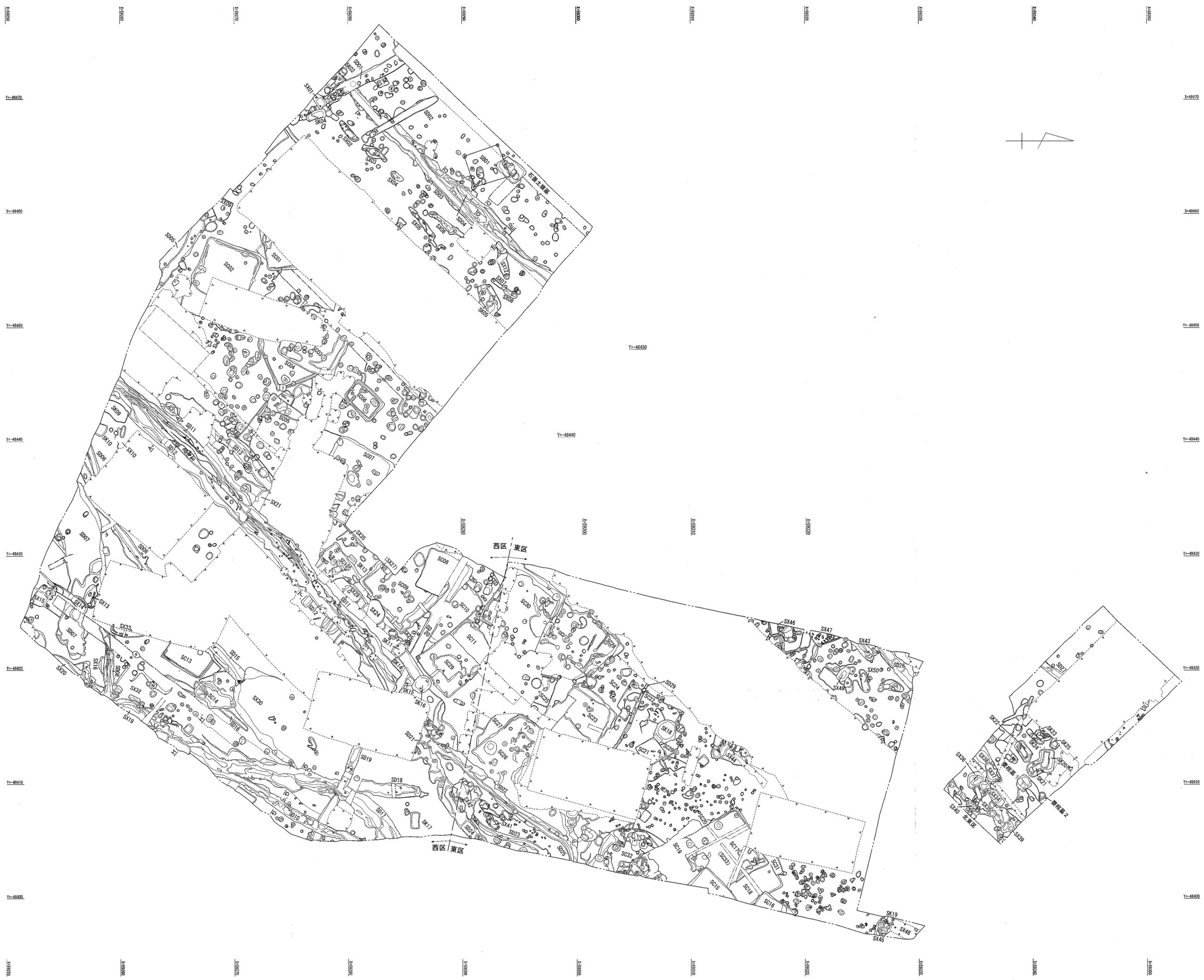












付図 石勺遺跡K地点調査遺構配置図 (1/150)

# 報告書抄録

ふりがな	こくじゃくいせき ご							
書名	石勺遺跡V							
副書名	K地点調査							
巻次								
シリーズ名	大野城市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第97集							
編著者名	早瀬 賢・林潤也							
編集機関	大野城市教育委員会							
所在地	〒816-8510 福岡県大野城市曙町二丁目2番1号 電話092 (501) 2211							
発行年月日	2011年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 。 / 〃	東経 。 / 〃	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
こくじゃくいせき 石勺遺跡 K地点次調査	ふくおかけんおおのじょうしあけぼのまち 福岡県大野城市曙町1丁目 28-5			33° 32' 00"	130° 48' 20"	2009. 6.17 ～ 2010. 2. 2	3,300m <sup>2</sup>	共同住宅 建設
所有遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
石勺遺跡 K地点調査	集落遺跡	縄文～鎌倉	竪穴住居跡・掘 立柱建物・溝・ 土坑 甕棺墓・ 土壙墓	須恵器・土師器・ 弥生土器・縄文土 器・陶磁器・石器・ 鉄製品・朝鮮半島 系土器				
要約	調査地は、牛頸川の北岸に発達した微高地上に位置する。調査の結果、遺構は竪穴住居、掘立柱建物、溝、土坑、甕棺墓、土坑墓、石蓋土壙墓、ピットを確認した。遺物は須恵器、土師器、弥生土器、縄文土器、陶磁器、石器、鉄製品、瓦、朝鮮半島系土器などが出土した。遺跡の主な時期は弥生時代の墓地、古墳時代前期後半から中期前半の集落跡である。弥生時代では、甕棺墓2基、土坑墓3基、石蓋土壙墓1基を検出し、墓地の西側縁辺部を確認した。古墳時代では、竪穴住居33棟、掘立柱建物2棟、区画溝などを検出した。多数確認した竪穴住居の内3棟で、古墳時代中期初頭のかまどを確認した。また多量の遺物の中には、土師器のほか、銅鏃、管玉、ガラス玉、朝鮮半島系軟質土器深鉢など貴重な遺物も出土した。古墳時代前期から中期の集落は、拠点集落と推定され、朝鮮半島との交流や新来の技術を先進的に受容した状況を想定させる。							

大野城市文化財調査報告書 第97集

石勺遺跡Ⅴ

平成23年3月31日

発行 大野城市教育委員会  
福岡県大野城市曙町2-2-1

印刷 山口印刷株式会社  
伊万里市二里町大里乙3617-5